

# 高齢社会に関する意識調査 報告書

平成 29 年 3 月

札幌市



# 目 次

<b>1 調査の概要</b>	
1.1 調査の概要	1
<b>2 調査結果</b>	
2.1 属性	
問1-1 性別	3
問1-2 年齢	4
問1-3 居住区	6
問1-4 生活場所	7
問1-5 就労状況	
(1) 仕事をしているか	10
(2) 雇用形態の種類	12
2.2 世帯の状況・住まいについて	
問2-1 同居家族の有無・人数	13
(1) 同居者の続柄	17
(2) ① ひとり暮らしの期間	20
② 近くに家族はいるか	21
問2-2 住まいに対する満足度	22
問2-3 地域の定着意向	25
問2-4 住み慣れた地域で生活し続ける環境が整っているか	29
問2-5 住まいに対する考え方について	
(1) 今後の生活場所	31
(2) ① 住み替え先の形態	37
② 住み替えのために重視すること	40
問2-6 最期を迎えたい場所	43
2.3 交流と活動について	
問3-1 他の世代との交流について	
(1) 他世代との交流（65歳以上）	46
(2) 他世代との交流（64歳以下）	48
問3-2 近所への手伝いの内容	50
問3-3 会話、趣味等を楽しむ人	53

問 3-4 悩み事の相談相手 -----	54
問 3-5 社会参加について	
(1) 社会参加の内容 -----	57
(2) 高齢者の社会参加の機会があると思うか -----	61

## 2.4 心身の状況について

問 4-1 主観的健康感 -----	63
問 4-2 健康維持のため気をつけていること -----	67
問 4-3 最近の健康状態で気になっていること -----	69
問 4-4 通院の状況について	
(1) 通院頻度 -----	70
(2) 通院の移動手段 -----	74
(3) 通院時間 -----	75
問 4-5 かかりつけ医の有無 -----	76
問 4-6 かかりつけ歯科医の有無 -----	78
問 4-7 かかりつけ薬局の有無 -----	80
問 4-8 転倒経験について	
(1) 転倒経験の有無 -----	82
(2) 転倒場所 -----	84
問 4-9 介護を受けているか -----	86
問 4-10 要介護（支援）認定を受けているか -----	89
問 4-11 介護が必要になった場合、在宅生活に何が必要か -----	92

## 2.5 保健・福祉施策について

問 5-1 知っている保健・福祉サービス -----	95
問 5-2 特に重要だと思う保健・福祉サービス -----	96
問 5-3 情報入手先 -----	97
問 5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか -----	98
問 5-5 困っていること、不安に思うこと -----	102
問 5-6 困っていること、不安に思うことの相談先 -----	110
問 5-7 高齢者は優遇されていると思うか -----	112
問 5-8 高齢者の人権が守られていると思うか -----	120
問 5-9 虐待を見聞きしたことはあるか -----	123
問 5-10 認知症の場合の相談先 -----	125
問 5-11 孤立死の心配があるか -----	127
問 5-12 孤立死を減らす方法 -----	133

問 5-13 行政に充実を求めること	135
--------------------	-----

## 2.6 日常生活について【65歳以上のみ】

問 6-1 外出（通院を除く）について	
(1) 外出頻度	141
(2) 外出の移動手段	145
問 6-2 日中一人で過ごすことはあるか	147
問 6-3 主に食事を用意する人	150
問 6-4 主に洗濯・掃除をする人	152
問 6-5 主に日常の買い物をする人	154
問 6-6 体調を崩したときに相談する相手	156
問 6-7 体調を崩したときに病院の付き添いを頼む相手	158
問 6-8 体調を崩したときに買い物を頼む相手	160
問 6-9 預貯金の出し入れができなくなった場合に頼む相手	162
問 6-10 介護予防のために利用しているもの	163
問 6-11 認知症予防のために取組んでいること	164

## 2.7 介護保険について

問 7-1 介護保険料段階【65歳以上のみ】	165
問 7-2 介護保険料の負担感【65歳以上のみ】	166
問 7-3 介護保険料の負担のあり方【65歳以上のみ】	173
問 7-4 介護サービスと保険料の関係	180

## 2.8 経済生活について

問 8-1 経済的ゆとり感	187
問 8-2 生活費に充てている収入	192
問 8-3 収入について	
(1) 個人の収入	194
(2) 世帯収入	198
問 8-4 世帯の生活費	200
問 8-5 世帯貯蓄額	202

<b>3 参考資料</b>	
<b>3.1 集計表</b>	205
(1) 基礎項目別のクロス集計結果	207
(2) 設問間のクロス集計結果	543
<b>4 自由記載</b>	
<b>4.1 「64歳以下」の自由記載</b>	
4.1.1 保健・福祉サービス	599
4.1.2 介護保険制度	599
4.1.3 医療	600
4.1.4 高齢者の社会参加・生きがづくり	600
4.1.5 高齢者のすみよいまちづくり	601
4.1.6 市の施策や行政の対応等	601
4.1.7 年金について	602
4.1.8 その他	602
<b>4.2 「65歳以上」の自由記載</b>	
4.2.1 保健・福祉サービス	603
4.2.2 介護保険制度	606
4.2.3 医療	608
4.2.4 高齢者の社会参加・生きがづくり	609
4.2.5 高齢者のすみよいまちづくり	609
4.2.6 市の施策や行政の対応等	610
4.2.7 年金について	612
4.2.8 その他	612
<b>5 調査票</b>	
調査票	615

# 1 調査の概要





# 1 調査の概要

## 1. 1 調査の概要

### (1) 調査目的

本調査は、幅広い世代の方々の高齢社会に対する意識や高齢者福祉施策全般に関する考え方を把握・整理し、平成 30 年度を始期とする新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定や各高齢者施策、介護保険事業の実施に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。

### (2) 調査対象

平成 28 年 11 月 1 日現在、札幌市内に在住する 65 歳以上の市民 3,500 人、40～64 歳の市民 1,500 人の計 5,000 人を無作為に抽出した。

### (3) 調査基準日

平成 28 年 11 月 1 日とした。  
(平成 28 年 11 月 1 日現在の状況について回答していただいた)

### (4) 調査期間

平成 28 年 11 月 8 日 ～ 平成 28 年 11 月 25 日

### (5) 調査方法

郵送による調査票の発送・回収。

### (6) 回収結果

発送数	5,000 件
回収数	2,818 件 (57.0%)
有効回収数	2,815 件 (56.9%)

### (7) 集計・分析の留意事項

本報告書内の図表においては、有効回答数を「N」で表記した。また、クロス集計の場合などは、項目の直後に対応する有効回答数を表記している。

図表中の構成比 (%) は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にならない場合がある。回答者はいるが、端数処理により構成比が 0.0 となった場合を「0.0%」、回答者がいない場合は「-」と表記している。

各設問は無回答を含むが、特段断りのない設問については、無回答を含めて有効回答数としている。



## 2 調査結果



## 2 調査結果

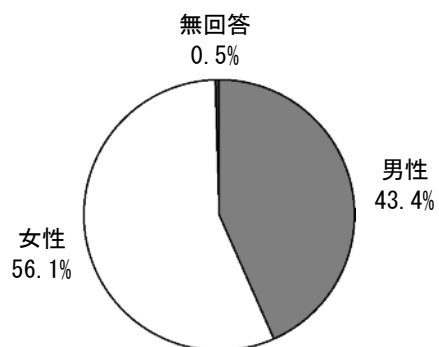
### 2.1 属性

#### 問1-1 性別

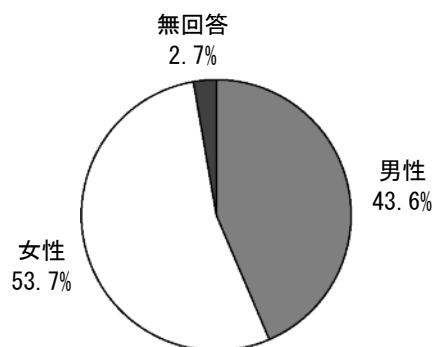
あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

性別は、64歳以下の「男性」は43.4%、「女性」は56.1%となっており、65歳以上の「男性」は43.6%、「女性」は53.7%となっている。

図表2-1-1 性別【64歳以下】(N=643)



図表2-1-2 性別【65歳以上】(N=2,130)

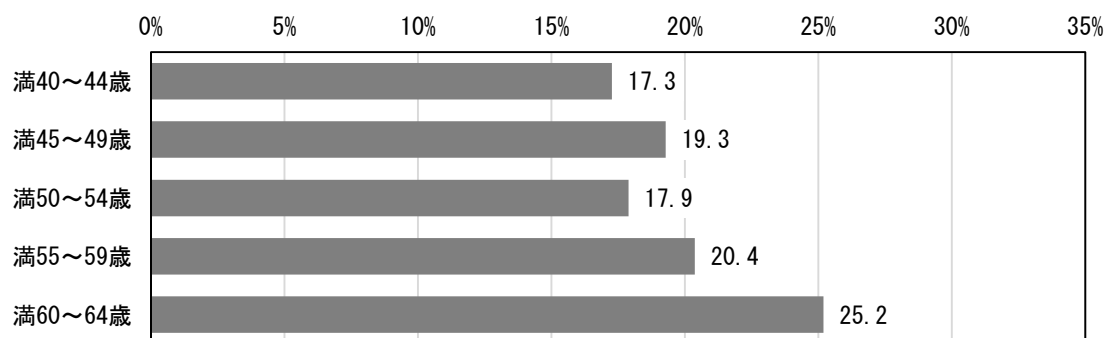


## 問1-2 年齢

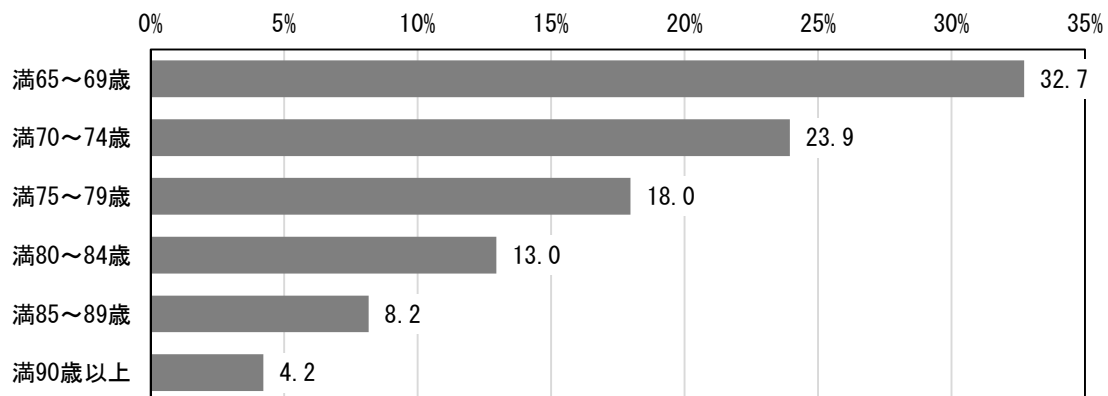
あなたの現在の年齢について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

現在の年齢は、64歳以下は「満60～64歳」(25.2%)が最も多く、次いで「満55～59歳」(20.4%)、「満45～49歳」(19.3%)となっており、65歳以上は「満65～69歳」(32.7%)が最も多く、次いで「満70～74歳」(23.9%)、「満75～79歳」(18.0%)となっている。

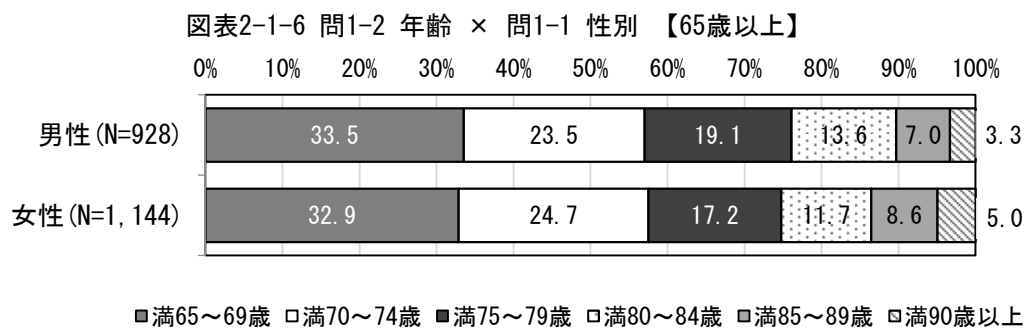
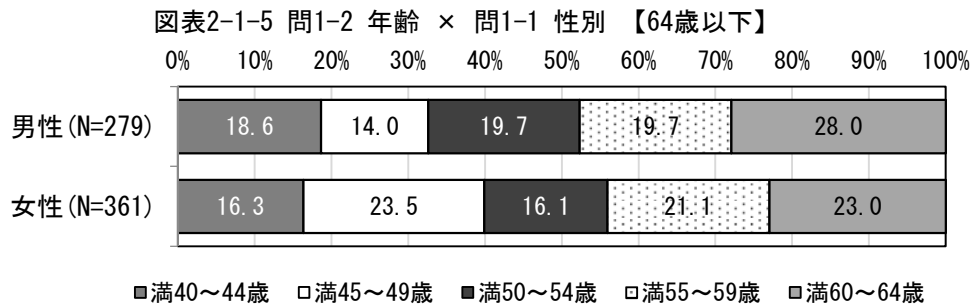
図表2-1-3 年齢【64歳以下】(N=643)



図表2-1-4 年齢【65歳以上】(N=2,130)



男女別にみると、64歳以下は「満45～49歳」は女性が9.5ポイント高く、「満60～64歳」は男性が5.0ポイント高くなっており、65歳以上は「満75～79歳」、「満80～84歳」で男性が1.9ポイント高く、「満90歳以上」は女性が1.7ポイント高くなっている。

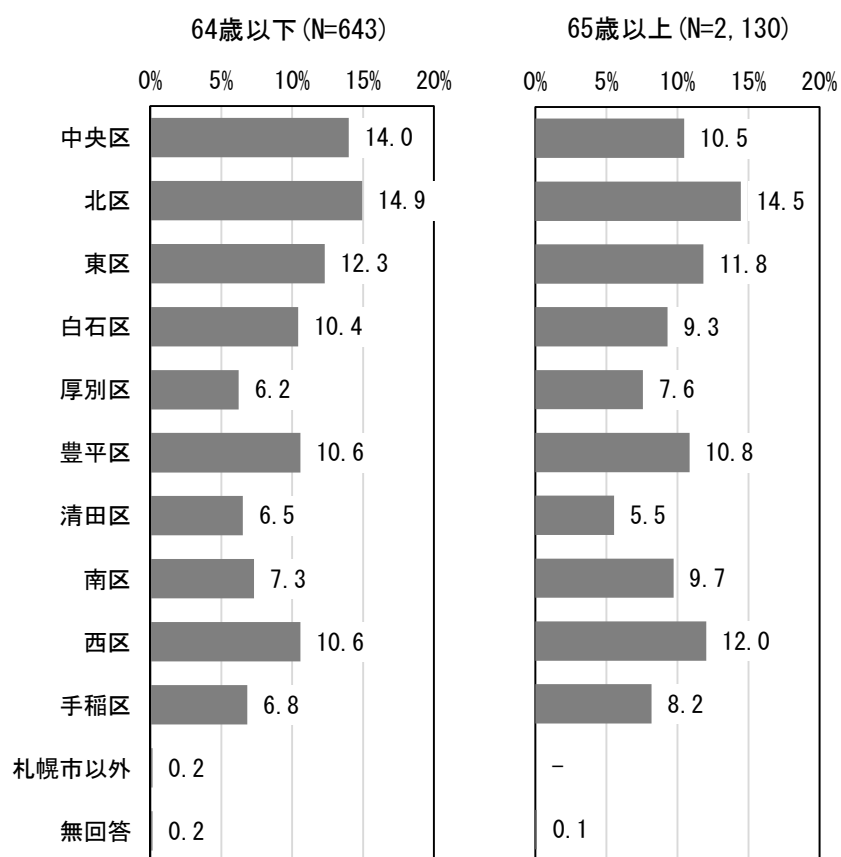


### 問 1-3 居住区

あなたがお住まいの区について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

現在の居住区は、64歳以下・65歳以上共に「北区」が最も多く、64歳以下は14.9%、65歳以上は14.5%となっている。次いで、64歳以下は「中央区」(14.0%)、「東区」(12.3%)となっており、65歳以上は、「西区」(12.0%)、「東区」(11.8%)となっている。

図表2-1-7 居住区



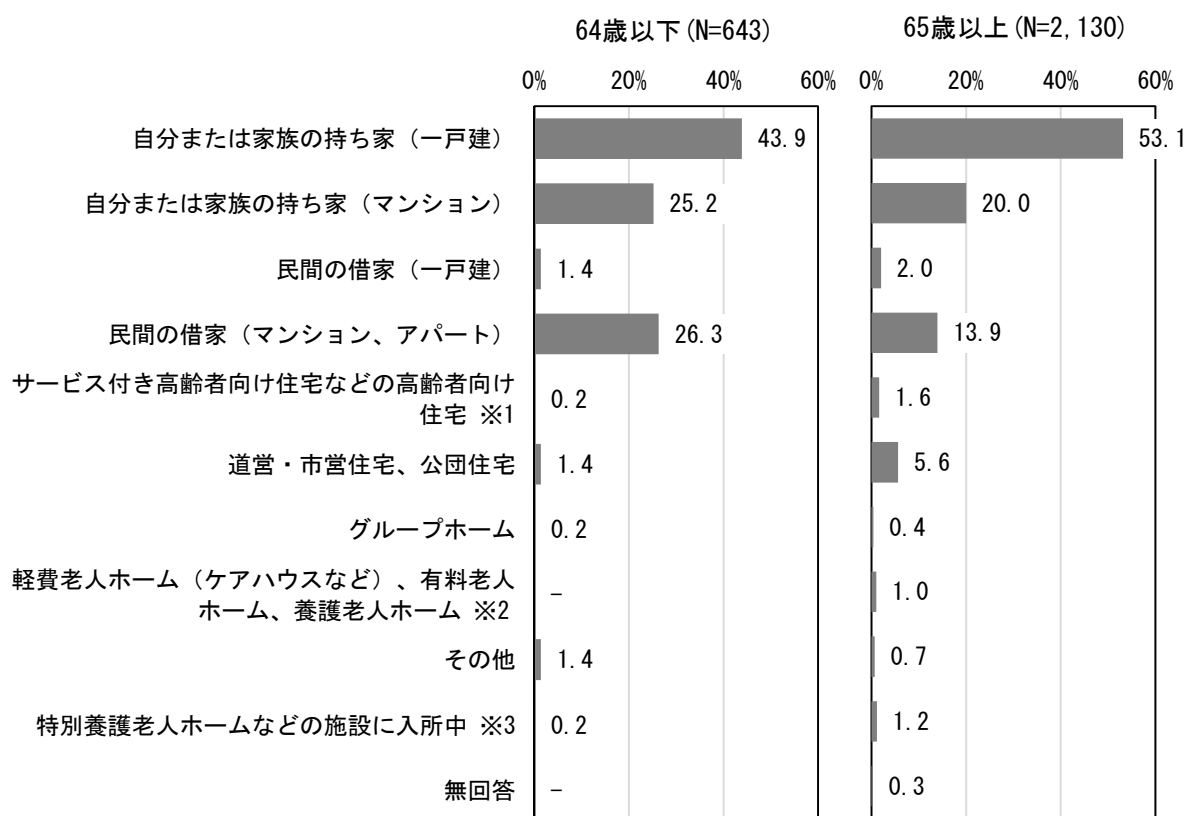


## 問1-4 生活場所

あなたは現在、どこで生活をしていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

現在の生活場所は、64歳以下・65歳以上共に、「自分または家族の持ち家（一戸建）」が最も多く、64歳以下は43.9%、65歳以上は53.1%となっている。次いで、64歳以下は「民間の借家（マンション、アパート）」（26.3%）、「自分または家族の持ち家（マンション）」（25.2%）となっており、65歳以上は「自分または家族の持ち家（マンション）」（20.0%）、「民間の借家（マンション、アパート）」（13.9%）となっている。

図表2-1-8 生活場所



※1 「サービス付き高齢者向け住宅」とは、安否確認や生活相談サービスなど、高齢者を支援するサービスを提供するバリアフリー構造の住宅をいう。

※2 「軽費老人ホーム」とは、自立した日常生活を営むことに不安のある、家族の援助を受けることが困難な方が入所する施設であり、ケアハウス、A型、B型の3種類がある。

※3 「施設」には、老人保健施設や病院を含む。

以下問6-11までは、問1-4で「特別養護老人ホームなどの施設に入所中」と答えた方以外を対象に集計を行っている。

現在の居住区別にみると、「自分または家族の持ち家(一戸建)」については、64歳以下は「手稲区」(77.3%)、65歳以上は「清田区」(78.0%)・「手稲区」(74.1%)が特に高く、「自分または家族の持ち家(マンション)」については、64歳以下・65歳以上共に「中央区」が最も高く、64歳以下は50.0%、65歳以上は51.1%となっている。

図表 2-1-9 問 1-4 生活場所 × 問 1-3 居住区 【64歳以下】

	(%)				
	中央区 (N=90)	北区 (N=96)	東区 (N=79)	白石区 (N=67)	厚別区 (N=40)
自分または家族の持ち家(一戸建)	18.9	54.2	44.3	29.9	42.5
自分または家族の持ち家(マンション)	50.0	17.7	20.3	16.4	25.0
民間の借家(一戸建)	-	3.1	-	-	2.5
民間の借家(マンション、アパート)	28.9	22.9	31.6	49.3	25.0
サービス付き高齢者向け住宅 などの高齢者向け住宅	-	-	-	1.5	-
道営・市営住宅、公団住宅	-	-	3.8	1.5	5.0
グループホーム	-	-	-	-	-
軽費老人ホーム(ケアハウスなど)、 有料老人ホーム、養護老人ホーム	-	-	-	-	-
その他	2.2	2.1	-	1.5	-
特別養護老人ホームなどの施設に入所中	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-

	(%)				
	豊平区 (N=68)	清田区 (N=42)	南区 (N=47)	西区 (N=68)	手稲区 (N=44)
自分または家族の持ち家(一戸建)	35.3	66.7	61.7	35.3	77.3
自分または家族の持ち家(マンション)	26.5	11.9	27.7	32.4	11.4
民間の借家(一戸建)	-	7.1	-	-	4.5
民間の借家(マンション、アパート)	33.8	11.9	6.4	27.9	6.8
サービス付き高齢者向け住宅 などの高齢者向け住宅	-	-	-	-	-
道営・市営住宅、公団住宅	1.5	-	2.1	1.5	-
グループホーム	-	2.4	-	-	-
軽費老人ホーム(ケアハウスなど)、 有料老人ホーム、養護老人ホーム	-	-	-	-	-
その他	1.5	-	2.1	2.9	-
特別養護老人ホームなどの施設に入所中	1.5	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-

図表 2-1-10 問 1-4 生活場所 × 問 1-3 居住区 【65 歳以上】

	(%)				
	中央区 (N=223)	北区 (N=308)	東区 (N=252)	白石区 (N=198)	厚別区 (N=161)
自分または家族の持ち家(一戸建)	23.8	64.0	61.1	46.0	50.3
自分または家族の持ち家(マンション)	51.1	15.3	12.3	17.7	13.7
民間の借家(一戸建)	-	2.6	3.2	3.5	1.9
民間の借家(マンション、アパート)	19.7	10.7	12.7	21.2	8.7
サービス付き高齢者向け住宅 など的高齢者向け住宅	0.9	1.0	1.2	4.0	0.6
道営・市営住宅、公団住宅	1.8	3.9	6.7	2.5	21.1
グループホーム	-	0.3	0.8	-	0.6
軽費老人ホーム(ケアハウスなど)、 有料老人ホーム、養護老人ホーム	1.3	0.3	0.8	2.0	1.2
その他	0.4	1.0	0.4	1.5	0.6
特別養護老人ホームなどの施設に入所中	0.9	0.6	0.8	1.0	1.2
無回答	-	0.3	-	0.5	-

	(%)				
	豊平区 (N=231)	清田区 (N=118)	南区 (N=207)	西区 (N=256)	手稲区 (N=174)
自分または家族の持ち家(一戸建)	41.1	78.0	61.4	44.1	74.1
自分または家族の持ち家(マンション)	26.0	5.9	14.5	25.0	8.6
民間の借家(一戸建)	1.3	1.7	1.4	2.3	1.7
民間の借家(マンション、アパート)	21.2	7.6	8.2	18.4	5.2
サービス付き高齢者向け住宅 など的高齢者向け住宅	0.9	-	2.9	2.7	1.7
道営・市営住宅、公団住宅	3.0	4.2	7.7	2.7	7.5
グループホーム	0.4	-	1.4	-	0.6
軽費老人ホーム(ケアハウスなど)、 有料老人ホーム、養護老人ホーム	1.3	0.8	1.0	1.6	-
その他	1.3	-	0.5	0.4	0.6
特別養護老人ホームなどの施設に入所中	3.0	1.7	1.0	1.6	-
無回答	0.4	-	-	1.2	-

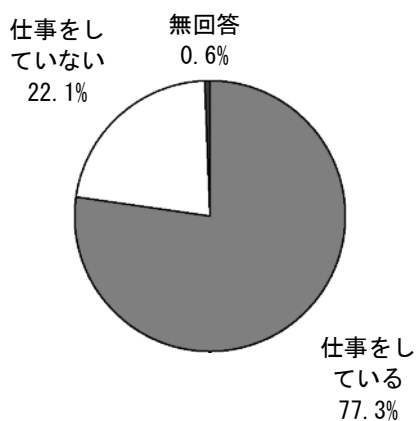
## 問 1-5 就労状況

### (1) 仕事をしているか

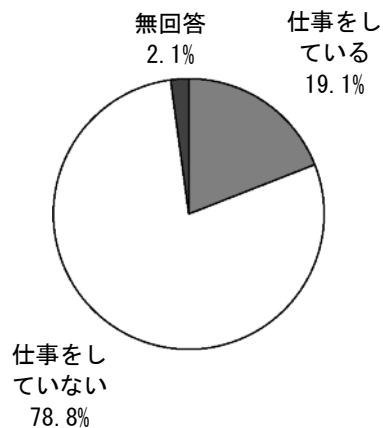
現在、収入のある仕事をしていますか。あてはまるものに○をつけてください。

現在の就労状況は、64歳以下は「仕事をしている」が77.3%、「仕事をしていない」が22.1%となっており、65歳以上は「仕事をしている」が19.1%、「仕事をしていない」が78.8%となっている。

図表2-1-11 就労状況【64歳以下】(N=642)

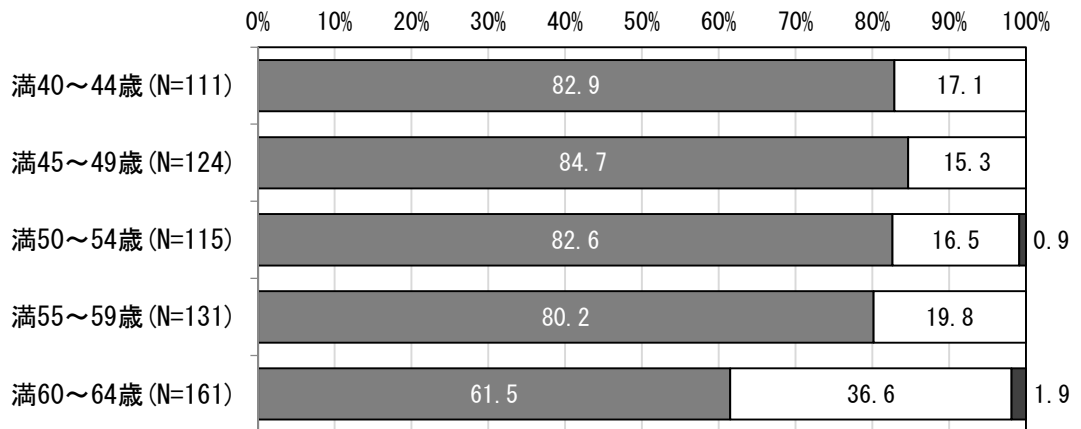


図表2-1-12 就労状況【65歳以上】(N=2,099)

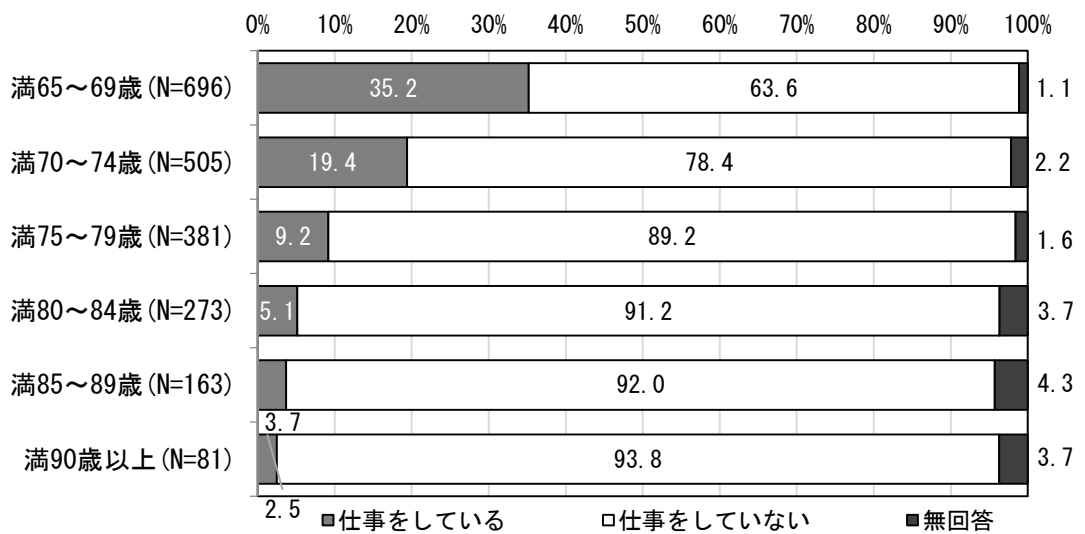


年齢別にみると、満45～49歳からは、年齢層が高くなるにつれ「仕事をしている」とする割合が低くなっている。

図表2-1-13 問1-5(1) 就労状況 × 問1-2 年齢 【64歳以下】



図表2-1-14 問1-5(1) 就労状況 × 問1-2 年齢 【65歳以上】

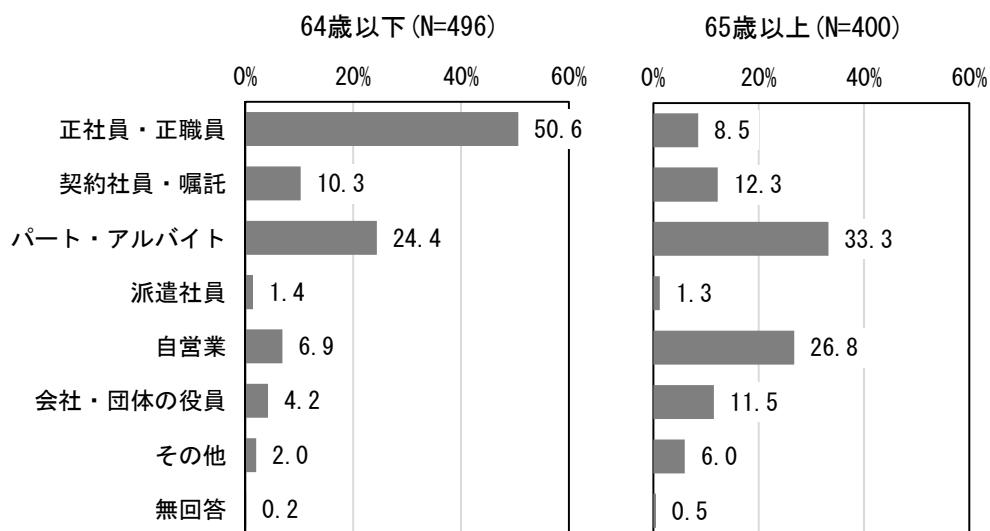


## (2) 雇用形態の種類

「1. 仕事をしている」と回答した方にうかがいます。雇用形態について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

問1-5(1)で、「1. 仕事をしている」と回答した方に、雇用形態についてたずねたところ、64歳以下は「正社員・正職員」(50.6%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト」(24.4%)、「契約社員・嘱託」(10.3%)となっており、65歳以上は「パート・アルバイト」(33.3%)が最も多く、次いで「自営業」(26.8%)、「契約社員・嘱託」(12.3%)となっている。

図表2-1-15 雇用形態



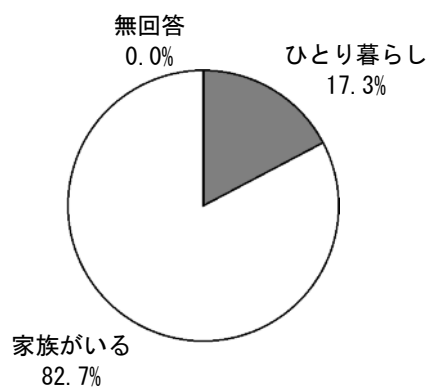
## 2. 2 世帯の状況・住まいについて

### 問2-1 同居家族の有無・人数

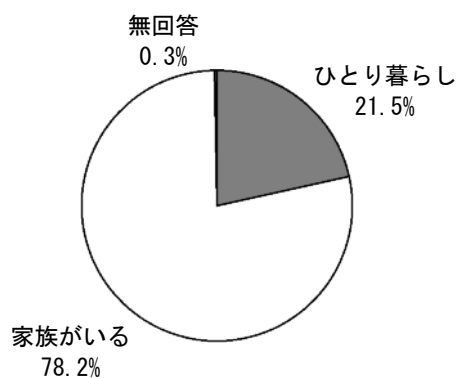
すべての方にお聞きします。あなたと同居している家族はいますか。あてはまるもの1つに○をつけ、同居者がいる場合は、人数もご記入ください。なお、二世帯住宅にお住まいの方も含めて数えてください。

同居家族（二世帯住宅の居住者を含む）の有無についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「家族がいる」が最も多く、64歳以下は82.7%、65歳以上は78.2%となっている。一方、「ひとり暮らし」は、64歳以下は17.3%、65歳以上は21.5%となっている。

図表2-2-1 同居家族の有無  
【64歳以下】(N=642)

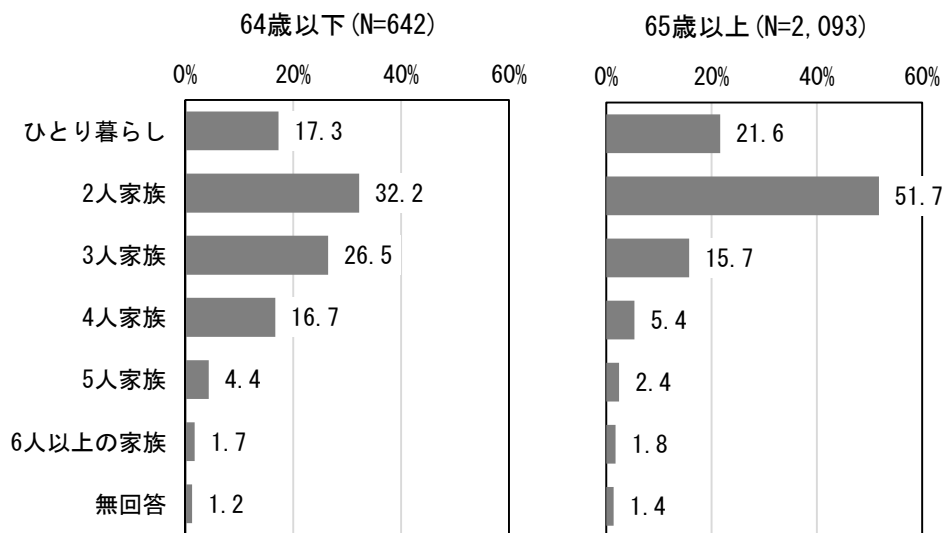


図表2-2-2 同居家族の有無  
【65歳以上】(N=2,099)



本人を含む同居家族の人数についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「2人家族」が最も多く、64歳以下は32.2%、65歳以上は51.7%となっている。次いで、64歳以下は「3人家族」(26.5%)、「ひとり暮らし」(17.3%)となっており、65歳以上は、「ひとり暮らし」(21.6%)、「3人家族」(15.7%)となっている。

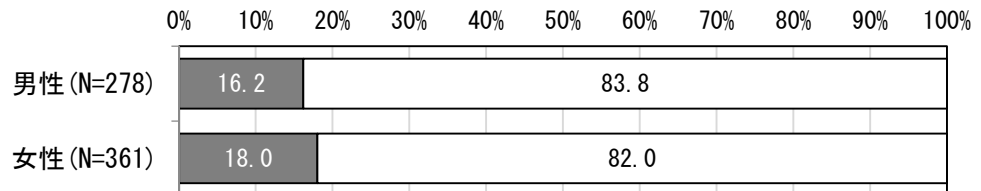
図表2-2-7 家族の人数



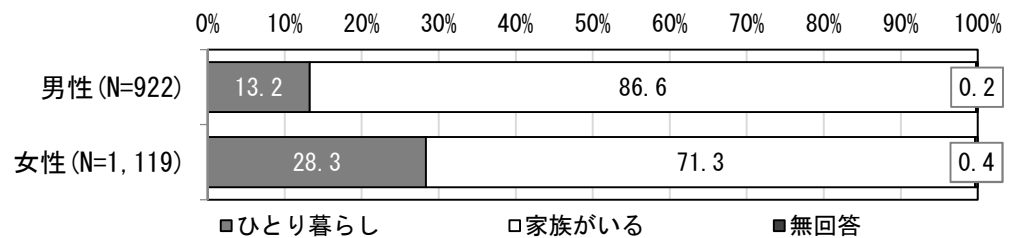


男女別に「ひとり暮らし」の割合をみると、64歳以下は、男性は16.2%、女性は18.0%となっており、65歳以上は、男性は13.2%、女性は28.3%となっている。

図表2-2-3 問2-1 同居家族の有無 × 問1-1 性別 【64歳以下】

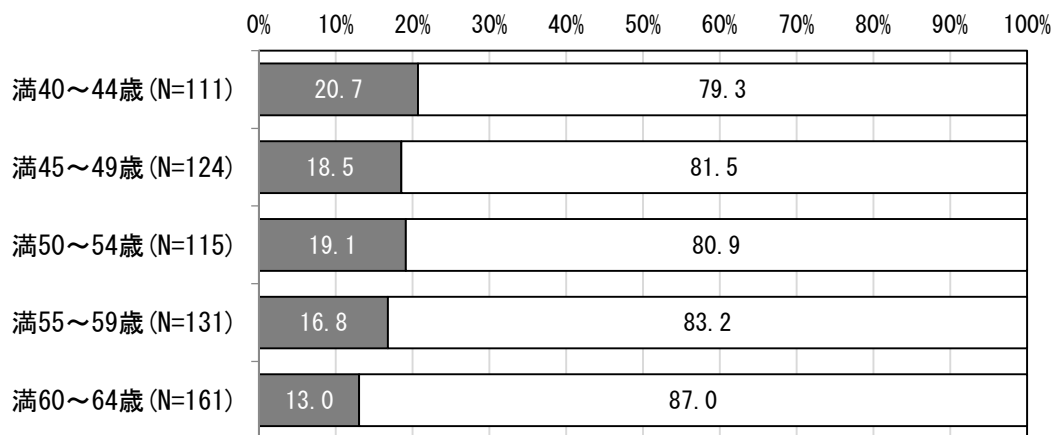


図表2-2-4 問2-1 同居家族の有無 × 問1-1 性別 【65歳以上】

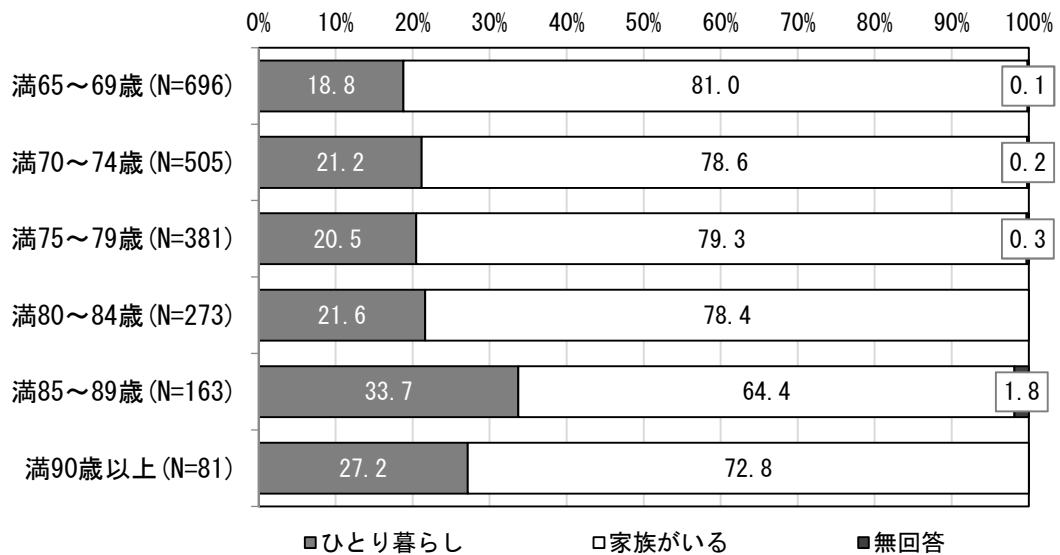


年齢別に「ひとり暮らし」の割合をみると、64歳以下は、満40～44歳が最も高く、20.7%となっており、65歳以上は、満85～89歳が最も高く、33.7%となっている。

図表2-2-5 問2-1 同居家族の有無 × 問1-2 年齢 【64歳以下】



図表2-2-6 問2-1 同居家族の有無 × 問1-2 年齢 【65歳以上】



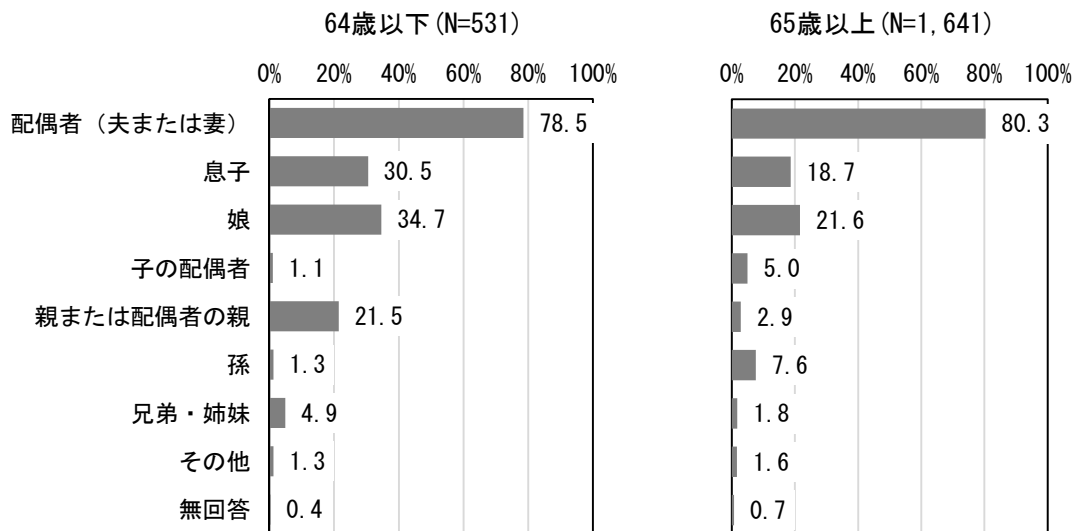
(1) 同居者の続柄

[複数回答]

あなたと同居している方はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください

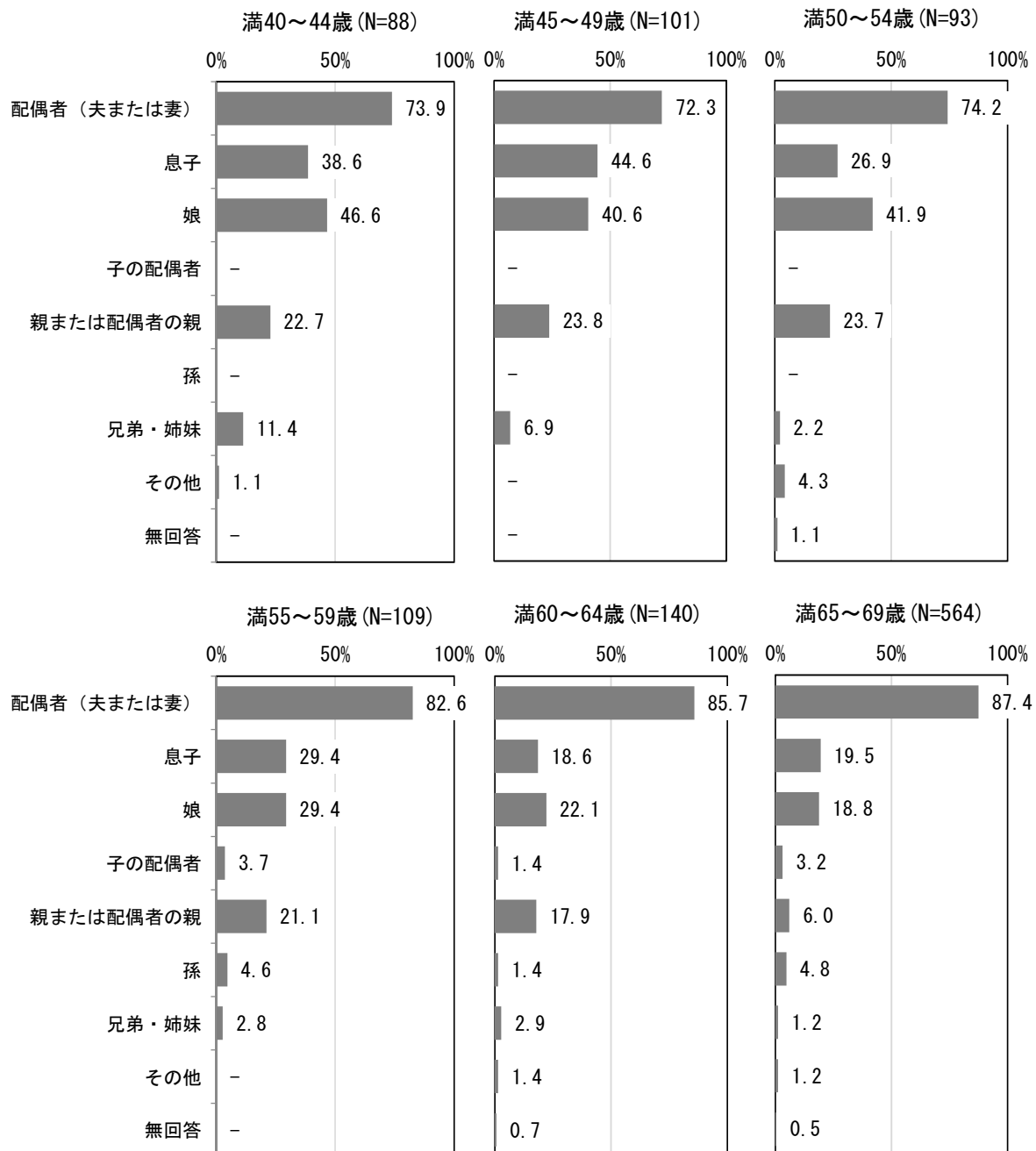
問2-1で「家族がいる」と回答した方に、同居者の続柄をたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「配偶者（夫または妻）」が最も多く、64歳以下は78.5%、65歳以上は80.3%となっている。次いで、64歳以下は「娘」（34.7%）、「息子」（30.5%）となっており、65歳以上は「娘」（21.6%）、「息子」（18.7%）となっている。

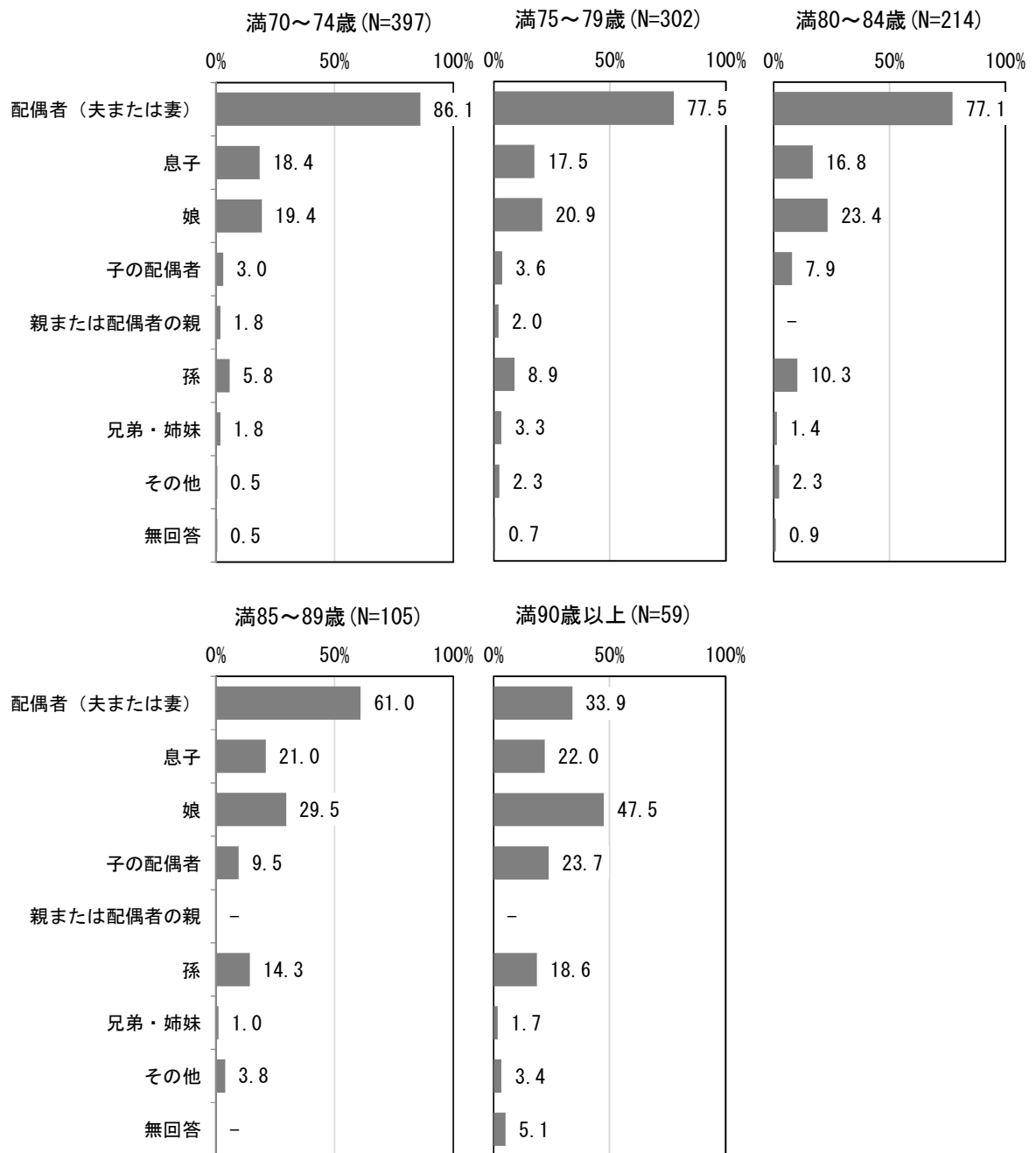
図表2-2-8 同居者の続柄



年齢別にみると、「配偶者（夫または妻）」と同居している割合は、満 65～69 歳が最も高く、87.4%となっている。次いで、満 70～74 歳(86.1%)、満 60～64 歳(85.7%)となっている。

図表 2-2-9 問 2-1(1) 同居中の続柄 × 問 1-2 年齢



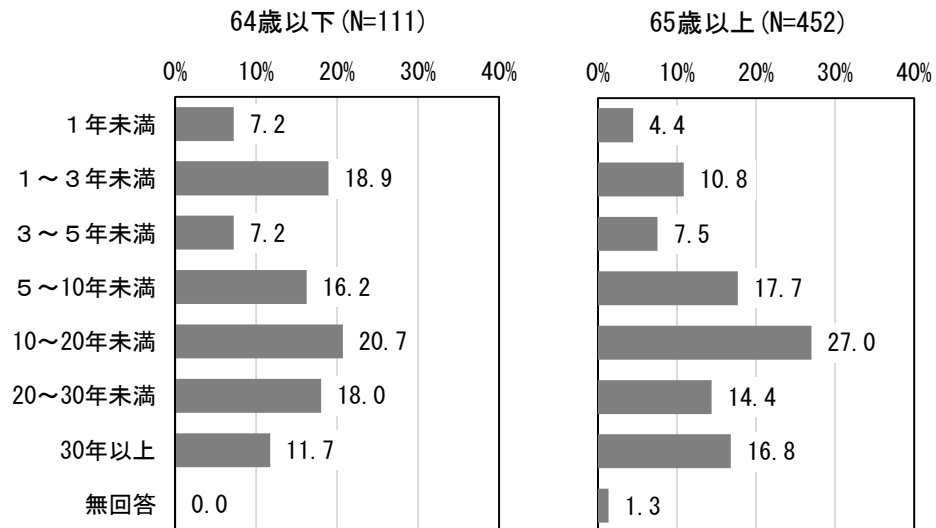


## (2) ① ひとり暮らしの期間

問2-1で「1. いない (ひとり暮らし)」と回答した方にうかがいます。ひとり暮らしになってからどのくらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

問2-1で「ひとり暮らし」と回答した方に、ひとり暮らしになってからの期間をたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「10～20年未満」が最も多く、64歳以下は20.7%、65歳以上は27.0%となっている。次いで、64歳以下は「1～3年未満」(18.9%)、「20～30年未満」(18.0%)となっており、65歳以上は、「5～10年未満」(17.7%)、「30年以上」(16.8%)となっている。

図表2-2-10 ひとり暮らしの期間

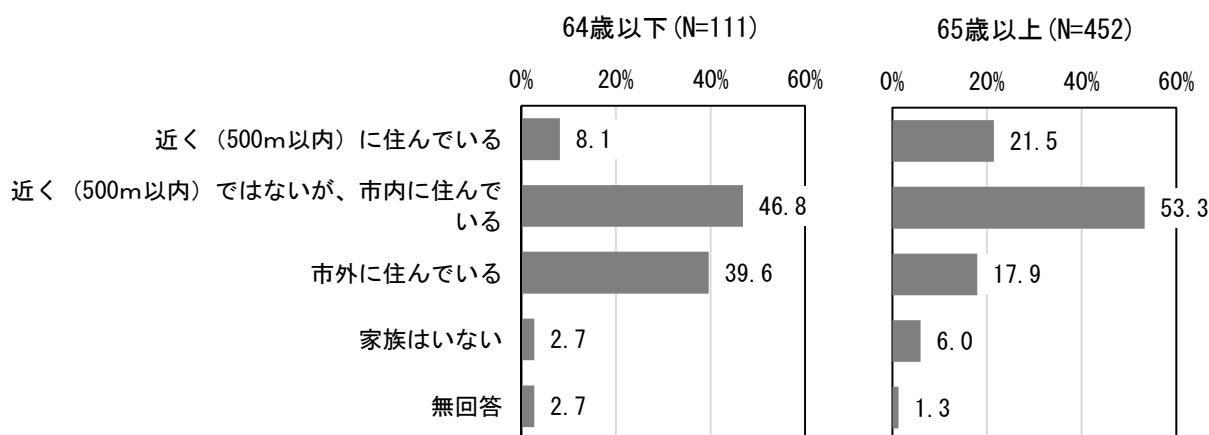


## ② 近くに家族はいるか

問2-1で「1. いない（ひとり暮らし）」と回答した方にうかがいます。近くに家族（親、子、兄弟姉妹、孫のいずれか）は住んでいますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

問2-1で「ひとり暮らし」と回答した方に、近くに家族（親、子、兄弟姉妹、孫のいずれか）は住んでいるかをたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「近く（500m以内）ではないが、市内に住んでいる」が最も多く、64歳以下は46.8%、65歳以上は53.3%となっている。次いで、64歳以下は「市外に住んでいる」（39.6%）、「近く（500m以内）に住んでいる」（8.1%）となっており、65歳以上は、「近く（500m以内）に住んでいる」（21.5%）、「市外に住んでいる」（17.9%）となっている。

図表2-2-11 近くに家族はいるか

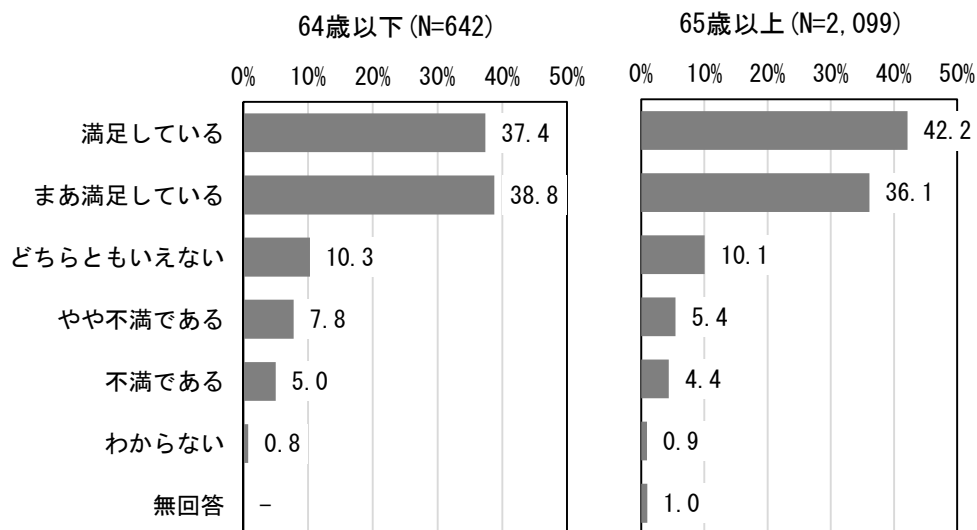


## 問2-2 住まいに対する満足度

すべての方にお聞きします。現在のお住まいにどの程度満足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

現在の住まいに対する満足度についてたずねたところ、「満足している」「まあ満足している」を合わせた割合が、64歳以下は76.2%、65歳以上は78.3%となっている。一方、「やや不満である」「不満である」を合わせた割合は、64歳以下は12.8%、65歳以上は9.8%となっている。

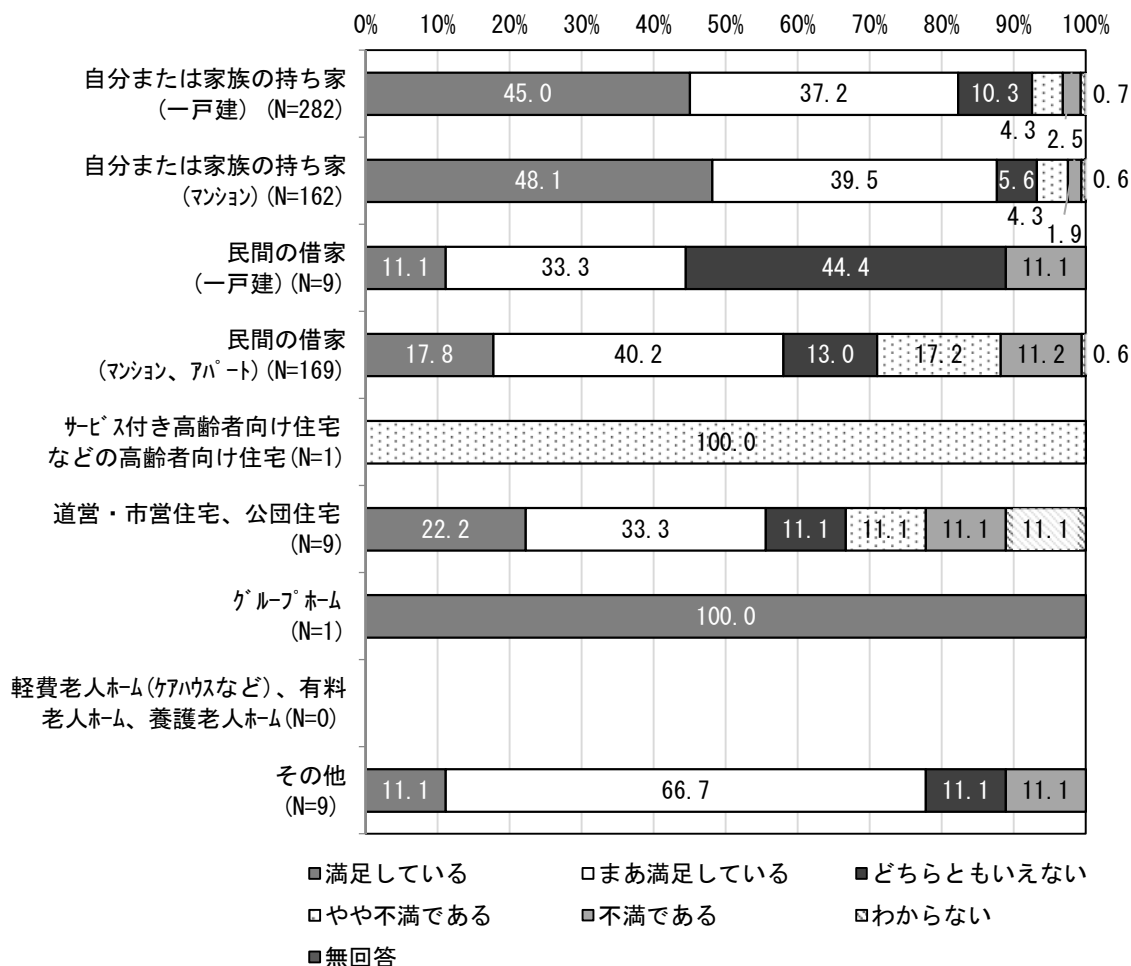
図表2-2-12 住まいに対する満足度



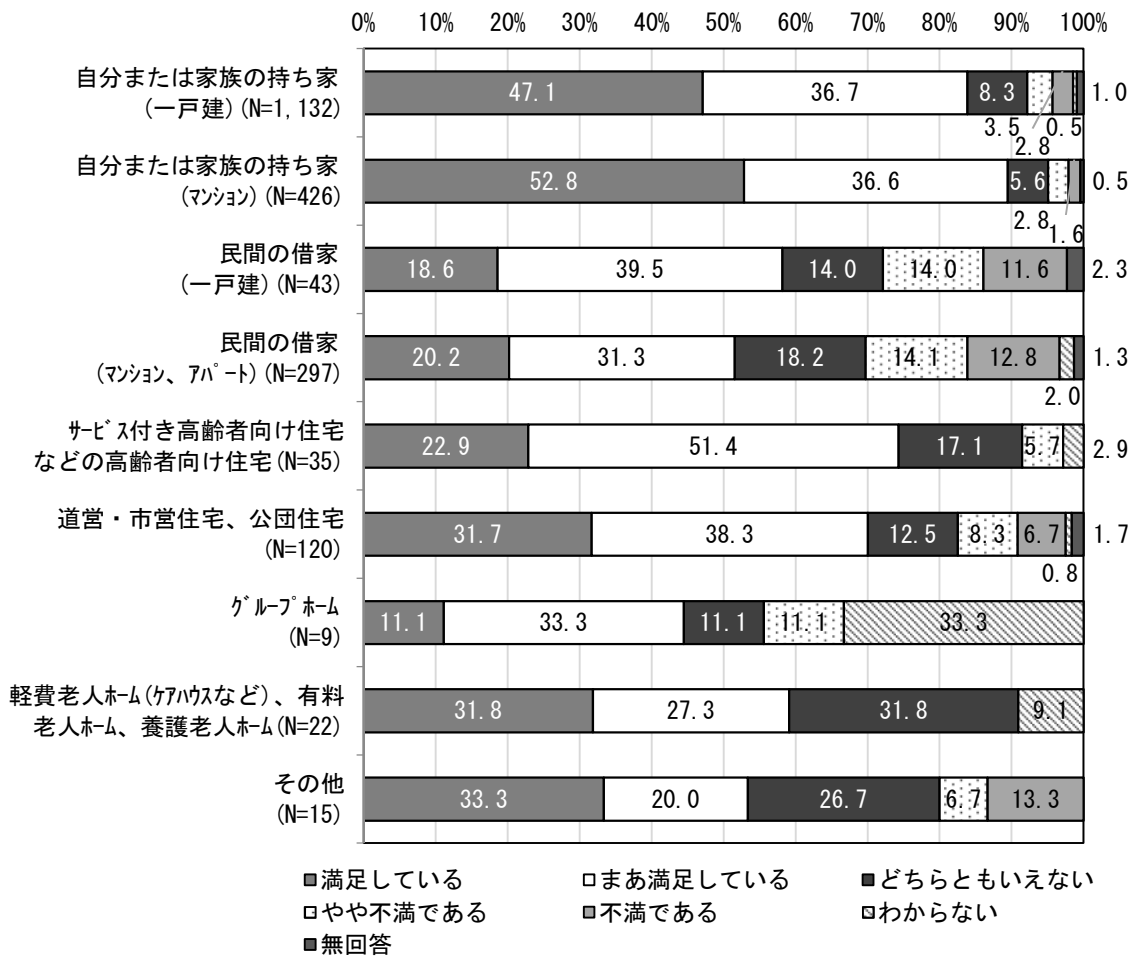


現在の生活場所に「満足している」「まあ満足している」を合わせた割合をみると、64歳以下・65歳以上共に、「自分または家族の持ち家(マンション)」が特に高く、64歳以下は87.6%、65歳以上は89.4%となっている。

図表2-2-13 問2-2 住まいに対する満足度 × 問1-4 生活場所 【64歳以下】



図表2-2-14 問2-2 住まいに対する満足度 × 問1-4 生活場所 【65歳以上】

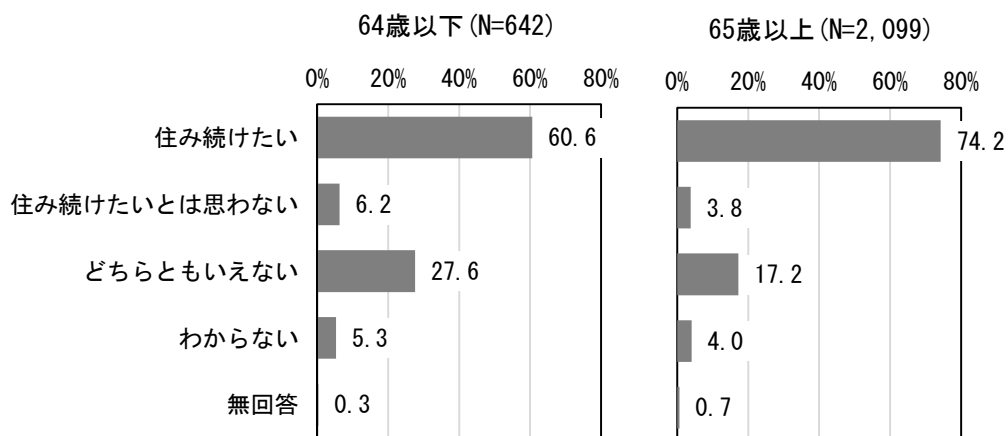


### 問2-3 地域の定着意向

あなたは、今後も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

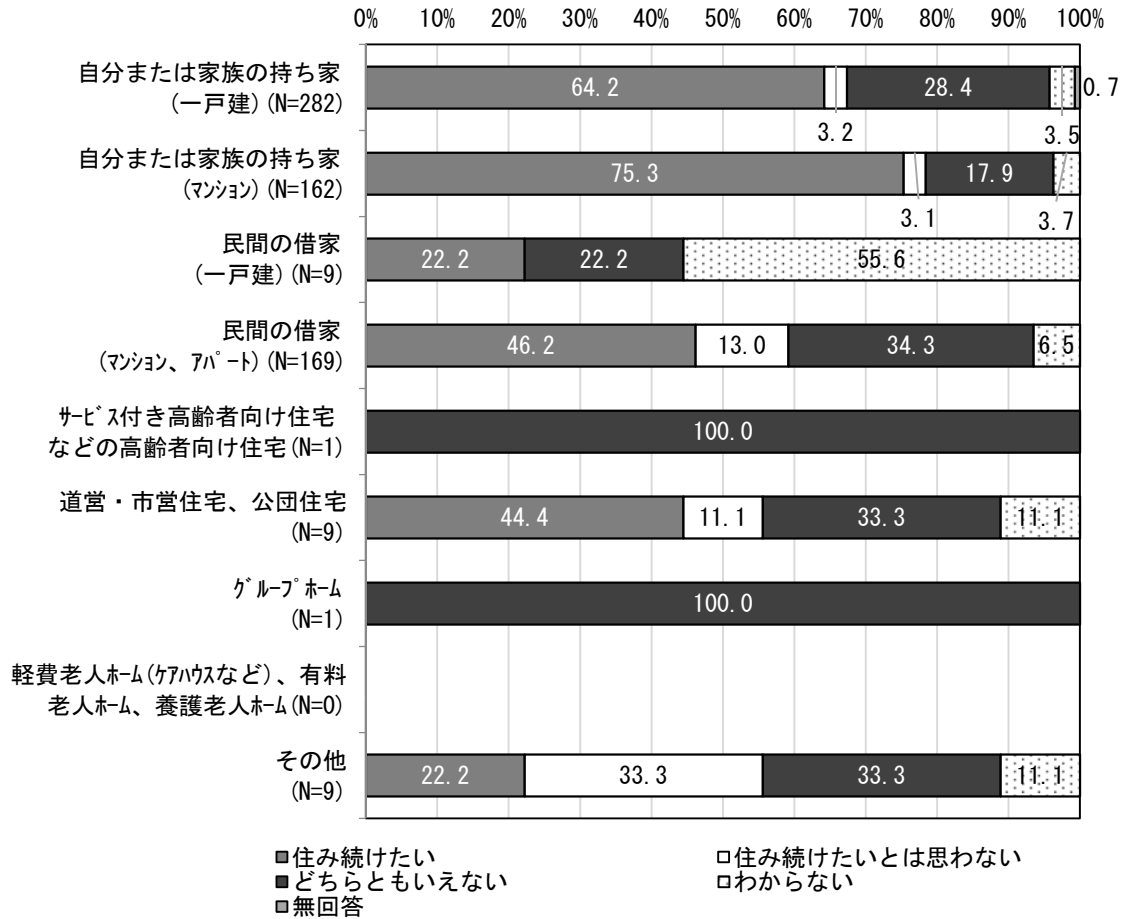
今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うかをたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「住み続けたい」が最も多く、64歳以下は60.6%、65歳以上は74.2%となっている。一方、「住み続けたいとは思わない」は、64歳以下は6.2%、65歳以上は3.8%となっている。

図表2-2-15 地域の定着意向

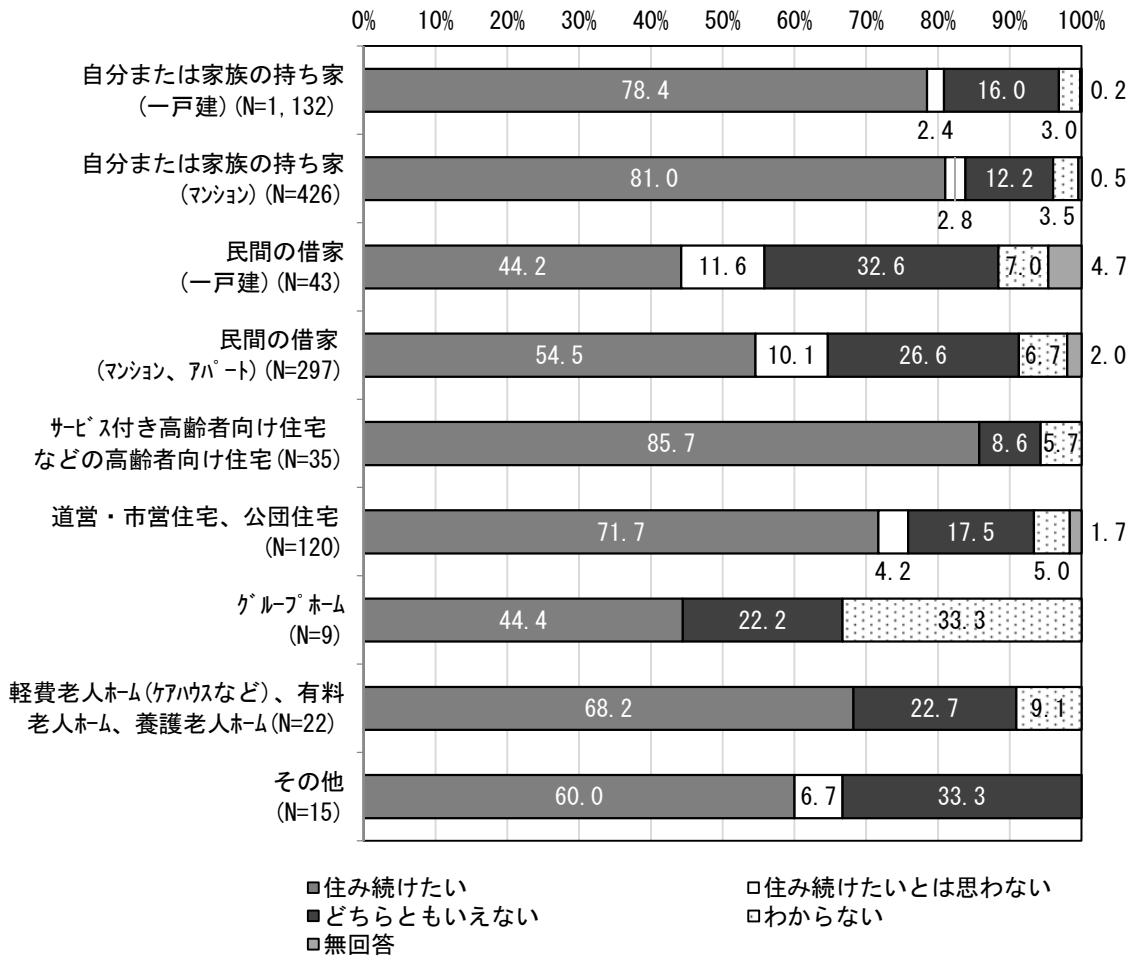


現在の生活場所別にみると、「住み続けたい」とする割合は、64歳以下は「自分または家族の持ち家（マンション）」(75.3%)が最も高く、65歳以上は「サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅」(85.7%)が最も高くなっている。

図表2-2-16 問2-3 地域の定着意向 × 問1-4 生活場所 【64歳以下】

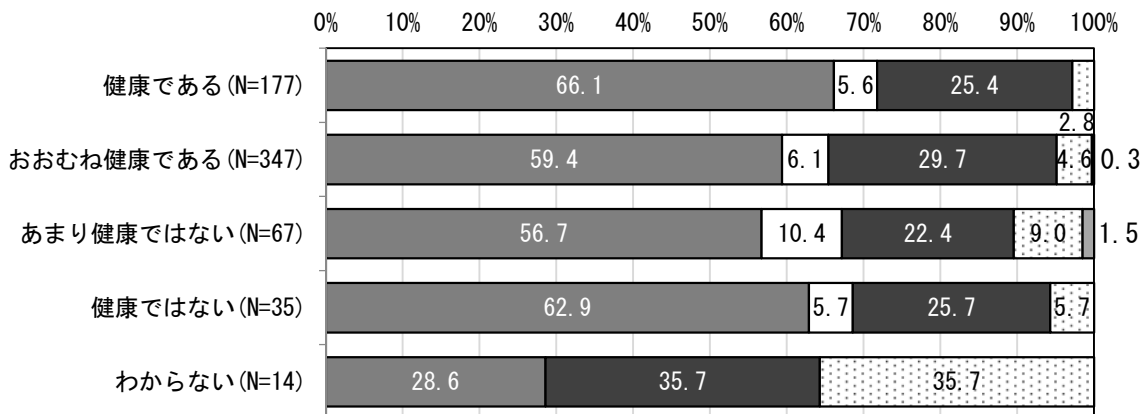


図表2-2-17 問2-3 地域の定着意向 × 問1-4 生活場所 【65歳以上】

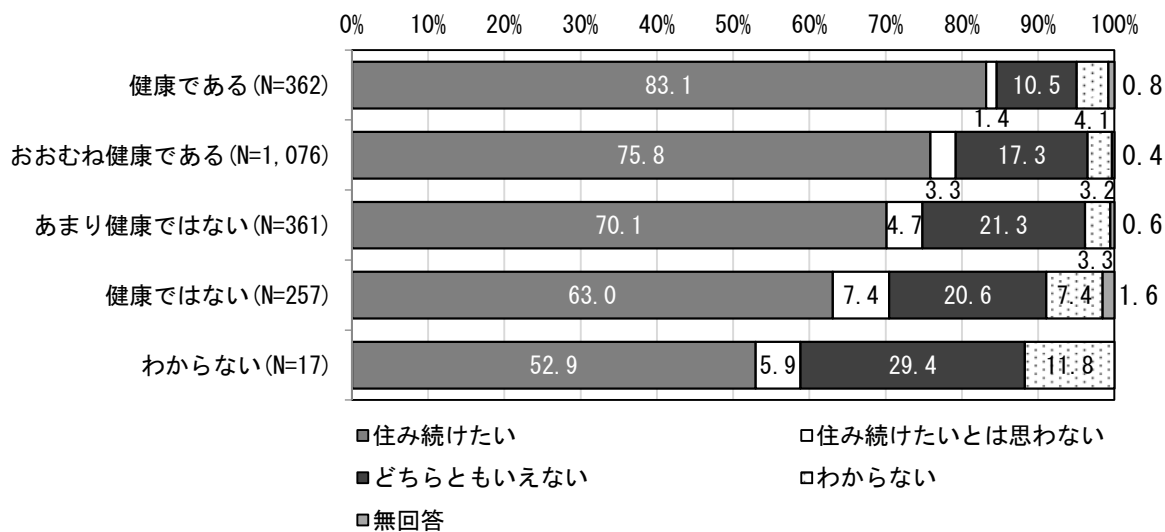


主観的健康感別にみると、「住みたい」とする割合は、64歳以下・65歳以上共に「健康である」と回答した人が最も高く、64歳以下は66.1%、65歳以上は83.1%となっている。

図表2-2-18 問2-3 地域の定着意向 × 問4-1 主観的健康感 【64歳以下】



図表2-2-19 問2-3 地域の定着意向 × 問4-1 主観的健康感 【65歳以上】

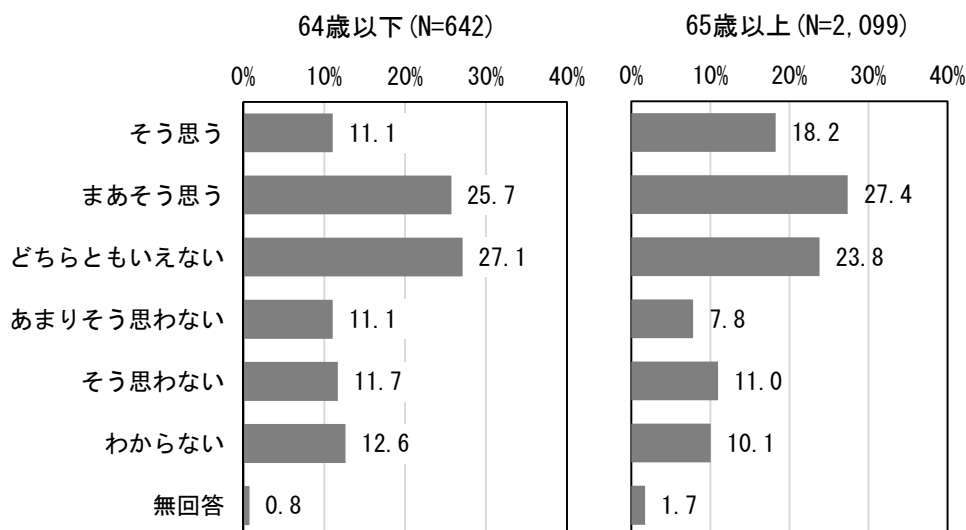


## 問2-4 住み慣れた地域で生活し続ける環境が整っているか

あなたは、札幌市には、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

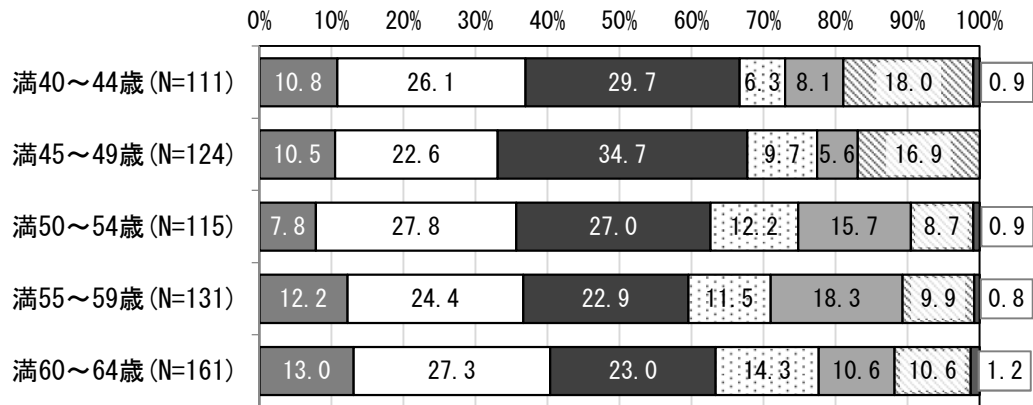
札幌市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思うかをたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は36.8%、65歳以上は45.6%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は22.8%、65歳以上は18.8%となっている。

図表2-2-20 住み慣れた地域で生活し続ける環境が整っているか

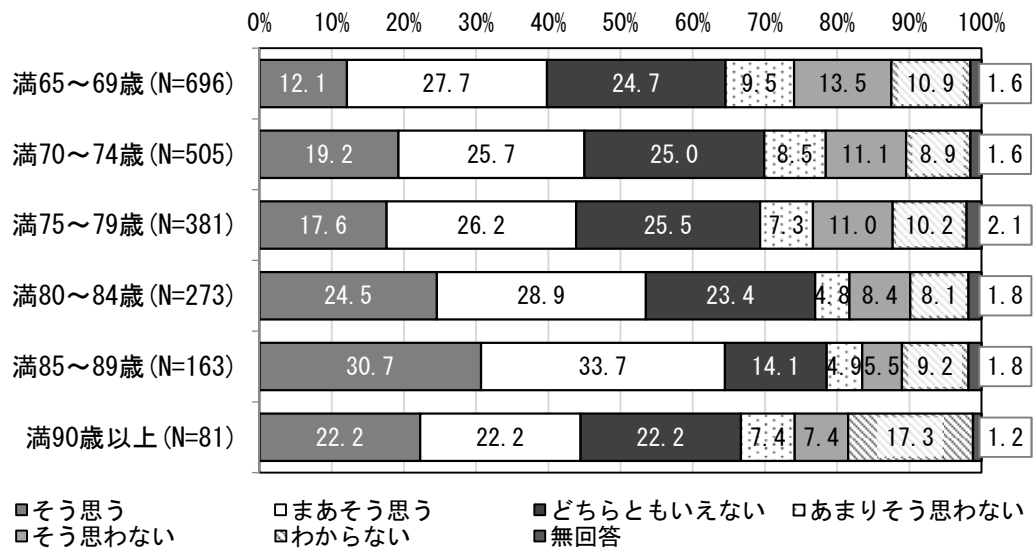


年齢別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は、満60～64歳が最も高く40.3%となっており、65歳以上は、満85～89歳が最も高く64.4%となっている。

図表2-2-21 問2-4 住み慣れた地域で生活し続ける環境が整っているか × 問1-2 年齢【64歳以下】



図表2-2-22 問2-4 住み慣れた地域で生活し続ける環境が整っているか × 問1-2 年齢【65歳以上】





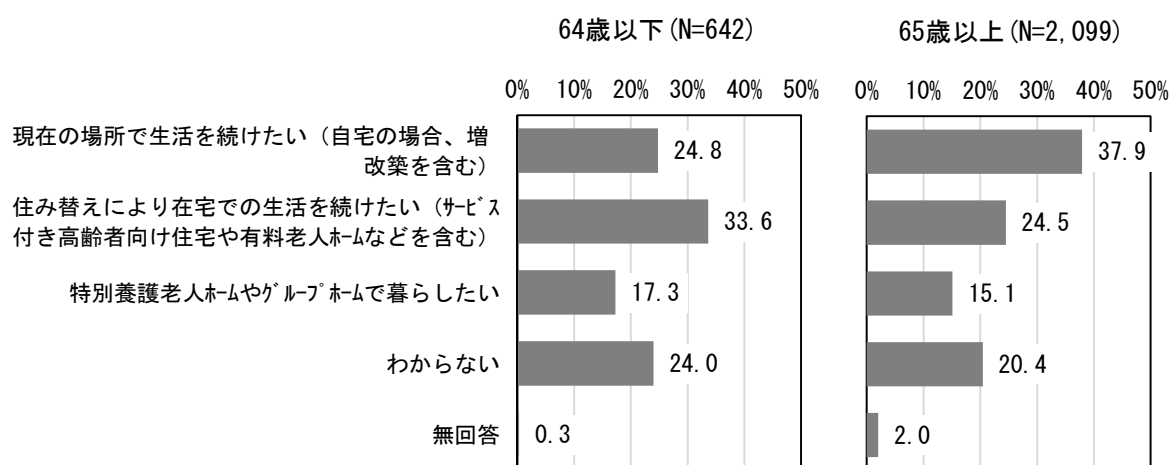
## 問2-5 住まいに対する考え方について

### (1) 今後の生活場所

あなたは、仮にひとり暮らしになったり、身体が弱くなったり、日常生活をおくる上で判断力が不十分になった場合、どこで生活したいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

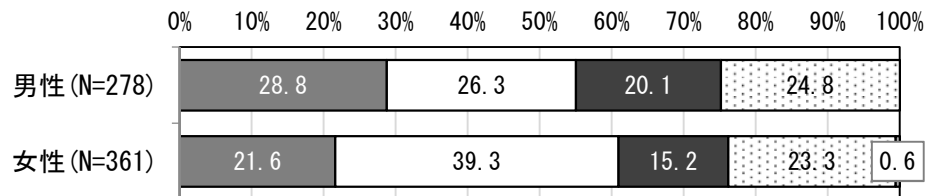
身体が弱くなったりした場合の生活場所についてたずねたところ、64歳以下は「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」(33.6%)が最も多く、次いで、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」(24.8%)となっており、65歳以上は、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」(37.9%)が最も多く、次いで、「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」(24.5%)となっている。

図表2-2-23 今後の生活場所

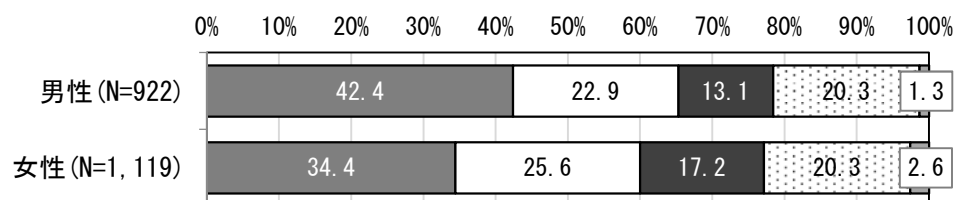


男女別にみると、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」とする割合が、64歳以下は、男性は28.8%、女性は21.6%となっており、65歳以上は、男性は42.4%、女性は34.4%となっている。

図表2-2-24 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問1-1 性別 【64歳以下】



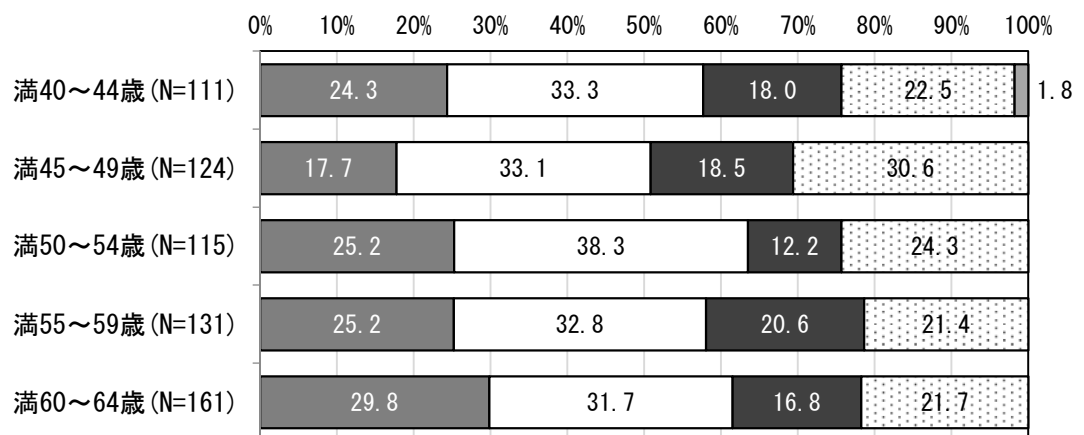
図表2-2-25 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問1-1 性別 【65歳以上】



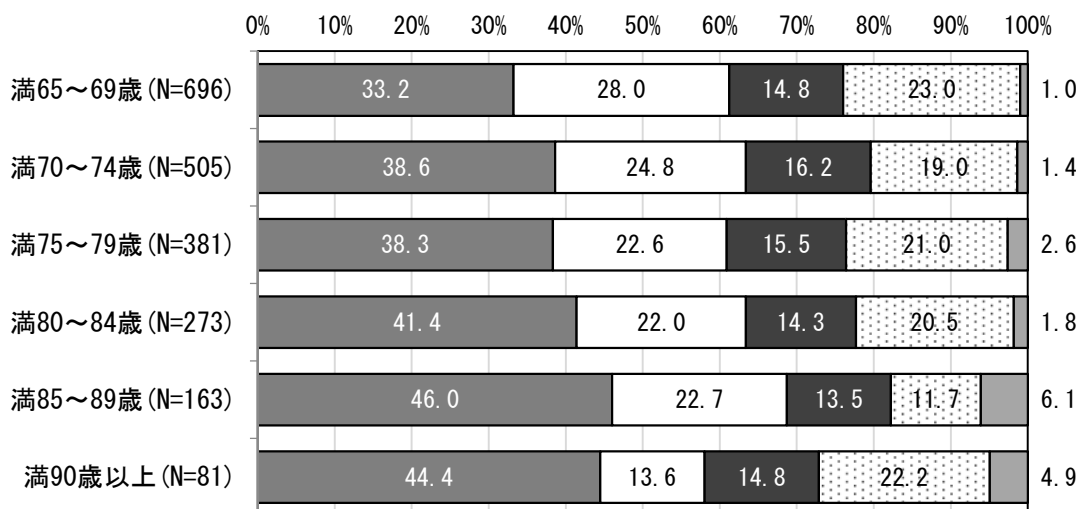
- 現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）
- 住み替えにより在宅での生活を続けたい  
（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）
- 特別養護老人ホームやグループホームで暮らしたい
- わからない
- 無回答

年齢別にみると、64歳以下は「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」とする割合が高くなっており、65歳以上は、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」とする割合が高くなっている。

図表2-2-26 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問1-2 年齢 【64歳以下】



図表2-2-27 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問1-2 年齢 【65歳以上】



■現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）

□住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）

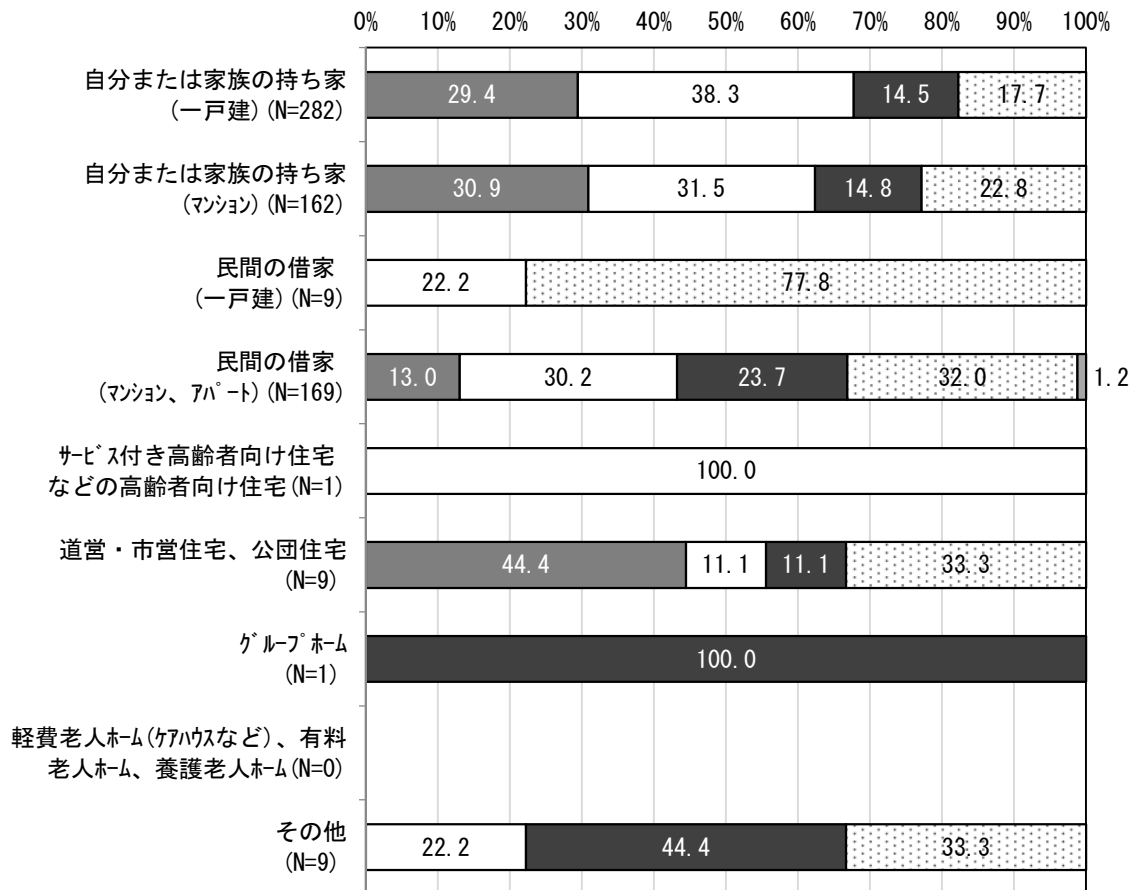
■特別養護老人ホームやグループホームで暮らしたい

□わからない

□無回答

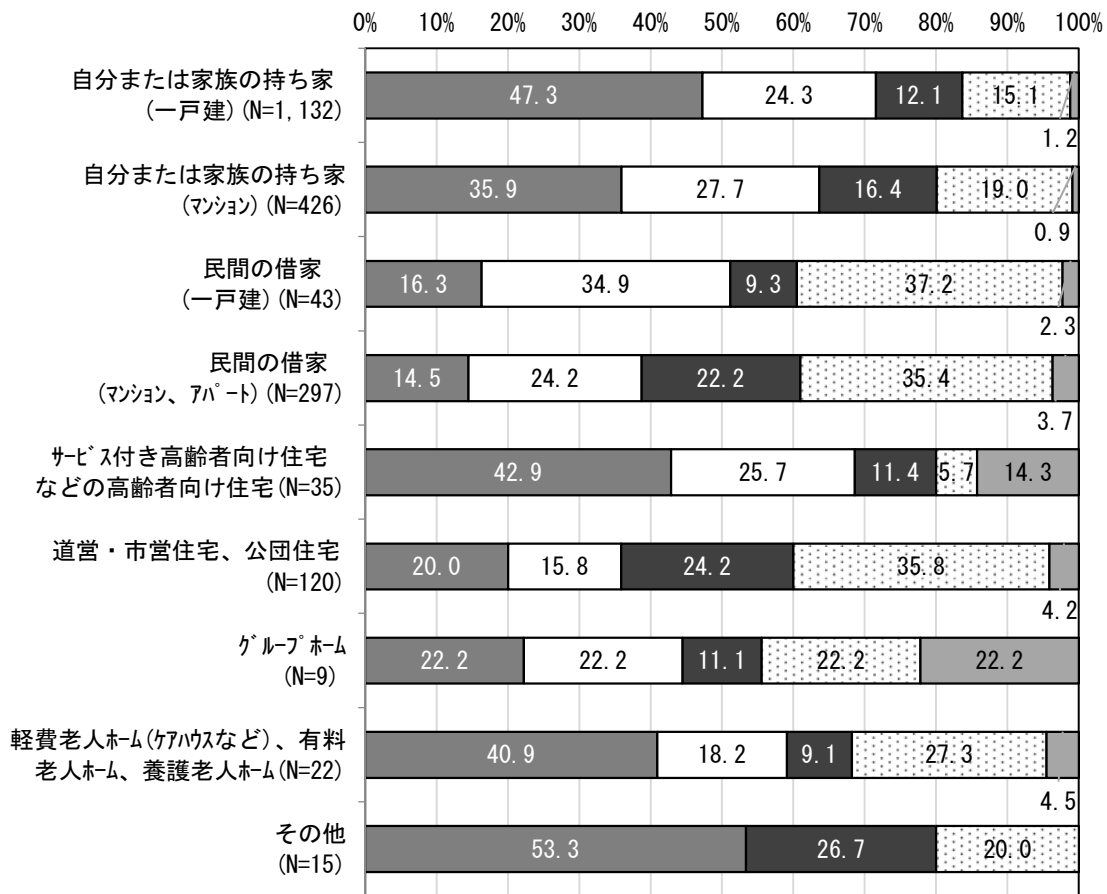
現在の生活場所別にみると、64歳以下で、「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」とする割合は、「自分または家族の持ち家（一戸建）」（38.3%）が特に高くなっており、65歳以上で、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」とする割合は、「自分または家族の持ち家（一戸建）」（47.3%）が特に高くなっている。

図表2-2-28 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問1-4 生活場所 【64歳以下】



- 現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）
- 住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）
- 特別養護老人ホームやグループホームで暮らしたい
- わからない
- 無回答

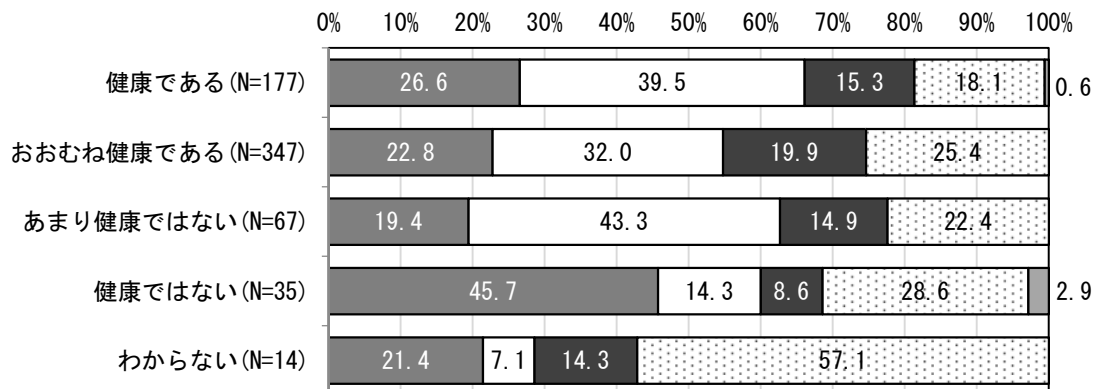
図表2-2-29 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問1-4 生活場所 【65歳以上】



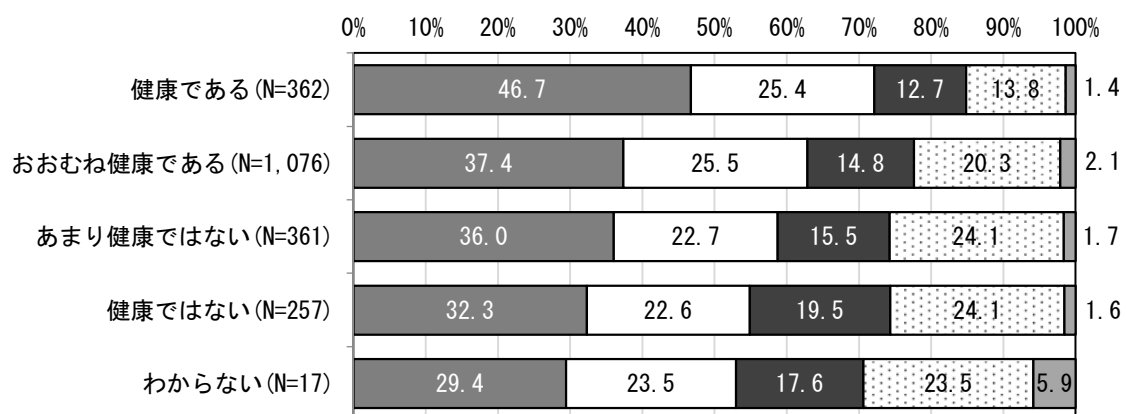
- 現在の場所で生活を続けたい (自宅の場合、増改築を含む)
- 住み替えにより在宅での生活を続けたい (サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む)
- 特別養護老人ホームやグループホームで暮らしたい
- わからない
- 無回答

主観的健康感別にみると、64歳以下で、「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」とする割合は、「健康である」（39.5%）、「あまり健康ではない」（43.3%）が特に高くなっており、65歳以上で、自分が健康だと感じている人ほど、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」とする割合が高く、「健康である」と回答した人は46.7%となっている。

図表2-2-30 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問4-1 主観的健康感 【64歳以下】



図表2-2-31 問2-5(1) 今後の生活場所 × 問4-1 主観的健康感 【65歳以上】



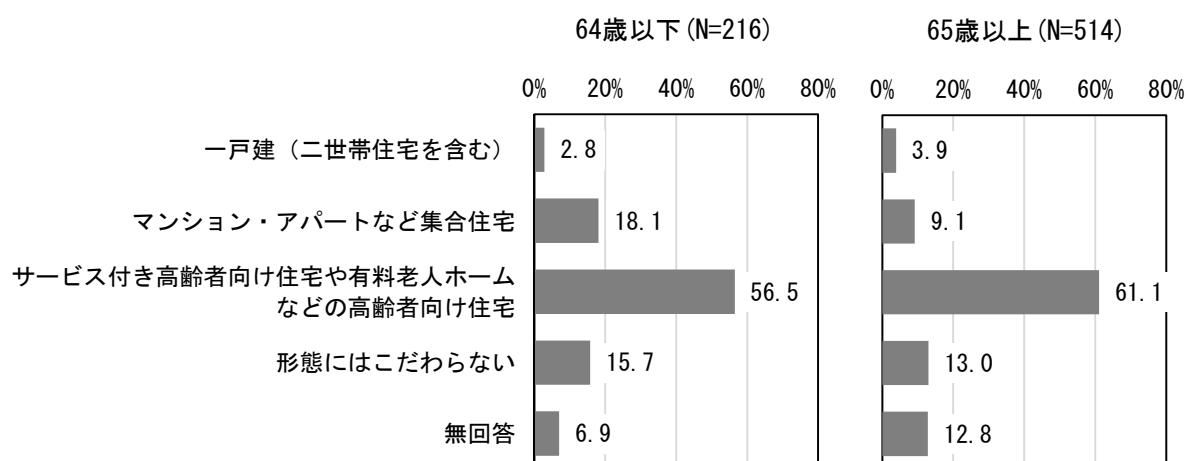
- 現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）
- 住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）
- 特別養護老人ホームやグループホームで暮らしたい
- わからない
- 無回答

## (2) ① 住み替え先の形態

「2. 住み替えにより在宅での生活を続けたい」と回答した方にうかがいます。どのような形態の住まいを考えていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

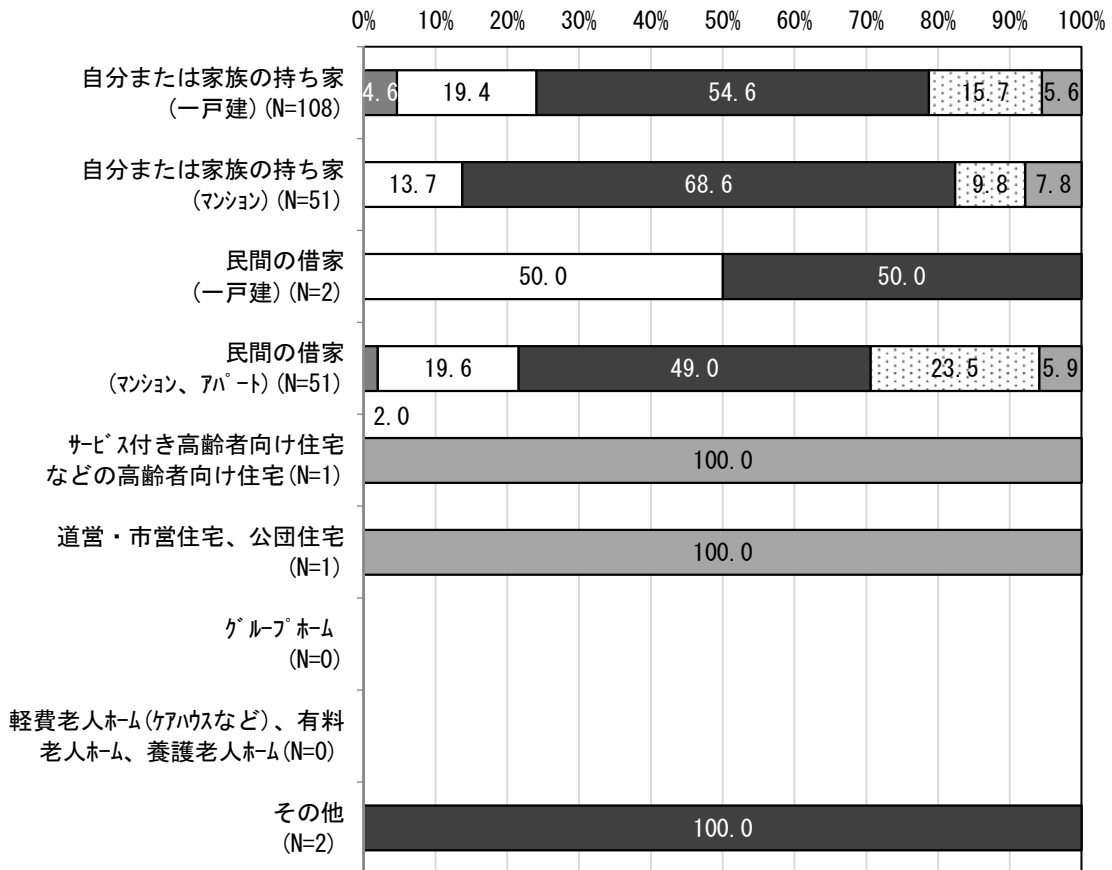
(1) で、「2. 住み替えにより在宅での生活を続けたい」と回答した方に、どのような形態の住まいを考えているかをたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」が最も多く、64歳以下は56.5%、65歳以上は61.1%となっている。次いで、64歳以下は「マンション・アパートなど集合住宅」(18.1%)、「形態にはこだわらない」(15.7%)となっており、65歳以上では、「形態にはこだわらない」(13.0%)、「マンション・アパートなど集合住宅」(9.1%)となっている。

図表2-2-32 住み替え先の形態



現在の生活場所別にみると、64歳以下、65歳以上共に、「自分または家族の持ち家（一戸建）」、「自分または家族の持ち家（マンション）」と回答した人は、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」とする割合が特に高くなっている。

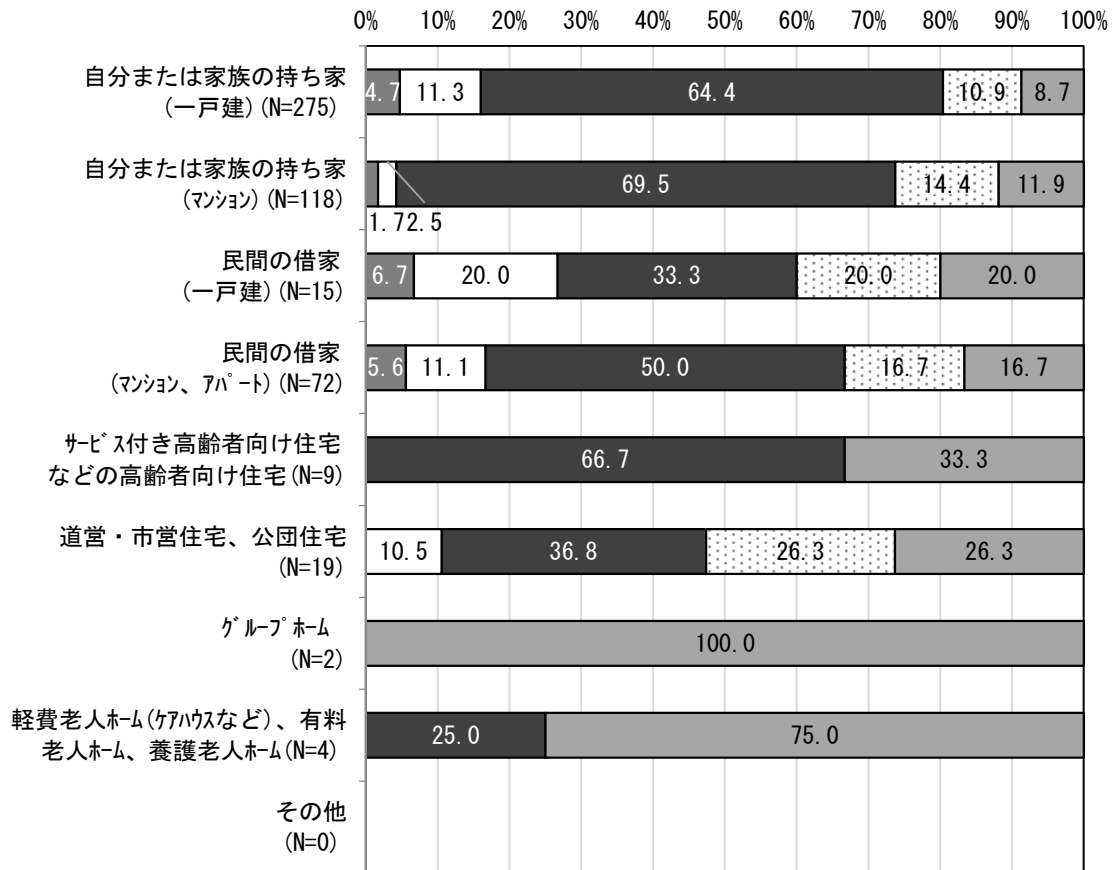
図表2-2-33 問2-5(2)① 住み替え先の形態 × 問1-4 生活場所 【64歳以下】



- 一戸建(二世帯住宅を含む)
- マンション・アパートなど集合住宅
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅
- 形態にはこだわらない
- 無回答



図表2-2-34 問2-5(2)① 住み替え先の形態 × 問1-4 生活場所 【65歳以上】



- 一戸建(二世帯住宅を含む)
- マンション・アパートなど集合住宅
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅
- 形態にはこだわらない
- 無回答

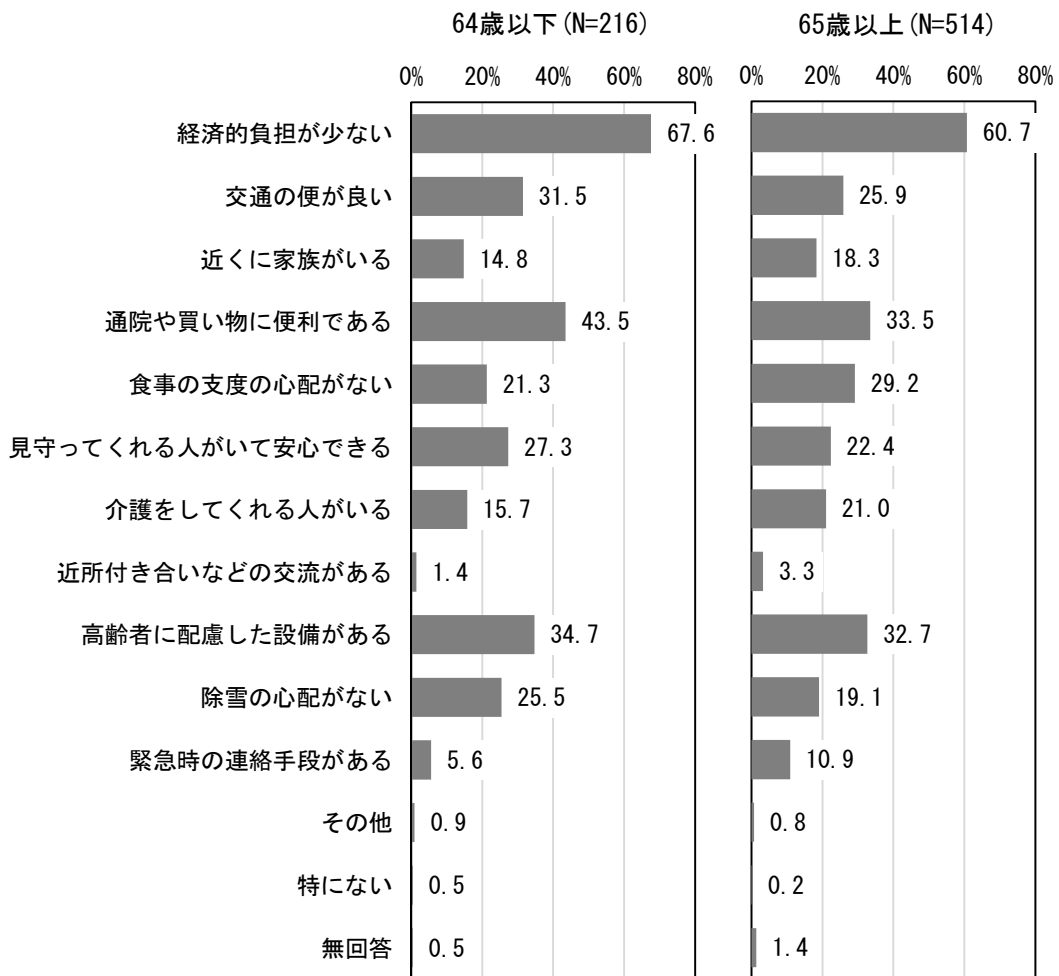
## ② 住み替えのために重視すること

[複数回答]

住み替え先を選ぶにあたって重視するのはどのようなことですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

(1) で、「2. 住み替えにより在宅での生活を続けたい」と回答した方に、住み替え先を選ぶにあたって重視することをたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「経済的負担が少ない」が最も多く、64歳以下は67.6%、65歳以上は60.7%となっている。次いで、64歳以下は「通院や買い物に便利である」(43.5%)、「高齢者に配慮した設備がある」(34.7%)、となっており、65歳以上は「通院や買い物に便利である」(33.5%)、「高齢者に配慮した設備がある」(32.7%)、となっている。

図表2-2-35 住み替えのために重視すること



現在の生活場所別にみると、64歳以下、65歳以上共に、「自分または家族の持ち家（一戸建）」と回答した人は、「経済的負担が少ない」、「通院や買い物に便利である」とする割合が特に高くなっている。

図表 2-2-36 問 2-5(2)② 住み替えのために重視すること × 問 1-4 生活場所【64歳以下】

	(%)								
	自分または家族の持ち家（一戸建） (N=108)	自分または家族の持ち家（マンション） (N=51)	民間の借家（一戸建） (N=2)	民間の借家（マンション、アパート） (N=51)	サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅 (N=1)	道営・市営住宅、公団住宅 (N=1)	グループホーム (N=0)	軽費老人ホーム（ケアハウスなど）有料老人ホーム、養護老人ホーム (N=0)	その他 (N=2)
経済的負担が少ない	65.7	58.8	100.0	80.4	100.0	-	-	-	50.0
交通の便が良い	34.3	29.4	-	27.5	-	100.0	-	-	50.0
近くに家族がいる	13.9	15.7	-	15.7	100.0	-	-	-	-
通院や買い物に便利である	44.4	35.3	50.0	47.1	-	100.0	-	-	100.0
食事の支度の心配がない	18.5	37.3	100.0	9.8	-	-	-	-	-
見守ってくれる人がいて安心できる	22.2	37.3	-	29.4	-	-	-	-	50.0
介護をしてくれる人がいる	15.7	19.6	-	13.7	-	-	-	-	-
近所付き合いなどの交流がある	-	-	-	3.9	100.0	-	-	-	-
高齢者に配慮した設備がある	35.2	37.3	50.0	31.4	-	-	-	-	50.0
除雪の心配がない	31.5	15.7	-	23.5	-	100.0	-	-	-
緊急時の連絡手段がある	4.6	3.9	-	9.8	-	-	-	-	-
その他	0.9	-	-	2.0	-	-	-	-	-
特にない	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-

図表 2-2-37 問 2-5(2)② 住み替えのために重視すること × 問 1-4 生活場所【65 歳以上】

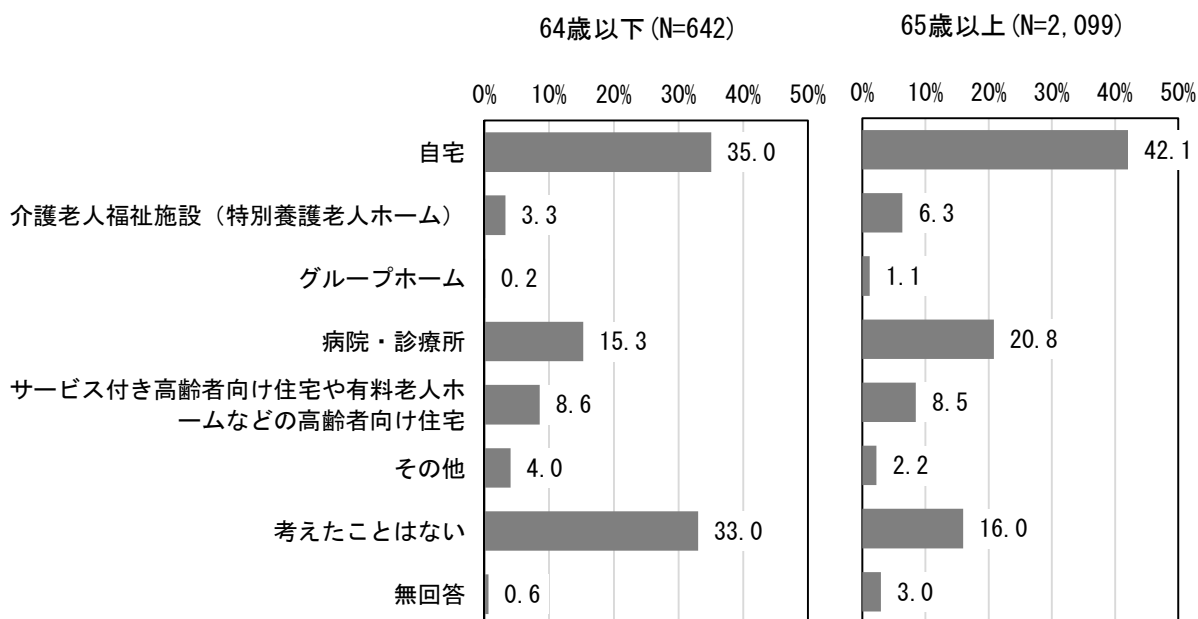
	(%)								
	自分または家族の持ち家(一戸建) (N=275)	自分または家族の持ち家(マンション) (N=118)	民間の借家(一戸建) (N=15)	民間の借家(マンション、アパート) (N=72)	サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅 (N=9)	道営・市営住宅、公団住宅 (N=19)	グループホーム (N=2)	軽費老人ホーム(ケアハウスなど)有料老人ホーム、養護老人ホーム (N=4)	その他 (N=0)
経済的負担が少ない	59.3	61.0	80.0	65.3	11.1	73.7	100.0	25.0	-
交通の便が良い	22.9	23.7	33.3	44.4	11.1	21.1	-	-	-
近くに家族がいる	21.1	13.6	13.3	18.1	44.4	5.3	-	-	-
通院や買い物に便利である	34.5	22.9	40.0	51.4	22.2	26.3	-	-	-
食事の支度の心配がない	28.4	40.7	6.7	19.4	44.4	15.8	-	50.0	-
見守ってくれる人がいて安心できる	21.1	27.1	20.0	20.8	33.3	10.5	100.0	-	-
介護をしてくれる人がいる	19.6	28.8	-	12.5	55.6	15.8	100.0	25.0	-
近所付き合いなどの交流がある	3.6	3.4	-	1.4	-	10.5	-	-	-
高齢者に配慮した設備がある	31.6	42.4	20.0	25.0	33.3	26.3	-	50.0	-
除雪の心配がない	24.4	4.2	46.7	19.4	11.1	21.1	-	-	-
緊急時の連絡手段がある	10.2	12.7	20.0	9.7	11.1	10.5	-	-	-
その他	-	2.5	-	-	-	5.3	-	-	-
特にない	-	0.8	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1.5	0.8	-	-	-	-	-	50.0	-

## 問2-6 最期を迎えたい場所

すべての方にお聞きします。あなたは、最期をどこで迎えたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

最期を迎えたい場所についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「自宅」が最も多く、64歳以下は35.0%、65歳以上は42.1%となっている。次いで、64歳以下は、「病院・診療所」(15.3%)、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」(8.6%)となっており、65歳以上は、「病院・診療所」(20.8%)、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」(8.5%)となっている。「考えたことはない」の割合は、64歳以下は33.0%、65歳以上は16.0%となっている。

図表2-2-38 最期を迎えたい場所

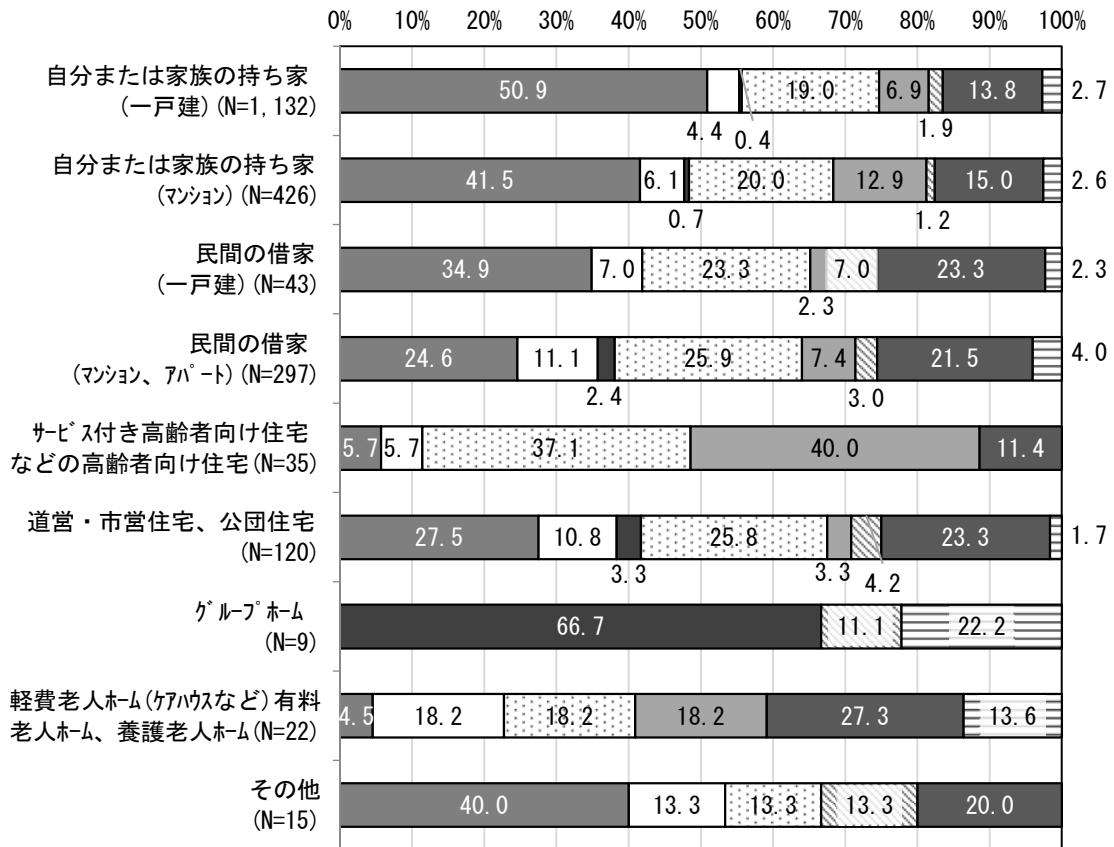


現在の生活場所別にみると、64歳以下、65歳以上共に、「自分または家族の持ち家（一戸建）」、「自分または家族の持ち家（マンション）」と回答した人は、「自宅」とする割合が特に高くなっている。

図表2-2-39 問2-6 最期を迎えたい場所 × 問1-4 生活場所 【64歳以下】



図表2-2-40 問2-6 最期を迎えたい場所 × 問1-4 生活場所 【65歳以上】



- 自宅
- 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
- グループホーム
- 病院・診療所
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅
- その他
- 考えたことはない
- 無回答

## 2. 3 交流と活動について

### 問3-1 他の世代との交流について

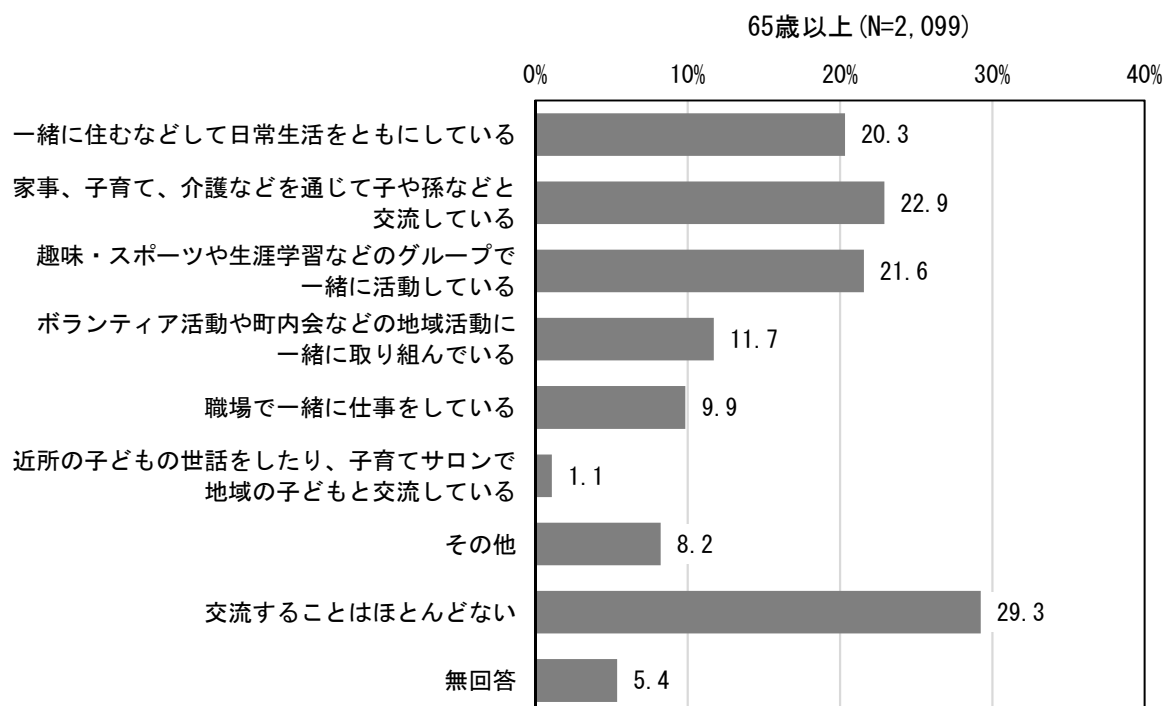
#### (1) 他世代との交流（65歳以上）

[複数回答]

65歳以上の方にお聞きします。若者や子どもなど、若い世代の人たちと交流はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

65歳以上の方に、若者や子どもなど、若い世代の人たちと交流はあるかをたずねたところ、「家事、子育て、介護などを通じて子や孫などと交流している」(22.9%)が最も多く、次いで、「趣味・スポーツや生涯学習などのグループで一緒に活動している」(21.6%)、「一緒に住むなどして日常生活をともにしている」(20.3%)となっている。一方、「交流することはほとんどない」は、29.3%となっている。

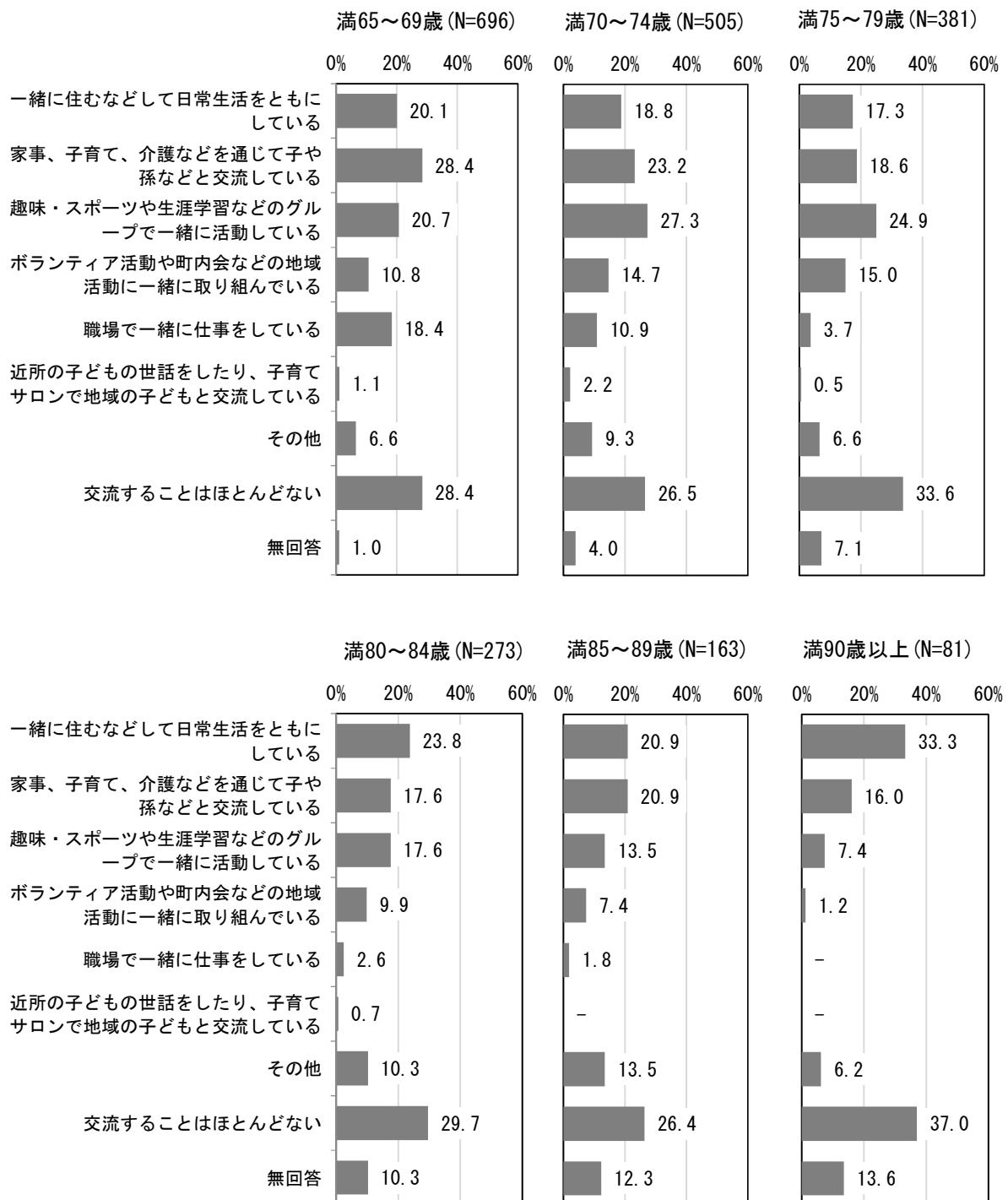
図表2-3-1 他世代との交流





年齢別にみると、すべての年齢層で「交流することはほとんどない」の割合が最も高くなっている。また、すべての年齢層で、「交流することはほとんどない」を除く、上位3項目は、「一緒に住むなど日常生活をともにしている」「家事、子育て、介護などを通じて子や孫などと交流している」「趣味・スポーツや生涯学習などのグループで一緒に活動している」となっている。

図表2-3-2 問3-1(1) 他世代との交流（65歳以上） × 問1-2 年齢



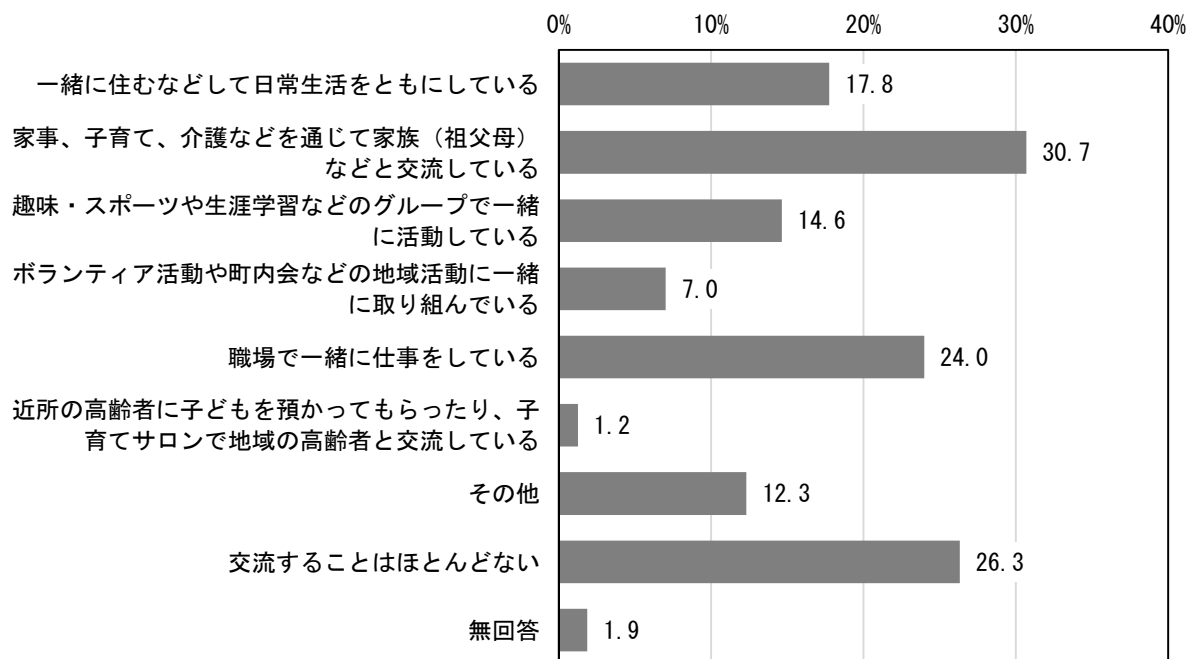
## (2) 他世代との交流 (64 歳以下)

[複数回答]

40 歳～64 歳の方にお聞きします。65 歳以上の人たちと交流はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

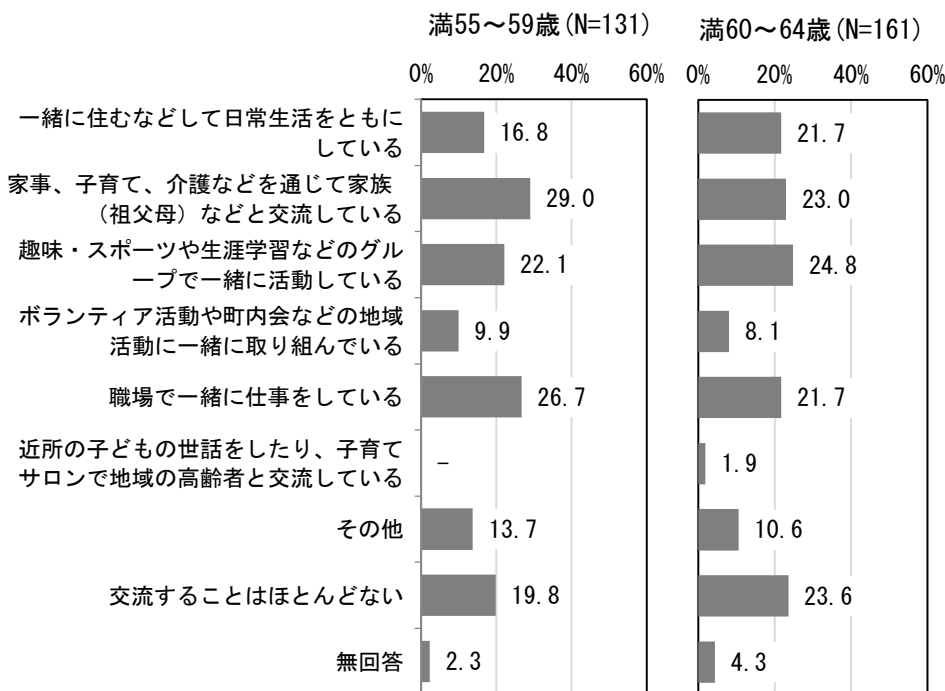
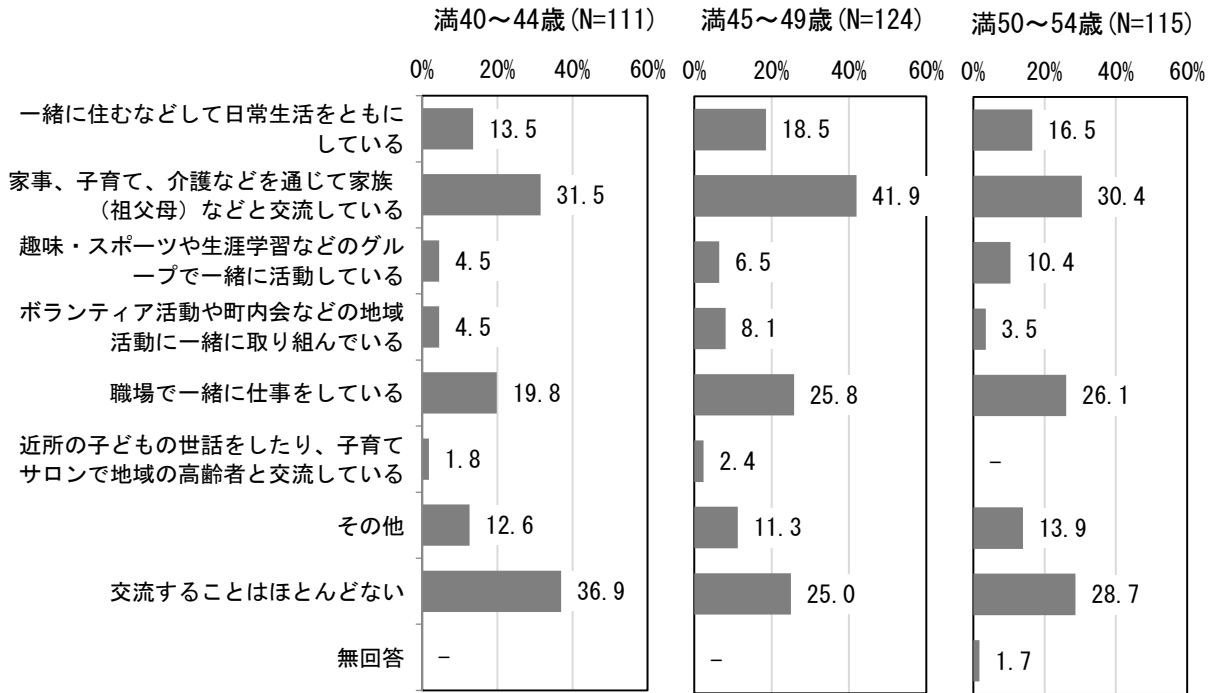
64 歳以下の方に、65 歳以上の人たちと交流はあるかをたずねたところ、「家事、子育て、介護などを通じて家族（祖父母）などと交流している」（30.7%）が最も多く、次いで、「職場で一緒に仕事をしている」（24.0%）、「一緒に住むなどして日常生活をともにしている」（17.8%）となっている。一方、「交流することはほとんどない」は、26.3%となっている。

図表2-3-3 他世代との交流【64歳以下】(N=642)



年齢別にみると、「家事、子育て、介護などを通じて家族（祖父母）などと交流している」とする割合は、満45～49歳が最も高く、41.9%となっている。

図表 2-3-4 問 3-1(2) 他世代との交流（64歳以下） × 問 1-2 年齢



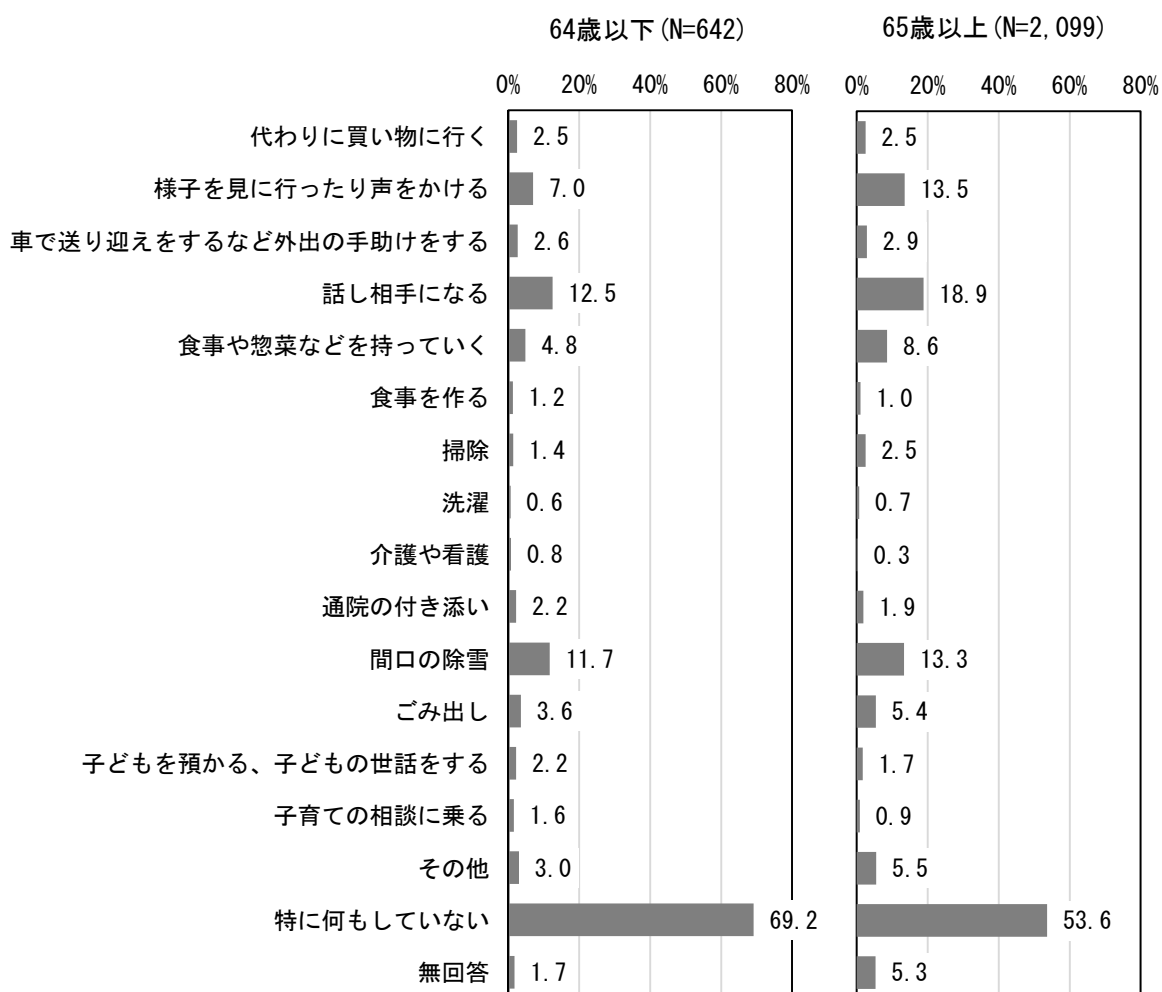
### 問3-2 近所への手伝いの内容

[複数回答]

すべての方にお聞きします。あなたは、現在住んでいる地域の中で、ご近所の方にどのようなお手伝いをした経験がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

現在住んでいる地域の中で、近所の方にどのような手伝いをした経験があるかをたずねたところ、64歳以下は「話し相手になる」(12.5%)が最も多く、次いで、「間口の除雪」(11.7%)、「様子を見に行ったり声をかける」(7.0%)となっており、65歳以上は、「話し相手になる」(18.9%)が最も多く、次いで、「様子を見に行ったり声をかける」(13.5%)、「間口の除雪」(13.3%)となっている。一方、「特に何もしていない」は、64歳以下は69.2%、65歳以上は53.6%となっている。

図表2-3-5 近所への手伝いの内容



現在の生活場所別に見ると、64歳以下で「話し相手になる」とする割合は、「自分または家族の持ち家（一戸建て）」（17.0%）が特に高くなっている。また、65歳以上で「様子を見に行ったり声をかける」とする割合は、「自分または家族の持ち家（一戸建て）」（16.6%）が最も高くなっている。

図表2-3-6 問3-2 近所への手伝いの内容 × 問1-4 生活場所 【64歳以下】

	自分または家族の持ち家（一戸建て） (N=282)	自分または家族の持ち家（マンション） (N=162)	民間の借家（一戸建て） (N=9)	民間の借家（マンション、アパート） (N=169)	サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅 (N=1)	道営・市営住宅、公団住宅 (N=9)	グループホーム (N=1)	軽費老人ホーム（ケアハウスなど）有料老人ホーム、養護老人ホーム (N=0)	その他 (N=9)	(%)
代わりに買い物に行く	3.2	2.5	-	1.8	-	-	-	-	-	-
様子を見に行ったり声をかける	8.2	7.4	-	4.7	100.0	-	-	-	11.1	-
車で送り迎えをするなど外出の手助けをする	4.6	1.9	-	0.6	-	-	-	-	-	-
話し相手になる	17.0	9.3	-	8.9	-	11.1	-	-	11.1	-
食事や惣菜などを持っていく	6.7	3.1	-	3.0	100.0	-	-	-	11.1	-
食事を作る	1.4	1.2	-	0.6	-	-	-	-	11.1	-
掃除	2.5	0.6	-	-	-	-	-	-	11.1	-
洗濯	0.7	0.6	-	-	-	-	-	-	11.1	-
介護や看護	0.4	0.6	-	1.8	-	-	-	-	-	-
通院の付き添い	2.8	2.5	-	1.2	-	-	-	-	-	-
間口の除雪	16.7	3.1	22.2	10.1	-	22.2	-	-	22.2	-
ごみ出し	4.3	1.2	-	4.1	-	11.1	-	-	11.1	-
子どもを預かる、子どもの世話をする	3.2	1.9	-	-	-	11.1	-	-	11.1	-
子育ての相談に乗る	2.1	1.2	-	0.6	-	-	-	-	11.1	-
その他	3.5	1.9	-	3.0	-	11.1	-	-	-	-
特に何もしていない	59.2	79.0	77.8	76.9	-	66.7	100.0	-	55.6	-
無回答	3.2	-	-	1.2	-	-	-	-	-	-

図表2-3-7 問3-2 近所への手伝いの内容 × 問1-4 生活場所 【65歳以上】

(96)

	自分または家族の持ち家(一戸建) (N=1,132)	自分または家族の持ち家(マンション) (N=426)	民間の借家(一戸建) (N=43)	民間の借家(マンション、アパート) (N=297)	サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅 (N=35)	道営・市営住宅、公団住宅 (N=120)	グループホーム (N=9)	軽費老人ホーム(ケアハウスなど)有料老人ホーム、養護老人ホーム (N=22)	その他 (N=15)
代わりに買い物に行く	1.9	2.6	4.7	3.0	-	5.8	-	4.5	-
様子を見に行ったり声をかける	16.6	10.8	14.0	8.1	5.7	14.2	-	-	6.7
車で送り迎えをするなど外出の手助けをする	3.6	2.8	-	2.0	-	1.7	-	-	-
話し相手になる	20.8	19.7	25.6	12.1	11.4	18.3	-	9.1	6.7
食事や惣菜などを持っていく	9.1	8.5	14.0	6.7	-	11.7	-	4.5	-
食事を作る	0.8	0.7	-	0.7	-	5.8	-	-	6.7
掃除	2.9	0.7	2.3	1.0	2.9	8.3	-	-	6.7
洗濯	0.6	0.2	-	0.3	-	4.2	-	-	6.7
介護や看護	0.2	0.9	-	-	-	-	-	-	6.7
通院の付き添い	1.1	2.8	2.3	3.0	-	3.3	-	-	-
間口の除雪	16.9	5.2	18.6	11.4	-	20.8	-	-	-
ごみ出し	5.6	4.9	4.7	3.7	2.9	11.7	-	-	6.7
子どもを預かる、子どもの世話をする	1.6	2.3	2.3	1.3	-	2.5	-	-	-
子育ての相談に乗る	1.1	1.2	-	0.3	-	-	-	-	-
その他	6.4	5.4	2.3	4.4	5.7	2.5	-	-	13.3
特に何もしていない	48.2	61.0	46.5	63.6	71.4	45.8	88.9	59.1	66.7
無回答	5.7	3.1	7.0	5.4	11.4	3.3	11.1	27.3	-

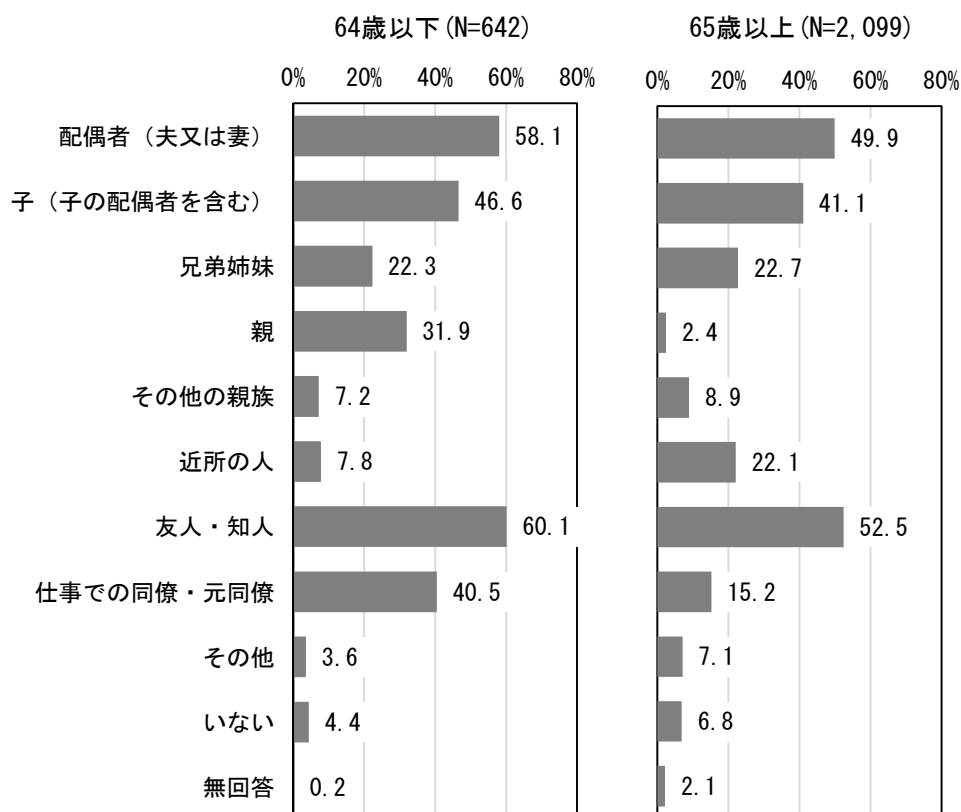
### 問3-3 会話、趣味等を楽しむ人

[複数回答]

あなたは、日ごろ、会話や外出、趣味等をどなたと一緒に楽しんでいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

日ごろ、会話や外出、趣味等を誰と一緒に楽しんでいるかについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「友人・知人」が最も多く、64歳以下は60.1%、65歳以上は52.5%となっている。次いで、64歳以下は「配偶者（夫又は妻）」（58.1%）、「子（子の配偶者を含む）」（46.6%）となっており、65歳以上も同様に「配偶者（夫又は妻）」（49.9%）、「子（子の配偶者を含む）」（41.1%）となっている。

図表2-3-8 会話、趣味等を楽しむ人



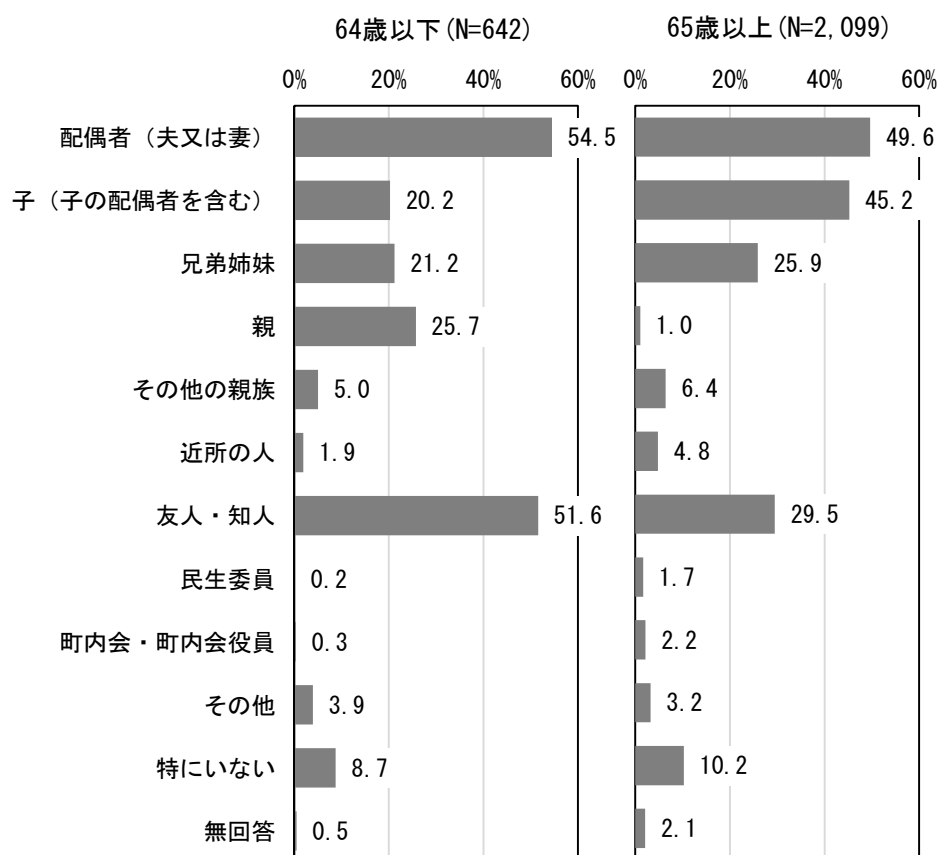
### 問3-4 悩み事の相談相手

[複数回答]

あなたが日ごろ、悩み事の相談などをする身近な方はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

悩み事の相談相手についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「配偶者（夫又は妻）」が最も多く、64歳以下は54.5%、65歳以上は49.6%となっている。次いで、64歳以下は「友人・知人」（51.6%）、「親」（25.7%）となっており、65歳以上は「子（子の配偶者を含む）」（45.2%）、「友人・知人」（29.5%）となっている。

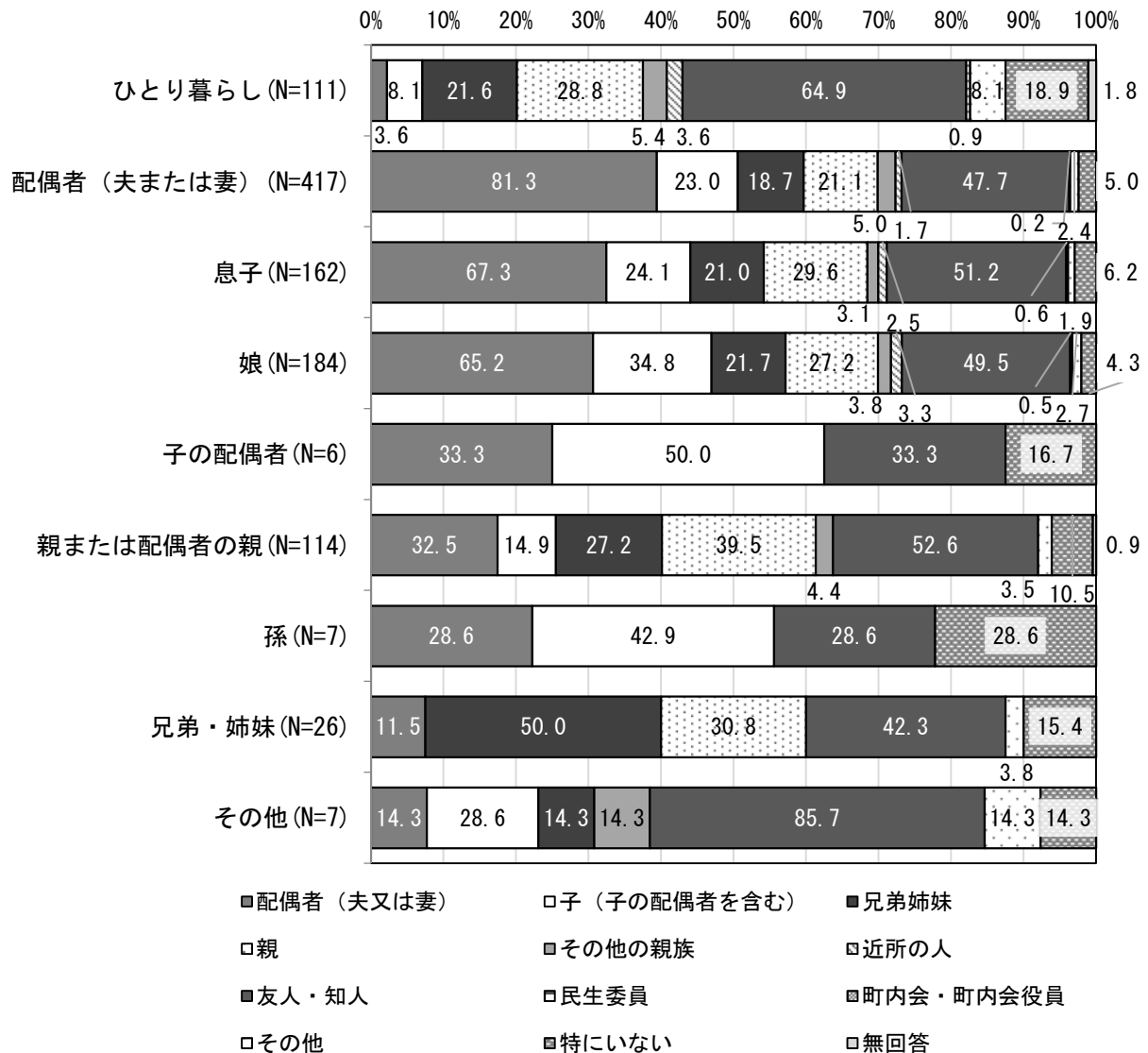
図表2-3-9 悩み事の相談相手



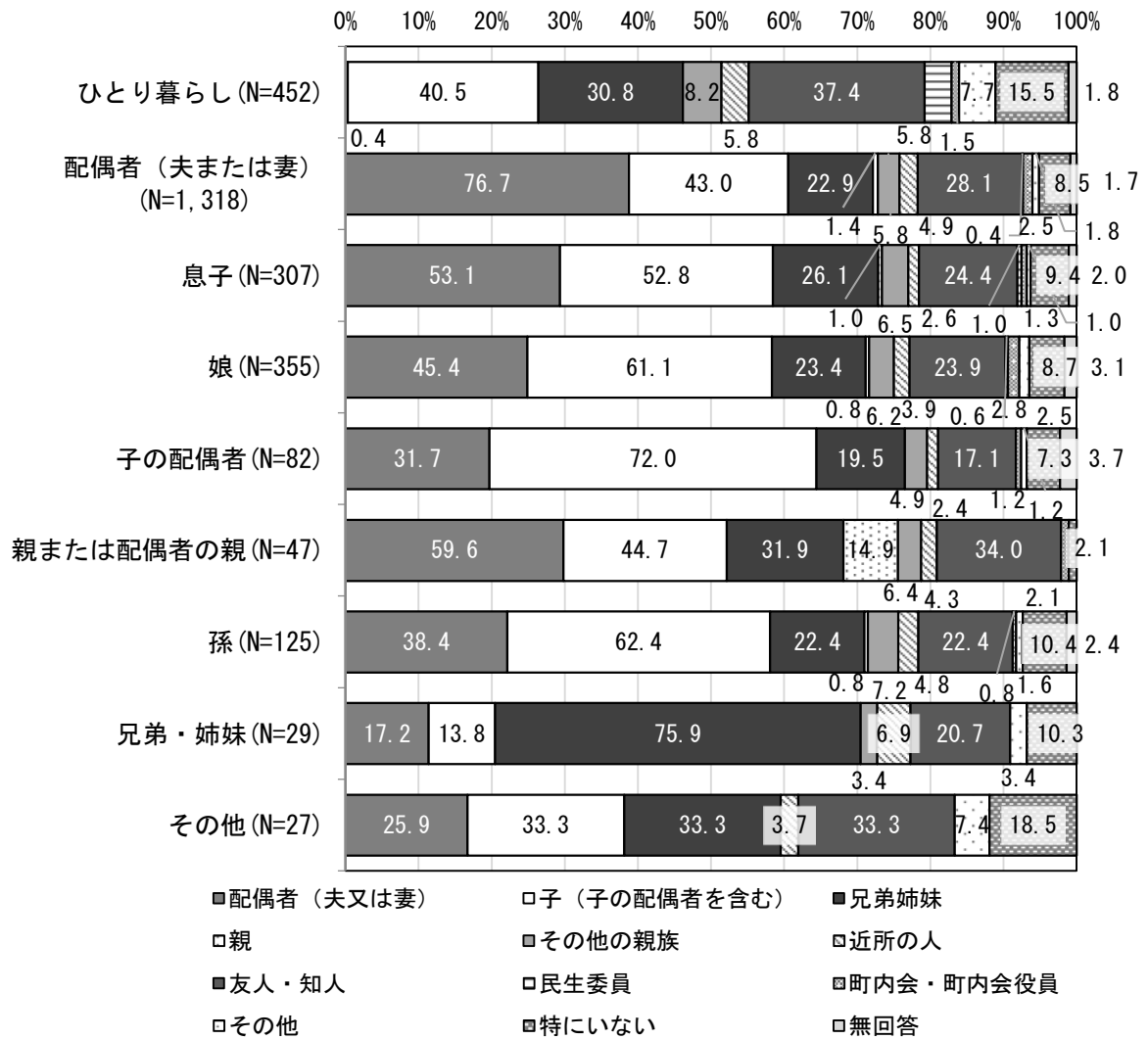


家族構成別にみると、「ひとり暮らし」と回答した人は、64歳以下は「友人・知人」(64.9%)が最も高く、65歳以上は「子(子の配偶者を含む)」(40.5%)が最も高くなっている。

図表2-3-10 問3-4 悩み事の相談相手 × 問2-1(1) 同居者の続柄 【64歳以下】



図表2-3-11 問3-4 悩み事の相談相手 × 問2-1(1) 同居者の続柄 【65歳以上】



### 問3-5 社会参加について

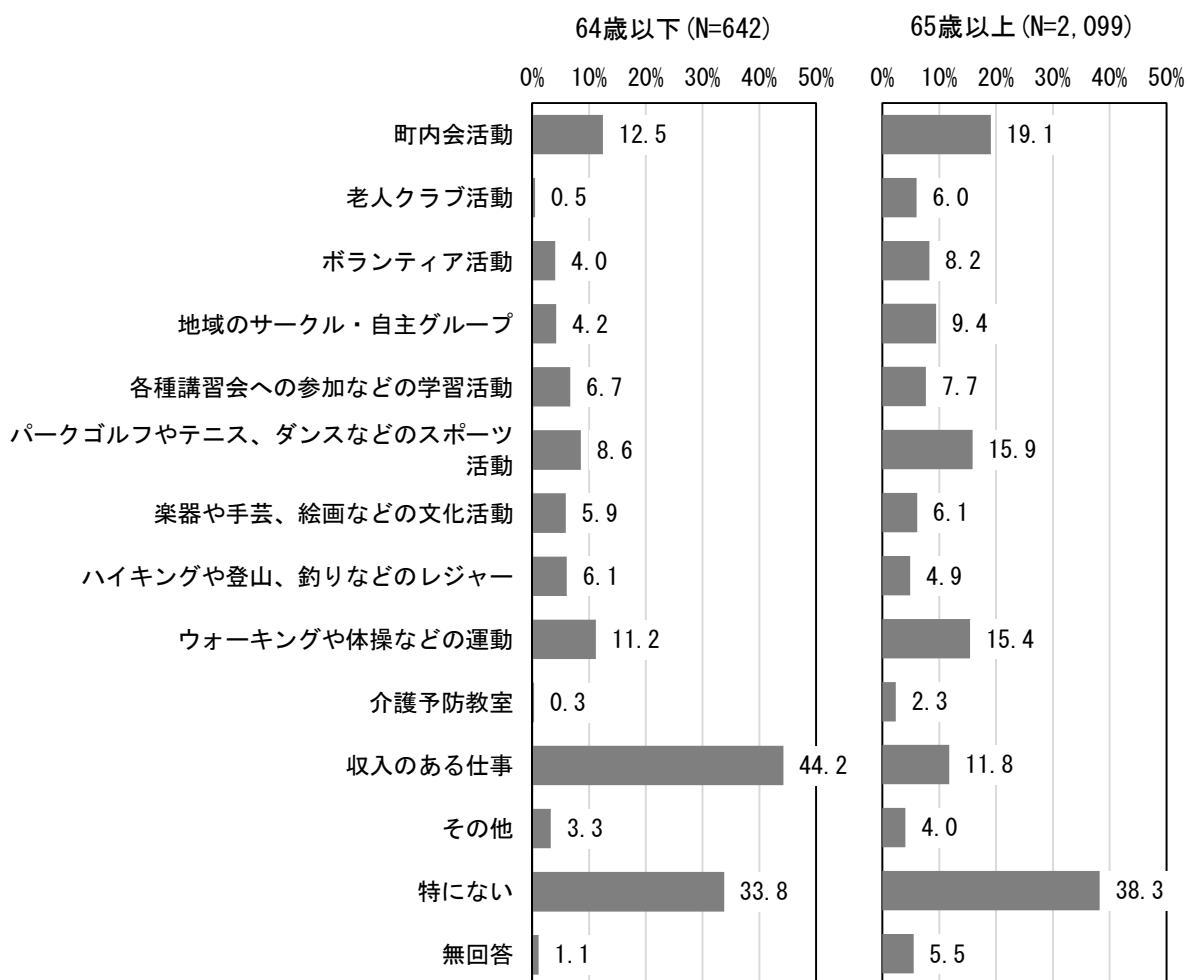
#### (1) 社会参加の内容

[複数回答]

あなたは、次のような活動（社会参加活動や仕事など）をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

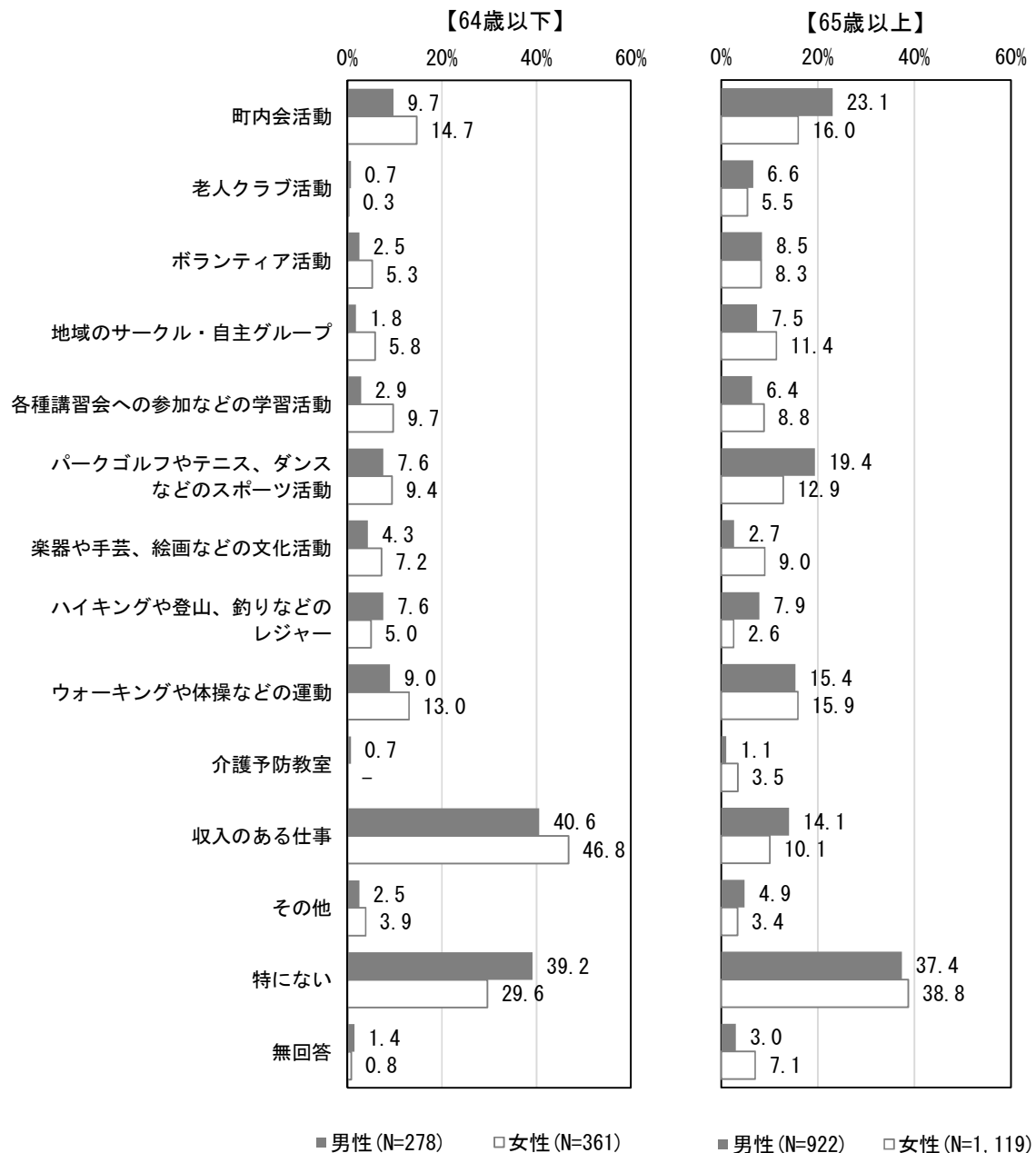
社会参加の内容（社会参加活動や仕事など）についてたずねたところ、64歳以下は「収入のある仕事」（44.2%）が最も多く、次いで、「町内会活動」（12.5%）、「ウォーキングや体操などの運動」（11.2%）となっており、65歳以上は「町内会活動」（19.1%）が最も多く、次いで、「パークゴルフやテニス、ダンスなどのスポーツ活動」（15.9%）、「ウォーキングや体操などの運動」（15.4%）となっている。一方、「特にない」は、64歳以下は33.8%、65歳以上は38.3%となっている。

図表2-3-12 社会参加の内容



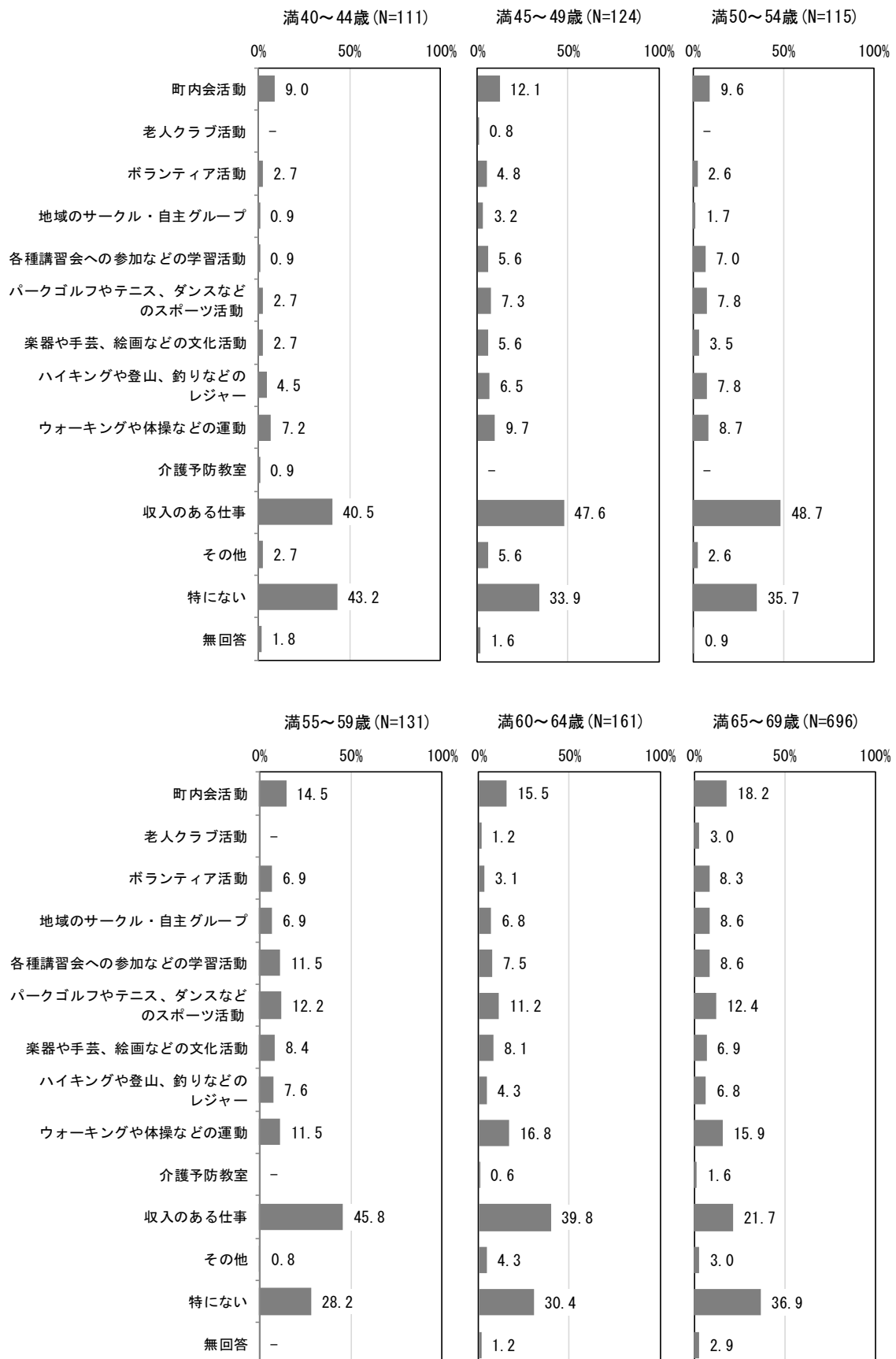
男女別にみると、64歳以下は、「収入のある仕事」とする割合が、男性は40.6%、女性は46.8%と最も高くなっており、65歳以上は、「町内会活動」とする割合が、男性は23.1%、女性は16.0%と特に高くなっている。

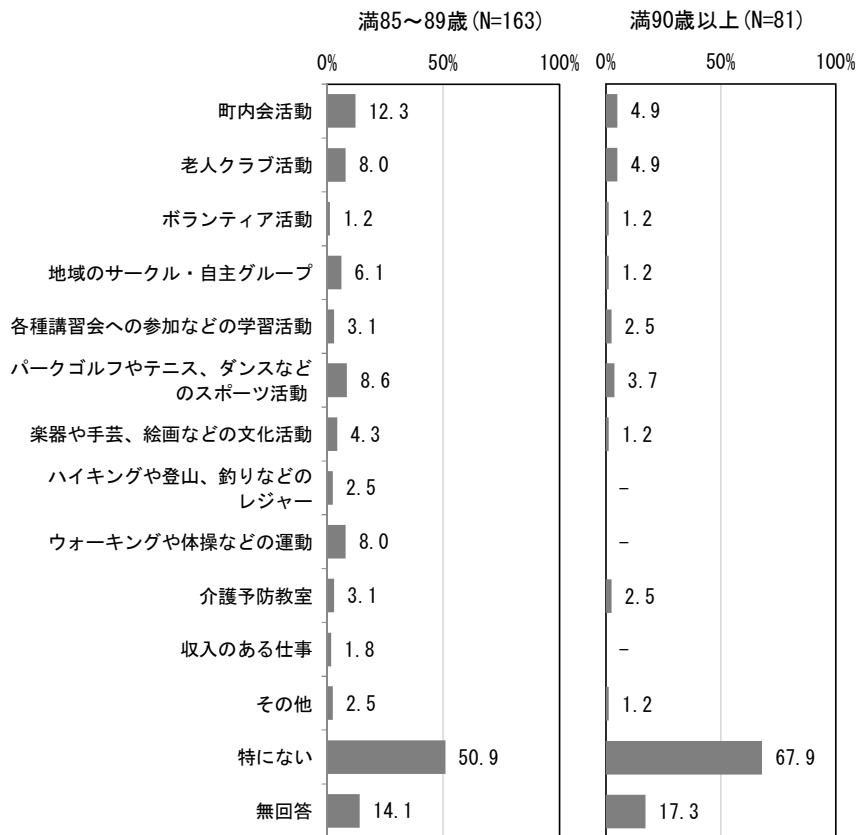
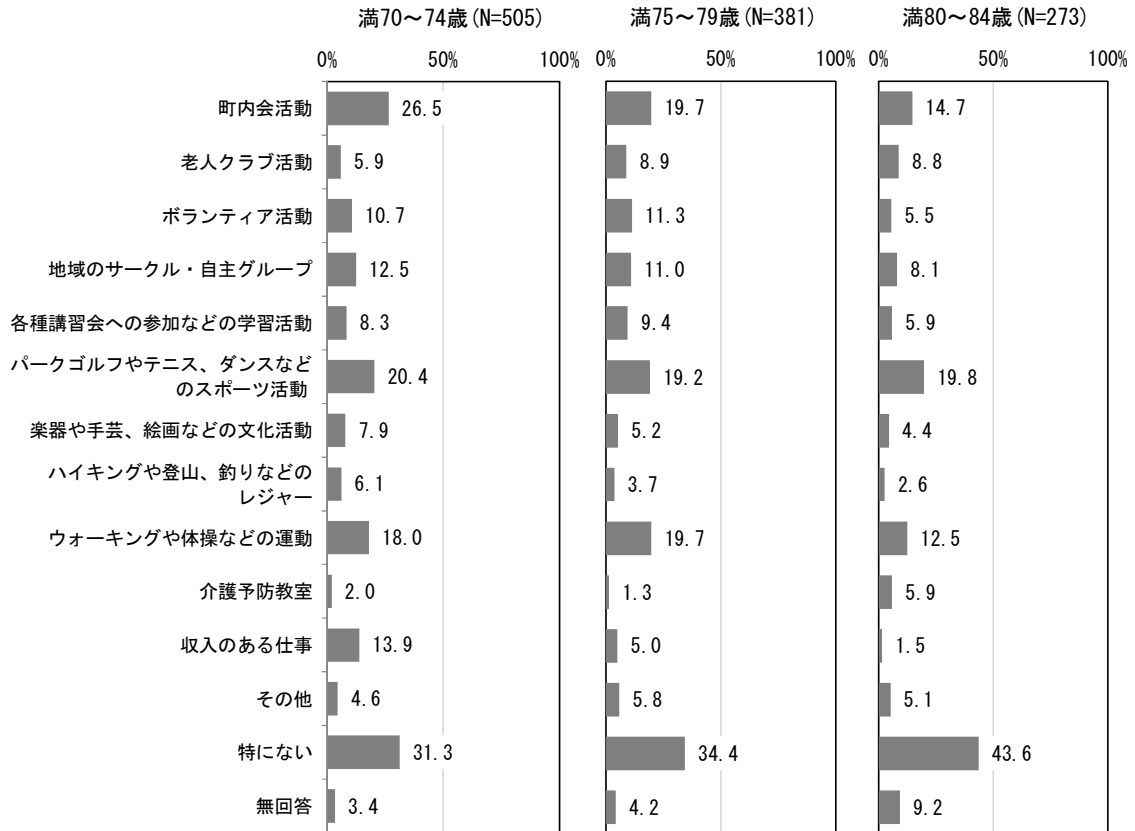
図表2-3-13 問3-5(1) 社会参加の内容 × 問1-1 性別



年齢別にみると、64歳以下及び満65～69歳は、「収入のある仕事」とする割合が高くなっている。

図表2-3-14 問3-5(1) 社会参加の内容 × 問1-2 年齢



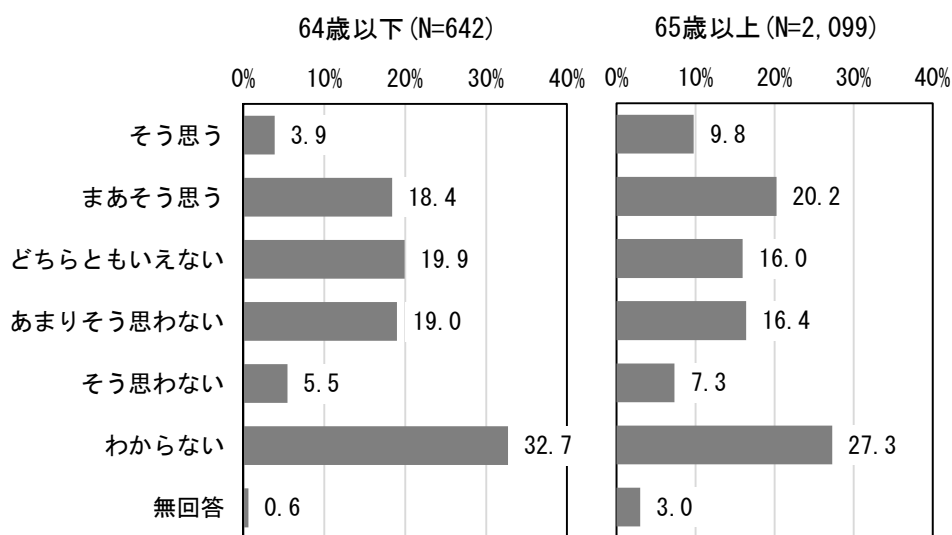


## (2) 高齢者の社会参加の機会があると思うか

札幌市では、高齢者が積極的に社会参加できる機会が十分にあると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

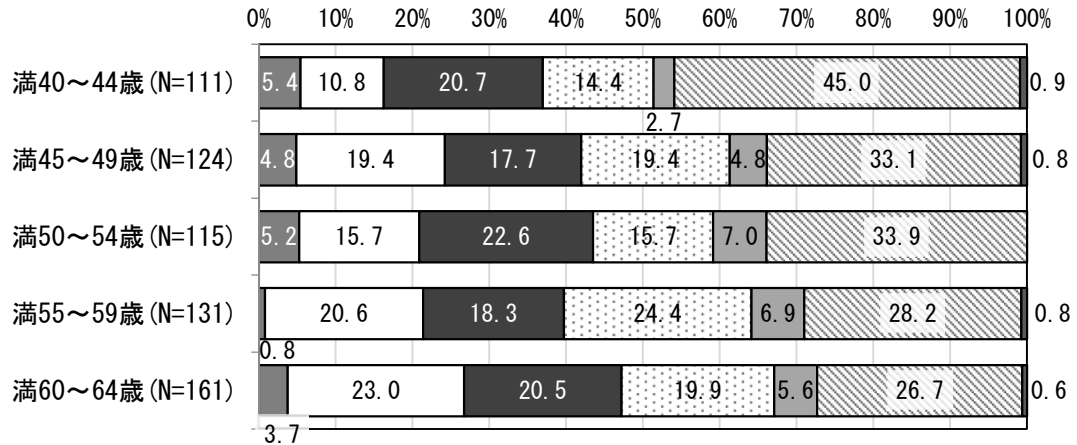
札幌市は、高齢者が積極的に社会参加できる機会が十分にあると思うかをたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は22.3%、65歳以上は30.0%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は24.5%、65歳以上は23.7%となっている。

図表2-3-15 高齢者の社会参加の機会があると思うか

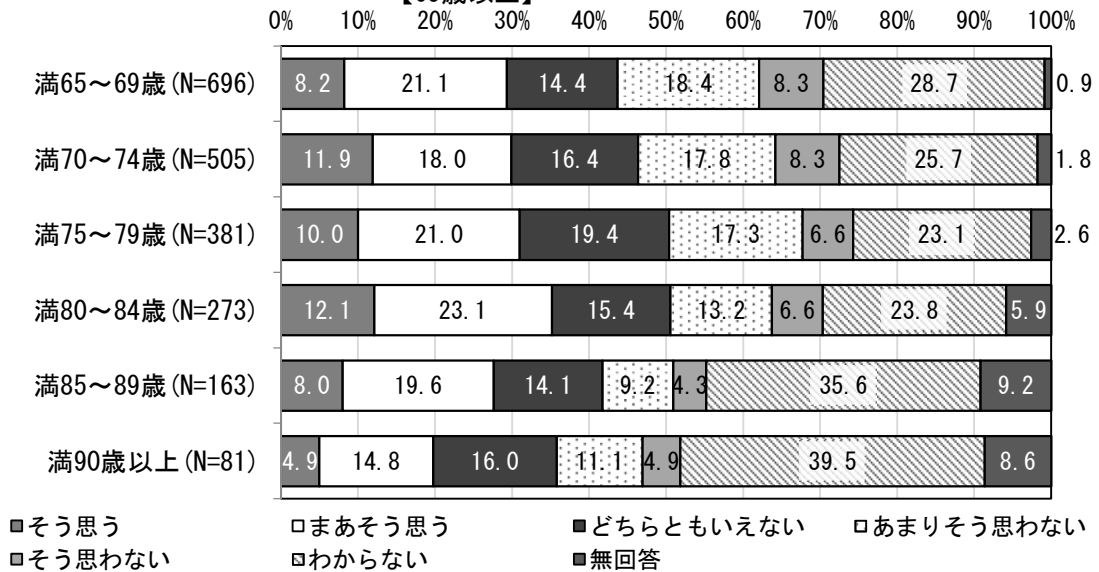


年齢別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は、満60～64歳が最も高く26.7%となっており、65歳以上は、満80～84歳が最も高く35.2%となっている。

図表2-3-16 問3-5(2) 高齢者の社会参加の機会があると思うか × 問1-2 年齢  
【64歳以下】



図表2-3-17 問3-5(2) 高齢者の社会参加の機会があると思うか × 問1-2 年齢  
【65歳以上】





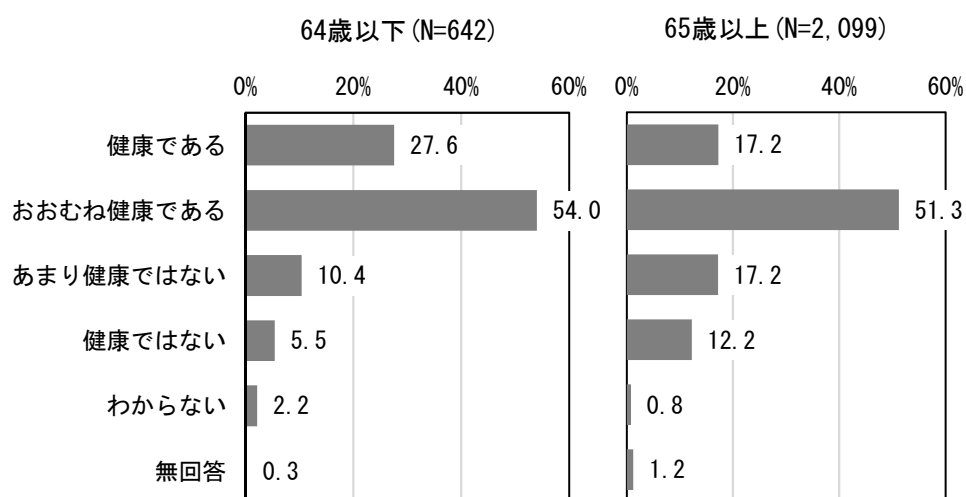
## 2. 4 心身の状況について

### 問 4-1 主観的健康感

あなたは、ご自身で健康だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

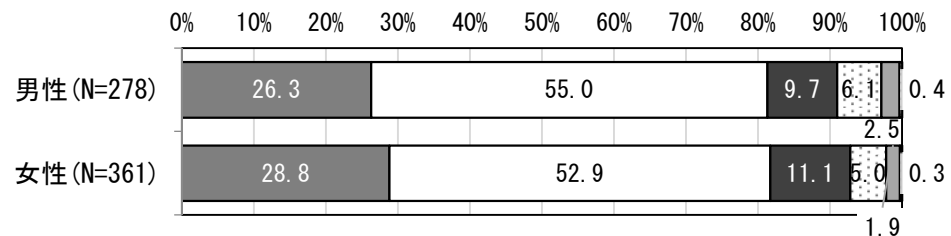
自分が健康だと思うかをたずねたところ、「健康である」「おおむね健康である」を合わせた割合が、64歳以下は81.6%、65歳以上は68.5%と、共に半数を超えている。一方、「あまり健康ではない」「健康ではない」を合わせた割合は、64歳以下は15.9%、65歳以上は29.4%となっている。

図表2-4-1 主観的健康感

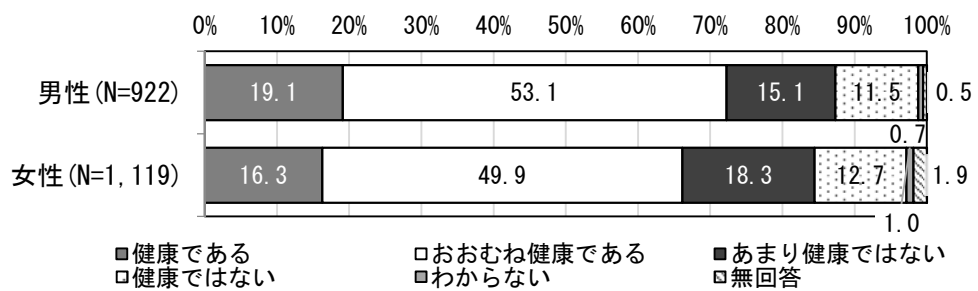


男女にみると、「健康である」「おおむね健康である」を合わせた割合は、64歳以下は、男性は81.3%、女性は81.7%となっており、65歳以上は、男性は72.2%、女性は66.2%となっている。

図表2-4-2 問4-1 主観的健康感 × 問1-1 性別 【64歳以下】

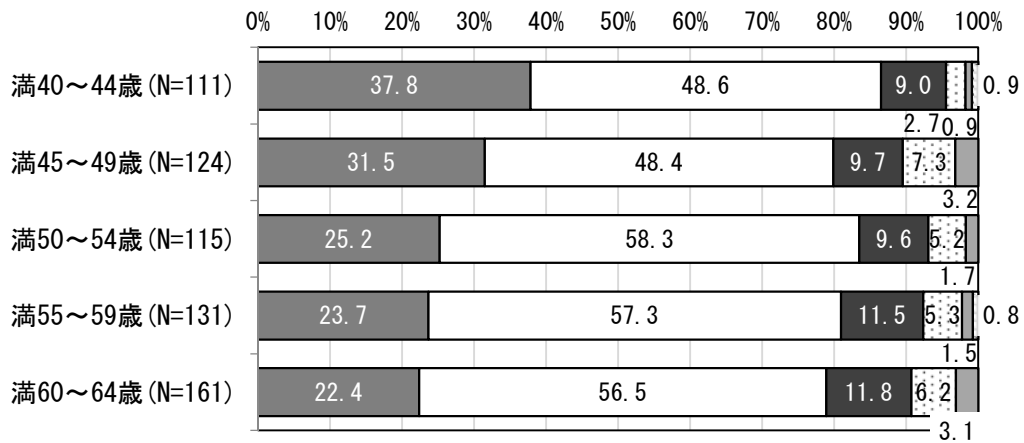


図表2-4-3 問4-1 主観的健康感 × 問1-1 性別 【65歳以上】

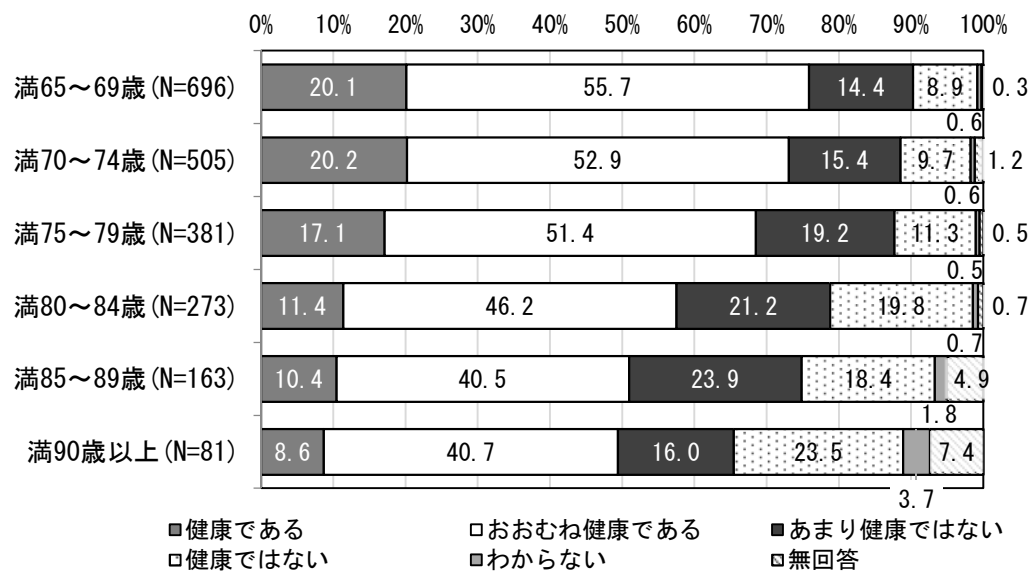


年齢別にみると、満90歳以上を除く全ての年齢で、「健康である」「おおむね健康である」を合わせた割合は50%を超えている。

図表2-4-4 問4-1 主観的健康感 × 問1-2 年齢 【64歳以下】

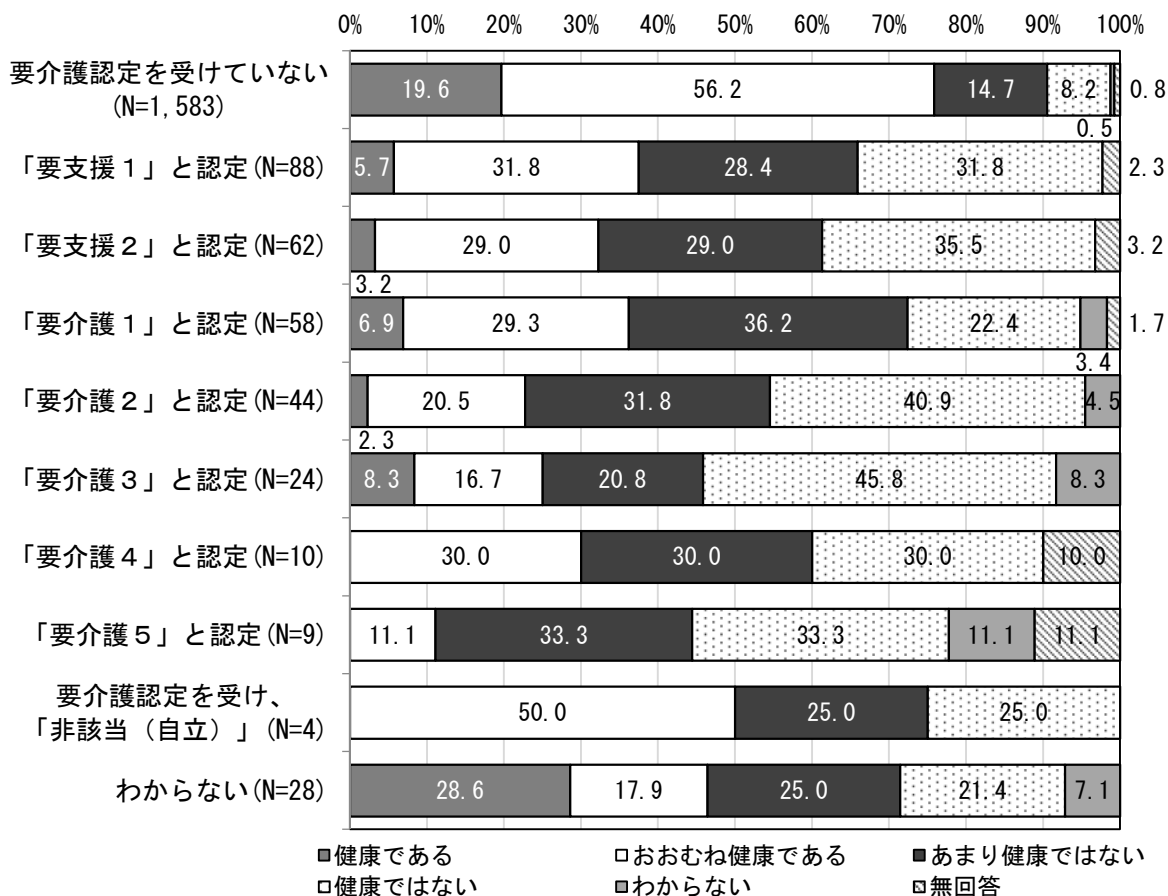


図表2-4-5 問4-1 主観的健康感 × 問1-2 年齢 【65歳以上】



65歳以上で要介護認定の状況別にみると、要介護（支援）認定を受けていると回答した人は、「あまり健康ではない」「健康ではない」を合わせた割合が高く、半数を超えている。

図表2-4-6 問4-1 主観的健康感 × 問4-10 要介護（支援）認定を受けているか  
【65歳以上】



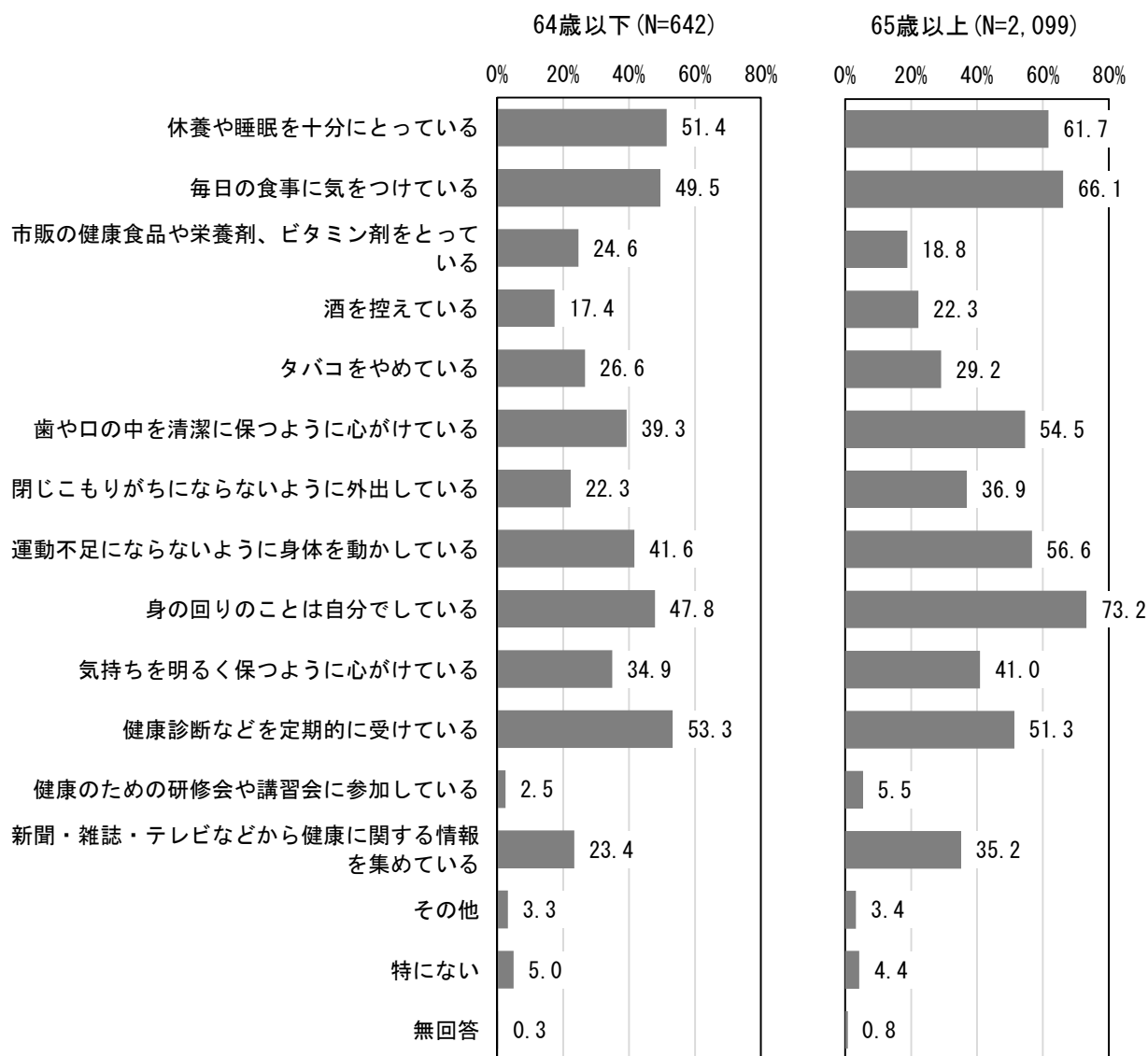
## 問4-2 健康維持のため気をつけていること

[複数回答]

現在、健康維持のために気をつけていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

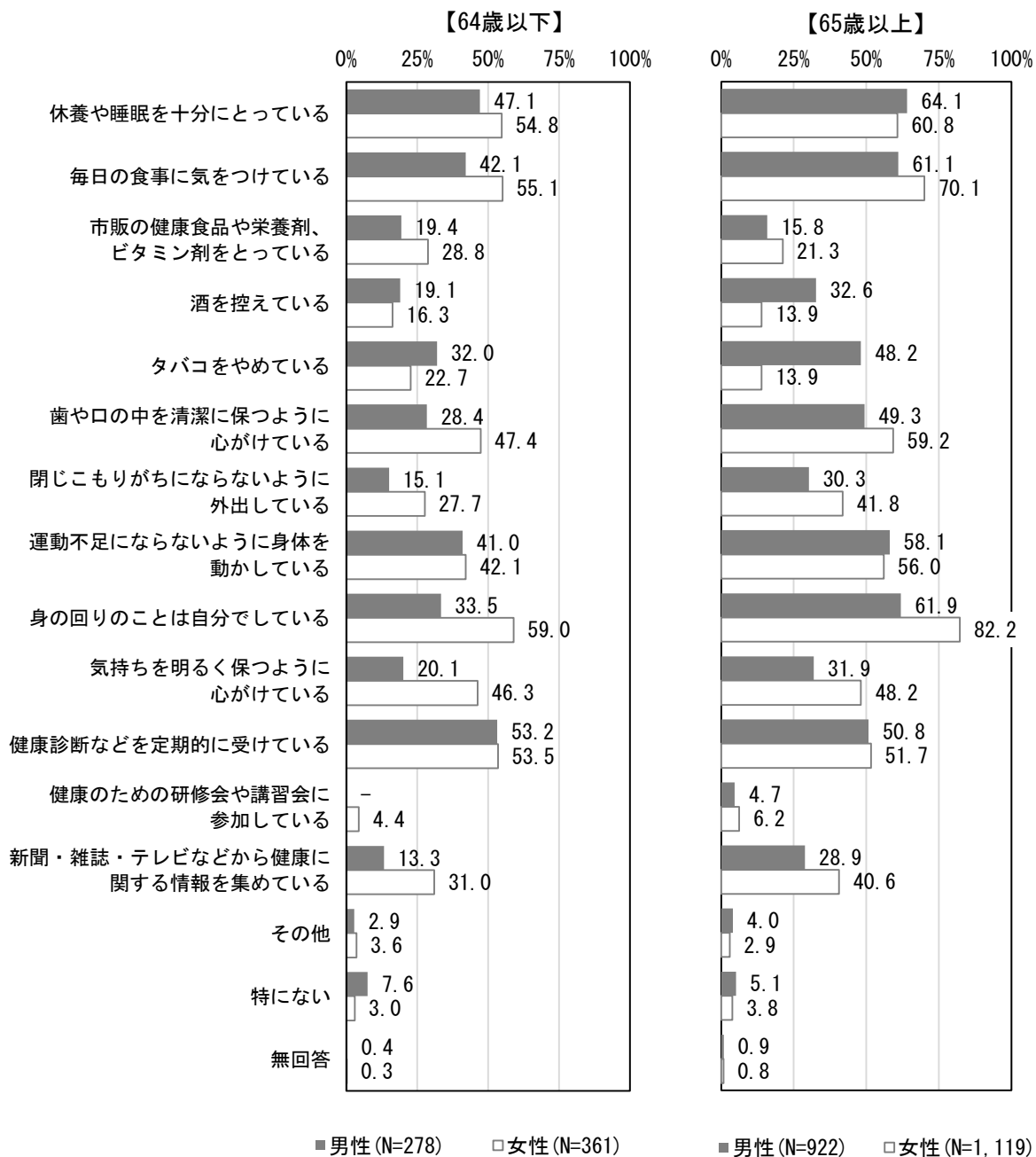
現在、健康維持のために気をつけていることをたずねたところ、64歳以下は「健康診断などを定期的を受けている」(53.3%)が最も多く、次いで、「休養や睡眠を十分にとっている」(51.4%)、「毎日の食事に気をつけている」(49.5%)となっており、65歳以上は「身の回りのことは自分でしている」(73.2%)が最も多く、次いで、「毎日の食事に気をつけている」(66.1%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(61.7%)となっている。

図表2-4-7 健康維持のため気をつけていること



男女別にみると、64歳以下は、男性は「健康診断などを定期的に受けている」(53.2%)が最も高く、女性は「身の回りのことは自分でしている」(59.0%)、が最も高くなっている。65歳以上は、男性は「休養や睡眠を十分にとっている」(64.1%)が最も高く、女性は「身の回りのことは自分でしている」(82.2%)が最も高くなっている。

図表2-4-8 問4-2 健康維持のため気をつけていること × 問1-1 性別



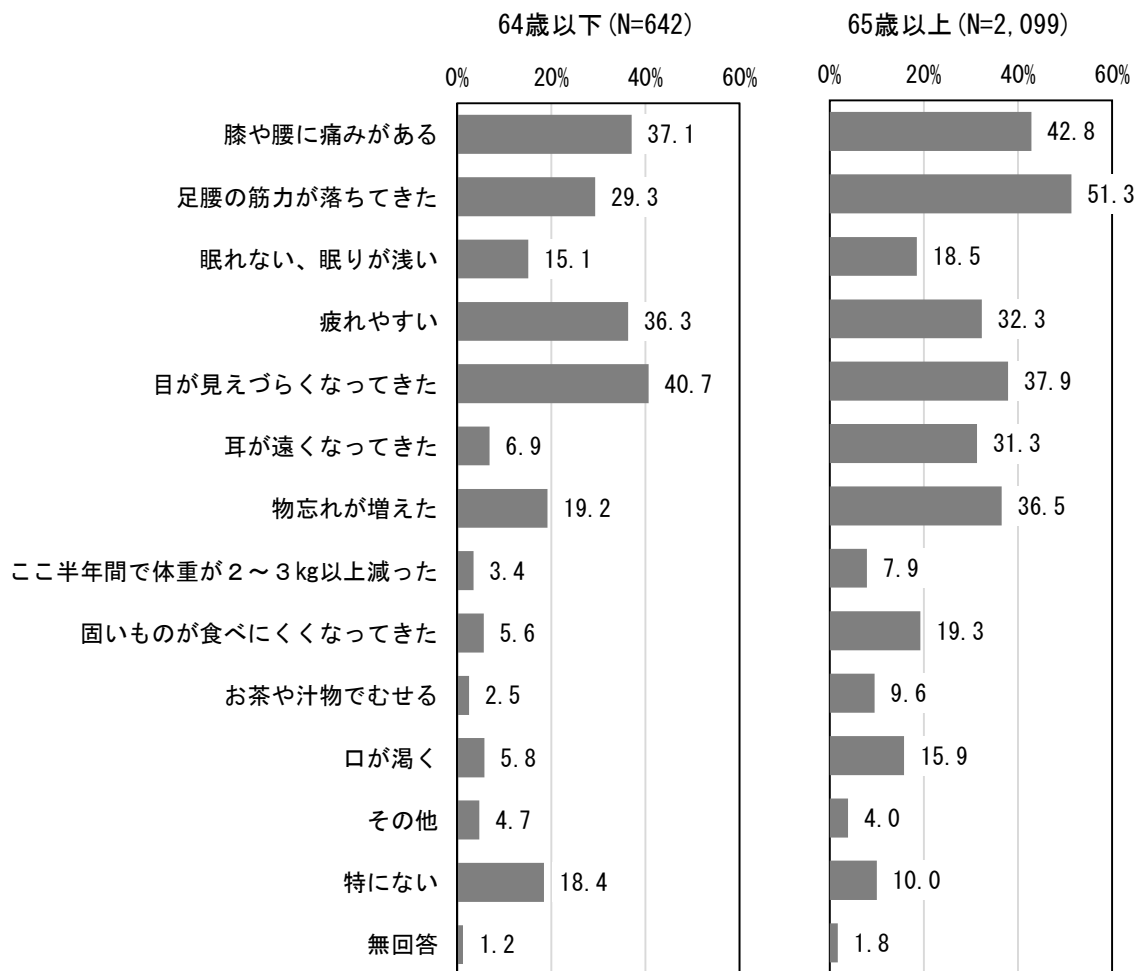
問4-3 最近の健康状態で気になっていること

[複数回答]

最近、ご自身の健康状態について気になっていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

最近の自身の健康状態について気になっていることをたずねたところ、64歳以下は「目が見えづらくなってきた」(40.7%)が最も多く、次いで、「膝や腰に痛みがある」(37.1%)、「疲れやすい」(36.3%)となっており、65歳以上は「足腰の筋力が落ちてきた」(51.3%)が最も多く、次いで、「膝や腰に痛みがある」(42.8%)、「目が見えづらくなってきた」(37.9%)となっている。

図表2-4-9 最近の健康状態で気になっていること



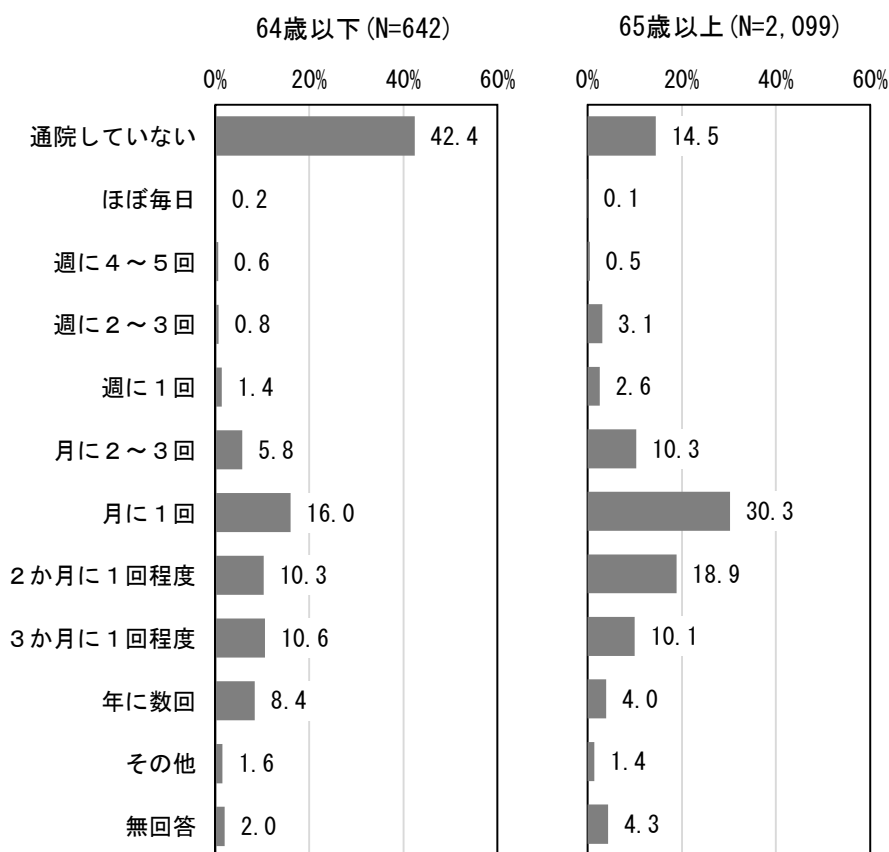
## 問4-4 通院の状況について

### (1) 通院頻度

あなたは現在、通院していますか。通院回数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

通院回数についてたずねたところ、64歳以下は「通院していない」(42.4%)が最も多く、次いで、「月に1回」(16.0%)、「3か月に1回程度」(10.6%)となっており、65歳以上は「月に1回」(30.3%)が最も多く、次いで、「2か月に1回程度」(18.9%)、「通院していない」(14.5%)となっている。

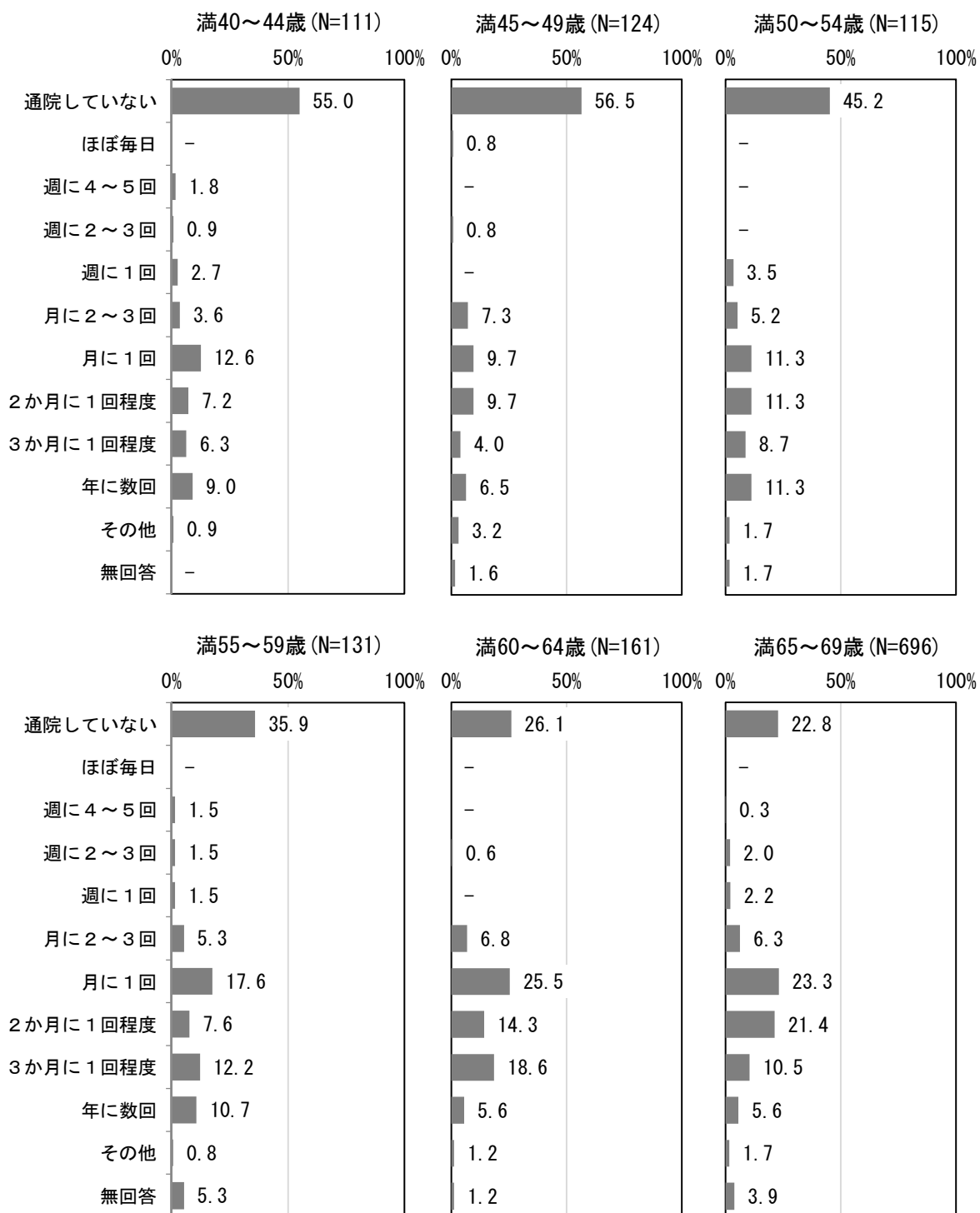
図表2-4-10 通院頻度

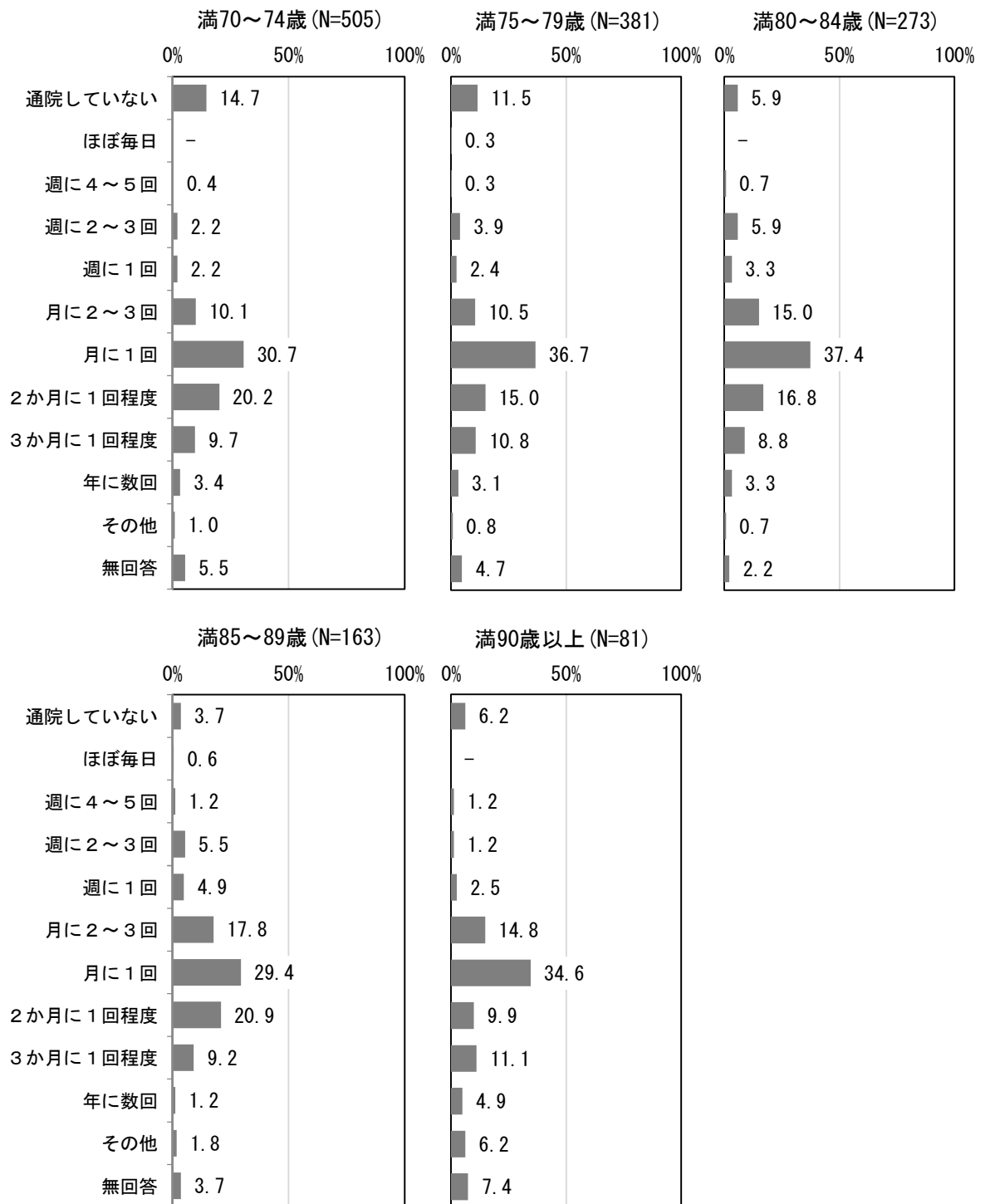




年齢別にみると、64歳以下は、「通院していない」とする割合が最も高くなっており、65歳以上は、「月に1回」とする割合が最も高くなっている。

図表 2-4-11 問 4-4(1) 通院頻度 × 問 1-2 年齢





65 歳以上で要介護（支援）認定の状況別にみると、全般的に「月に 1 回」とする割合が高く、大きな差は見られない。

図表 2-4-12 問 4-4(1) 通院頻度 × 問 4-10 要介護（支援）認定を受けているか 【65 歳以上】

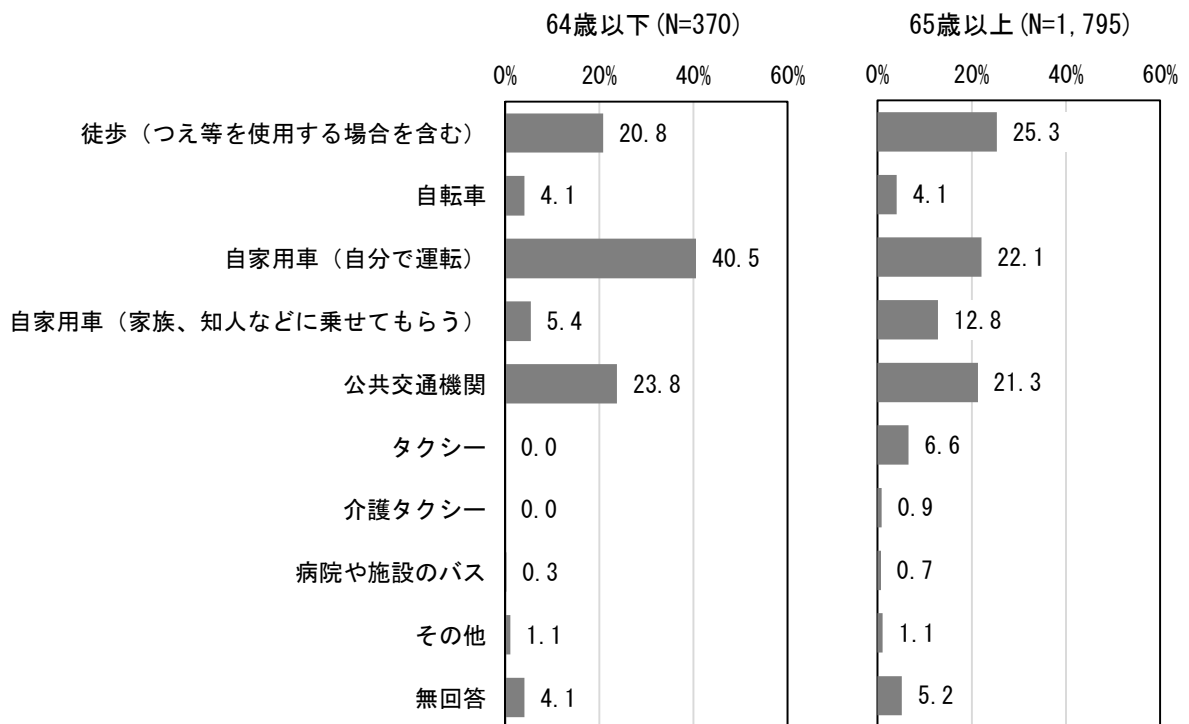
	要介護認定を受けていない (N=1,583)	「要支援 1」と認定 (N=88)	「要支援 2」と認定 (N=62)	「要介護 1」と認定 (N=58)	「要介護 2」と認定 (N=44)	「要介護 3」と認定 (N=24)	「要介護 4」と認定 (N=10)	「要介護 5」と認定 (N=9)	要介護認定を受け、「非該当（自立）」 (N=4)	わからない(N=28)	(%)
通院していない	17.2	3.4	3.2	6.9	6.8	-	10.0	11.1	-	-	7.1
ほぼ毎日	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.6
週に 4～5 回	0.3	-	3.2	-	2.3	8.3	-	-	-	-	-
週に 2～3 回	2.8	4.5	6.5	3.4	4.5	-	-	-	-	-	10.7
週に 1 回	2.1	-	8.1	8.6	4.5	8.3	-	-	25.0	-	3.6
月に 2～3 回	8.9	26.1	19.4	12.1	18.2	12.5	10.0	22.2	25.0	-	14.3
月に 1 回	29.4	36.4	32.3	41.4	27.3	37.5	60.0	11.1	25.0	-	32.1
2 か月に 1 回程度	19.8	14.8	19.4	10.3	22.7	12.5	-	-	25.0	-	14.3
3 か月に 1 回程度	10.5	8.0	3.2	10.3	6.8	8.3	-	11.1	-	-	3.6
年に数回	4.2	1.1	-	5.2	-	12.5	-	-	-	-	7.1
その他	0.9	4.5	3.2	1.7	4.5	-	-	33.3	-	-	-
無回答	3.7	1.1	1.6	-	2.3	-	20.0	11.1	-	-	3.6

## (2) 通院の移動手段

日ごろ、通院する際の主な移動手段は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

問4-4(1)で「通院している」と回答した方に、日ごろ、通院する際の主な移動手段をたずねたところ、64歳以下は「自家用車（自分で運転）」(40.5%)が最も多く、次いで、「公共交通機関」(23.8%)、「徒歩（つえ等を使用する場合を含む）」(20.8%)となっており、65歳以上は、「徒歩（つえ等を使用する場合を含む）」(25.3%)が最も多く、次いで、「自家用車（自分で運転）」(22.1%)、「公共交通機関」(21.3%)となっている。

図表2-4-13 通院の移動手段

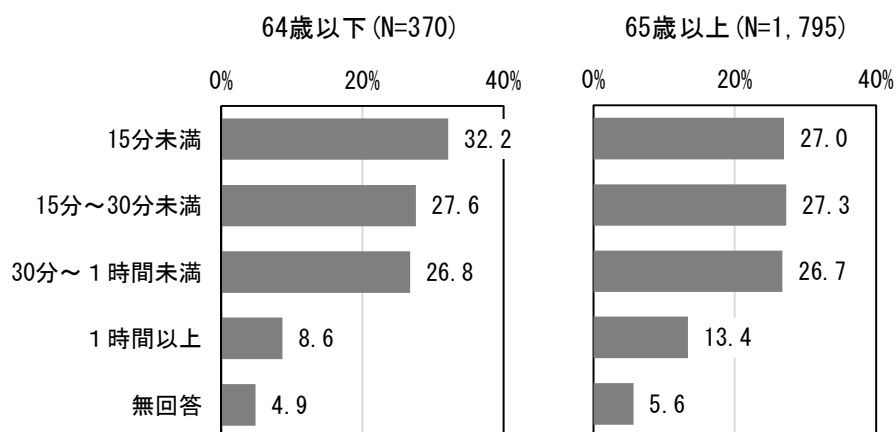


### (3) 通院時間

日ごろ、通院に要する時間はおおむねどれくらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

問4-4(1)で「通院している」と回答した方に、日ごろ、通院に要する時間はどれくらいかをたずねたところ、64歳以下は「15分未満」(32.2%)が最も多く、次いで、「15分～30分未満」(27.6%)、「30分～1時間未満」(26.8%)となっており、65歳以上は、「15分～30分未満」(27.3%)が最も多く、次いで、「15分未満」(27.0%)、「30分～1時間未満」(26.7%)となっている。

図表2-4-14 通院時間

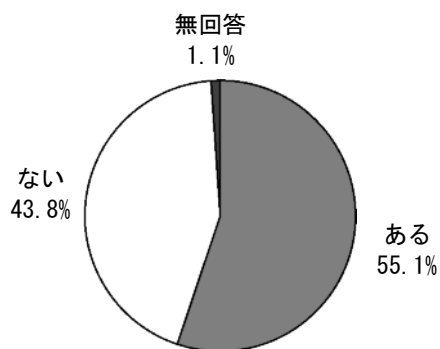


#### 問4-5 かかりつけ医の有無

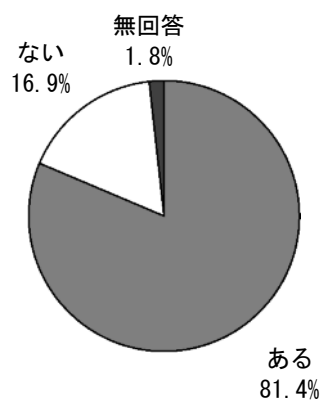
すべての方にお聞きします。かかりつけ医はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

かかりつけ医についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「ある」が半数を超えており、64歳以下は55.1%、65歳以上は81.4%となっている。一方、「ない」は、64歳以下は43.8%、65歳以上は16.9%となっている。

図表2-4-15 かかりつけ医の有無【64歳以下】  
(N=642)

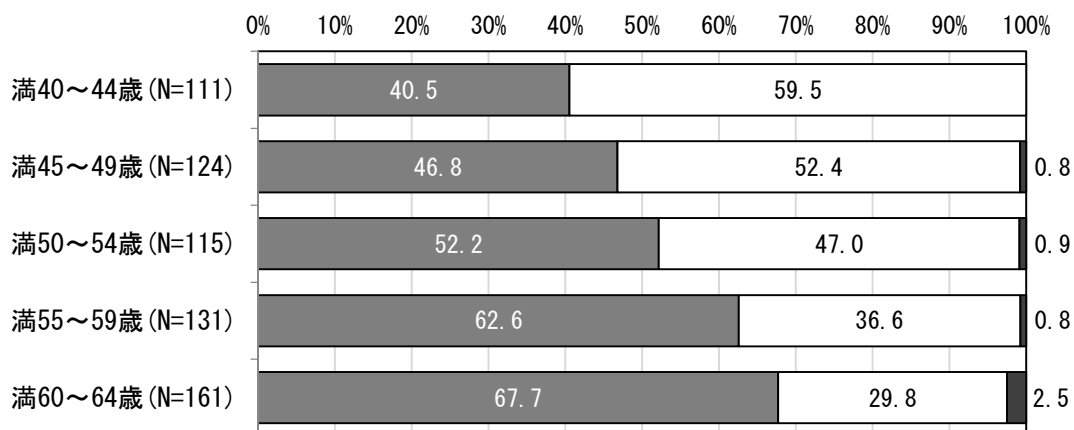


図表2-4-16 かかりつけ医の有無【65歳以上】  
(N=2,099)

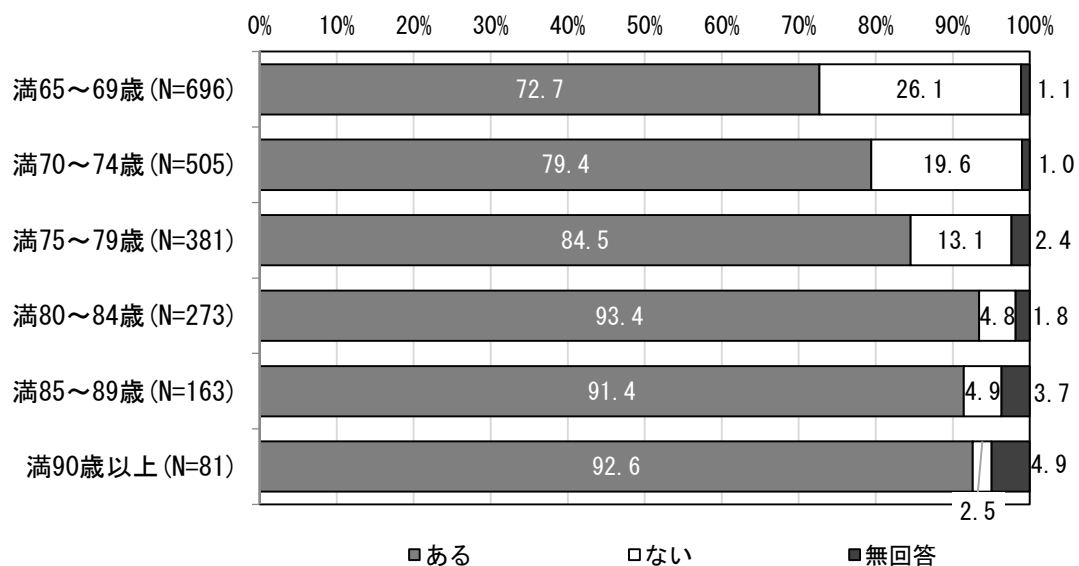


年齢別にみると、年齢層が高いほど「ある」とする割合が高い傾向にあり、64歳以下は、満60～64歳が最も高く、67.7%となっており、65歳以上は、満90歳以上が最も高く、92.6%となっている。

図表2-4-17 問4-5 かかりつけ医の有無 × 問1-2 年齢【64歳以下】



図表2-4-18 問4-5 かかりつけ医の有無 × 問1-2 年齢【65歳以上】

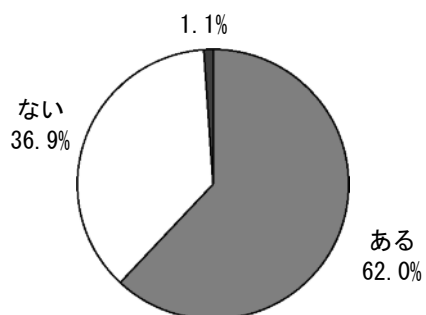


#### 問4-6 かかりつけ歯科医の有無

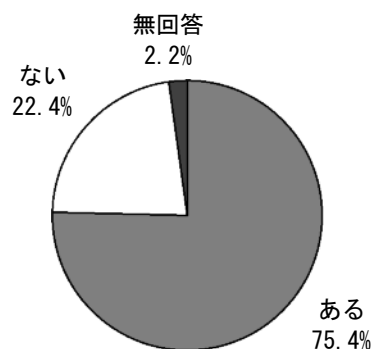
かかりつけ歯科医はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

かかりつけ歯科医についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「ある」が半数を超えており、64歳以下は62.0%、65歳以上は75.4%となっている。一方、「ない」は、64歳以下は36.9%、65歳以上は22.4%となっている。

図表2-4-19 かかりつけ歯科医の有無  
【64歳以下】(N=642)



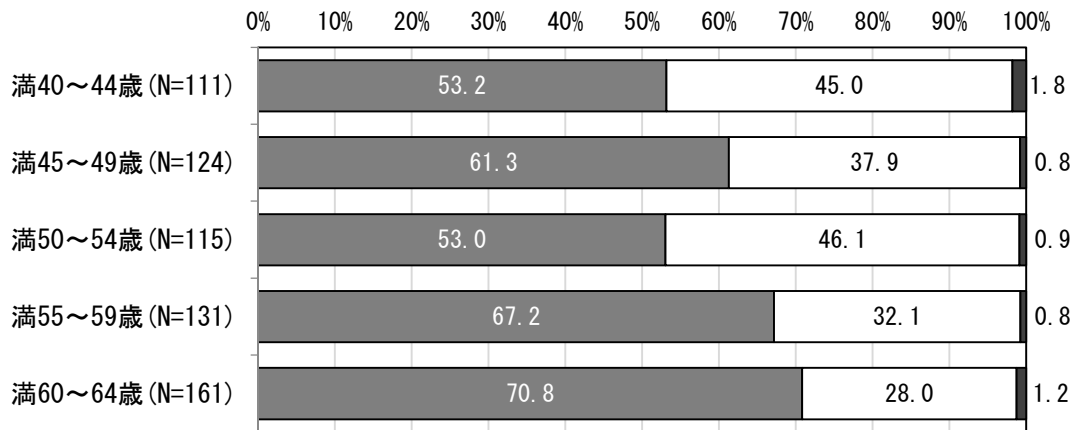
図表2-4-20 かかりつけ歯科医の有無  
【65歳以上】(N=2,099)



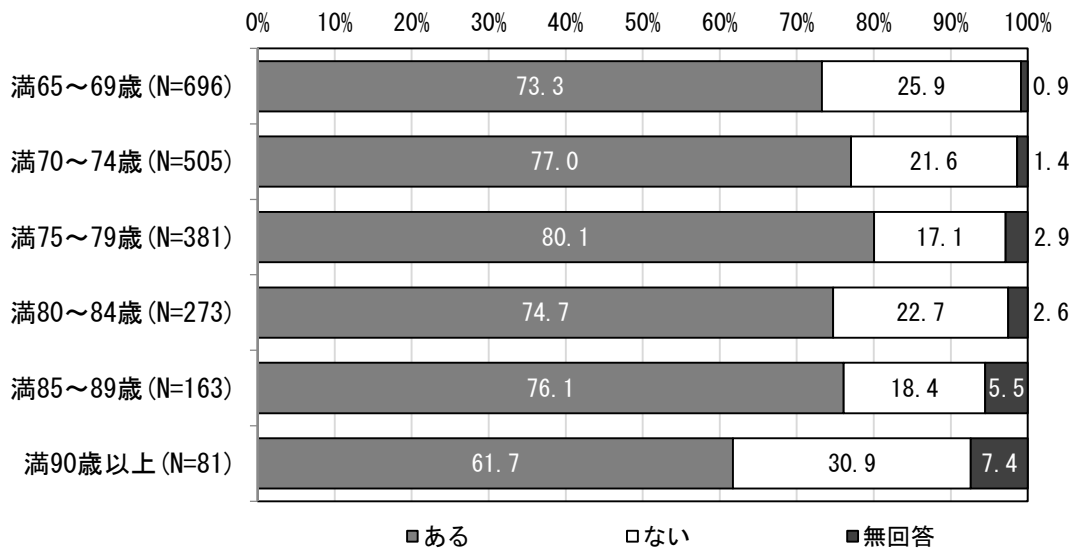


年齢別にみると、「ある」の割合は、64歳以下は、満60～64歳が最も高く、70.8%となっており、65歳以上は、満75～79歳が最も高く、80.1%となっている。

図表2-4-21 問4-6 かかりつけ歯科医の有無 × 問1-2 年齢 【64歳以下】



図表2-4-22 問4-6 かかりつけ歯科医の有無 × 問1-2 年齢 【65歳以上】

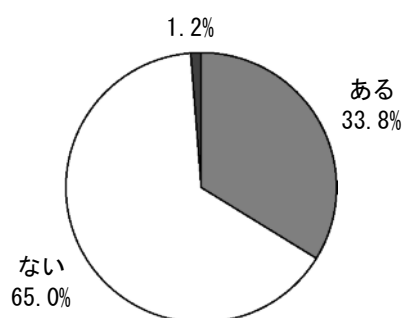


#### 問4-7 かかりつけ薬局の有無

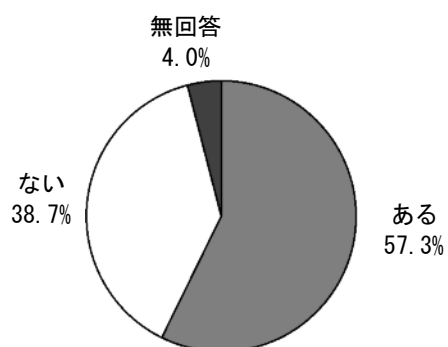
かかりつけ薬局はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

かかりつけ薬局についてたずねたところ、64歳以下は「ある」が33.8%、「ない」が65.0%となっており、65歳以上は「ある」が57.3%、「ない」が38.7%となっている。

図表2-4-23 かかりつけ薬局の有無  
【64歳以下】(N=642)

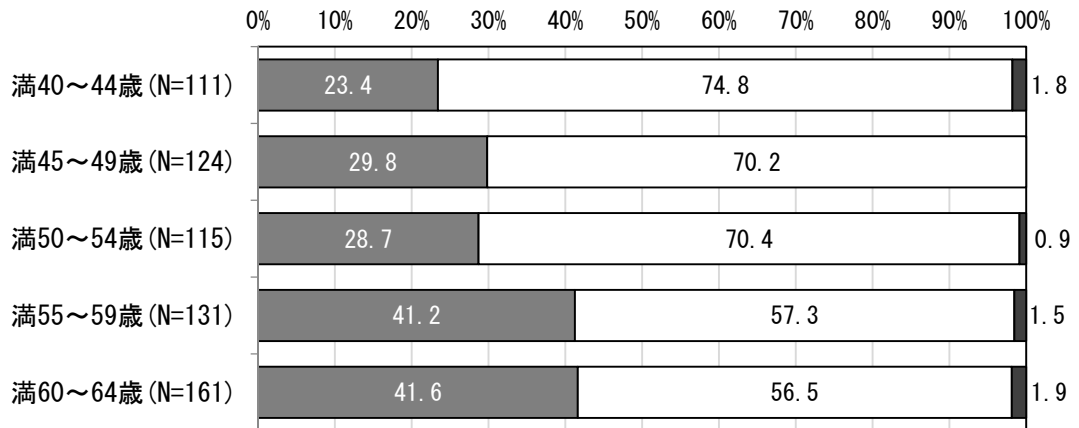


図表2-4-24 かかりつけ薬局の有無  
【65歳以上】(N=2,099)

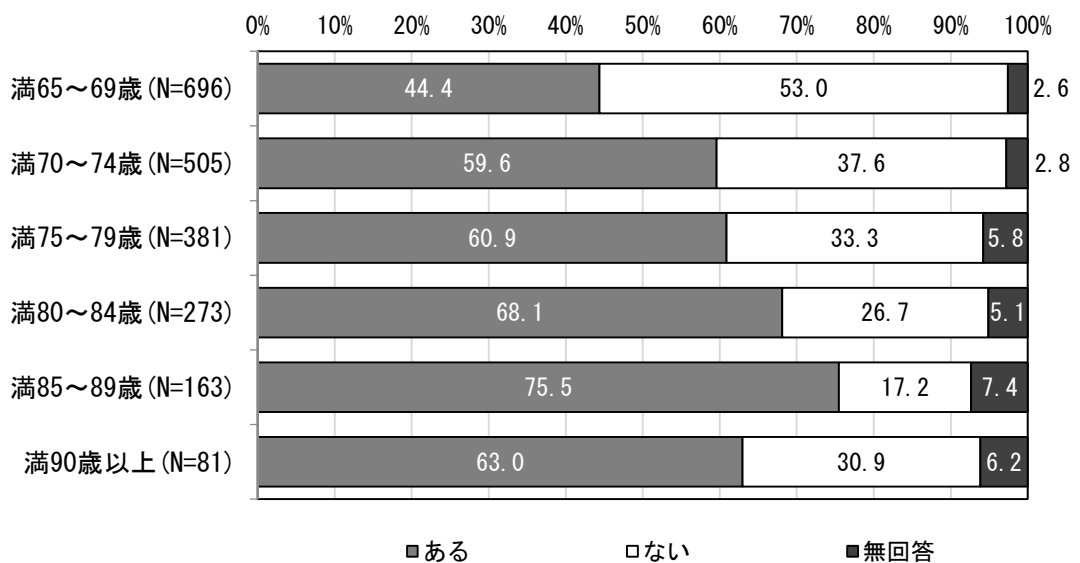


年齢別にみると、「ある」の割合は、64歳以下は、満60～64歳が最も高く、41.6%となっており、65歳以上は、満85～89歳が最も高く、75.5%となっている。

図表2-4-25 問4-7 かかりつけ薬局の有無 × 問1-2 年齢【64歳以下】



図表2-4-26 問4-7 かかりつけ薬局の有無 × 問1-2 年齢【65歳以上】



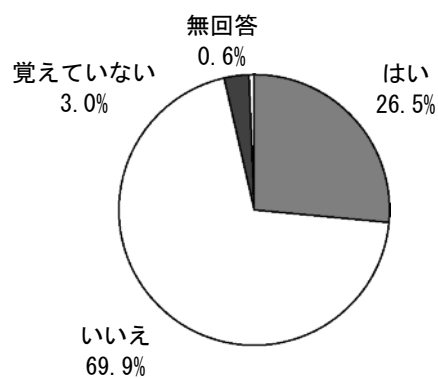
## 問4-8 転倒経験について

### (1) 転倒経験の有無

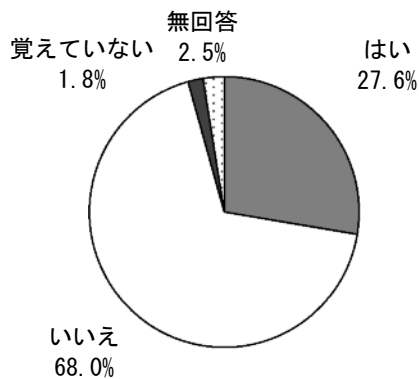
この1年間に転んだことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

この1年間に転んだことがあるかをたずねたところ、64歳以下は「はい」が26.5%、「いいえ」が69.9%となっており、65歳以上は「はい」が27.6%、「いいえ」が68.0%となっている。

図表2-4-27 転倒経験の有無【64歳以下】  
(N=642)

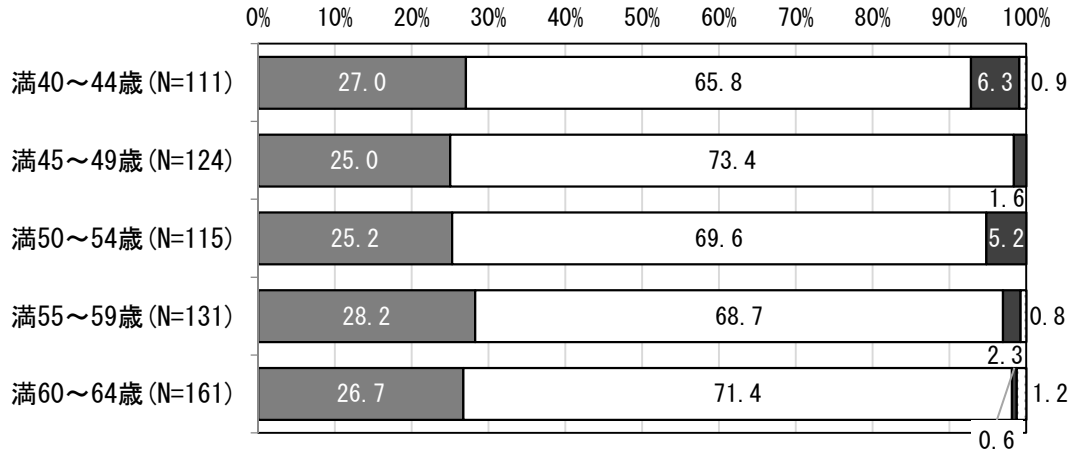


図表2-4-28 転倒経験の有無【65歳以上】  
(N=2,099)

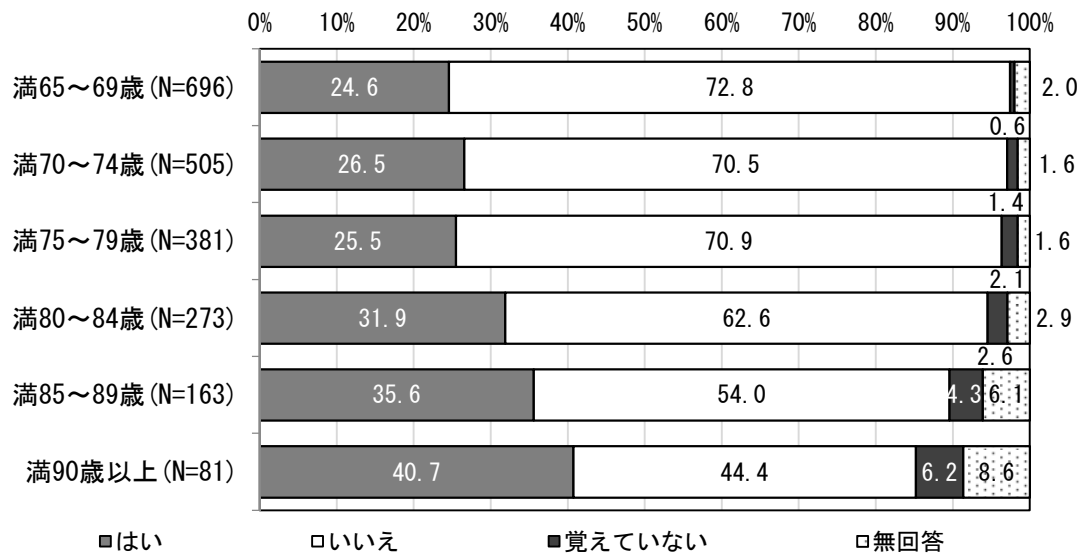


年齢別にみると、満 80 歳以上で「はい」とする割合が 30%を超え、満 90 歳以上は 40.7%となっている。

図表2-4-29 問4-8 転倒経験の有無 × 問1-2 年齢 【64歳以下】



図表2-4-30 問4-8 転倒経験の有無 × 問1-2 年齢 【65歳以上】



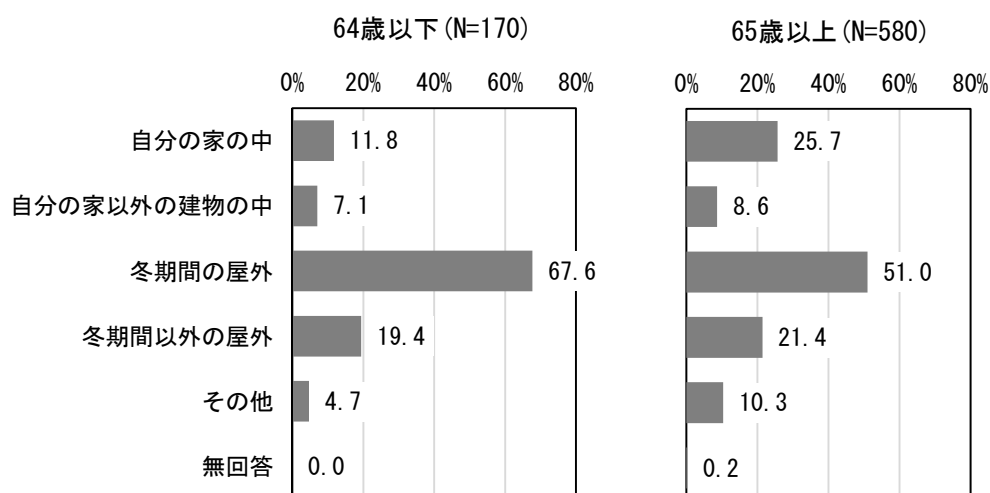
## (2) 転倒場所

【複数回答】

「1. はい」と回答した方にうかがいます。  
転んだ場所はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

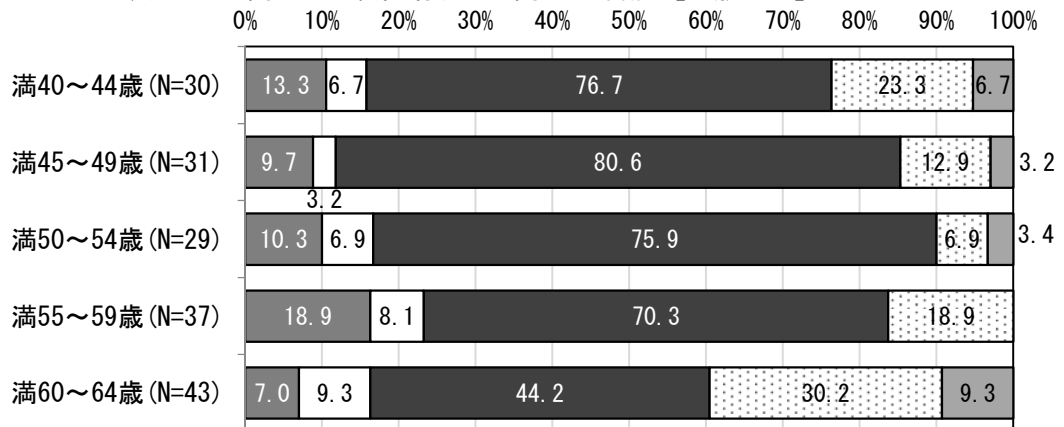
問4-8で「1. はい」と回答した方に、転倒場所についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「冬期間の屋外」が最も多く、64歳以下は67.6%、65歳以上は51.0%となっている。次いで、64歳以下は「冬期間以外の屋外」(19.4%)、「自分の家の中」(11.8%)となっており、65歳以上は、「自分の家の中」(25.7%)、「冬期間以外の屋外」(21.4%)となっている。

図表2-4-31 転倒場所

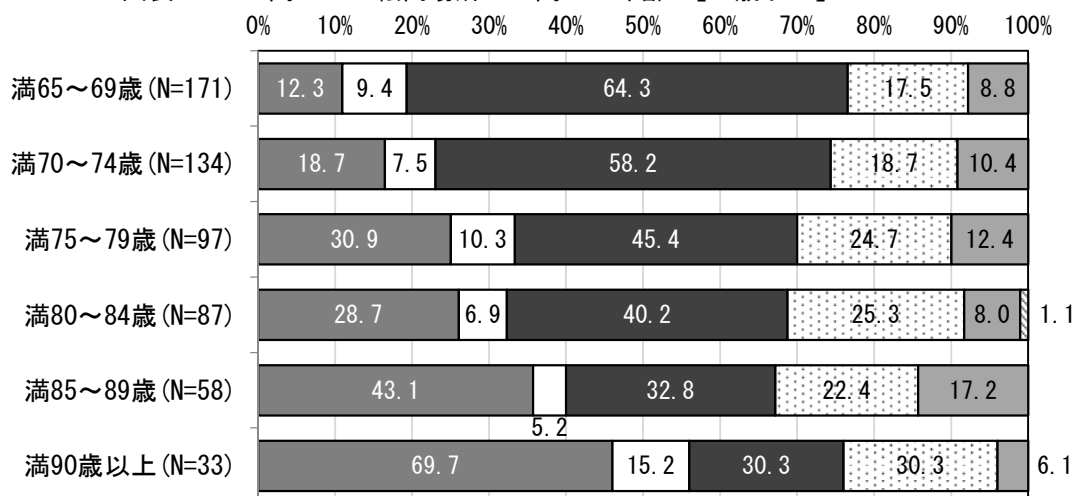


年齢別にみると、64歳以下は、「冬期間の屋外」とする割合は、満45～49歳が最も高く、80.6%となっており、65歳以上は、年齢層が高くなるにつれ「冬期間の屋外」とする割合が低くなり、「自分の家の中」とする割合が高くなっている。

図表2-4-32 問4-8-1 転倒場所 × 問1-2 年齢 【64歳以下】



図表2-4-33 問4-8-1 転倒場所 × 問1-2 年齢 【65歳以上】



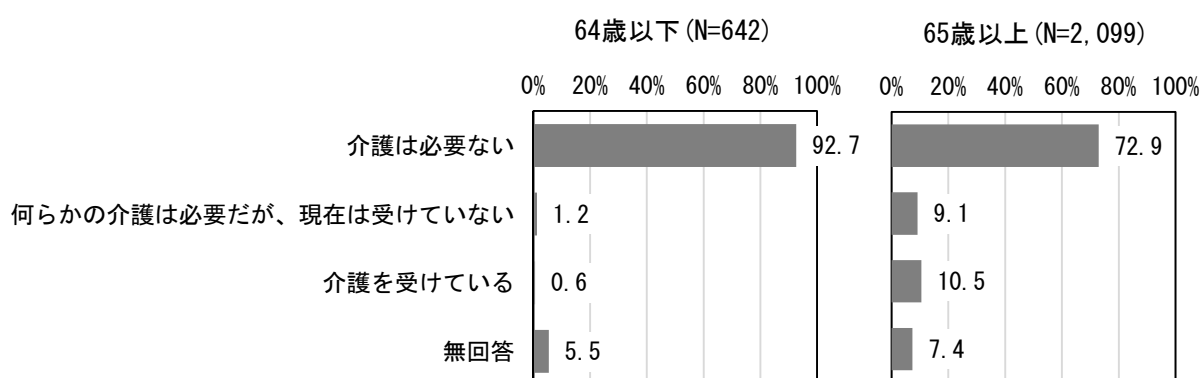
■自分の家の中 □自分の家以外の建物の中 ■冬期間の屋外 □冬期間以外の屋外 □その他 □無回答

#### 問4-9 介護を受けているか

現在、介護を受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

現在、介護を受けているかについてたずねたところ、「介護を受けている」は、64歳以下は0.6%、65歳以上は10.5%となっている。一方、「介護は必要ない」は、64歳以下は92.7%、65歳以上は72.9%と、共に半数を超えている。

図表2-4-34 介護を受けているか

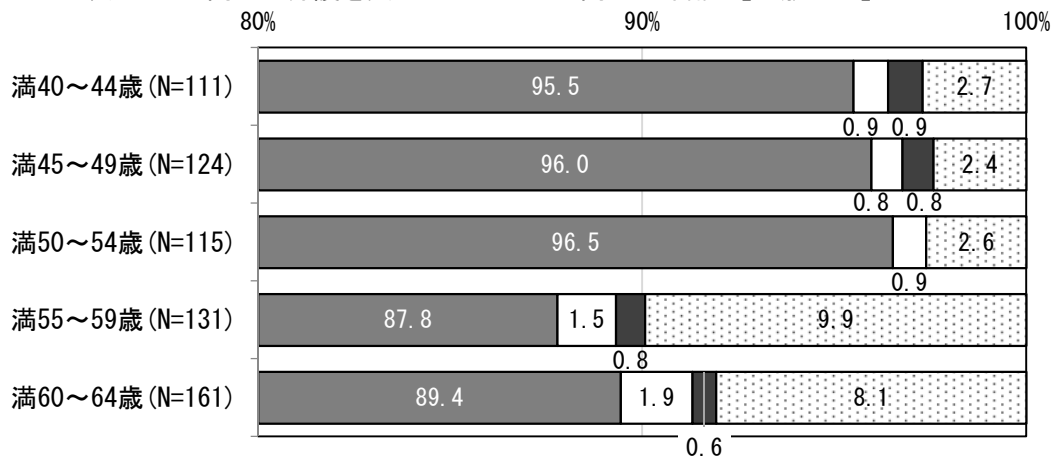


※ ここでの「介護」とは、介護保険のサービスを受けている場合のほか、介護保険の要介護（支援）認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助を受けている状態を言います。

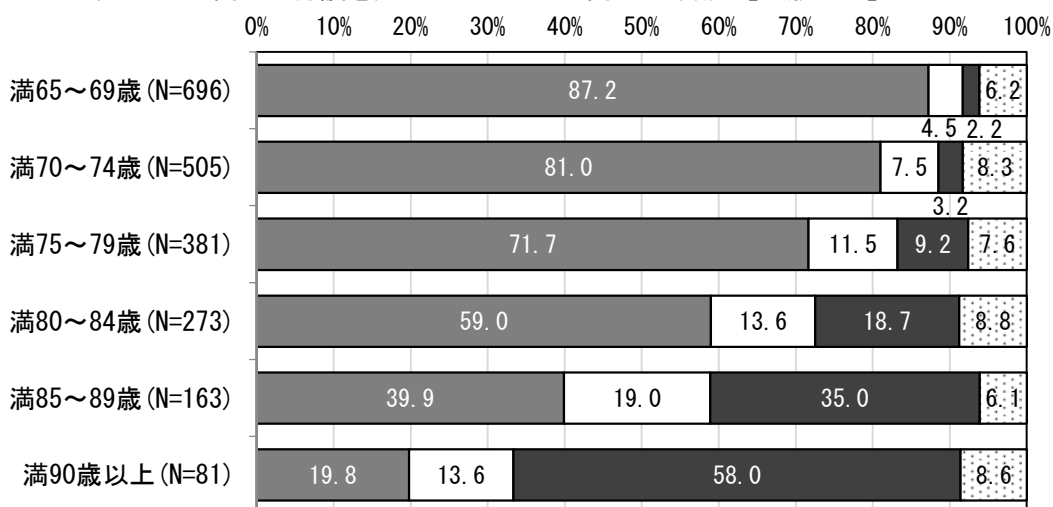


年齢別にみると、64歳以下は、「介護を受けている」とする割合は1割を大きく下回っているが、65歳以上は、年齢層が高くなるにつれその割合は高くなり、満90歳以上は58.0%となっている。

図表2-4-35 問4-9 介護を受けているか × 問1-2 年齢【64歳以下】



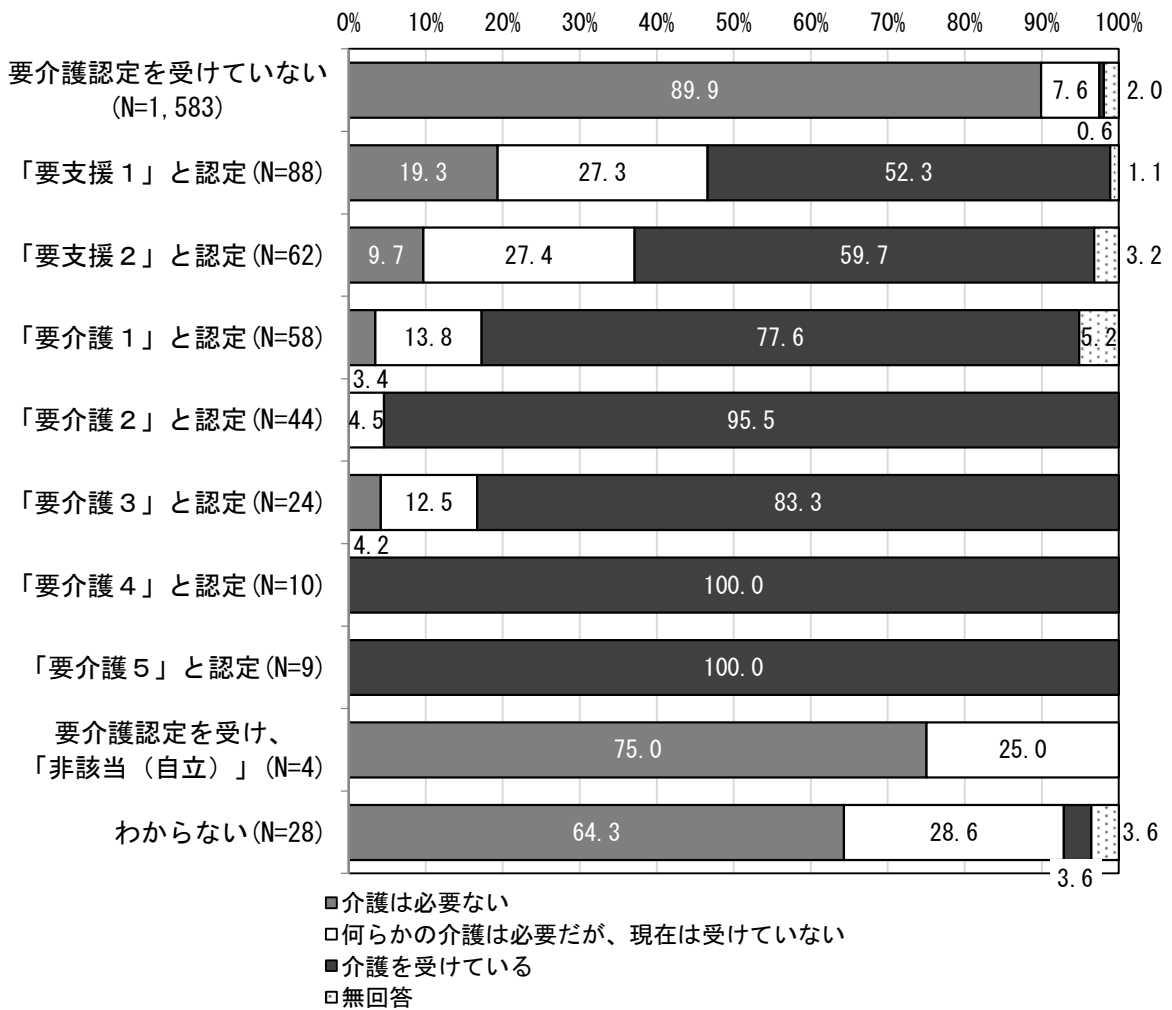
図表2-4-36 問4-9 介護を受けているか × 問1-2 年齢【65歳以上】



■介護を受けている □無回答 □何らかの介護は必要だが、現在は受けていない □介護は必要ない

65 歳以上で要介護認定の状況別に「介護を受けている」とする割合をみると、要支援 1 は 52.3%、要支援 2 は 59.7%であるが、要介護 1～5 になると 77.6%～100.0% となっている。

図表2-4-37 問4-9 介護を受けているか × 問4-10 要介護（支援）認定を受けているか  
【65歳以上】

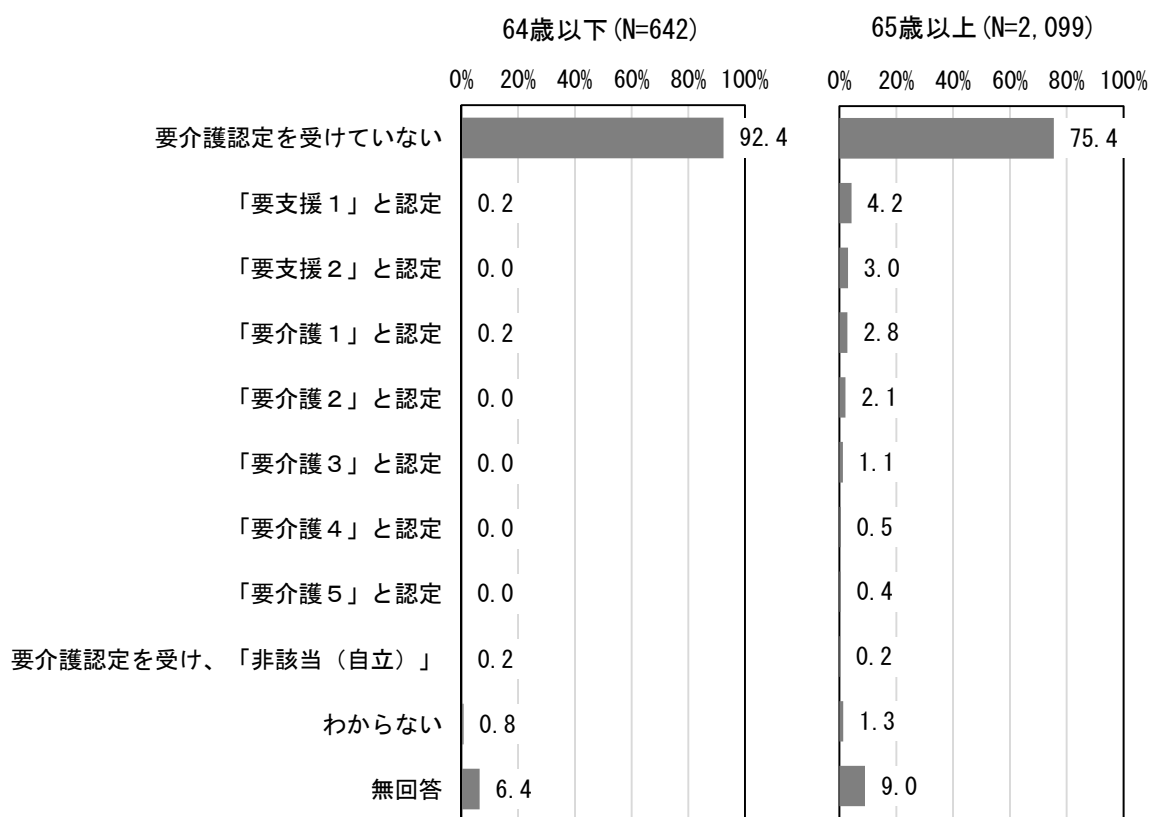


#### 問4-10 要介護（支援）認定を受けているか

介護保険の要介護（支援）認定は受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

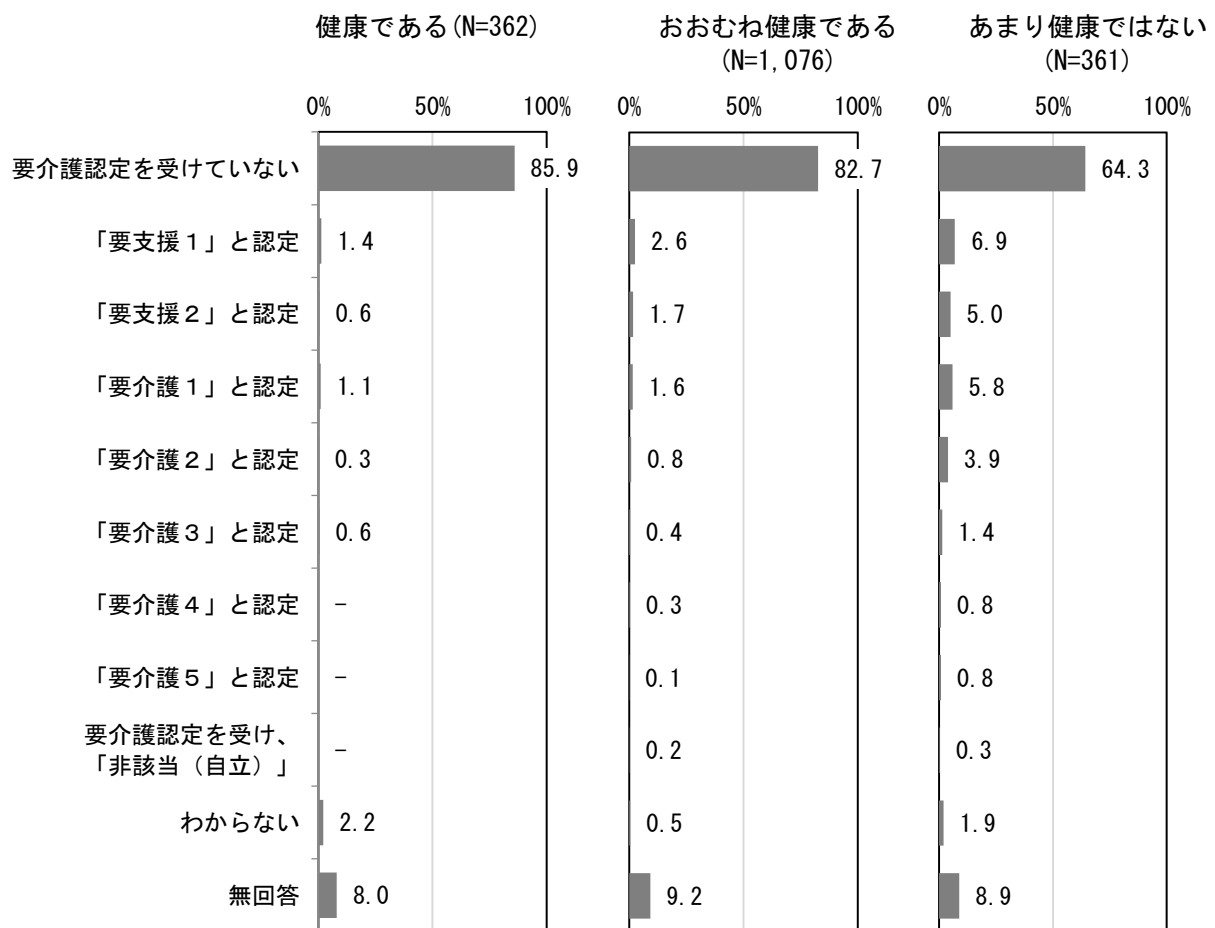
介護保険の要介護（支援）認定についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「要介護認定を受けていない」が最も多く、64歳以下は92.4%、65歳以上は75.4%と、共に半数を超えている。

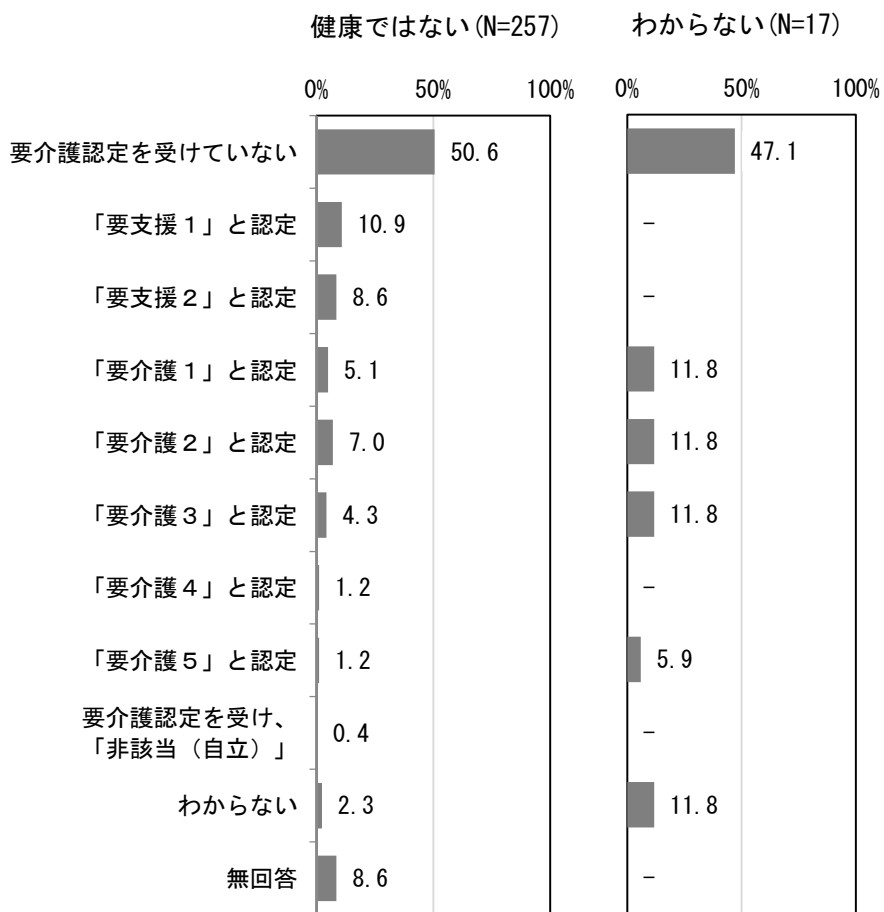
図表2-4-38 要介護（支援）認定を受けているか



主観的健康感別に「介護を受けていない」とする割合をみると、65歳以上は、「健康である」と回答した人は85.9%と特に高く、自分が健康ではないと回答した人ほどその割合は低くなっている。

図表 2-4-39 問 4-10 要介護（支援）認定を受けているか × 問 4-1 主観的健康感 【65歳以上】





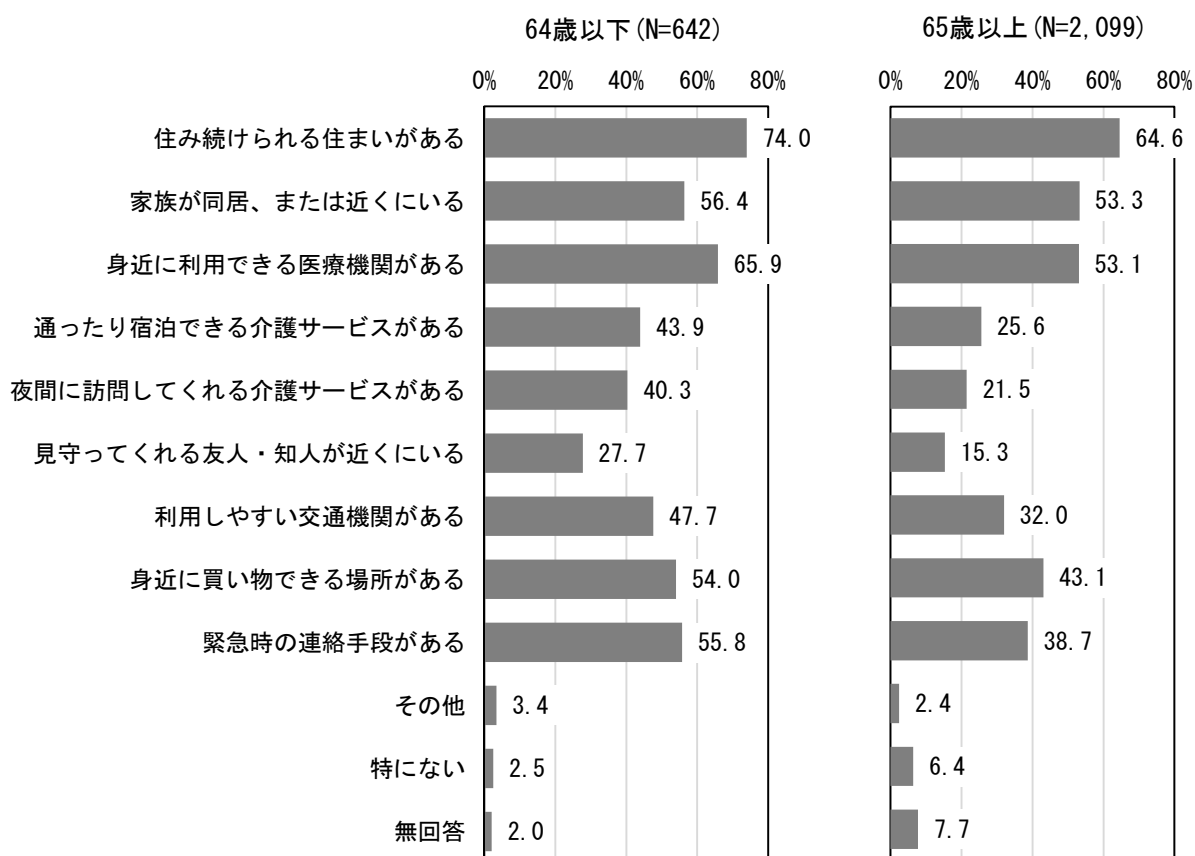
問4-11 介護が必要になった場合、在宅生活に何が必要か

[複数回答]

もし介護が必要になったとき、在宅で暮らし続けるためには何が必要だと思いますか。現在介護を受けている方は、在宅で暮らし続けるためには何が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

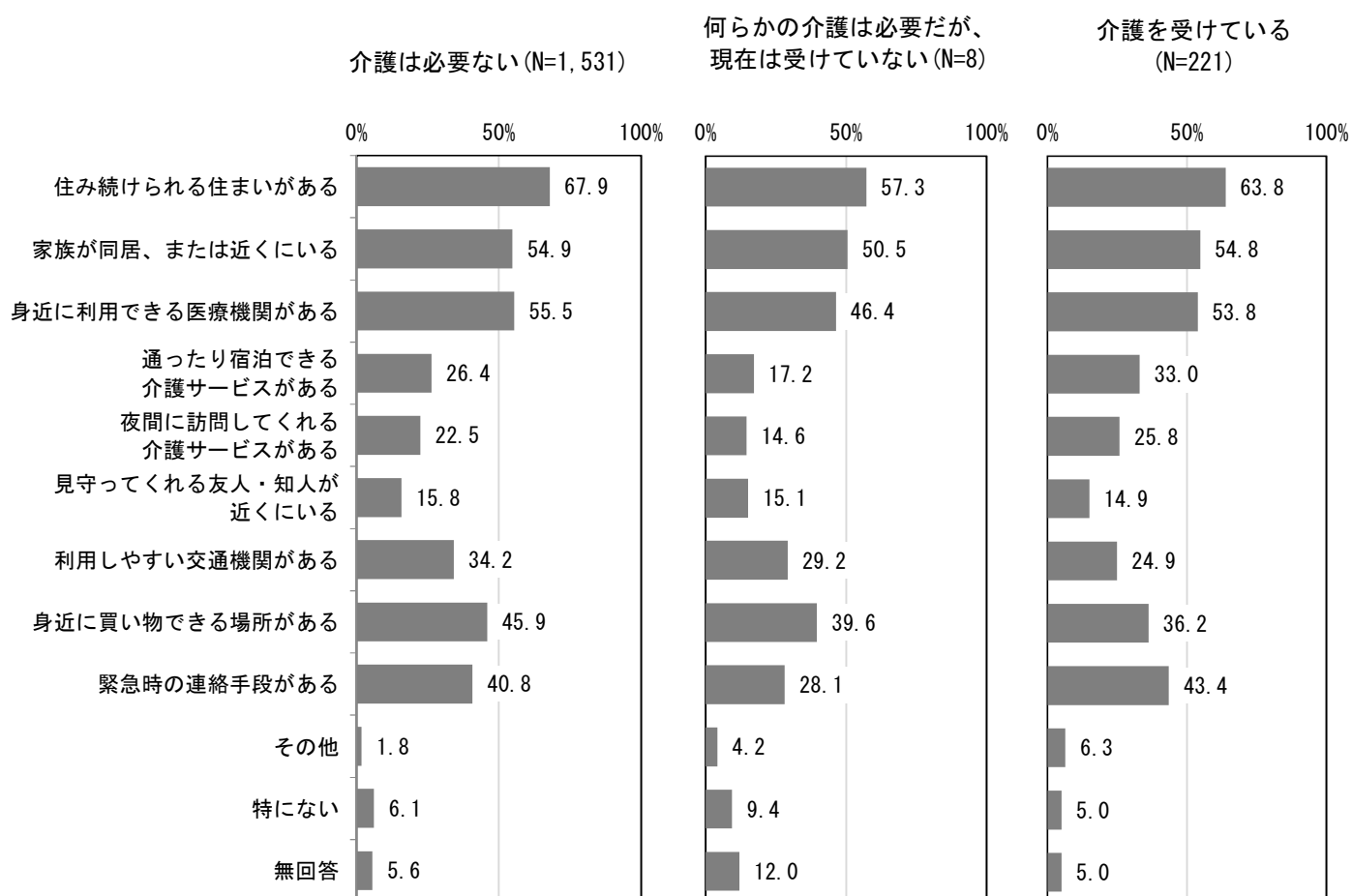
介護が必要になったとき、在宅で暮らし続けるためには何が必要かについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「住み続けられる住まいがある」が最も多く、64歳以下は74.0%、65歳以上は64.6%となっている。次いで、64歳以下は「身近に利用できる医療機関がある」(65.9%)、「家族が同居、または近くにいる」(56.4%)となっており、65歳以上は、「家族が同居、または近くにいる」(53.3%)、「身近に利用できる医療機関がある」(53.1%)となっている。

図表2-4-40 介護が必要になった場合、在宅生活に何が必要か



65歳以上で介護の状況別にみると、「住み続けられる住まいがある」が最も高くなっている。

図表 2-4-41 問 4-11 介護が必要になった場合、在宅生活に何が必要か  
× 問 4-9 介護を受けているか 【65歳以上】



65歳以上で要介護（支援）認定の状況別にみても、「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居、または近くにいる」、「身近に利用できる医療機関がある」が特に高くなっている。

図表 2-4-41 問 4-11 介護が必要になった場合、在宅生活に何が必要か  
× 問 4-10 要介護（支援）認定を受けているか 【65歳以上】

	要介護認定を受けていない (N=1,583)	「要支援1」と認定 (N=88)	「要支援2」と認定 (N=62)	「要介護1」と認定 (N=58)	「要介護2」と認定 (N=44)	「要介護3」と認定 (N=24)	「要介護4」と認定 (N=10)	「要介護5」と認定 (N=9)	要介護認定を受け、「非該当（自立）」 (N=4)	わからない(N=28)
住み続けられる住まいがある	68.7	56.8	67.7	60.3	59.1	62.5	70.0	55.6	100.0	28.6
家族が同居、または近くにいる	55.5	46.6	48.4	60.3	63.6	66.7	50.0	44.4	75.0	25.0
身近に利用できる医療機関がある	56.4	50.0	59.7	53.4	52.3	41.7	50.0	55.6	50.0	14.3
通ったり宿泊できる介護サービスがある	26.5	26.1	21.0	24.1	47.7	29.2	30.0	22.2	-	10.7
夜間に訪問してくれる介護サービスがある	22.9	13.6	19.4	31.0	20.5	16.7	50.0	44.4	-	3.6
見守ってくれる友人・知人が近くにいる	15.9	15.9	16.1	19.0	13.6	12.5	20.0	11.1	-	7.1
利用しやすい交通機関がある	35.2	30.7	30.6	22.4	15.9	12.5	10.0	11.1	50.0	10.7
身近に買い物できる場所がある	46.4	45.5	38.7	31.0	29.5	25.0	30.0	22.2	50.0	14.3
緊急時の連絡手段がある	40.9	35.2	38.7	44.8	43.2	33.3	40.0	55.6	25.0	14.3
その他	2.1	4.5	3.2	8.6	4.5	12.5	-	-	-	-
特にない	5.9	5.7	4.8	3.4	2.3	12.5	-	11.1	-	28.6
無回答	5.1	8.0	8.1	6.9	2.3	-	10.0	22.2	-	17.9



## 2. 5 保健・福祉施策について

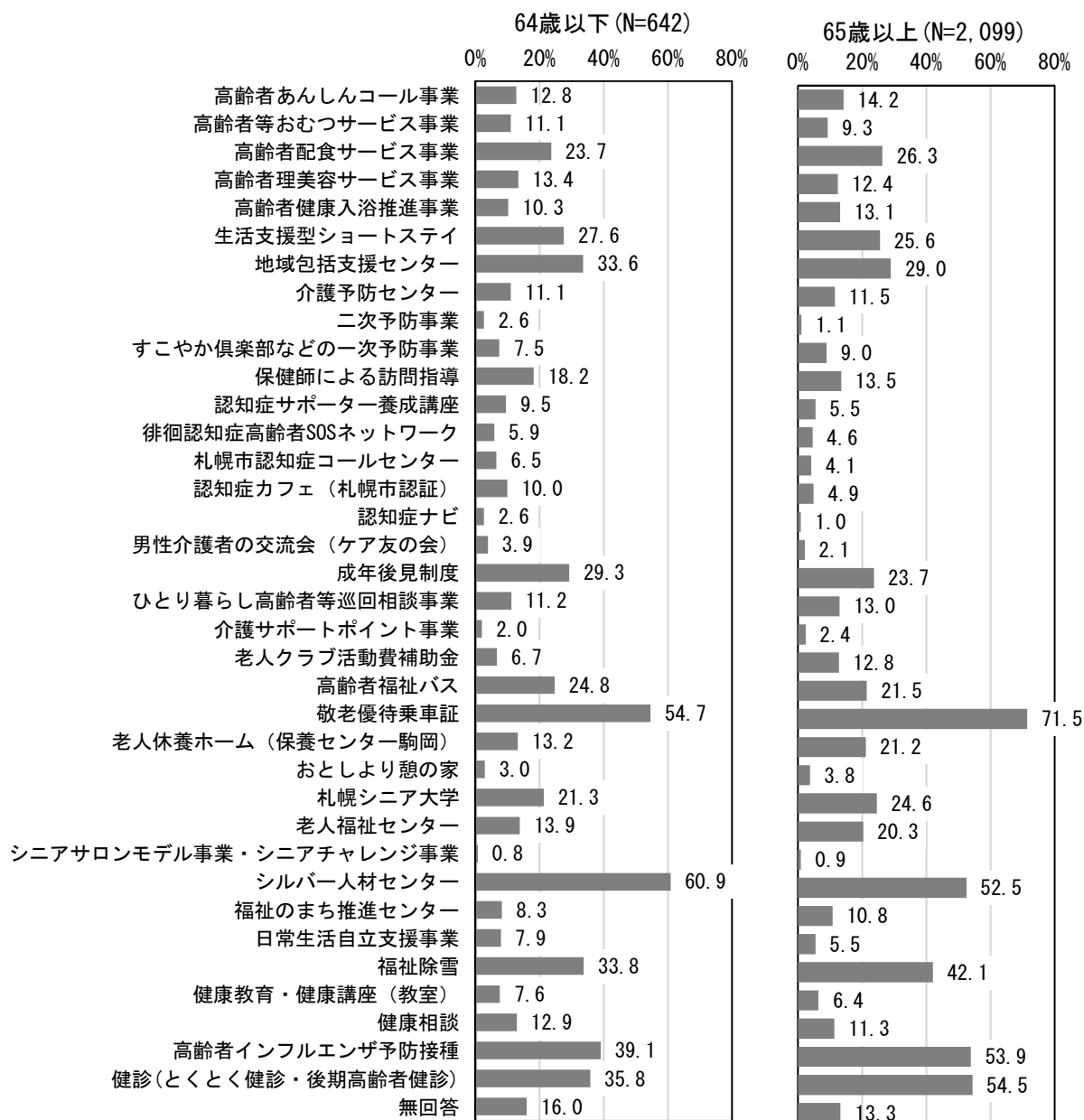
### 問5-1 知っている保健・福祉サービス

[複数回答]

札幌市などが行っている高齢者を主な対象とした次の保健・福祉サービスなどの中で、知っているものはありますか。知っているものすべてに○をつけてください。

札幌市などが行っている高齢者を主な対象とした保健・福祉サービスなどで知っているものがあるかたずねたところ、64歳以下は「シルバー人材センター」(60.9%)が最も多く、次いで、「敬老優待乗車証」(54.7%)、「高齢者インフルエンザ予防接種」(39.1%)となっており、65歳以上は、「敬老優待乗車証」(71.5%)が最も多く、次いで、「健診(とくとく健診・後期高齢者健診)」(54.5%)、「高齢者インフルエンザ予防接種」(53.9%)となっている。

図表2-5-1 知っている保健・福祉サービス



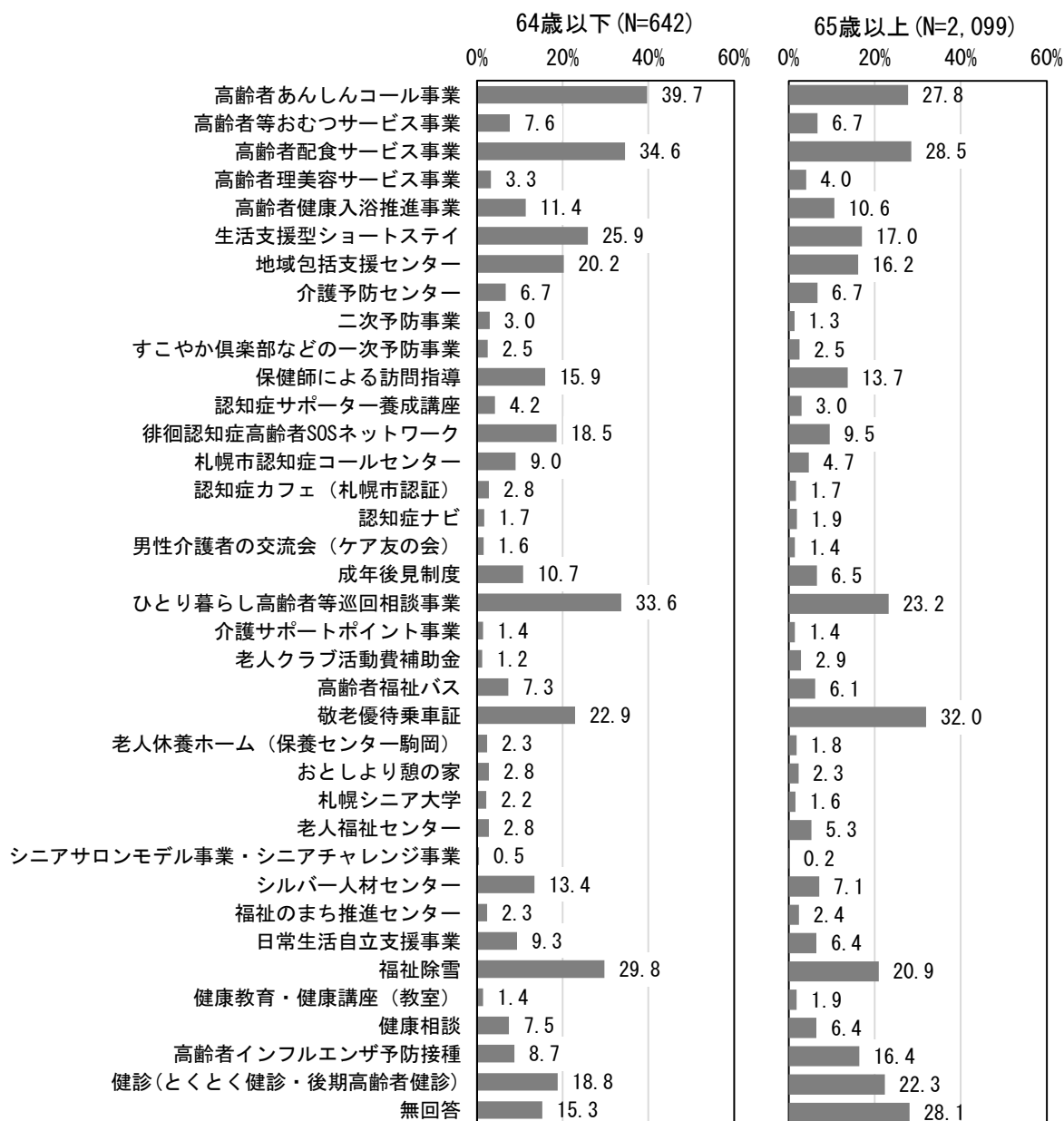
## 問5-2 特に重要だと思う保健・福祉サービス

[複数回答]

問5-1にある保健・福祉サービスの中で、特に重要だと考えるものはどれですか。5つ以内で選び、その番号を記入してください。

札幌市などが行っている高齢者を主な対象とした保健・福祉サービスの中で、特に重要だと考えるものをたずねたところ、64歳以下は「高齢者あんしんコール事業」(39.7%)が最も多く、次いで、「高齢者配食サービス事業」(34.6%)、「ひとり暮らし高齢者等巡回相談事業」(33.6%)となっており、65歳以上は、「敬老優待乗車証」(32.0%)が最も多く、次いで、「高齢者配食サービス事業」(28.5%)、「高齢者あんしんコール事業」(27.8%)となっている。

図表2-5-2 特に重要だと思う保健・福祉サービス



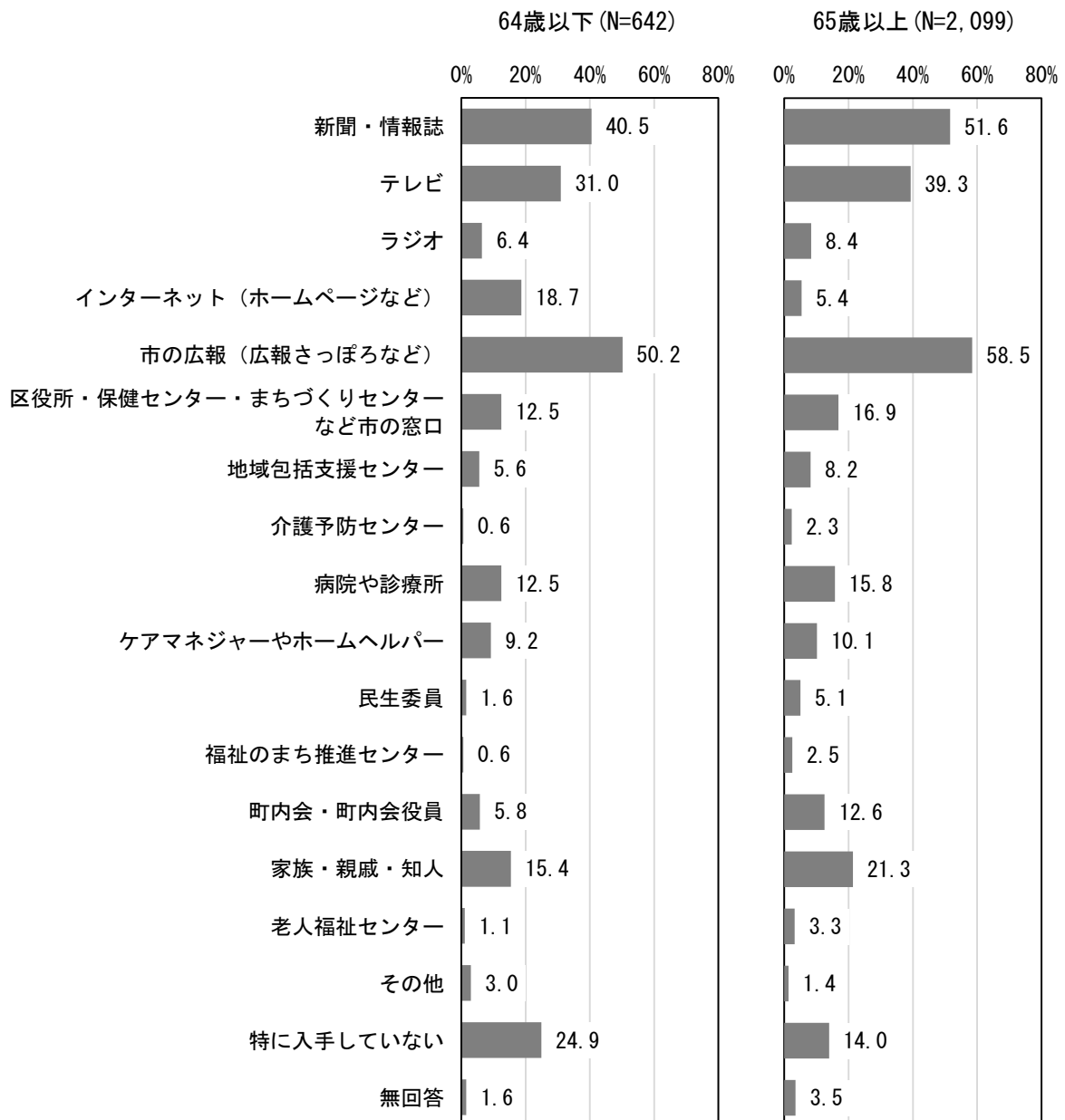
問5-3 情報入手先

[複数回答]

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報は、主にどこから入手していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報を主にどこから入手しているかたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「市の広報（広報さっぽろなど）」が最も多く、64歳以下は50.2%、65歳以上は58.5%となっている。次いで、64歳以下は「新聞・情報誌」（40.5%）、「テレビ」（31.0%）となっており、65歳以上も同様に、「新聞・情報誌」（51.6%）、「テレビ」（39.3%）となっている。

図表2-5-3 情報入手先

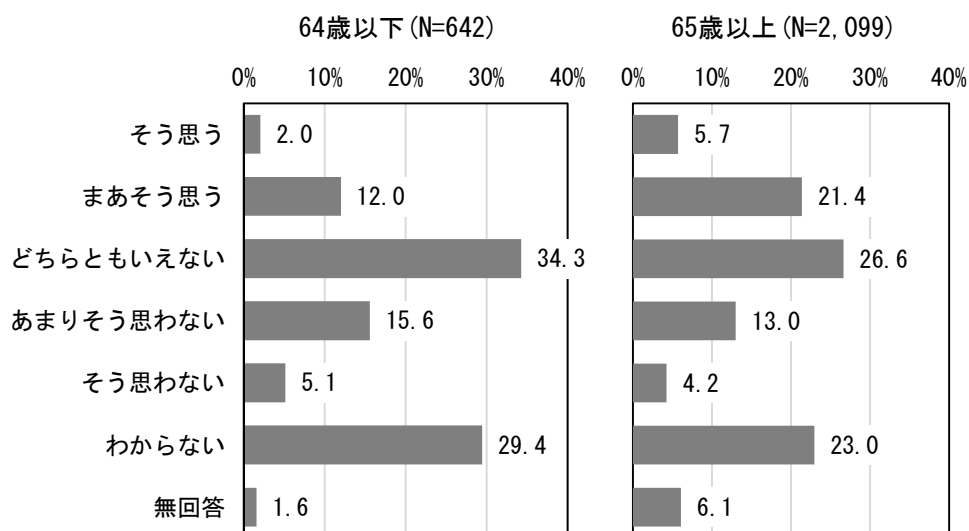


## 問5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか

札幌市では、高齢者が介護を必要とせずに元気で健康に暮らし続けるための取組が十分になされていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

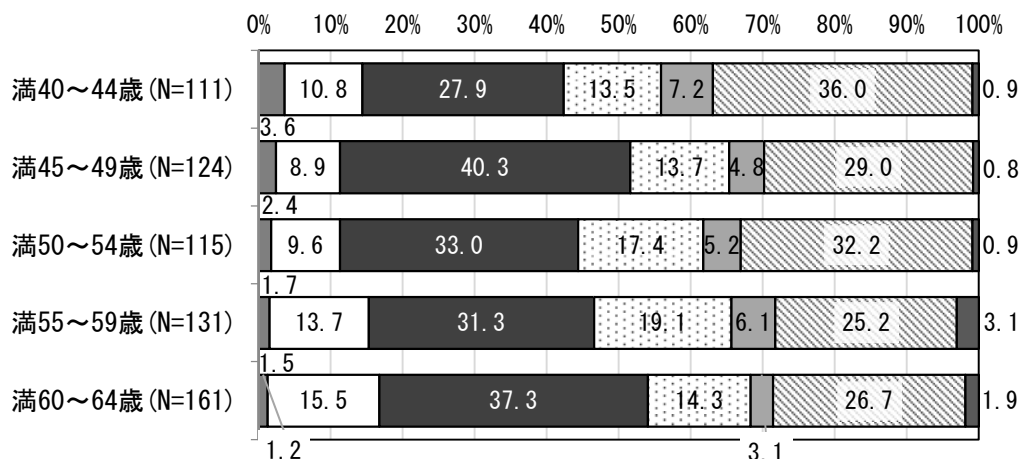
札幌市では、高齢者が介護を必要とせずに元気で健康に暮らし続けるための取組が十分になされていると思うかたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は14.0%、65歳以上は27.1%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は20.7%、65歳以上は17.2%となっている。

図表2-5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか

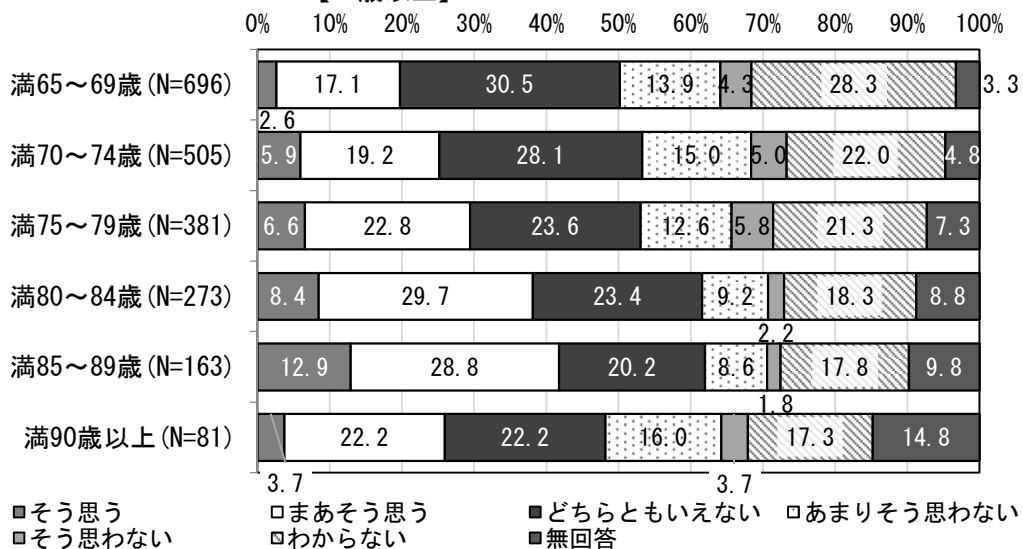


年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は高くなり、満70～74歳からは2割を超えている。

図表2-5-5 問5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか × 問1-2 年齢  
【64歳以下】

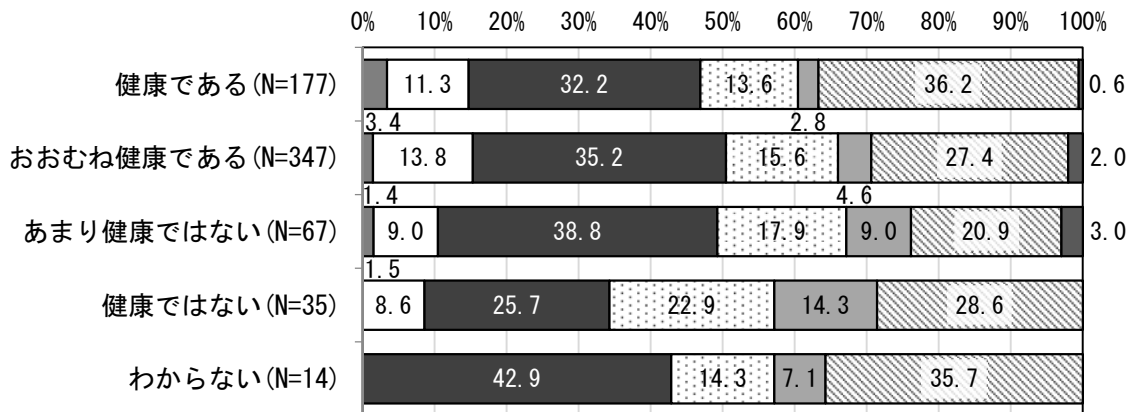


図表2-5-6 問5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか × 問1-2 年齢  
【65歳以上】

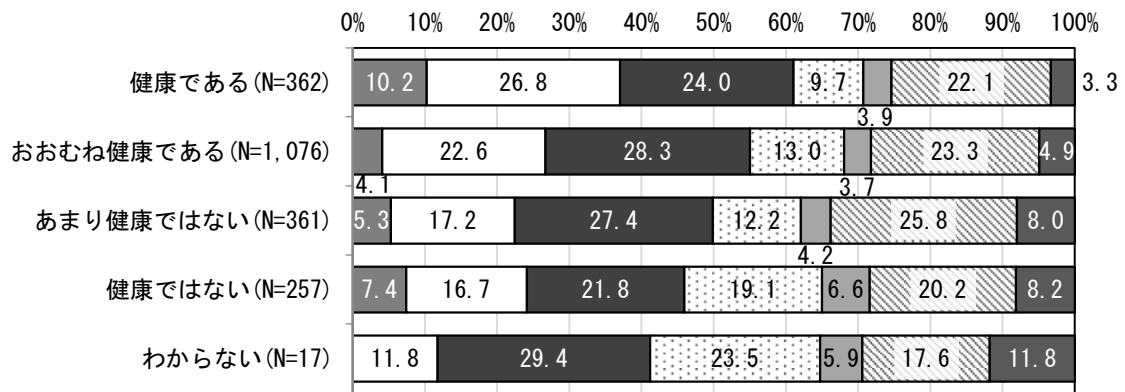


主観的健康感別に「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合をみると、自分が健康だと感じている人ほどその割合は高く、「健康である」と回答した人は、64歳以下は14.7%、65歳以上は37.0%となっている。

図表2-5-7 問5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか × 問4-1 主観的健康感【64歳以下】



図表2-5-8 問5-4 健康に暮らし続ける取組がなされているか × 問4-1 主観的健康感【65歳以上】



- そう思う                      □ まあそう思う                      ■ どちらともいえない      □ あまりそう思わない
- そう思わない                □ わからない                        ■ 無回答

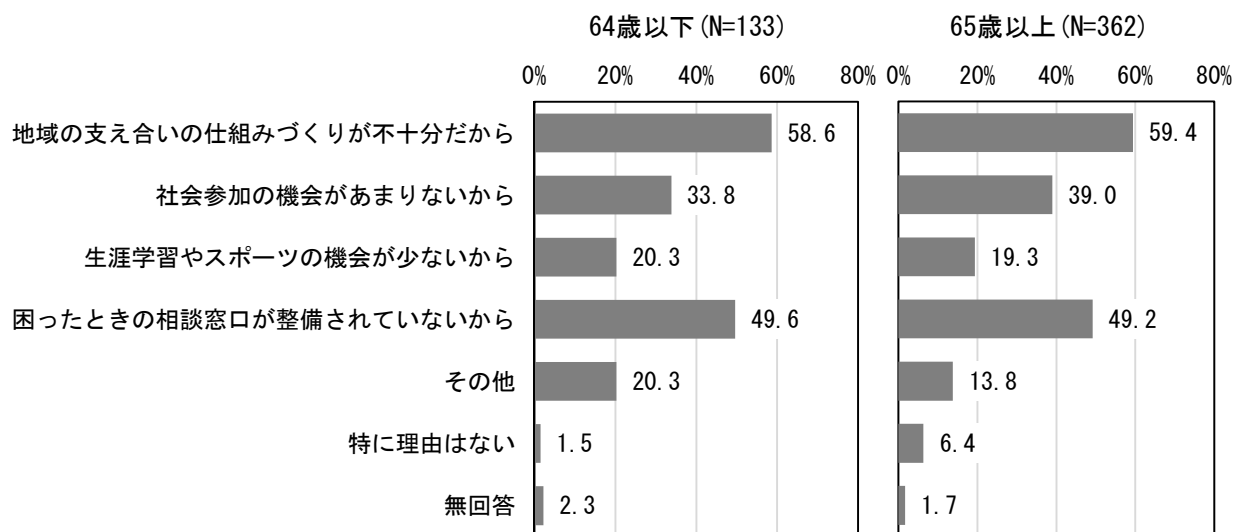
## そう思わない理由

[複数回答]

「4. あまりそう思わない」「5. そう思わない」と回答した方にうかがいます。取組が十分になされていないと思う理由は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問5-4で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した方に、取組が十分になされていないと思う理由をたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「地域の支え合いの仕組みづくりが不十分だから」が最も多く、64歳以下は58.6%、65歳以上は59.4%となっている。次いで、64歳以下は「困ったときの相談窓口が整備されていないから」(49.6%)、「社会参加の機会があまりないから」(33.8%)となっており、65歳以上も同様に、「困ったときの相談窓口が整備されていないから」(49.2%)、「社会参加の機会があまりないから」(39.0%)となっている。

図表2-5-9 そう思わない理由



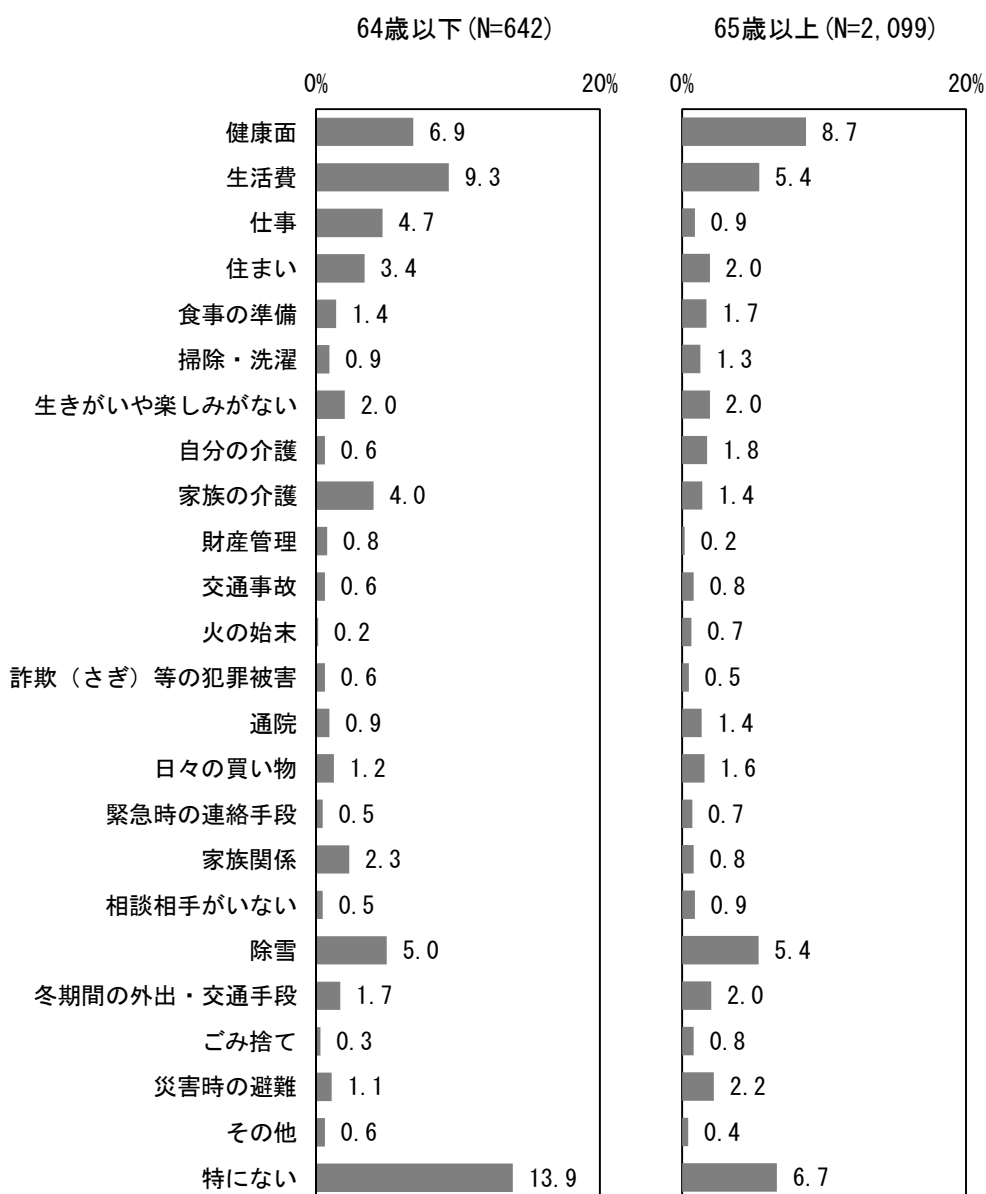
## 問5-5 困っていること、不安に思うこと

[複数回答]

現在困っていることや、将来に向け不安に思うことはありますか。あてはまる欄すべてに○をつけてください。

現在困っていることについてたずねたところ、64歳以下は「生活費」(9.3%)が最も多く、次いで、「健康面」(6.9%)、「除雪」(5.0%)となっており、65歳以上は、「健康面」(8.7%)が最も多く、次いで、「生活費」(5.4%)・「除雪」(5.4%)となっている。

図表2-5-10 困っていること

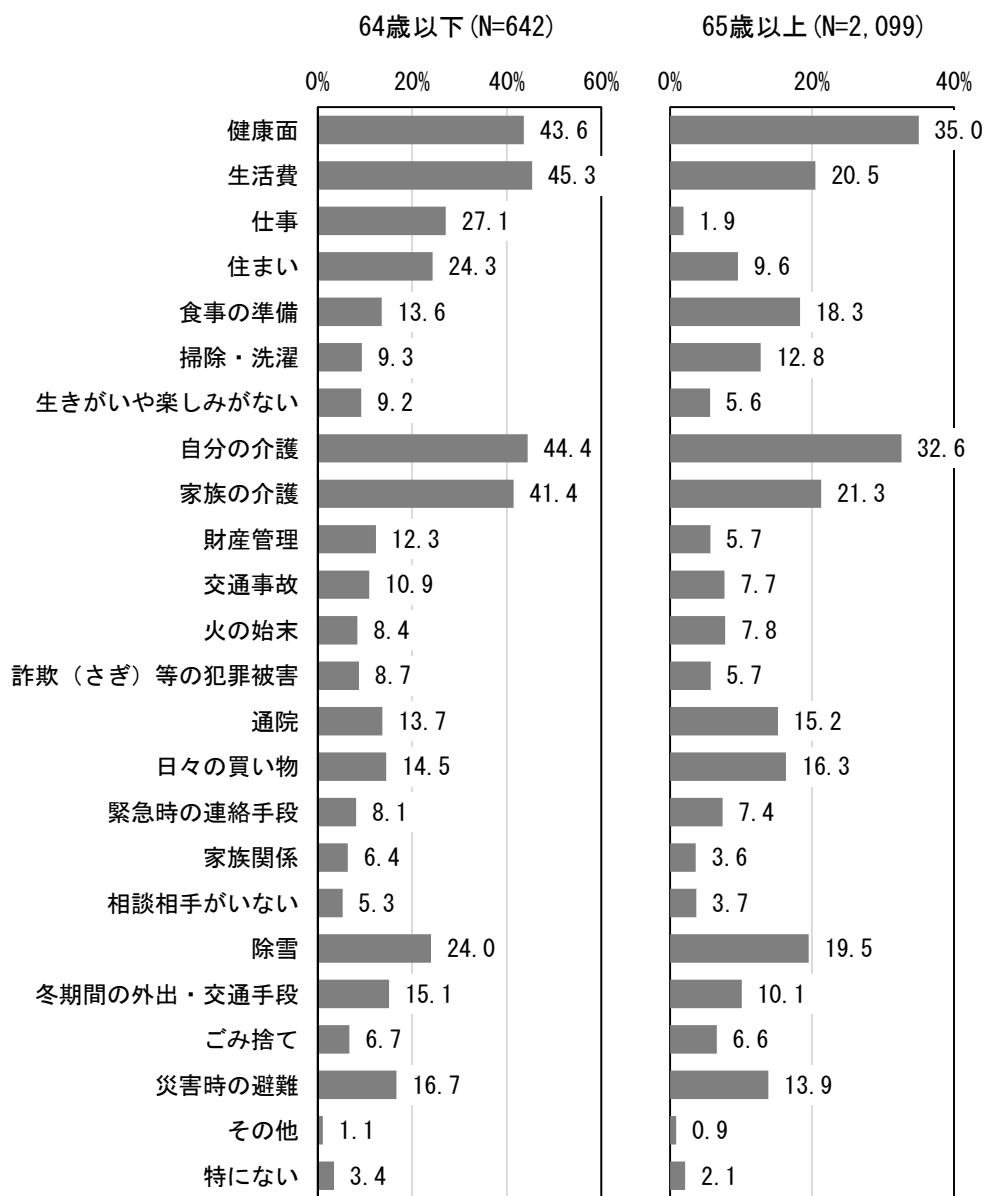


※無回答を除く選択肢を表示



将来に向け不安に思うことについてたずねたところ、64歳以下は「生活費」(45.3%)が最も多く、次いで、「自分の介護」(44.4%)、「健康面」(43.6%)となっており、65歳以上は、「健康面」(35.0%)が最も多く、次いで、「自分の介護」(32.6%)、「家族の介護」(21.3%)となっている。

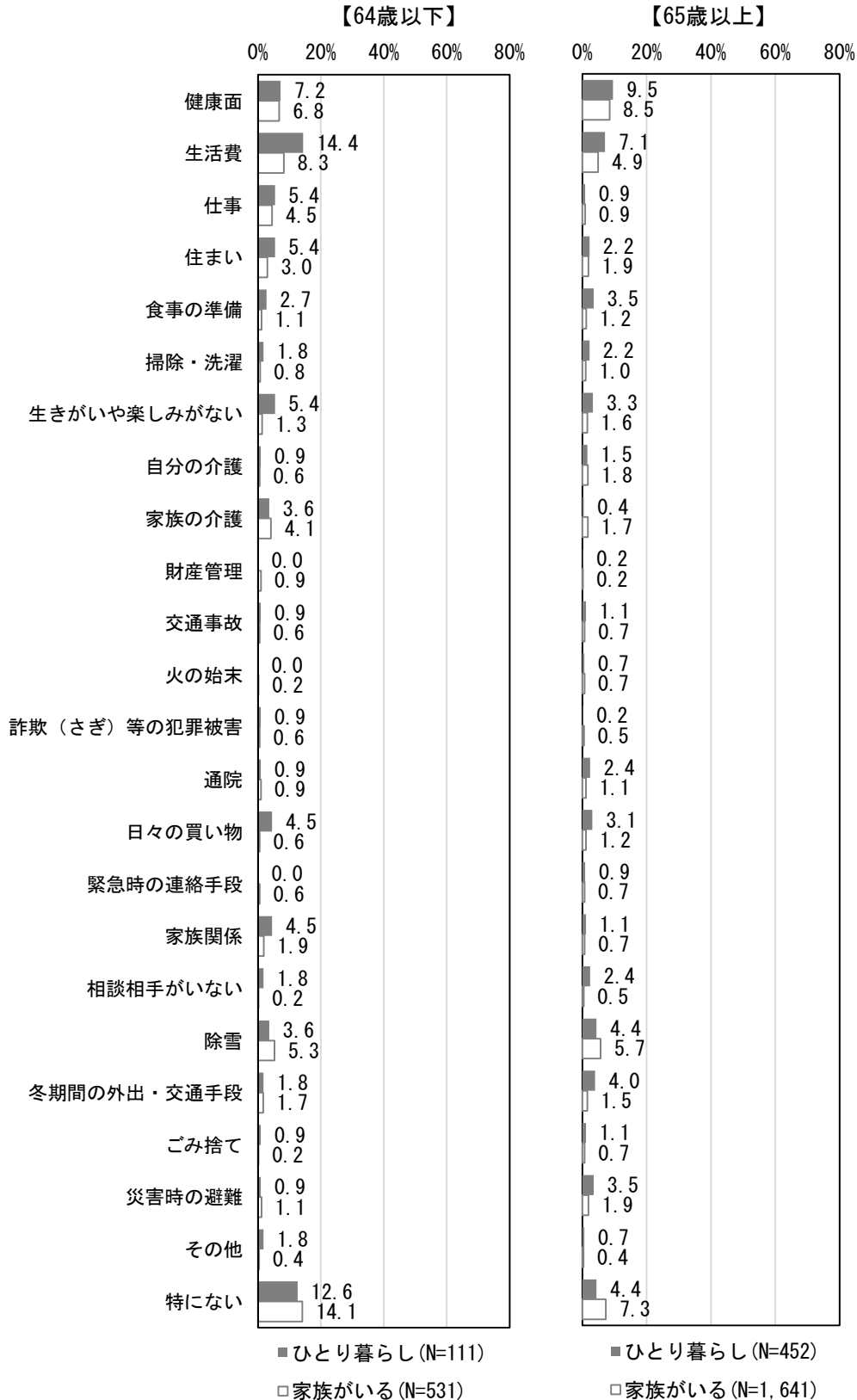
図表2-5-11 不安なこと



※無回答を除く選択肢を表示

現在困っていることを家族構成別にみると、64歳以下・65歳以上共に、特に目立った傾向は見られない。

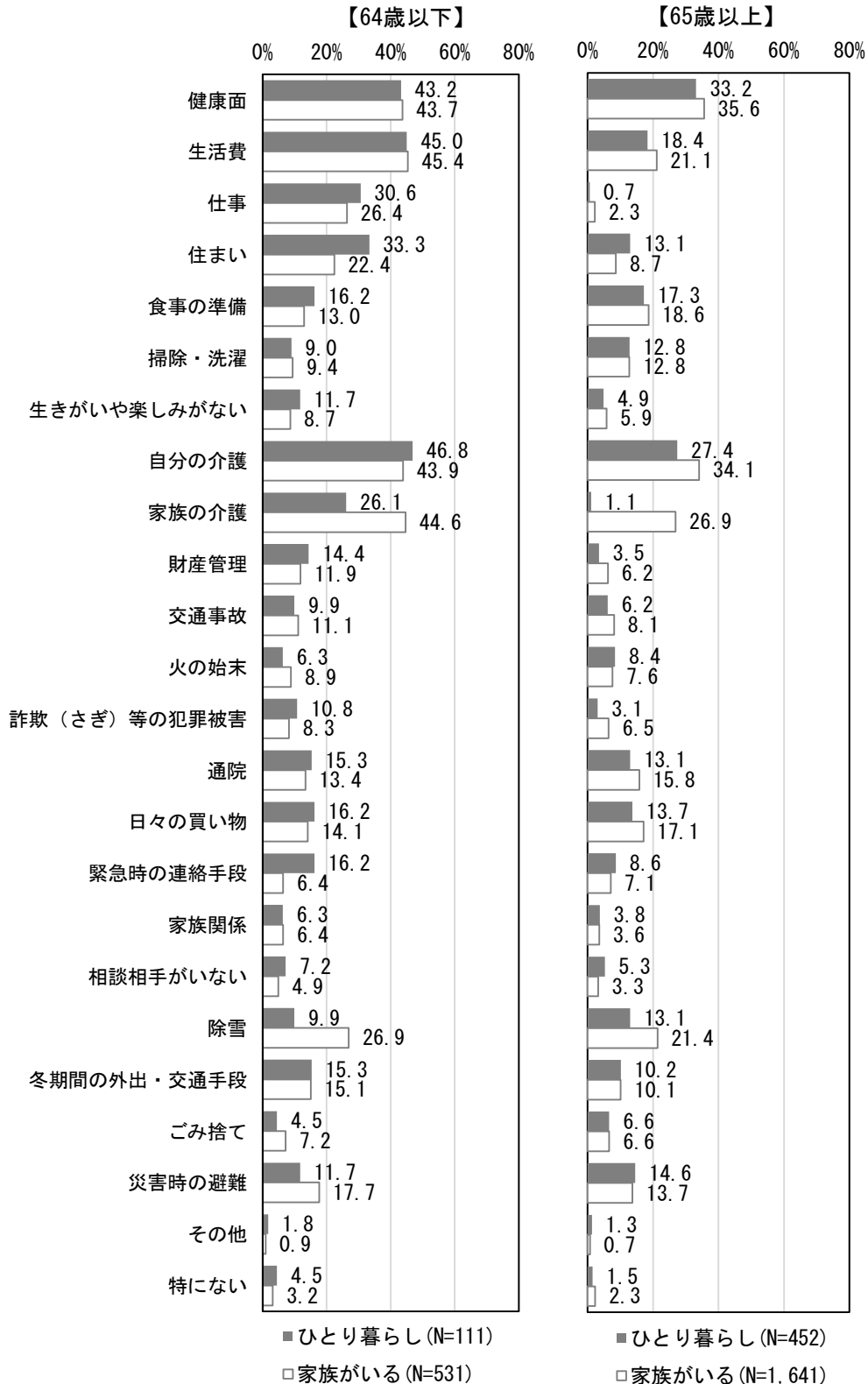
図表2-5-12 問5-5 困っていること × 問2-1 同居家族の有無



※無回答を除く選択肢を表示

将来に向け不安に思うことを家族構成別にみると、64歳以下・65歳以上共に、ひとり暮らしの方の「健康面」「生活費」「自分の介護」とする割合が高くなっており、家族がいる方は、「健康面」「生活費」「自分の介護」「家族の介護」とする割合が高くなって

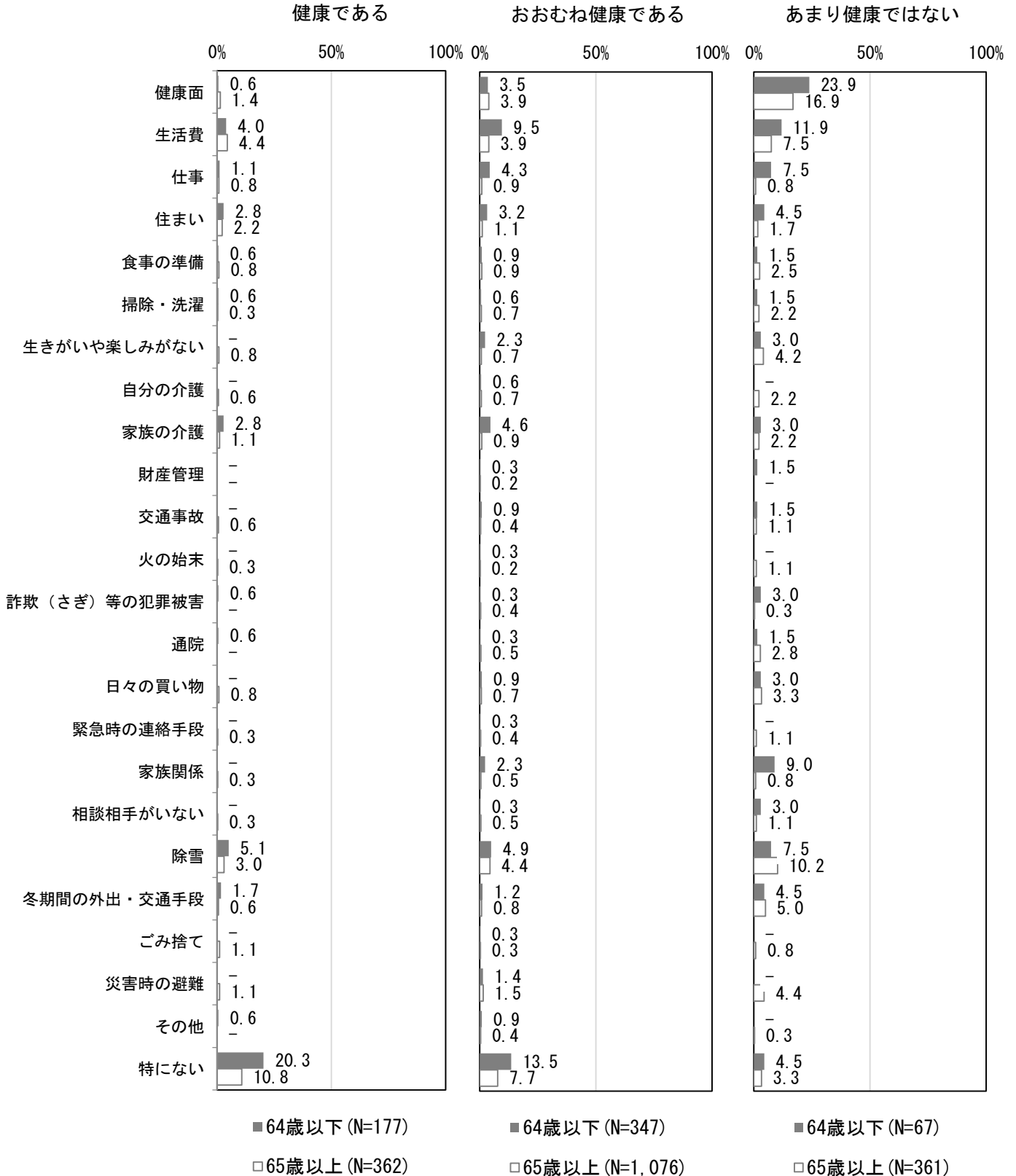
図表2-5-13 問5-5 不安に思うこと × 問2-1 同居家族の有無



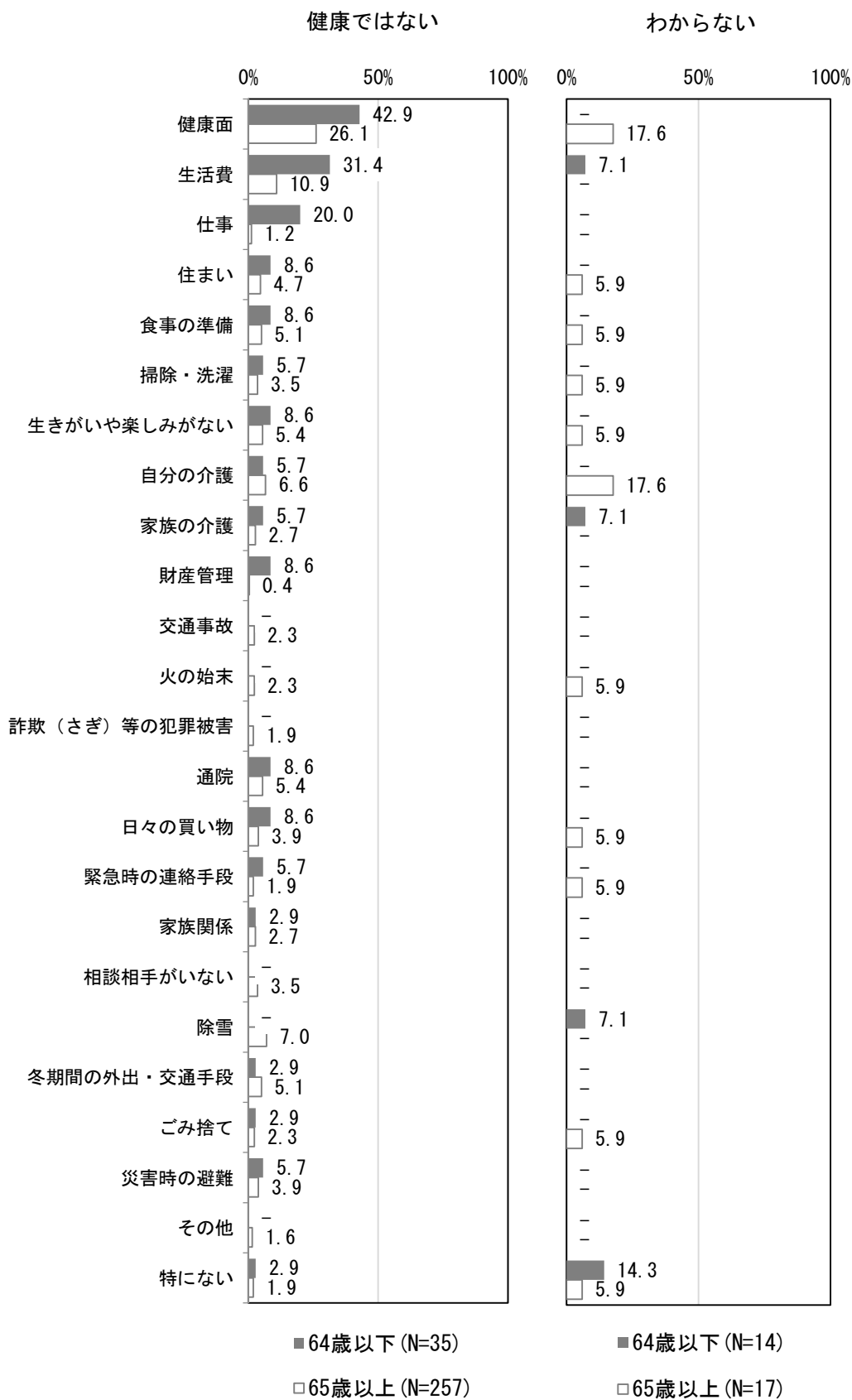
※無回答を除く選択肢を表示

現在困っていることを主観的健康感別にみると、64歳以下・65歳以上に、「あまり健康ではない」「健康ではない」と回答した人は、「健康面」とする割合が高くなっている。

図表 2-5-14 問5-5 困っていること × 問4-1 主観的健康感



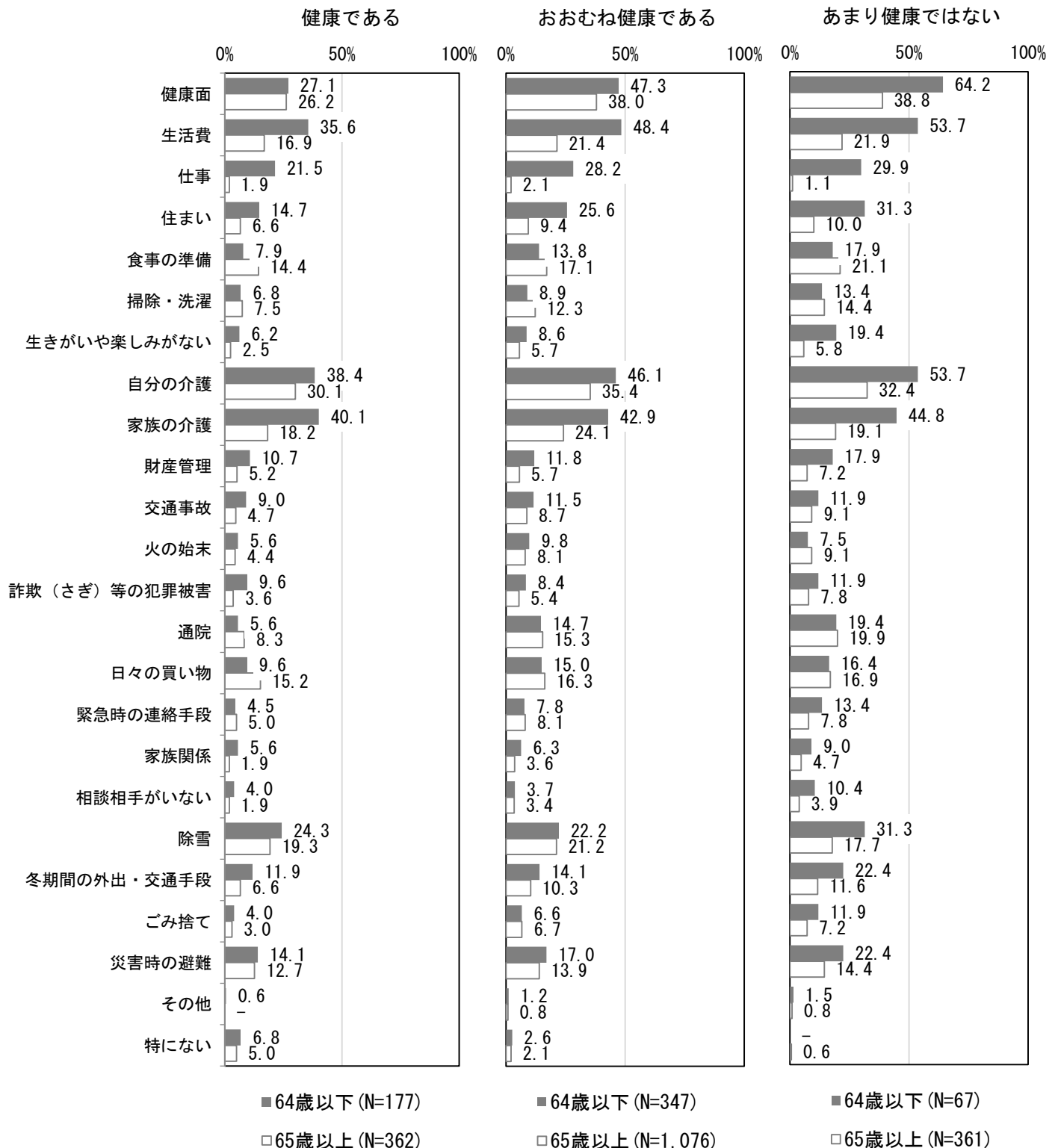
※無回答を除く選択肢を表示



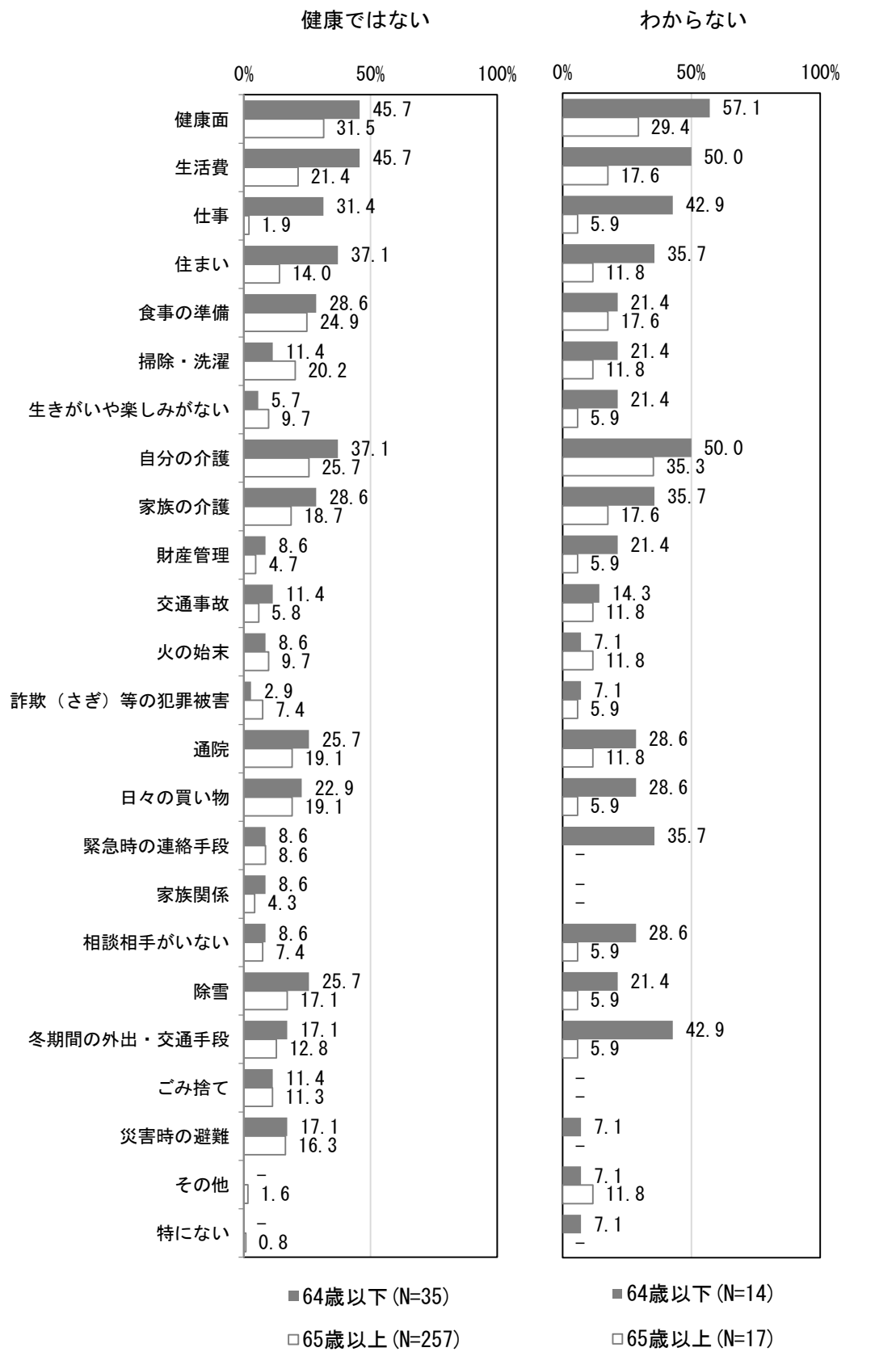
※無回答を除く選択肢を表示

将来に向け不安に思うことを主観的健康感別にみると、自分が健康であると感じている人、健康ではないと感じている人共に、64歳以下は、「健康面」「生活費」「自分の介護」「家族の介護」とする割合が高くなっており、65歳以上は、「健康面」「自分の介護」とする割合が高くなっている。

図表 2-5-15 問 5-5 不安に思うこと × 問 4-1 主観的健康感



※無回答を除く選択肢を表示



※無回答を除く選択肢を表示

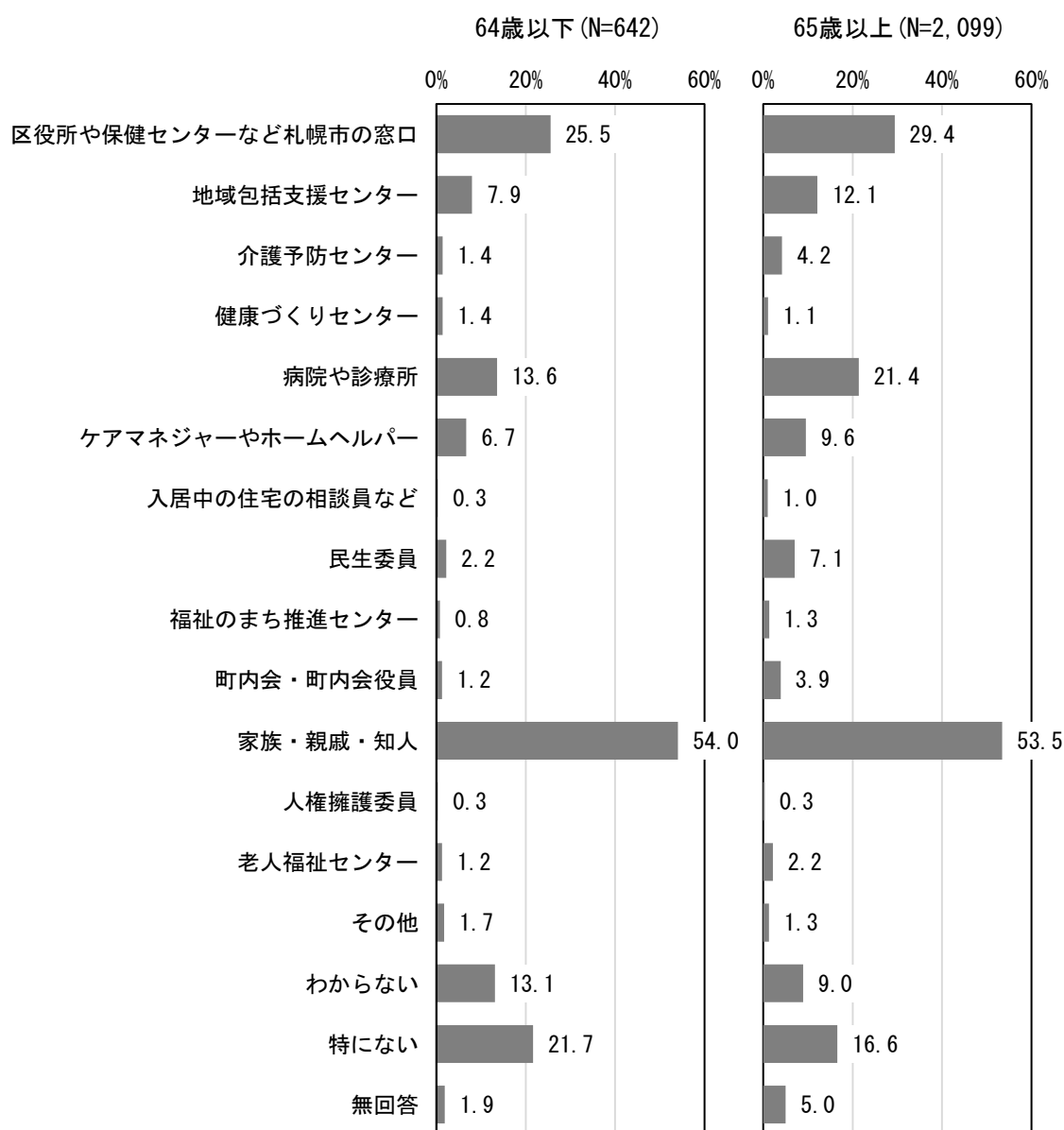
問5-6 困っていること、不安に思うことの相談先

[複数回答]

あなたは、困っていることや不安に思うことを、どこに相談していますか。あるいは、どこに相談しようと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

困っていることや不安に思うことの相談先についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「家族・親戚・知人」が最も多く、64歳以下は54.0%、65歳以上は53.5%となっている。次いで、64歳以下は「区役所や保健センターなど札幌市の窓口」(25.5%)、「病院や診療所」(13.6%)となっており、65歳以上も同様に、「区役所や保健センターなど札幌市の窓口」(29.4%)、「病院や診療所」(21.4%)となっている。

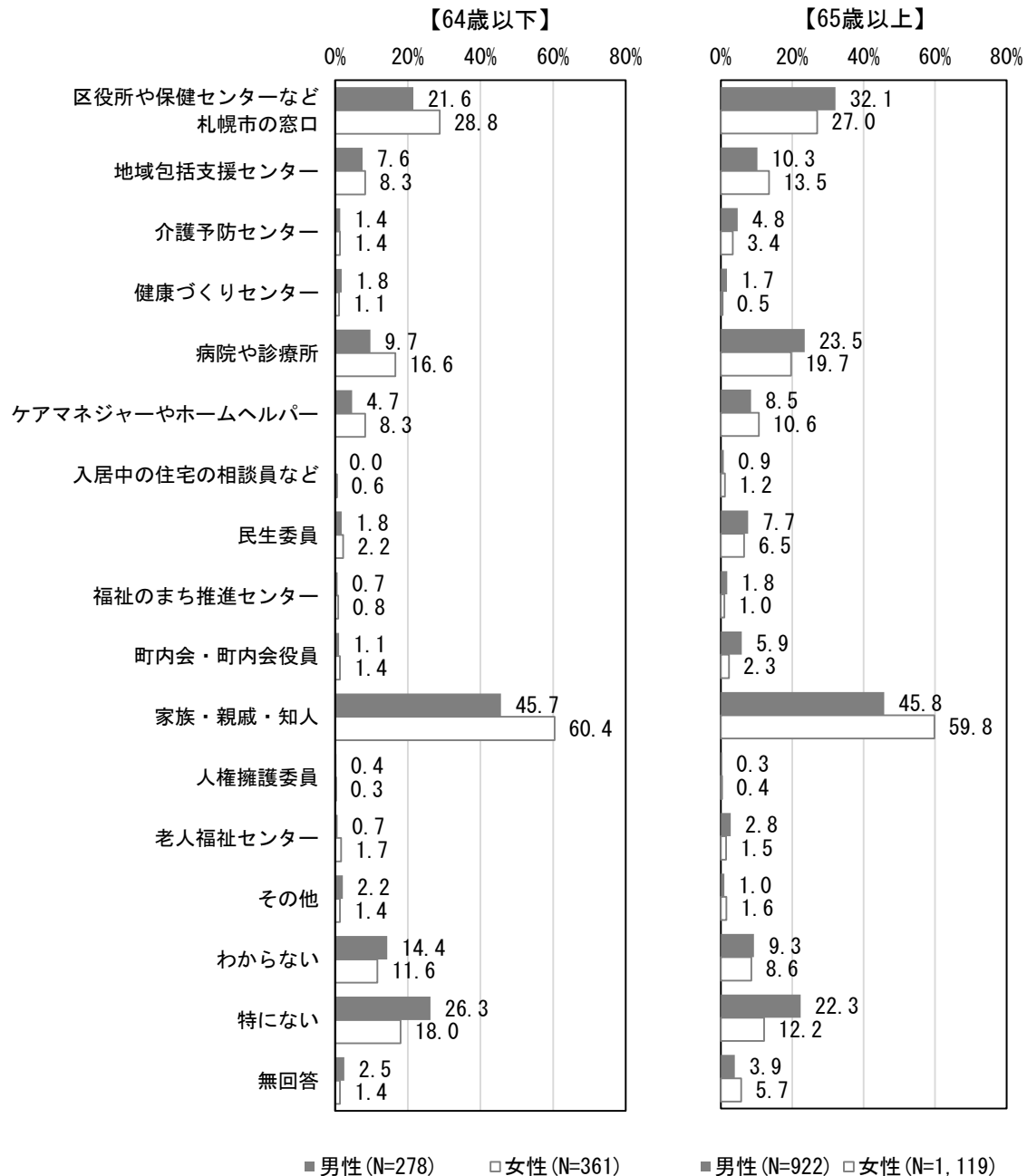
図表2-5-16 困っていること、不安に思うことの相談先





男女別にみると、「家族・親戚・知人」の割合は、64歳以下は、男性(45.7%)よりも女性(60.4%)の方が14.7ポイント高くなっており、65歳以上は、男性(45.8%)よりも女性(59.8%)の方が14.0ポイント高くなっている。

図表2-5-17 問5-6 困っていること、不安に思うことの相談先 × 問1-1 性別

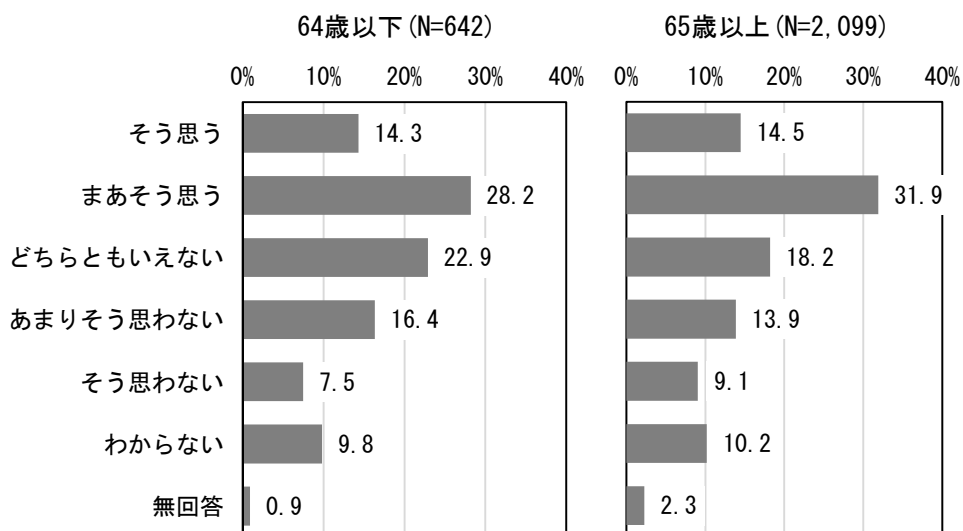


## 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか

今の社会では、他の世代に比べて高齢者は優遇されていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

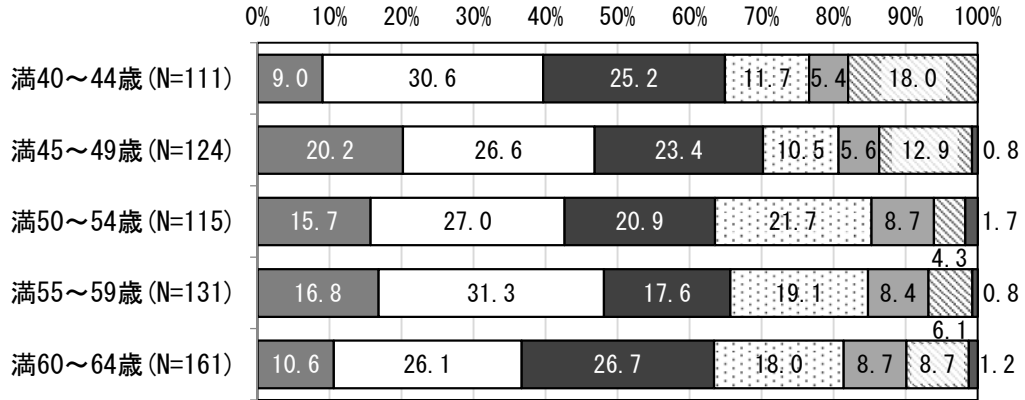
今の社会では、他の世代に比べて高齢者は優遇されていると思うかについてたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は42.5%、65歳以上は46.4%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は23.9%、65歳以上は23.0%となっている。

図表2-5-18 高齢者は優遇されていると思うか

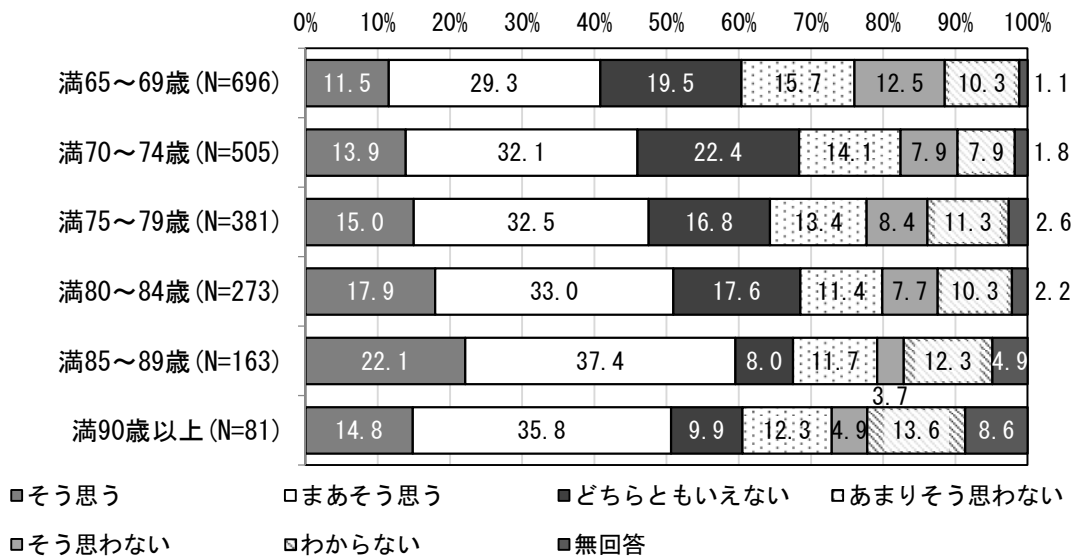


年齢別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は、満55～59歳が最も高く48.1%となっており、65歳以上は、満85～89歳が最も高く59.5%となっている。

図表2-5-19 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問1-2 年齢 【64歳以下】

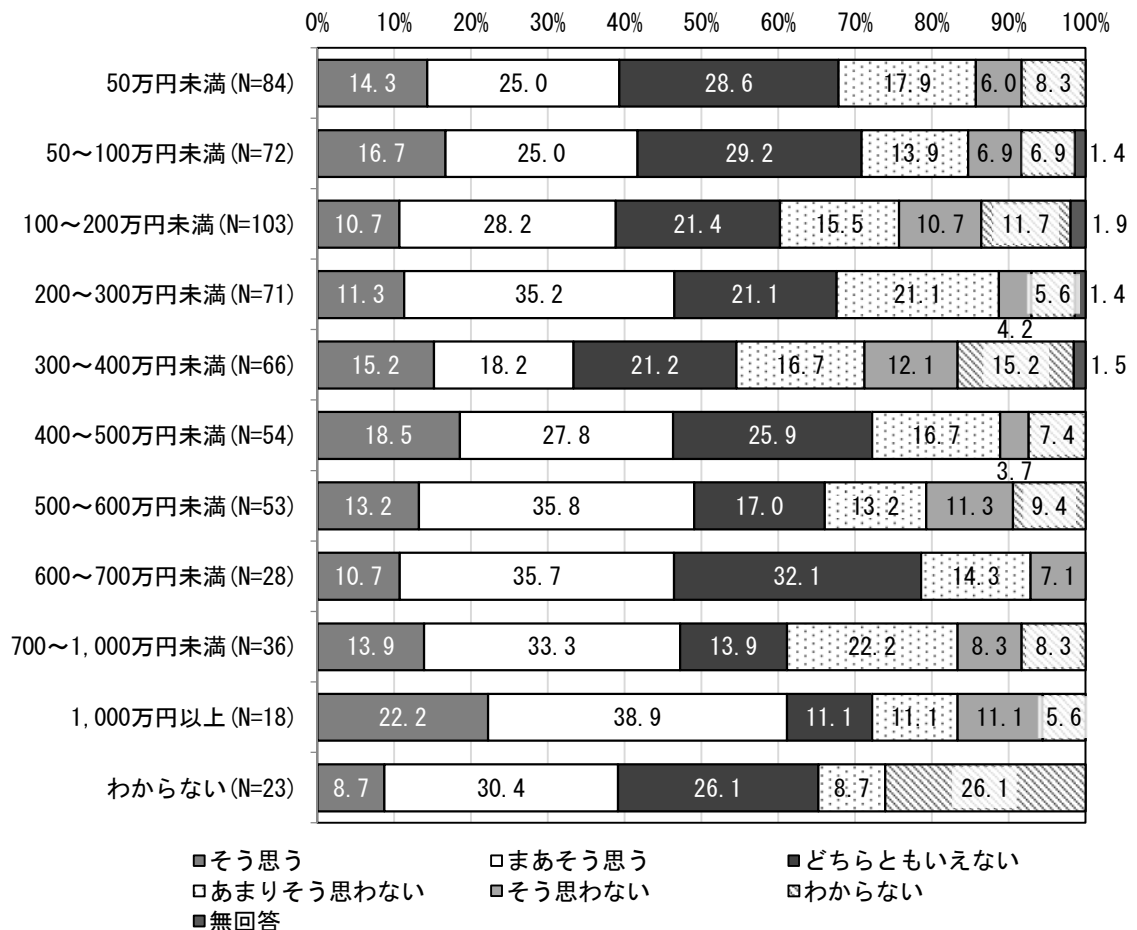


図表2-5-20 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問1-2 年齢 【65歳以上】

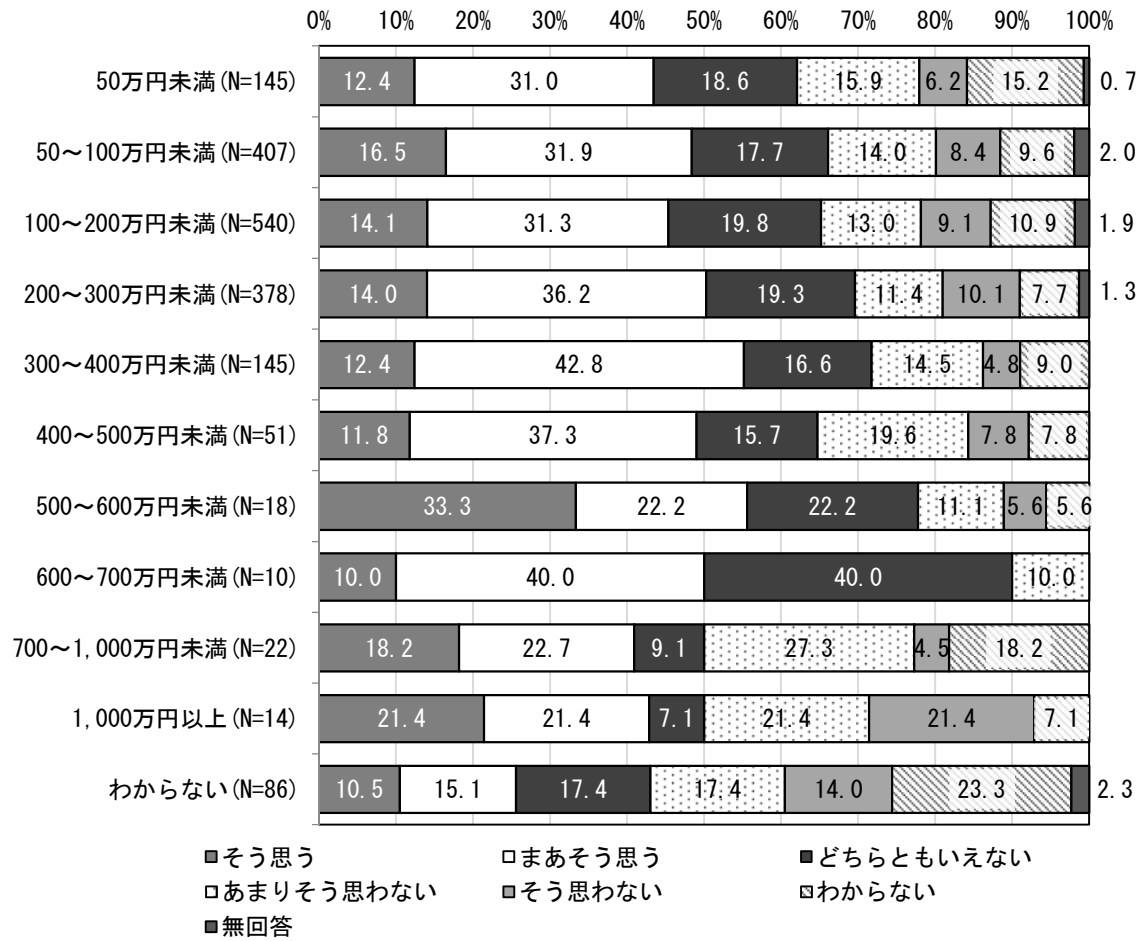


個人の年収別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は「1,000万円以上」が最も高く、61.1%となっており、65歳以上は「500～600万円未満」が最も高く、55.5%となっている。

図表2-5-21 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問8-3(1) 個人の収入  
【64歳以下】

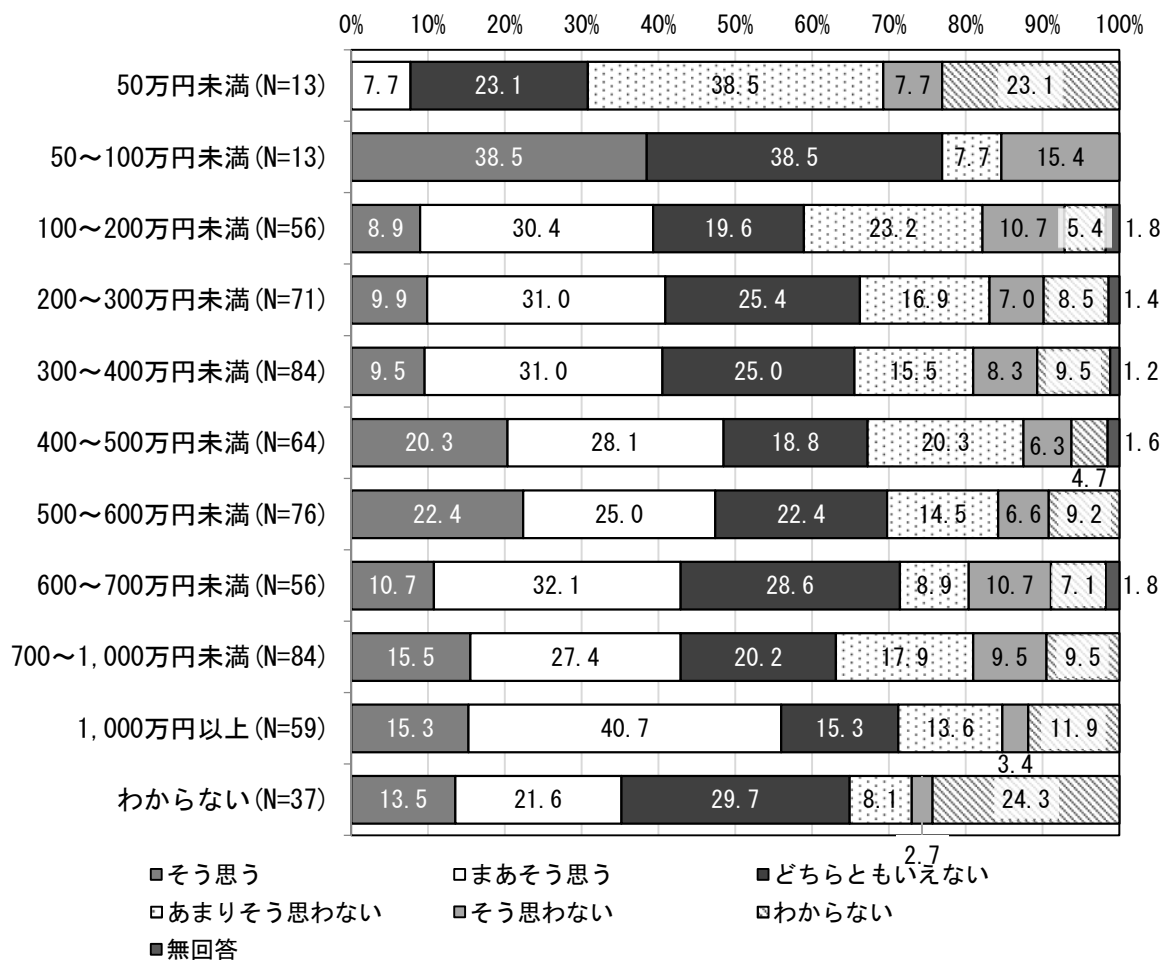


図表2-5-22 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問8-3(1) 個人の収入  
【65歳以上】

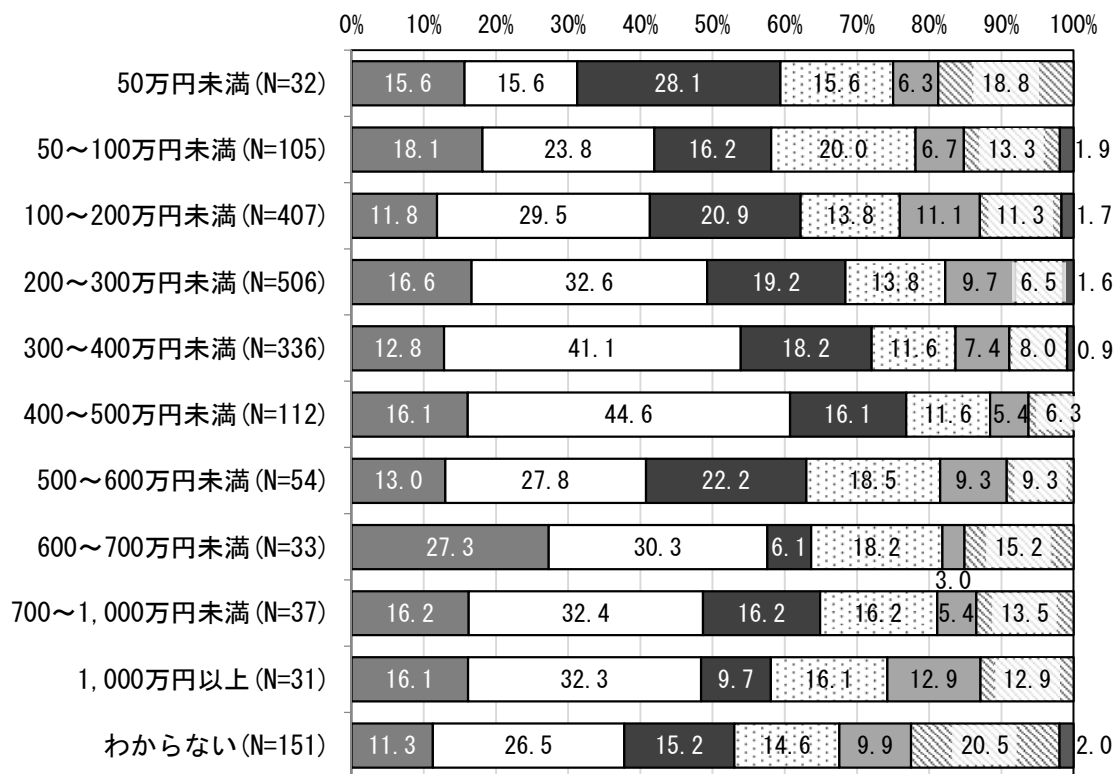


世帯全体の年収別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は「1,000万円以上」が最も高く、56.0%となっており、65歳以上は「400～500万円未満」が最も高く、60.7%となっている。

図表2-5-23 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問8-3(2) 世帯収入 【64歳以下】



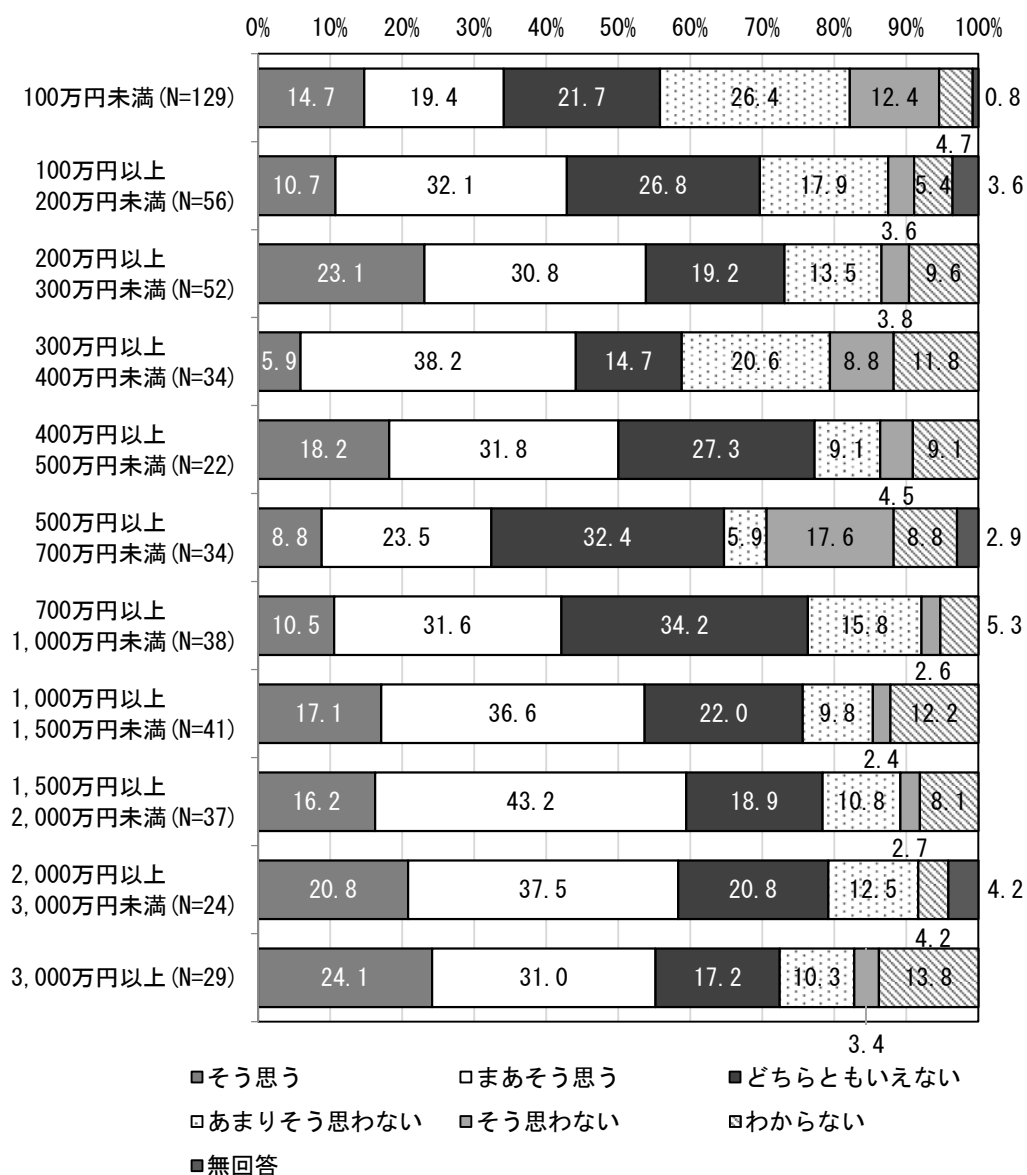
図表2-5-24 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問8-3(2) 世帯収入 【65歳以上】



■ そう思う                      □ まあそう思う                      ■ どちらともいえない  
 □ あまりそう思わない          □ そう思わない                      □ わからない  
 ■ 無回答

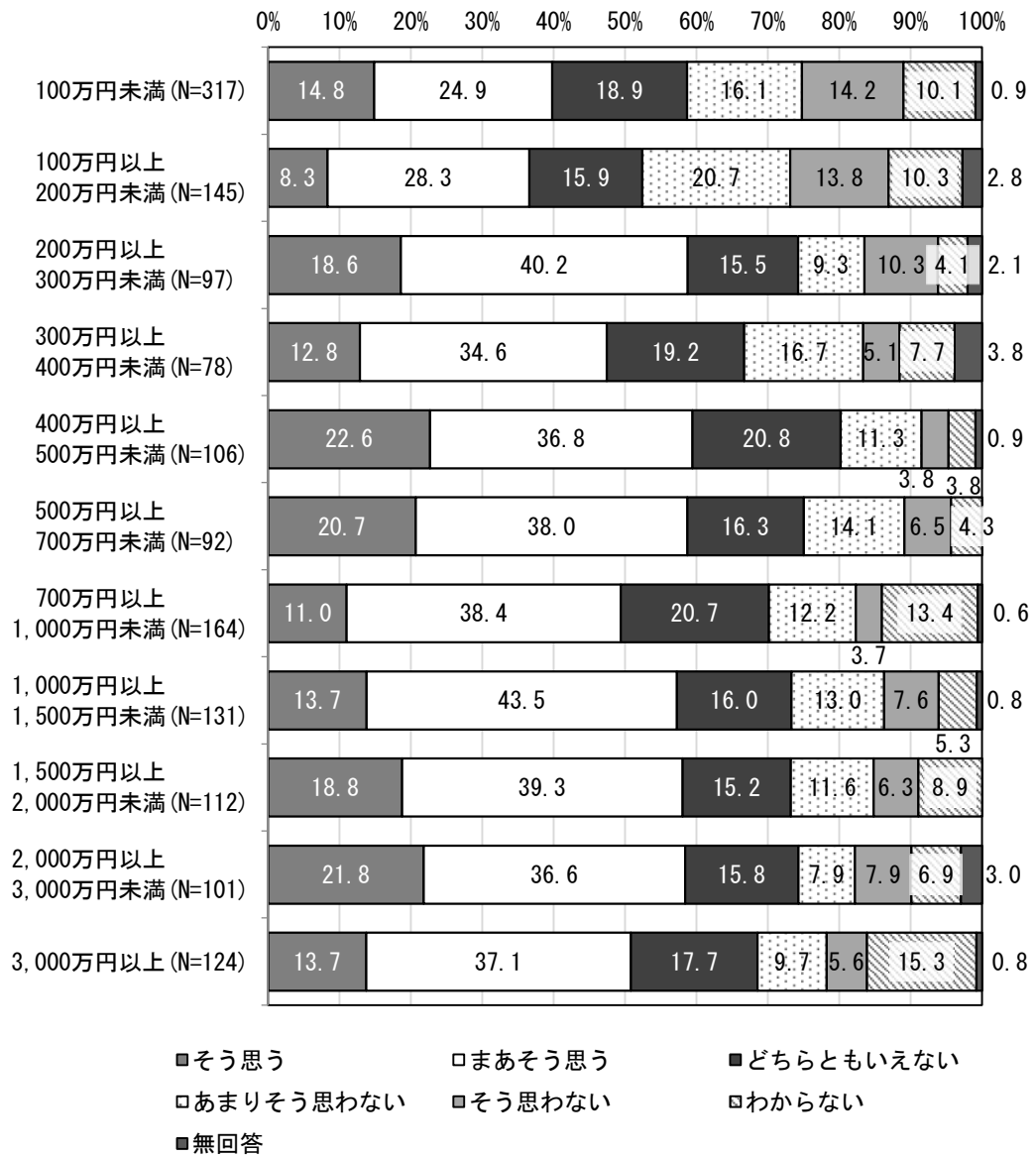
世帯全体の貯蓄額別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は「1,500万円以上2,000万円未満」が最も高く、59.4%となっており、65歳以上は「400万円以上500万円未満」が最も高く、それぞれ59.4%となっている。

図表2-5-25 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問8-5 世帯貯蓄額 【64歳以下】





図表2-5-26 問5-7 高齢者は優遇されていると思うか × 問8-5 世帯貯蓄額 【65歳以上】

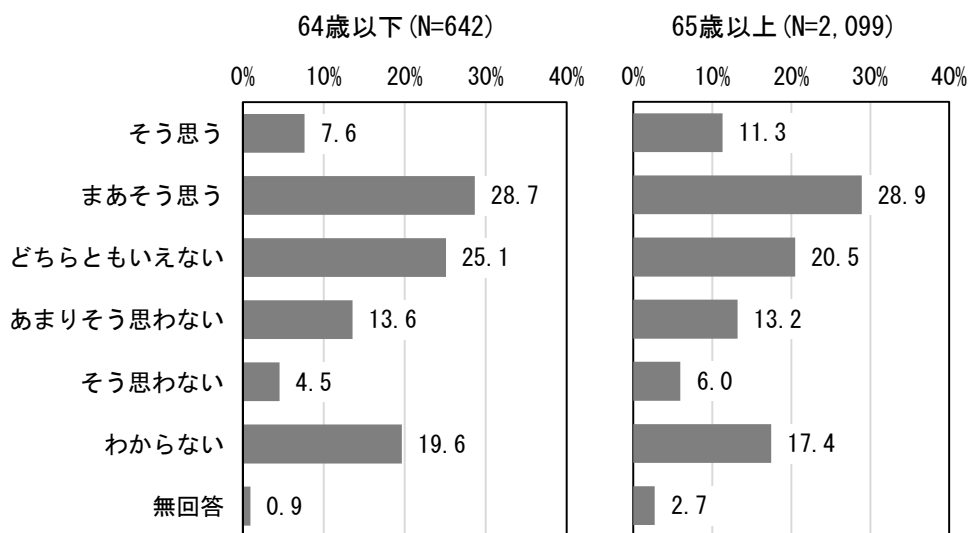


## 問5-8 高齢者の人権が守られていると思うか

札幌市では、高齢者の人権が尊重され、権利が守られていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

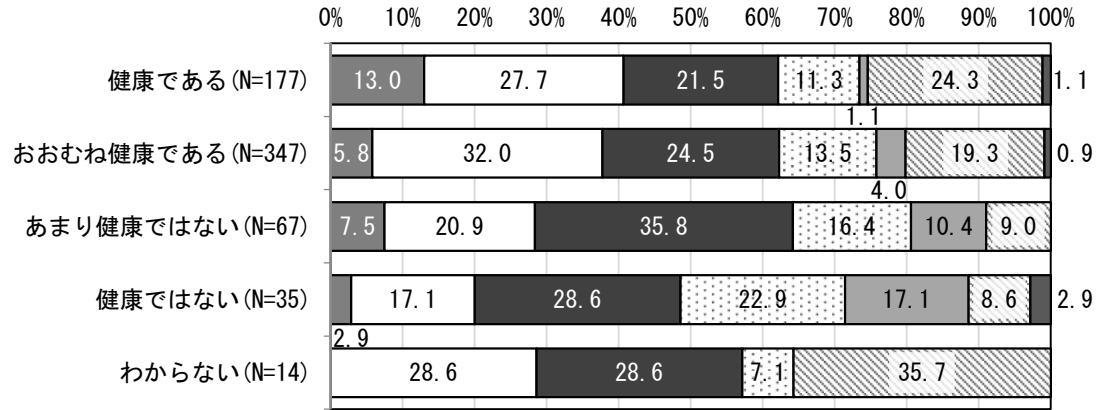
札幌市は、高齢者の人権が尊重され、権利が守られていると思うかについてたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は36.3%、65歳以上は40.2%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は18.1%、65歳以上は19.2%となっている。

図表2-5-27 高齢者の人権が守られていると思うか

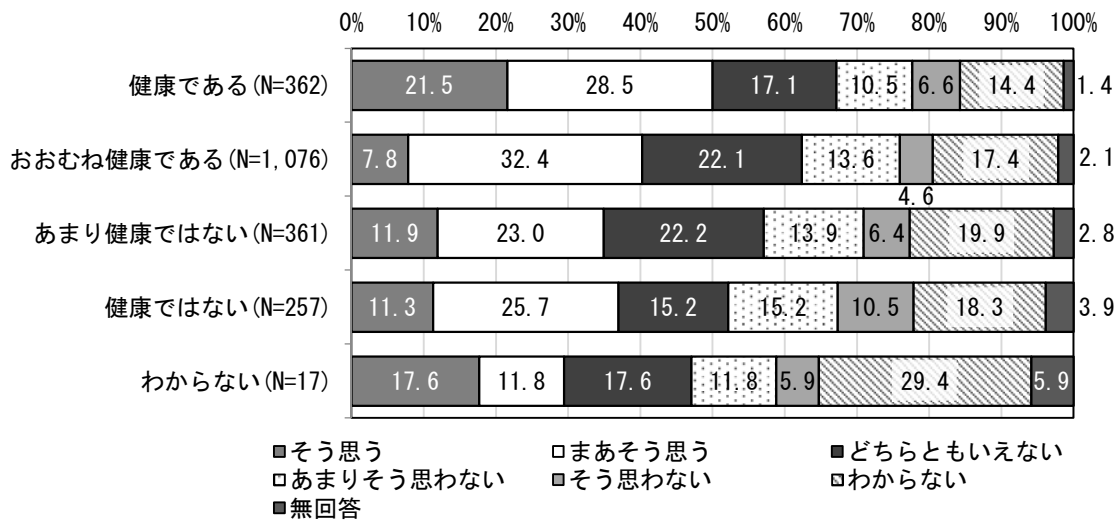


主観的健康感別に「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下・65歳以上共に、「健康である」と回答した人が最も高く、64歳以下は40.7%、65歳以上は50.0%となっている。

図表2-5-28 問5-8 高齢者の人権・権利が守られていると思うか × 問4-1 主観的健康感【64歳以下】

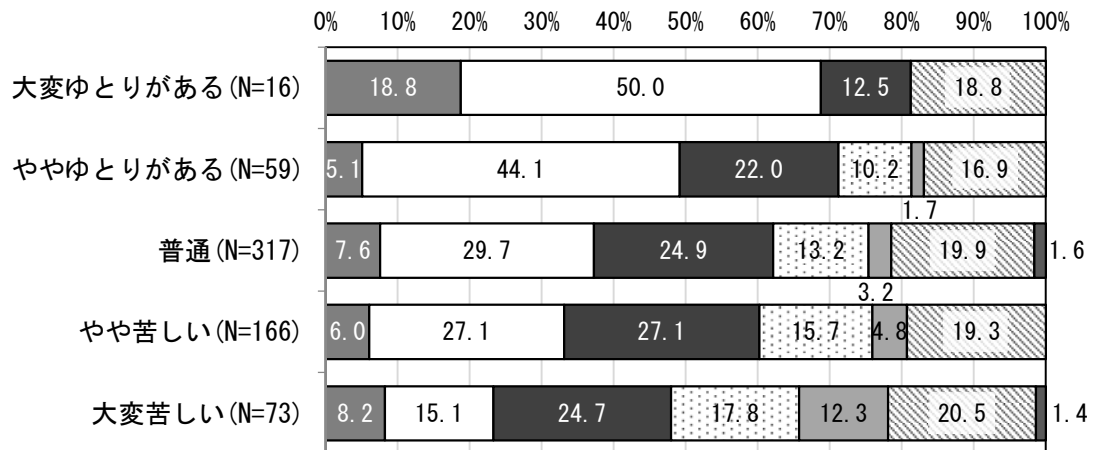


図表2-5-29 問5-8 高齢者の人権・権利が守られていると思うか × 問4-1 主観的健康感【65歳以上】

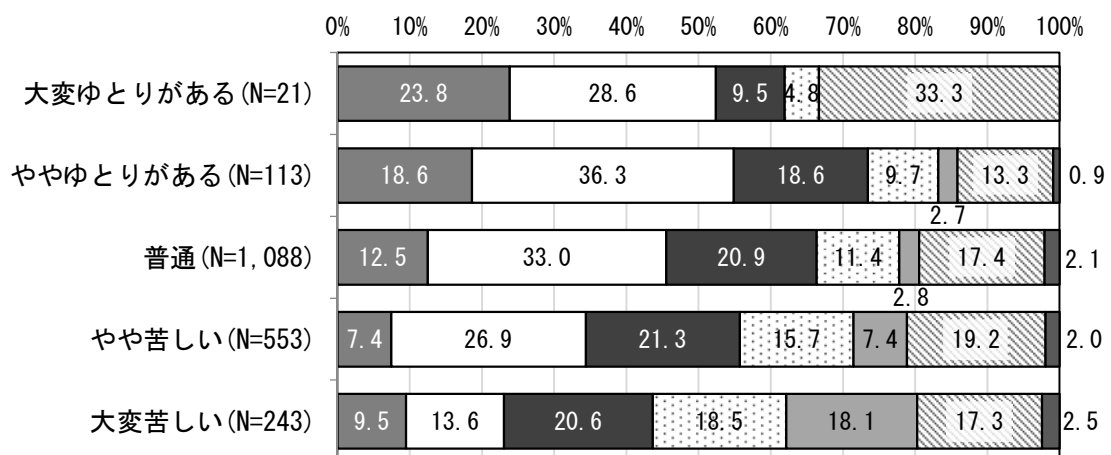


現在の生活のゆとり感別に「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、64歳以下は「大変ゆとりがある」が最も高く、68.8%となっており、65歳以上は「ややゆとりがある」が最も高く、54.9%となっている。

図表2-5-30 問5-8 高齢者の人権が守られていると思うか × 問8-1 経済的ゆとり感  
【64歳以下】



図表2-5-31 問5-8 高齢者の人権が守られていると思うか × 問8-1 経済的ゆとり感  
【65歳以上】



■ そう思う                      □ まあそう思う                      ■ どちらともいえない  
 □ あまりそう思わない        □ そう思わない                      □ わからない  
 ■ 無回答

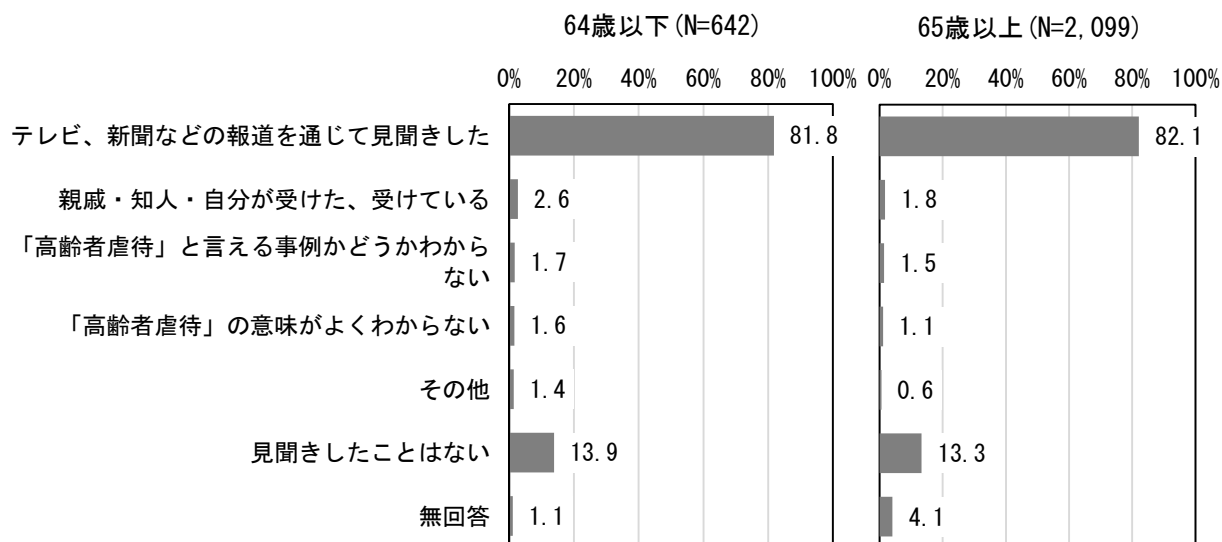
### 問5-9 虐待を見聞きしたことはあるか

[複数回答]

「高齢者虐待」を見聞きしたことがありますか。また、見聞きしたことがある場合どのような状況で見聞きしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「高齢者虐待」をどのような状況で見聞きしたことがあるかについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「テレビ、新聞などの報道を通じて見聞きした」が最も多く、64歳以下は81.8%、65歳以上は82.1%と共に半数を超えている。一方、「見聞きしたことはない」は、64歳以下は13.9%、65歳以上は13.3%となっている。

図表2-5-32 虐待を見聞きしたことはあるか



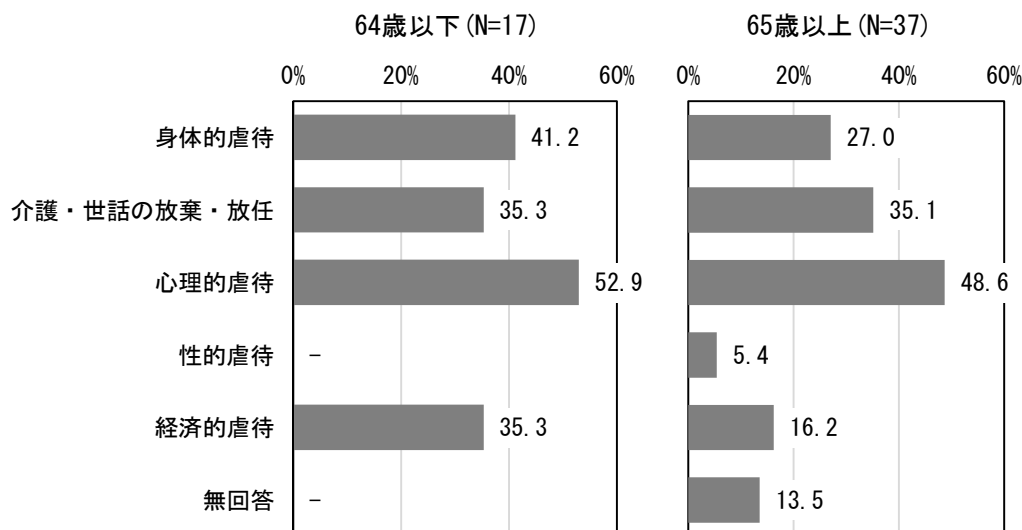
## 虐待の内容

[複数回答]

「2. 親戚・知人・自分が受けた、受けている」と回答した方にうかがいます。実際に受けた、または受けている虐待はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問5-9で、「2. 親戚・知人・自分が受けた、受けている」と回答した方に、実際に受けた、または受けている虐待はどのようなものかについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に、「心理的虐待」が最も多く、64歳以下は52.9%、65歳以上は48.6%となっている。次いで、64歳以下は「身体的虐待」(41.2%)、「介護・世話の放棄・放任」(35.3%)・「経済的虐待」(35.3%)となっており、65歳以上は、「介護・世話の放棄・放任」(35.1%)、「身体的虐待」(27.0%)となっている。

図表2-5-33 受けている虐待



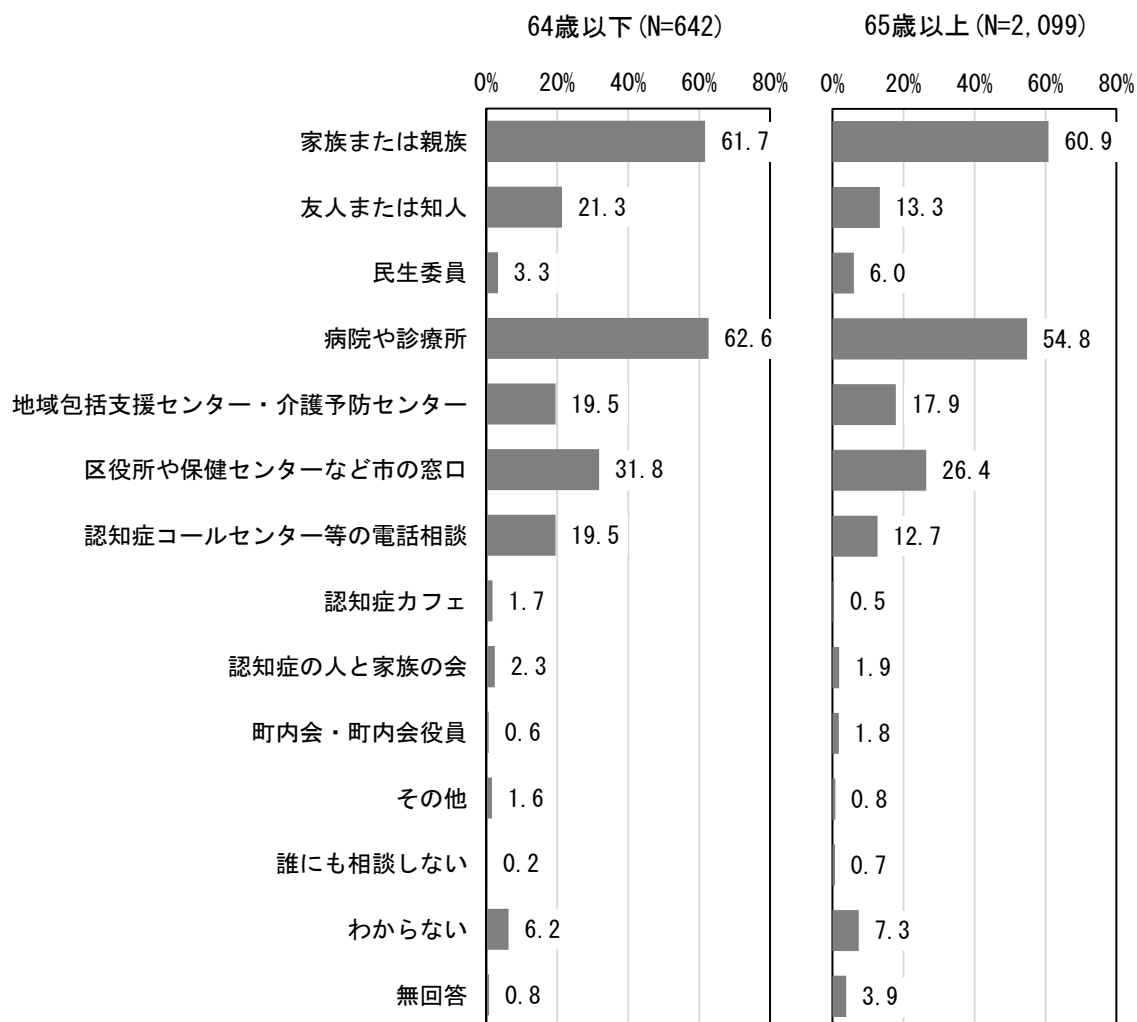
## 問5-10 認知症の場合の相談先

[複数回答]

仮にあなたやご家族の方に認知症の心配がある場合、どこに相談しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

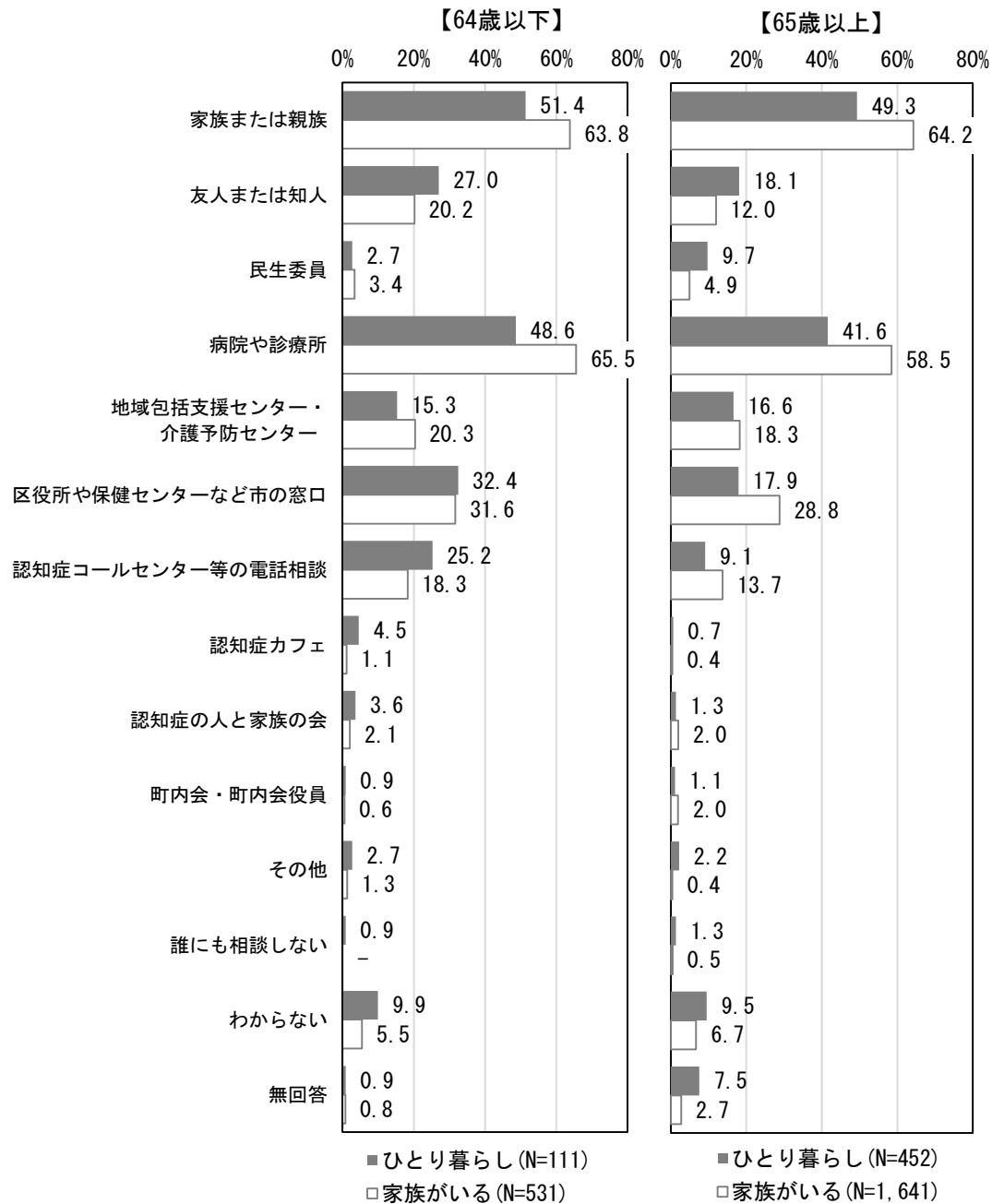
仮に自分自身やご家族の方に認知症の心配がある場合、どこに相談するかをたずねたところ、64歳以下は「病院や診療所」(62.6%)が最も多く、次いで、「家族または親族」(61.7%)、「区役所や保健センターなど市の窓口」(31.8%)となっており、65歳以上は、「家族または親族」(60.9%)が最も多く、次いで、「病院や診療所」(54.8%)、「区役所や保健センターなど市の窓口」(26.4%)となっている。

図表2-5-34 認知症の場合の相談先



家族構成別にみると、「ひとり暮らし」「家族がいる」と回答した人はいずれも、「家族または親族」「病院や診療所」とする割合が特に高くなっている。

図表2-5-35 問5-10 認知症の場合の相談先 × 問2-1 同居家族の有無



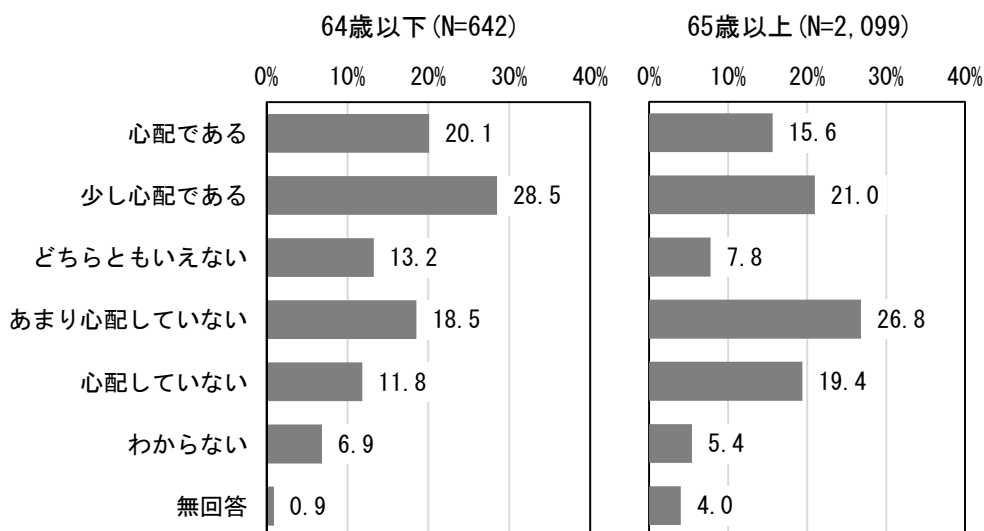


## 問5-11 孤立死の心配があるか

近年、孤立死が大きな問題となっていますが、あなたは、孤立死について心配がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

孤立死について心配があるかをたずねたところ、「心配である」「少し心配である」を合わせた割合が、64歳以下は48.6%、65歳以上は36.6%となっている。一方、「あまり心配していない」「心配していない」を合わせた割合は、64歳以下は30.3%、65歳以上は46.2%となっている。

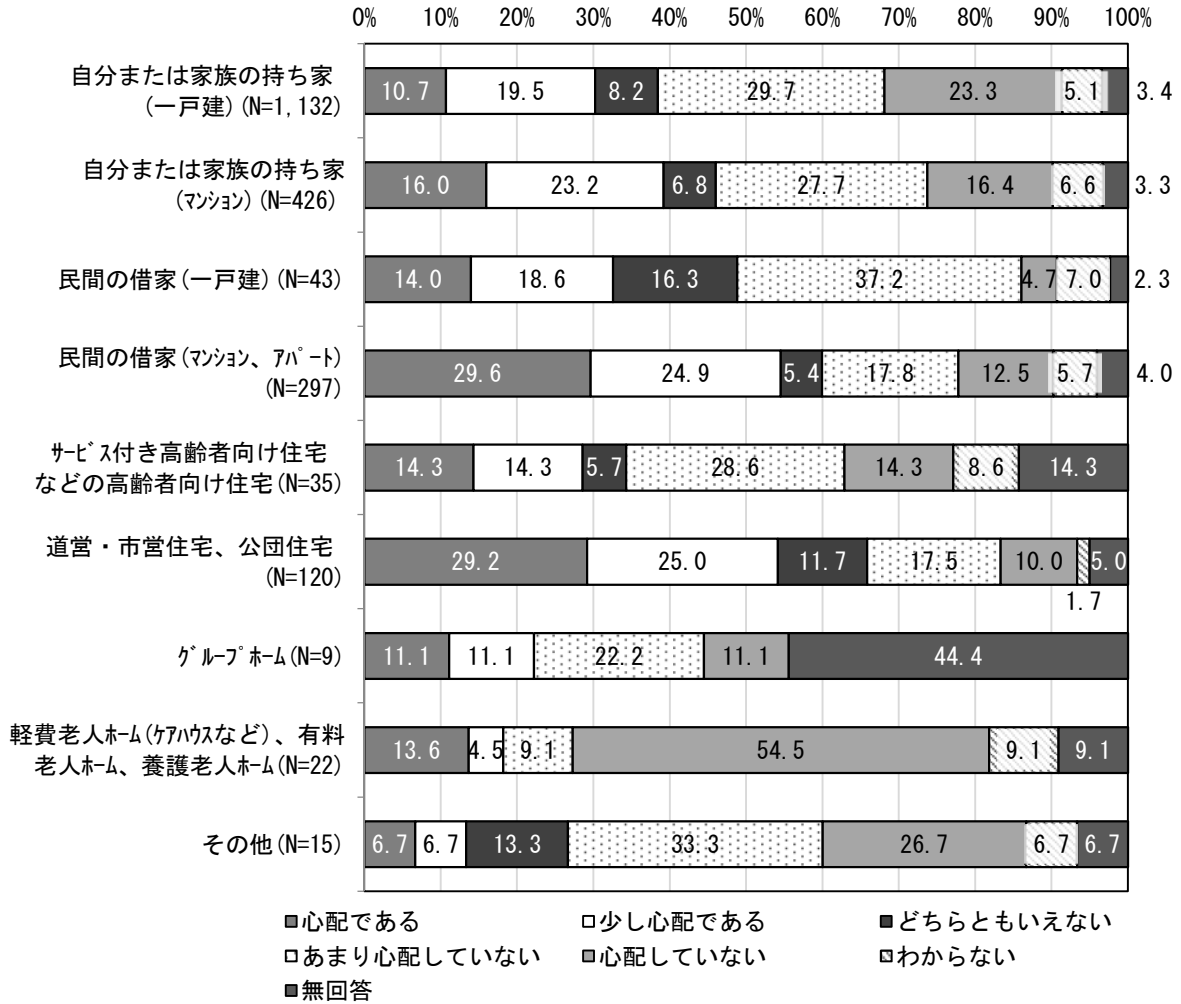
図表2-5-36 孤独死の心配があるか



※ 孤立死とは、高齢社会の進展に伴いひとり暮らしの高齢者等が増え、誰にも看取られずに亡くなったり、亡くなった後何日間か放置された状態で発見されることを言います。

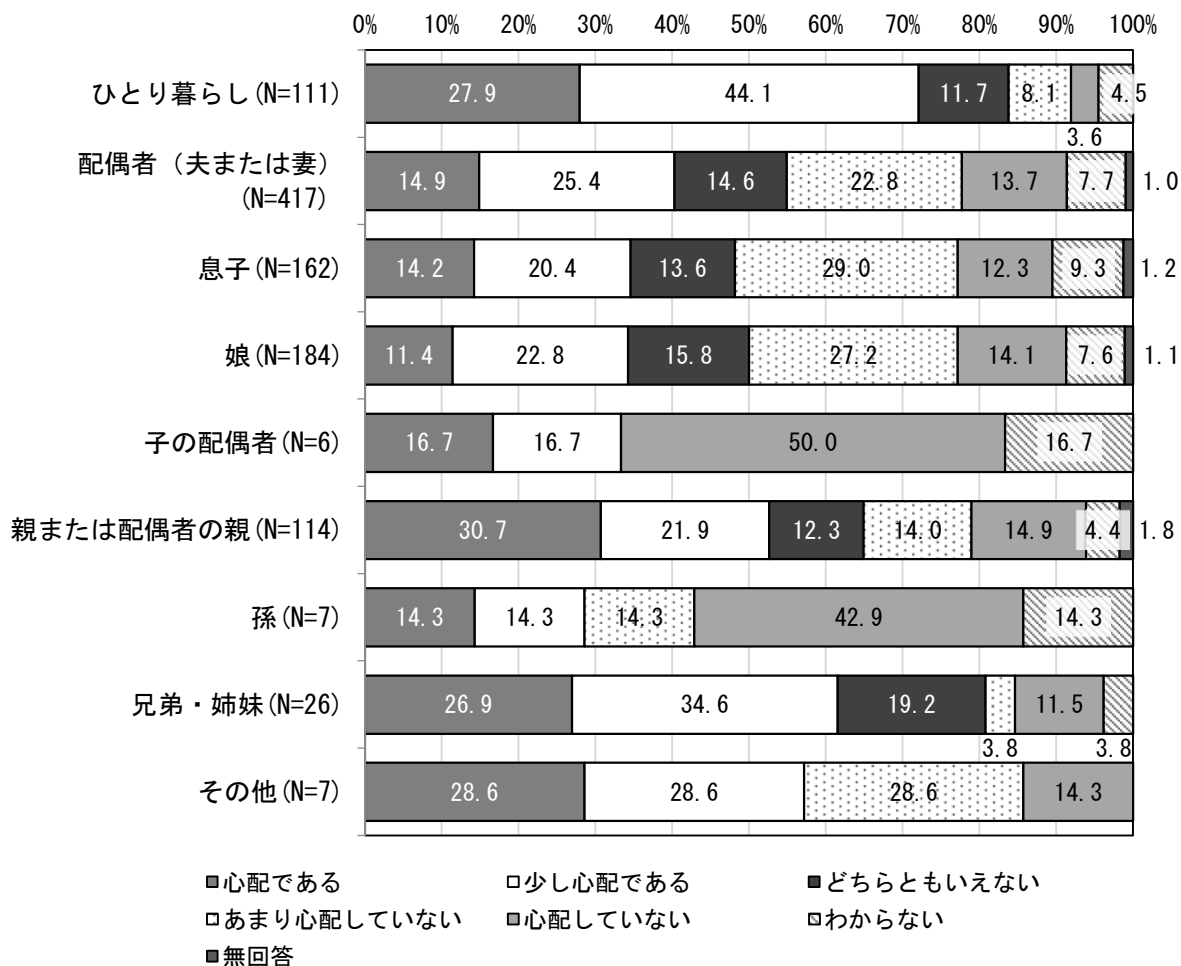
65歳以上で現在の生活場所別に「心配である」「少し心配である」を合わせた割合をみると、「民間の借家（マンション・アパート）」「道営・市営住宅、公団住宅」が特に高くなっている。

図表2-5-37 問5-11 孤立死の心配があるか × 問1-4 生活場所 【65歳以上】

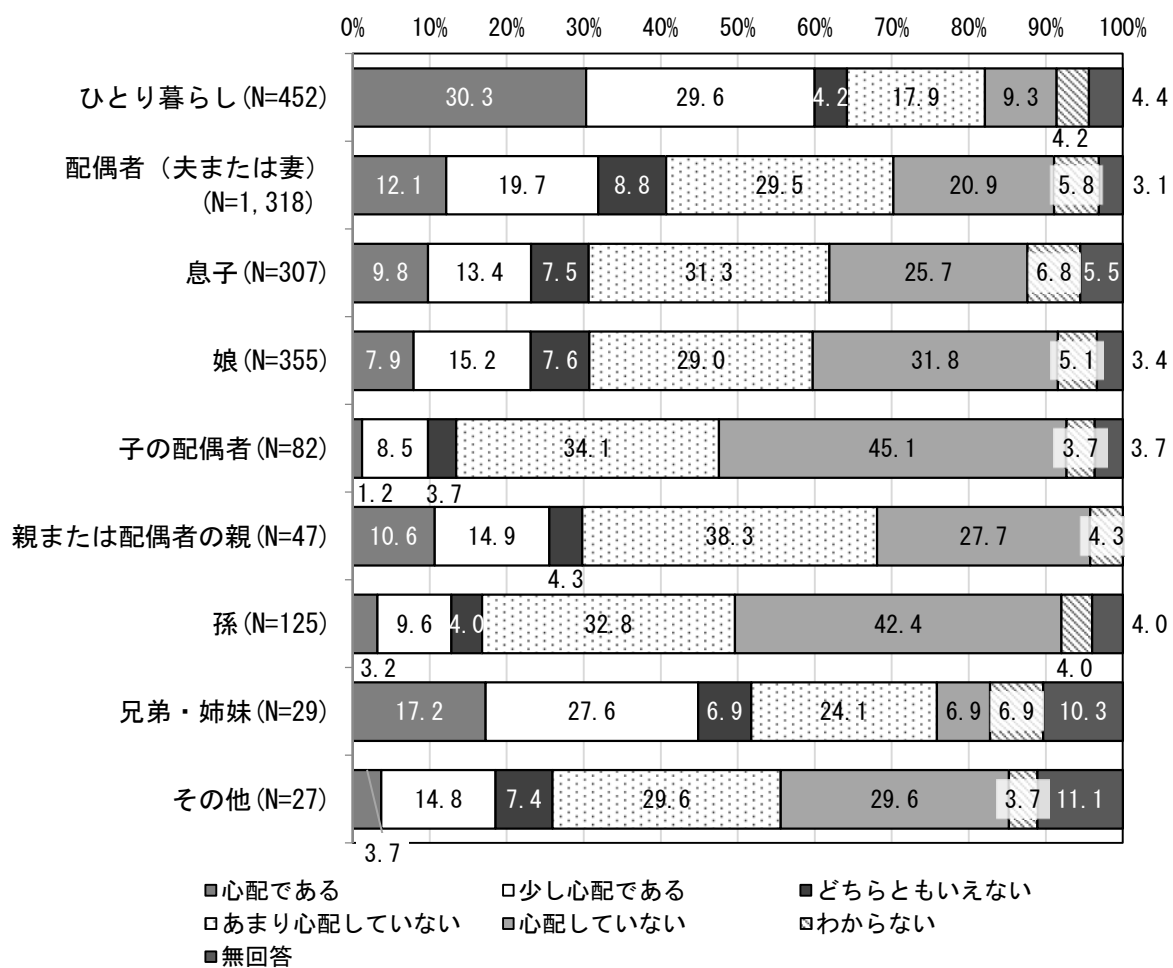


同居者の続柄別に「心配である」「少し心配である」を合わせた割合をみると、64歳以下・65歳以上共に、「ひとり暮らし」と回答した人は、64歳以下は72.0%、65歳以上は59.9%と特に高くなっている。

図表2-5-38 問5-11 孤立死の心配があるか × 問2-1(1) 同居者の続柄 【64歳以下】

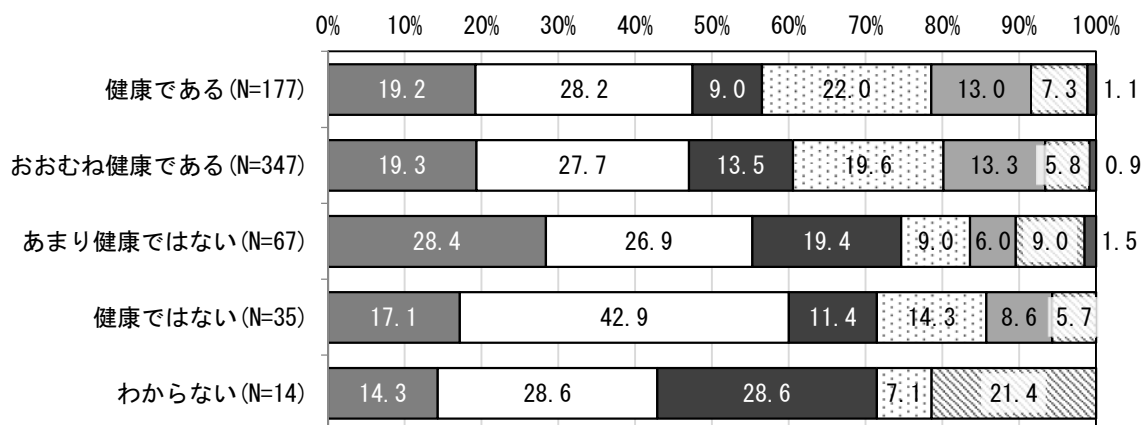


図表2-5-39 問5-11 孤立死の心配があるか × 問2-1(1) 同居者の続柄 【65歳以上】

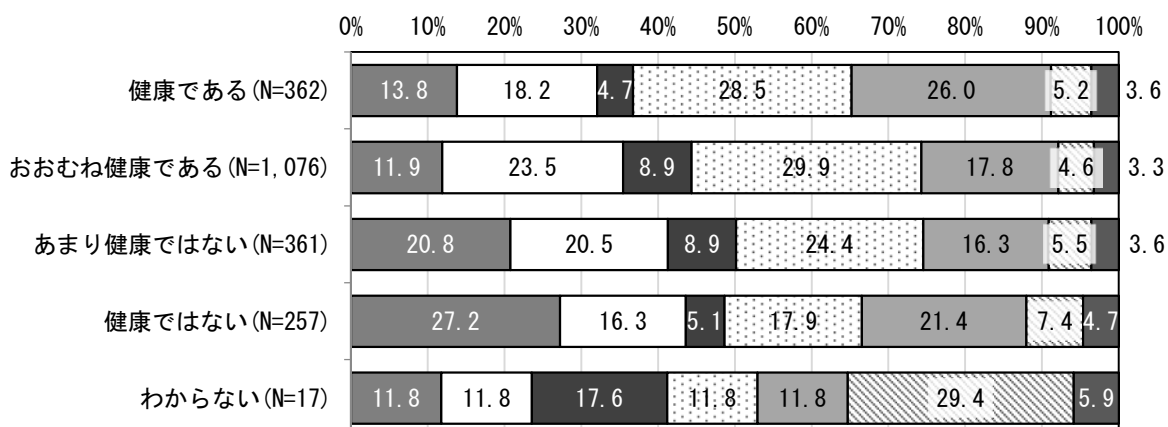


主観的健康感別に「あまり健康ではない」「健康ではない」と回答した人は、64歳以下・65歳以上共に、「心配である」「少し心配である」を合わせた割合が高くなっている。

図表2-5-40 問5-11 孤立死の心配があるか × 問4-1 主観的健康感 【64歳以下】



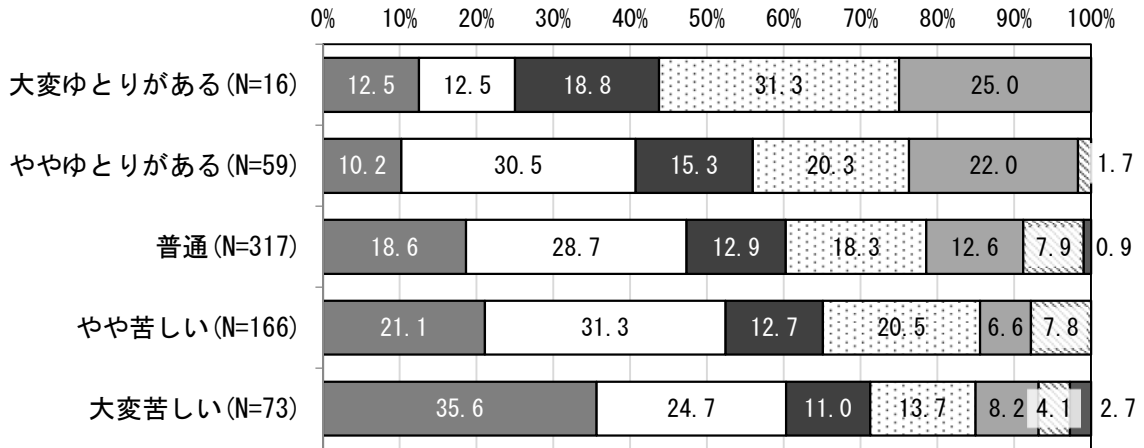
図表2-5-41 問5-11 孤立死の心配があるか × 問4-1 主観的健康感 【65歳以上】



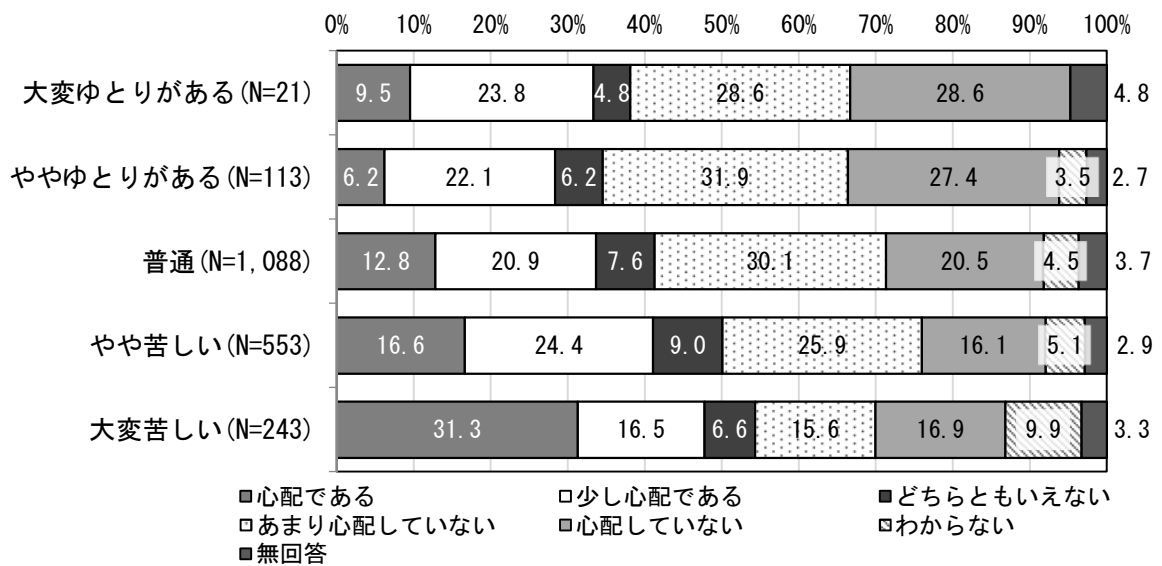
■心配である                      □少し心配である                      ■どちらともいえない  
 □あまり心配していない          □心配していない                      □わからない  
 ■無回答

経済的ゆとり感別に「心配である」「少し心配である」を合わせた割合をみると、64歳以下・65歳以上共に、「大変苦しい」と回答した人は、64歳以下は60.3%、65歳以上は47.8%と特に高くなっている。

図表2-5-42 問5-11 孤立死の心配があるか × 問8-1 経済的ゆとり感 【64歳以下】



図表2-5-43 問5-11 孤立死の心配があるか × 問8-1 経済的ゆとり感 【65歳以上】



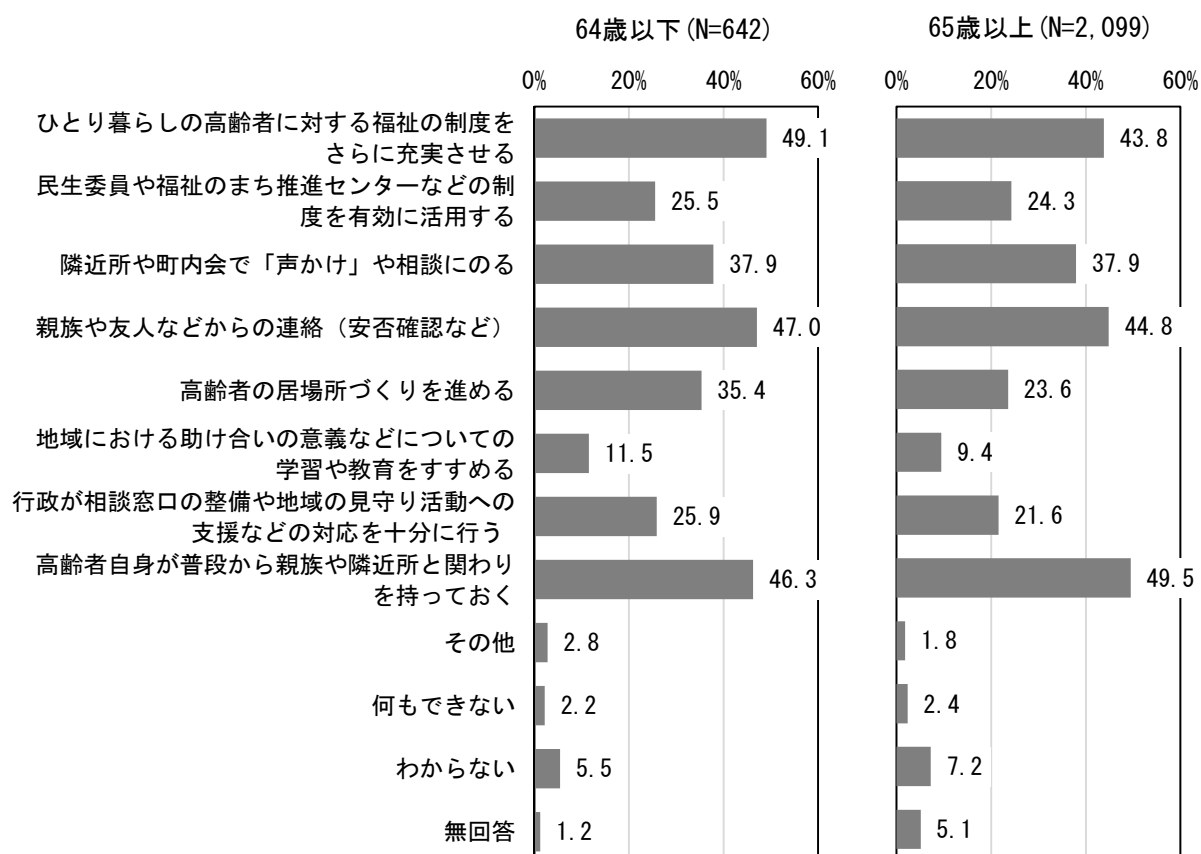
## 問5-12 孤立死を減らす方法

[複数回答]

あなたは、孤立死を減らすための方法として効果的だと思うことは何だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

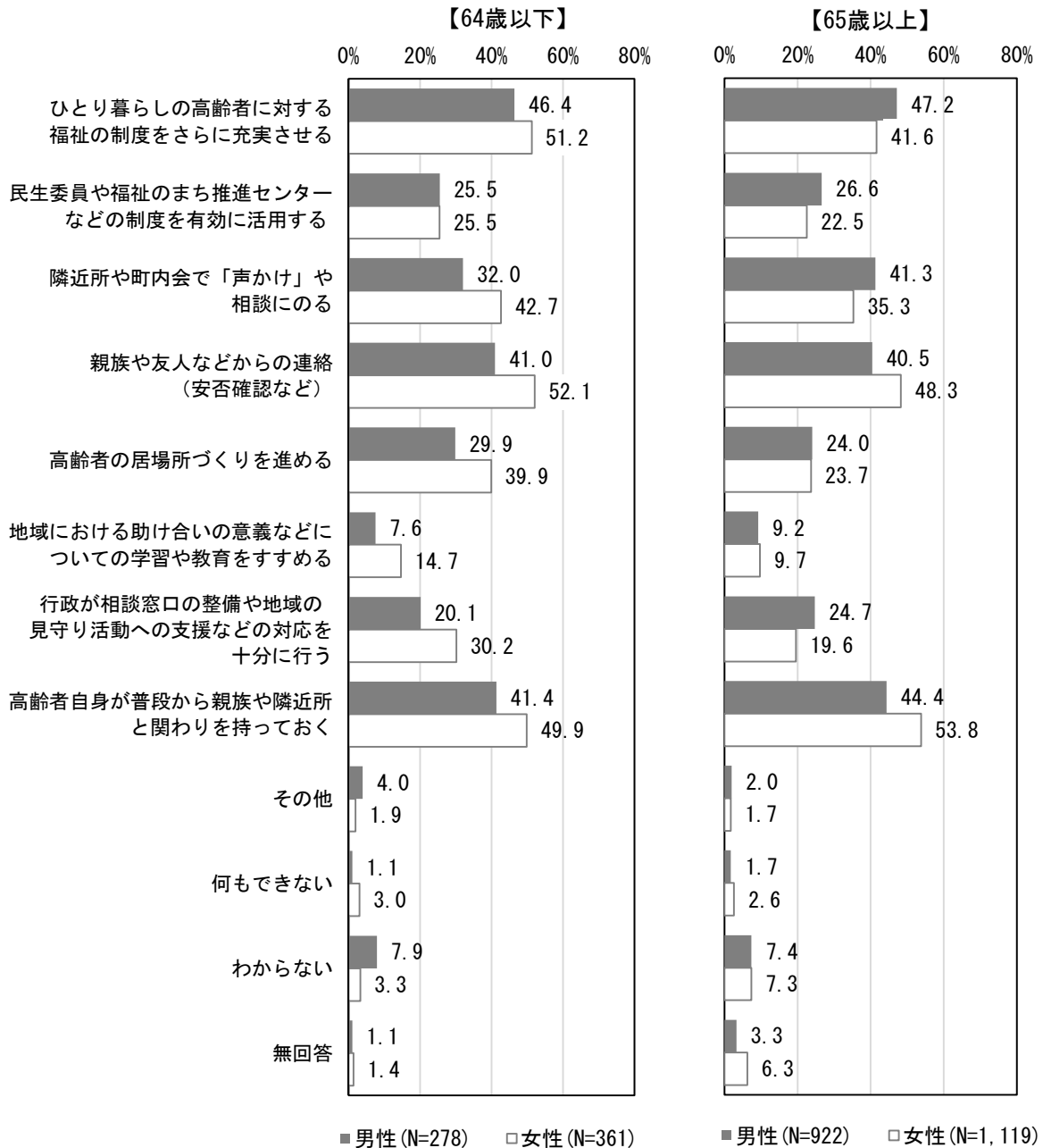
孤立死を減らすための方法として効果的だと思うことをたずねたところ、64歳以下は「ひとり暮らしの高齢者に対する福祉の制度をさらに充実させる」(49.1%)が最も多く、次いで、「親族や友人などからの連絡(安否確認など)」(47.0%)、「高齢者自身が普段から親族や隣近所と関わりを持っておく」(46.3%)となっており、65歳以上は、「高齢者自身が普段から親族や隣近所と関わりを持っておく」(49.5%)が最も多く、次いで、「親族や友人などからの連絡(安否確認など)」(44.8%)、「ひとり暮らしの高齢者に対する福祉の制度をさらに充実させる」(43.8%)となっている。

図表2-5-44 孤独死を減らす方法



男女別にみると、男性は、64歳以下・65歳以上共に「ひとり暮らしの高齢者に対する福祉の制度をさらに充実させる」とする割合が最も高くなっており、女性は、64歳以下は、「親族や友人などからの連絡（安否確認など）」(52.1%)、65歳以上は「高齢者自身が普段から親族や隣近所と関わりを持っておく」(53.8%)が最も高くなっている。

図表2-5-45 問5-12 孤立死を減らす方法 × 問1-1 性別





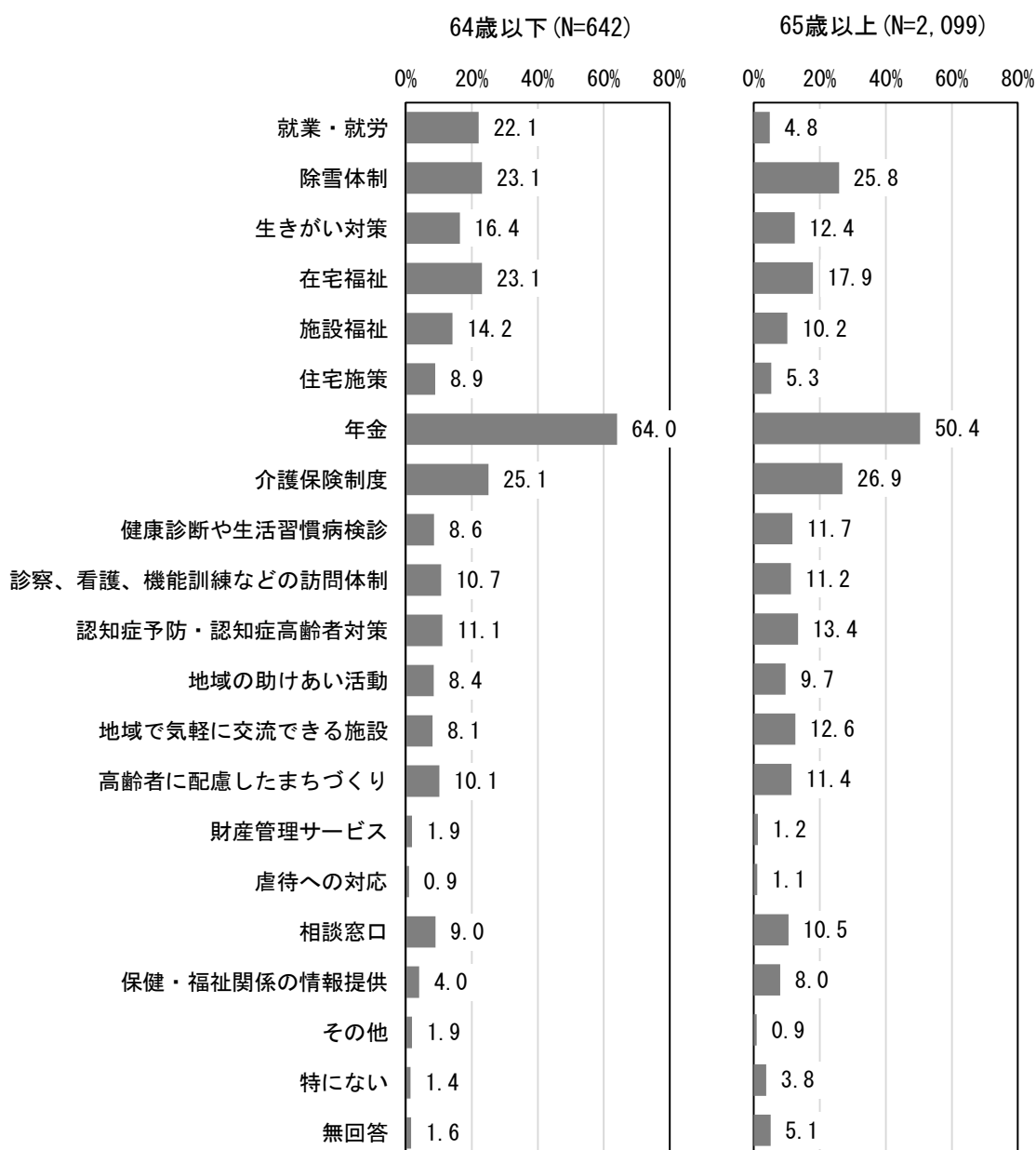
### 問5-13 行政に充実を求めること

[複数回答]

老後を安心して過ごすために行政に充実を求めることは、どのようなことですか。主なもの3つ以内に○をつけてください。

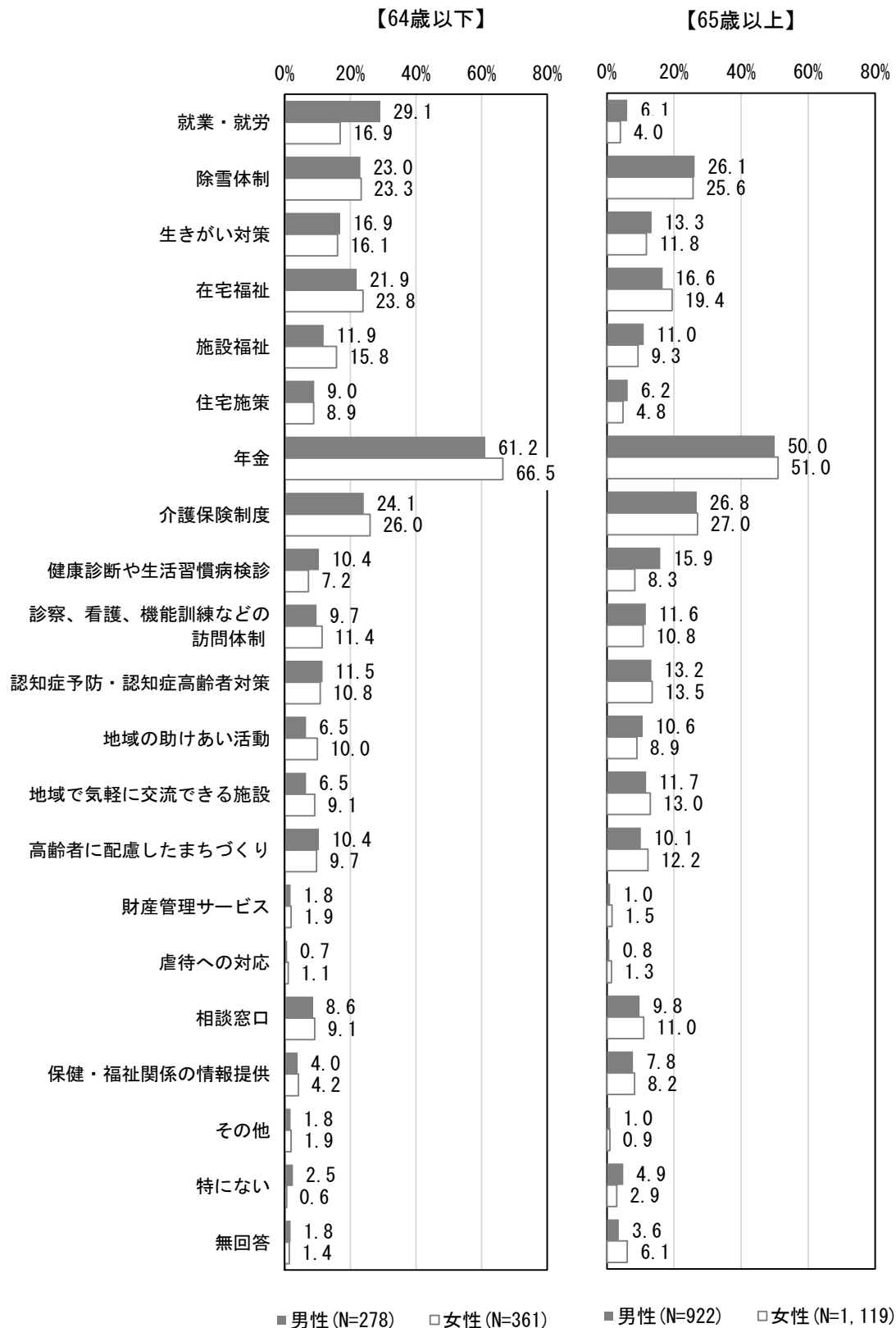
老後を安心して過ごすために行政に充実を求めることについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「年金」が最も多く、64歳以下は64.0%、65歳以上は50.4%となっている。次いで、64歳以下は「介護保険制度」(25.1%)、「除雪体制」(23.1%)・「在宅福祉」(23.1%)となっており、65歳以上は「介護保険制度」(26.9%)、「除雪体制」(25.8%)となっている。

図表2-5-46 行政に充実を求めること



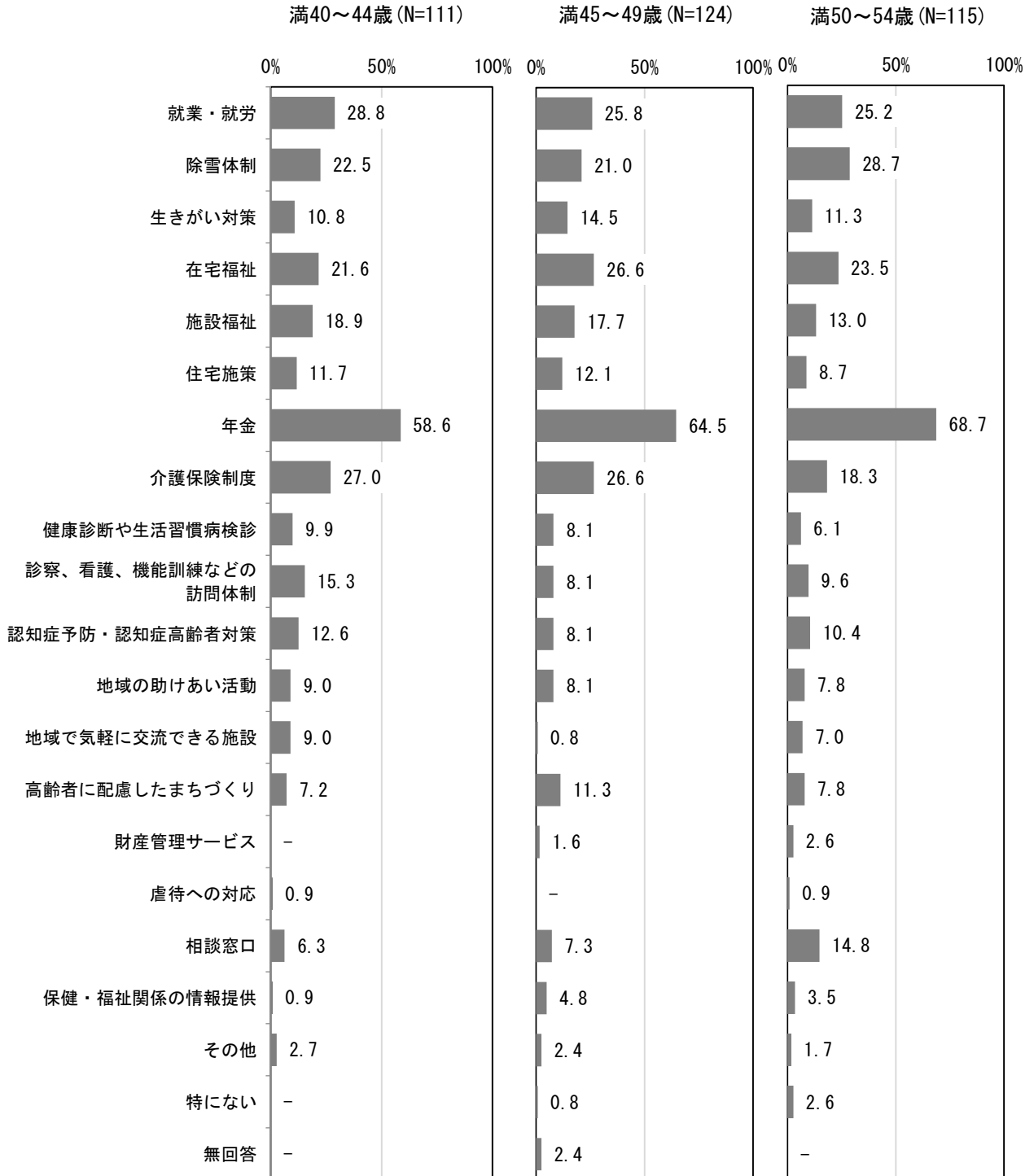
男女別にみると、男女共に「年金」とする割合が高く、64歳以下は、男性は61.2%、女性は66.5%となっており、65歳以上は、男性は50.0%、女性は51.0%となっている。

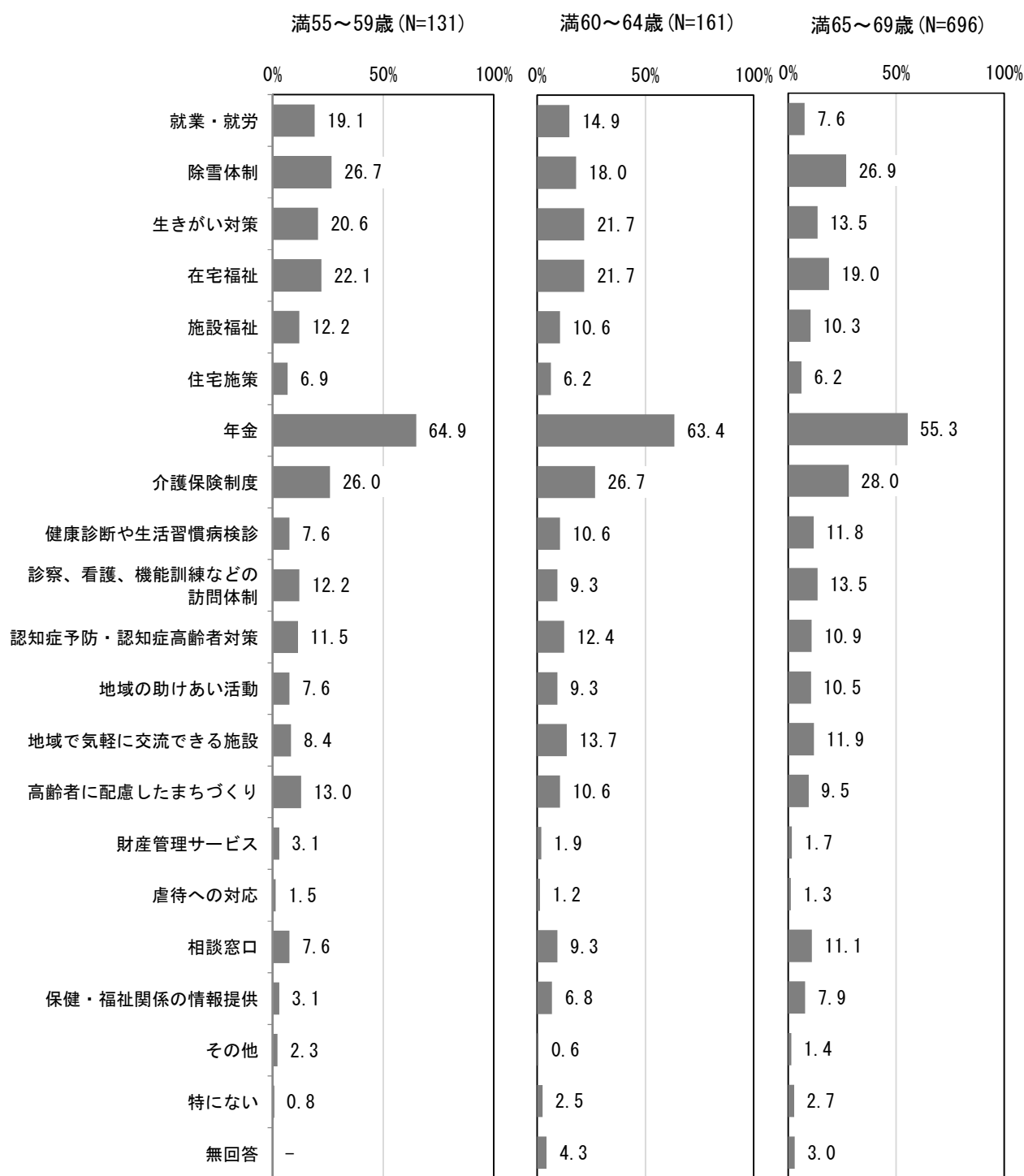
図表2-5-47 問5-13 行政に充実を求めること × 問1-1 性別



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「年金」とする割合が低くなる傾向がある。

図表 2-5-48 問 5-13 行政に充実を求めること × 問 1-2 年齢

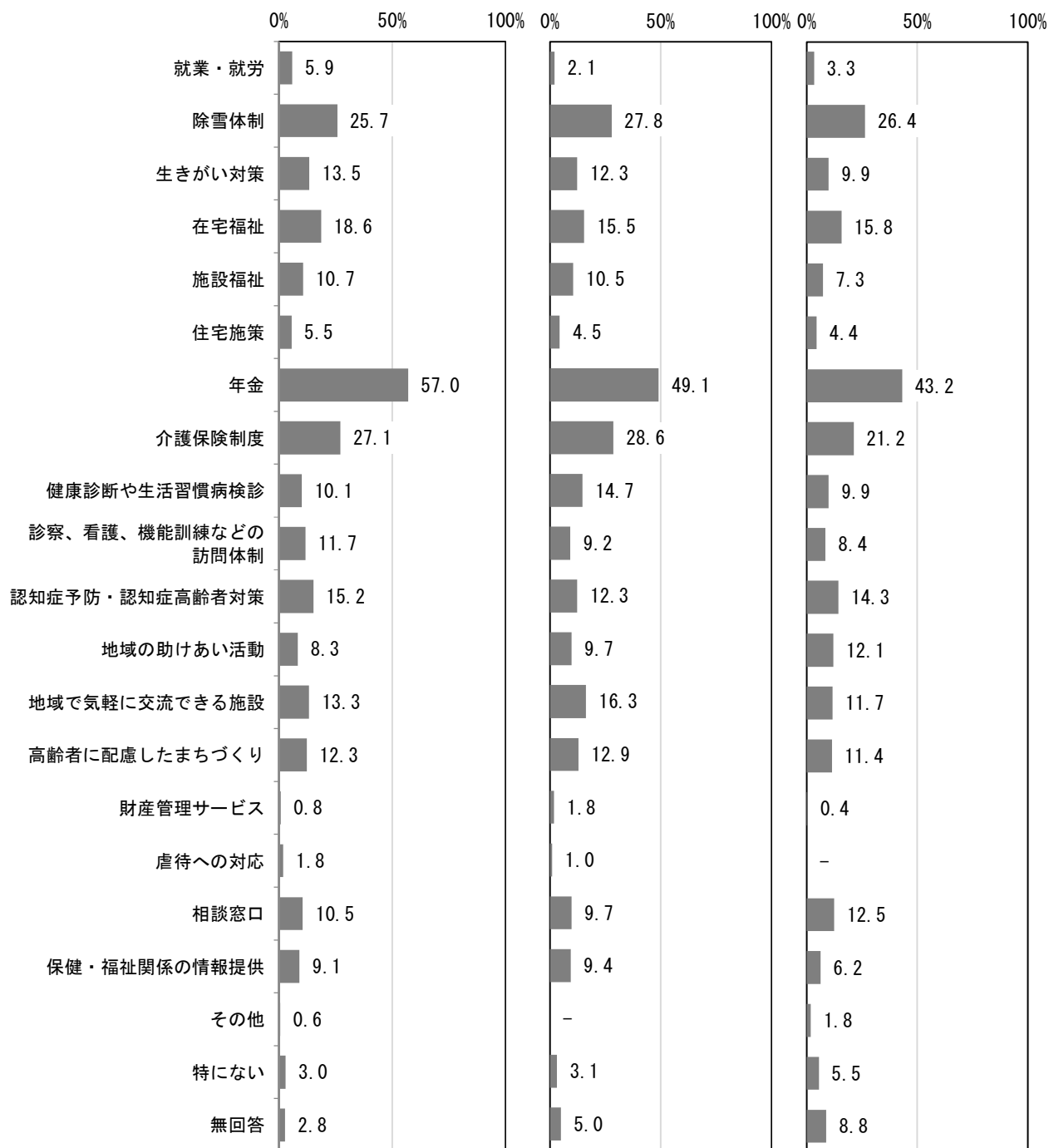




満70～74歳 (N=505)

満75～79歳 (N=381)

満80～84歳 (N=273)



満85～89歳 (N=163)

満90歳以上 (N=81)

